

平成24年度
神奈川区 区民意識調査
報告書

平成24年10月
横浜市神奈川区

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査目的	3
2. 調査設計	3
3. 調査内容	3
4. 回収結果	3
5. 報告書の見方	3
第2章 調査結果の詳細	5
1. 基本属性	7
(1) 性別	7
(2) 年齢	7
(3) 居住地	8
(4) 居住年数	9
(5) 居住形態	9
(6) 家族構成	9
(7) 同居家族の人数	10
(8) 同居家族の段階	10
(9) 世帯類型	10
(10) 就労状況	11
(11) 自治会町内会への加入状況	11
2. 防災について	12
(1) 家庭の地震災害に対する備えについて	12
(2) 地震災害発生時に特に心配なこと	22
(3) 区役所の防災対策として力を入れて実施すべきこと	26
(4) 災害発生時に希望する手助け	30
(5) 災害発生時にできる手助け	34
3. 「ヨコハマ3R夢プラン」について	40
(1) 「ヨコハマ3R夢プラン」の認知度	40
(2) 「ヨコハマ3R夢プラン」の取組について	43
(3) 取組をしていない理由	49
4. 地域のコミュニティについて	50
(1) 地域の活動について	50
(2) 地域活動に参加した(したい)主な理由	64
(3) 地域活動に参加できる条件	68
(4) 地域コミュニティ(地域社会)に関する困りごと・心配ごと	69
5. 青少年(中学生・高校生世代)について	73
(1) 神奈川区が青少年に安心・安全で暮らしやすいまちか	73
(2) 神奈川区の青少年が健やかに育つために「何をすべき」か	76

(3) 青少年育成支援者の活動内容について知っているもの	79
(4) 青少年の放課後の居場所	81
(5) 異世代交流の機会について	88
6. 広報・ホームページについて	95
(1) 区政情報の入手先	95
(2) 「広報よこはま神奈川区版」を読んでいるか	97
(3) 「広報よこはま神奈川区版」で主に読むもの	100
(4) 「広報よこはま神奈川区版」を「読んでいない」理由	103
(5) 神奈川区ホームページの利用頻度	104
7. 商店街・「わが町 かながわ とっておき」について	106
(1) 個人商店や商店街の利用頻度	106
(2) 商店街に対して希望すること	109
(3) 「わが町 かながわ とっておき」活用事業の認知度	111
(4) 「わが町 かながわ とっておき」のうち、知っているもの	113
(5) 区の魅力を発信・アピールするために望ましい取組	114
8. 猫の飼育管理などについて	115
(1) 猫による被害の有無	115
(2) 飼い猫の飼育状況	117
(3) 飼い主のいない猫（ノラ猫）の世話の状況	118
(4) 「地域猫」の認知度	119
(5) 「地域猫」への取組に協力するか	122
9. 定住意向について	125
(1) 在住地域の定住意向	125
(2) 定住意向のない人が希望する移転先	128
(3) 現在の住まいの環境について	129
10. 自治会町内会への加入状況	145
(1) 自治会町内会への加入状況	145

第3章 調査票	149
----------------	------------

第1章 調査の概要

1. 調査目的

神奈川県民の生活意識や区政に対する要望等を的確に把握し、今後の区政運営に活かしていくことを目的とする。

2. 調査設計

- | | |
|----------|-------------------------------|
| (1) 調査地域 | 横浜市神奈川区全域 |
| (2) 調査対象 | 区内在住20歳以上の男女 |
| (3) 標本数 | 3,000人（うち外国人50人） |
| (4) 標本抽出 | 住民基本台帳及び外国人登録原票からの無作為抽出 |
| (5) 調査方法 | 郵送による無記名調査（郵送配付・郵送回収・ハガキ督促1回） |
| (6) 調査期間 | 平成24年6月14日（木）～6月29日（金） |

3. 調査内容

- (1) 防災について
- (2) 「ヨコハマ3^{スリム}R夢プラン」について
- (3) 地域のコミュニティについて
- (4) 青少年(中学生・高校生世代)について
- (5) 広報・ホームページについて
- (6) 商店街・「わが町 かながわ とっておき」について
- (7) 猫の飼育管理などについて
- (8) 定住意向について
- (9) あなたご自身について

4. 回収結果

- | | |
|-----------|------------------|
| (1) 標本数 | 3,000人（うち外国人50人） |
| (2) 有効回収数 | 1,466人 |
| (3) 有効回収率 | 48.9% |

5. 報告書の見方

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

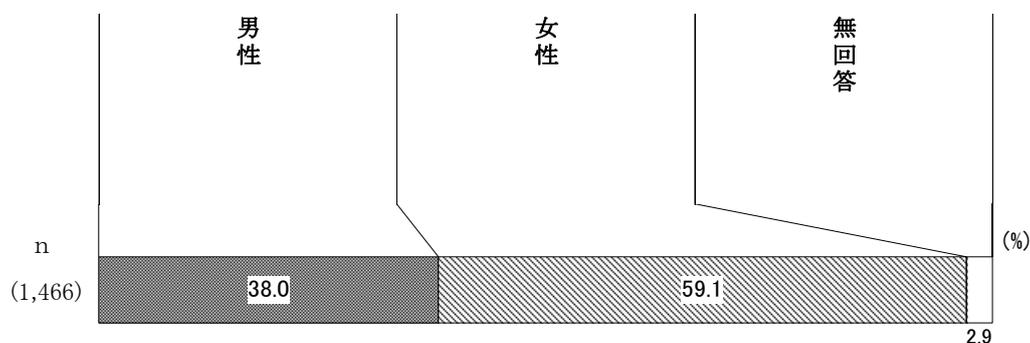
第2章 調査結果の詳細

1. 基本属性

(1) 性別

女性が59.1%で約6割、男性が38.0%で3割台後半となっている。

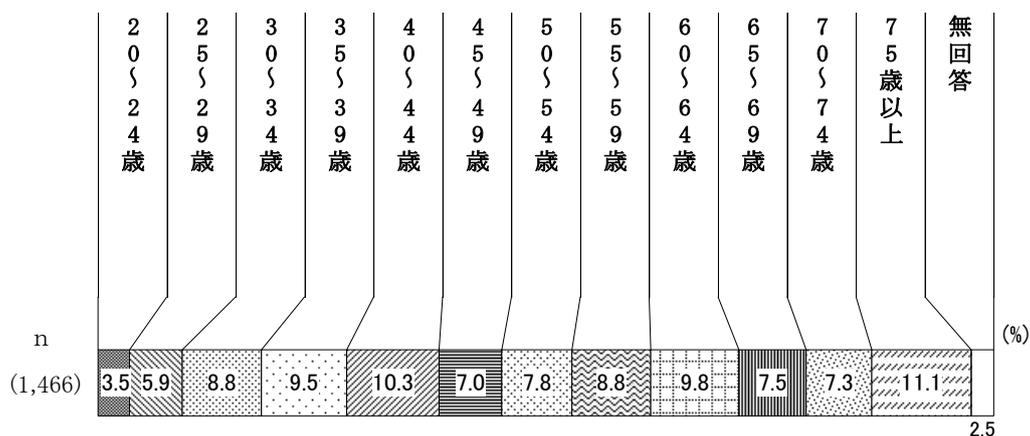
図 性別



(2) 年齢

75歳以上が11.1%で最も高く、次いで40～44歳が10.3%、60～64歳が9.8%、35～39歳が9.5%と続いている。30歳以上では大きな差はないが、25～29歳が5.9%、20～24歳は3.5%と20歳代が低くなっている。

図 年齢



(3) 居住地

「青木」が10.0%で最も高く、次いで「神ノ木西寺尾」8.7%、「大口七島」8.1%、「神西神北」8.0%となっている。

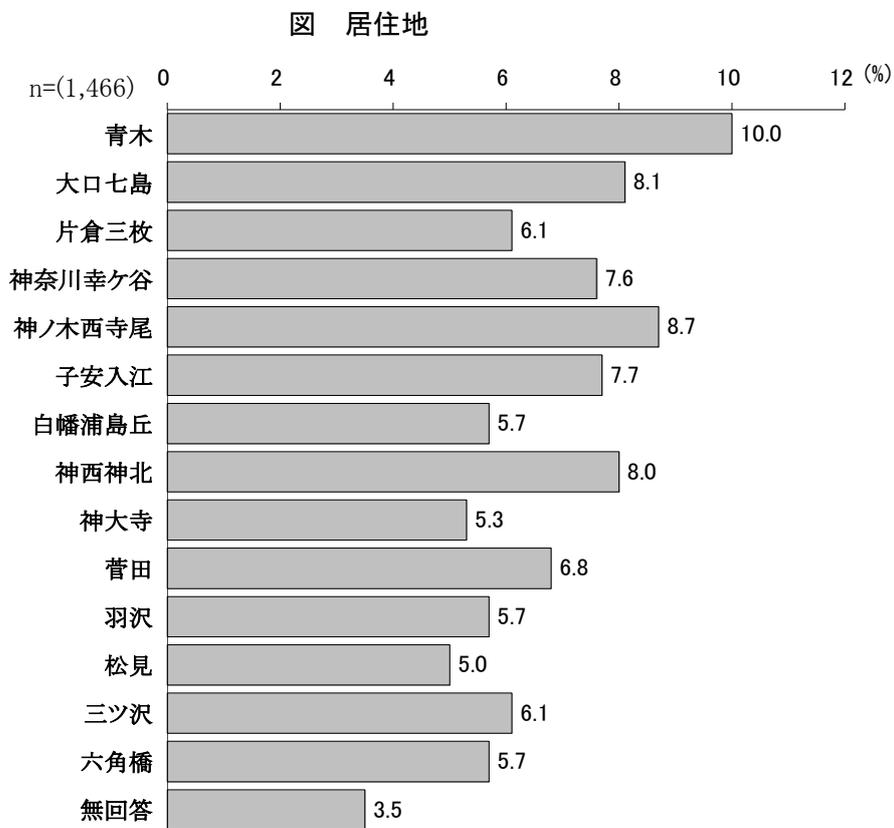


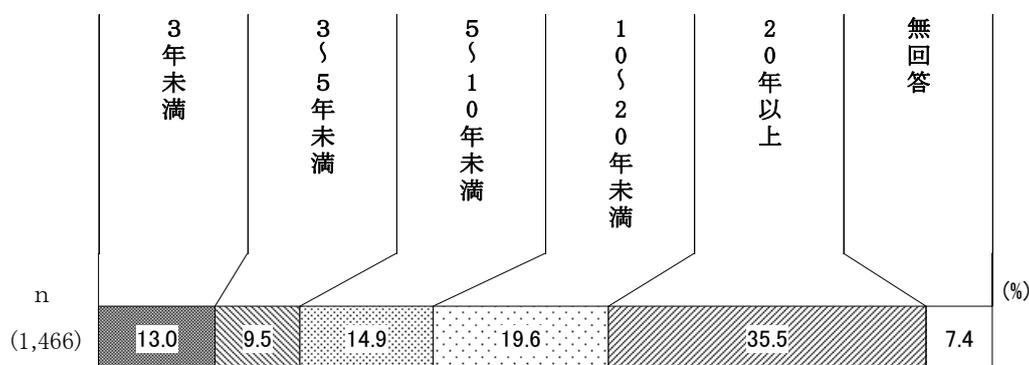
表 地区区分一覧

地区名	町 名
青木	高島台, 広台太田町, 旭ヶ丘, 栗田谷, 松本町1~6丁目, 泉町, 反町1~4丁目, 沢渡, 松ヶ丘, 桐畑, 上反町1~2丁目, 鶴屋町1~3丁目, 台町
大口七島	大口通, 大口仲町, 七島町, 西大口
片倉三枚	片倉1~5丁目, 三枚町
神奈川幸ヶ谷	神奈川1~2丁目, 神奈川本町, 東神奈川1~2丁目, 亀住町, 新町, 浦島町, 星野町, 橋本町1~3丁目, 千若町1~3丁目, 新浦島町1~2丁目, 出田町, 恵比須町, 宝町, 鈴繁町, 瑞穂町, 守屋町1~4丁目, 山内町, 幸ヶ谷, 金港町, 栄町, 大野町, 青木町
神ノ木西寺尾	神之木台, 神之木町, 西寺尾1~4丁目
子安入江	子安通2~3丁目, 新子安1~2丁目, 子安台1~2丁目, 子安通1丁目, 入江1~2丁目
白幡浦島丘	白幡東町, 白幡南町, 白幡西町, 白幡仲町, 白幡向町, 白幡上町, 白幡町, 浦島丘
神西神北	二ツ谷町, 西神奈川1~3丁目, 富家町, 鳥越, 立町, 二本榎, 平川町, 斉藤分町, 中丸, 白楽
神大寺	神大寺1~4丁目
菅田	菅田町
羽沢	羽沢町, 羽沢南1~4丁目
松見	松見町1~4丁目
三ツ沢	三ツ沢上町, 三ツ沢下町, 三ツ沢中町, 三ツ沢東町, 三ツ沢南町, 三ツ沢西町
六角橋	六角橋1~6丁目

(4) 居住年数

「20年以上」が35.5%、3割台半ばで最も高く、次いで「10～20年未満」19.6%、「5～10年未満」14.9%と続いている。

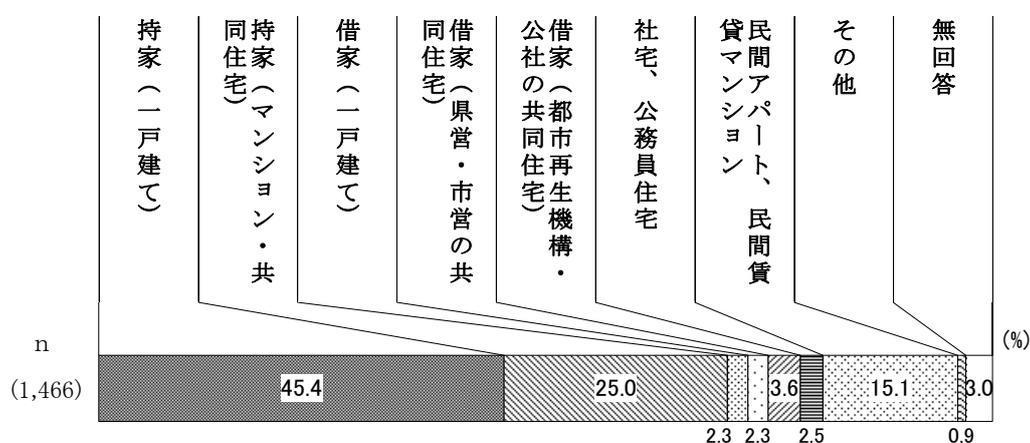
図 居住年数



(5) 居住形態

「持家（一戸建て）」が45.4%で最も高く、次いで「持家（マンション・共同住宅）」25.0%、「民間アパート、民間賃貸マンション」15.1%と続いている。

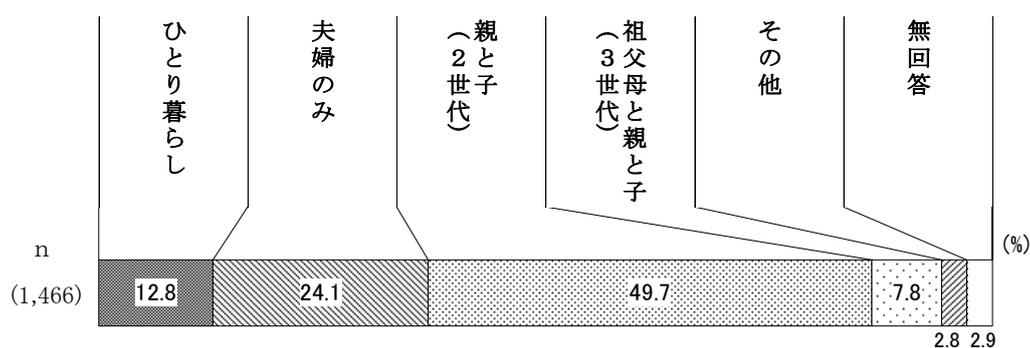
図 居住形態



(6) 家族構成

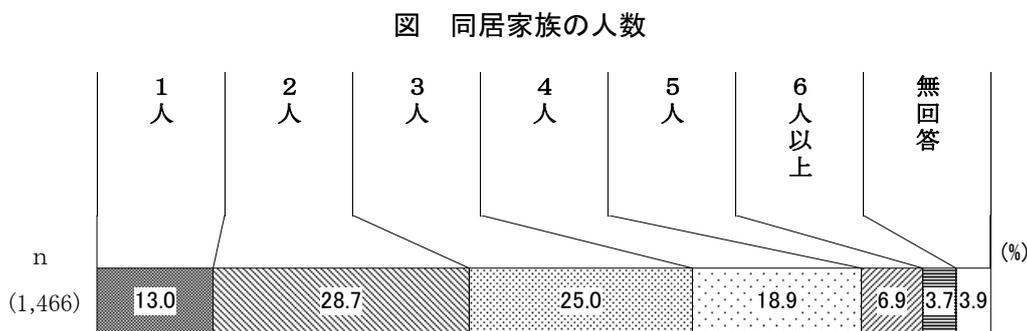
「親と子（2世代）」が49.7%で約5割、次いで「夫婦のみ」24.1%、「ひとり暮らし」12.8%となっている。

図 家族構成



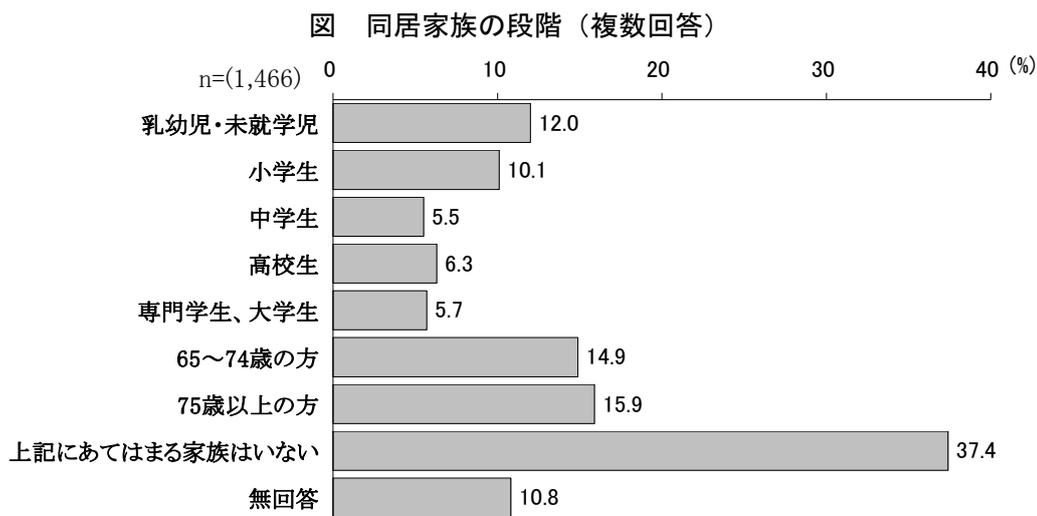
(7) 同居家族の人数

「2人」が28.7%、「3人」25.0%、「4人」18.9%となっている。



(8) 同居家族の段階

「75歳以上の方」が15.9%、「65～74歳の方」が14.9%で65歳以上の方が30.8%、約3割となっている。次いで「乳幼児・未就学児」12.0%、「小学生」10.1%と続いている。一方、「上記にあてはまる家族はいない」が37.4%、3割台後半と高くなっている。



(9) 世帯類型

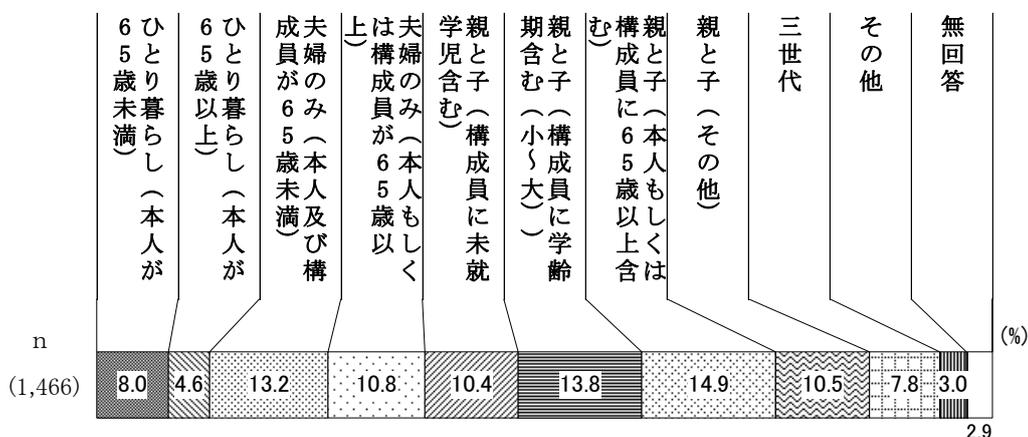
本調査においては各世帯類型として、次のとおり属性を定めた。

表 世帯類型

世帯類型	属性
ひとり暮らし	(①)本人が65歳未満
	(②)本人が65歳以上
夫婦のみ	(①)本人及び構成員が65歳未満
	(②)本人もしくは構成員が65歳以上
親と子	(①)構成員に未就学児を含む
	(②)構成員に学齢期の子どもを含む(小学生～大学生)
	(③)本人もしくは構成員に65歳以上の人を含む
	(④)その他
三世代	三世代世帯
その他	上記にあてはまらない世帯

「親と子(本人もしくは構成員に65歳以上含む)」が14.9%で最も高く、「親と子(構成員に学齢期含む(小～大))」13.8%、「夫婦のみ(本人及び構成員が65歳未満)」13.2%と続いている。

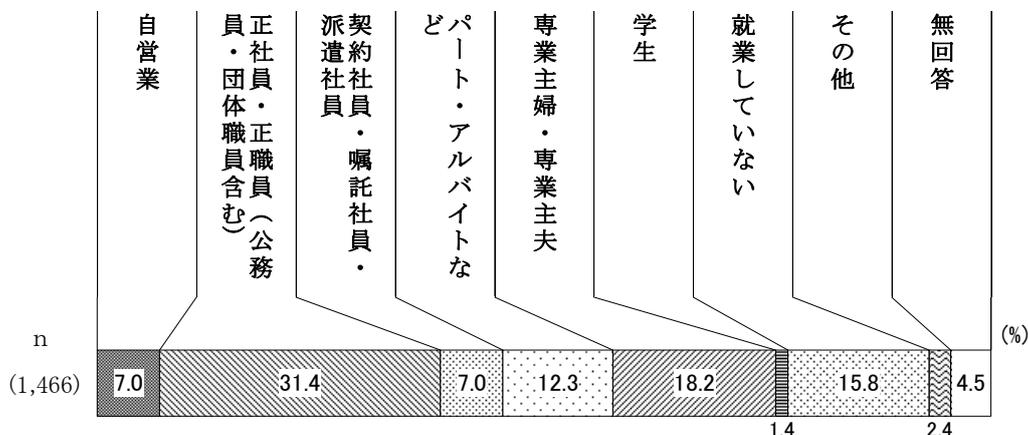
図 世帯類型



(10) 就労状況

「正社員・正職員(公務員・団体職員含む)」が31.4%で最も高く、次いで「専業主婦・専業主夫」18.2%、「パート・アルバイトなど」12.3%と続いている。一方、「就業していない」が15.8%となっている。

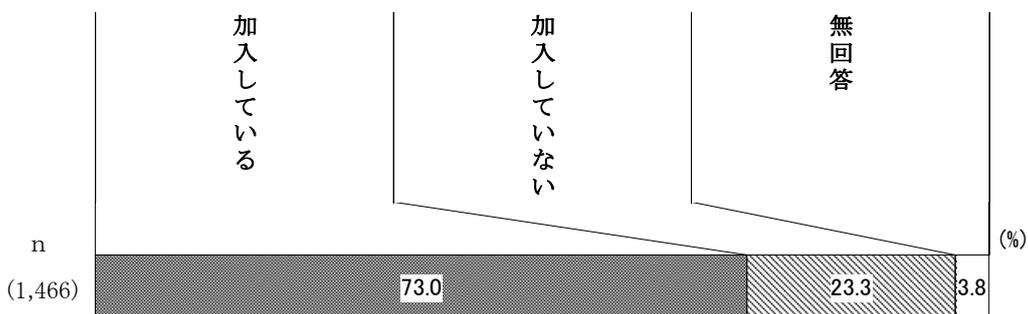
図 就労状況



(11) 自治会町内会への加入状況

「加入している」が73.0%で7割台前半、「加入していない」は23.3%となっている。

図 自治会町内会への加入状況



2. 防災について

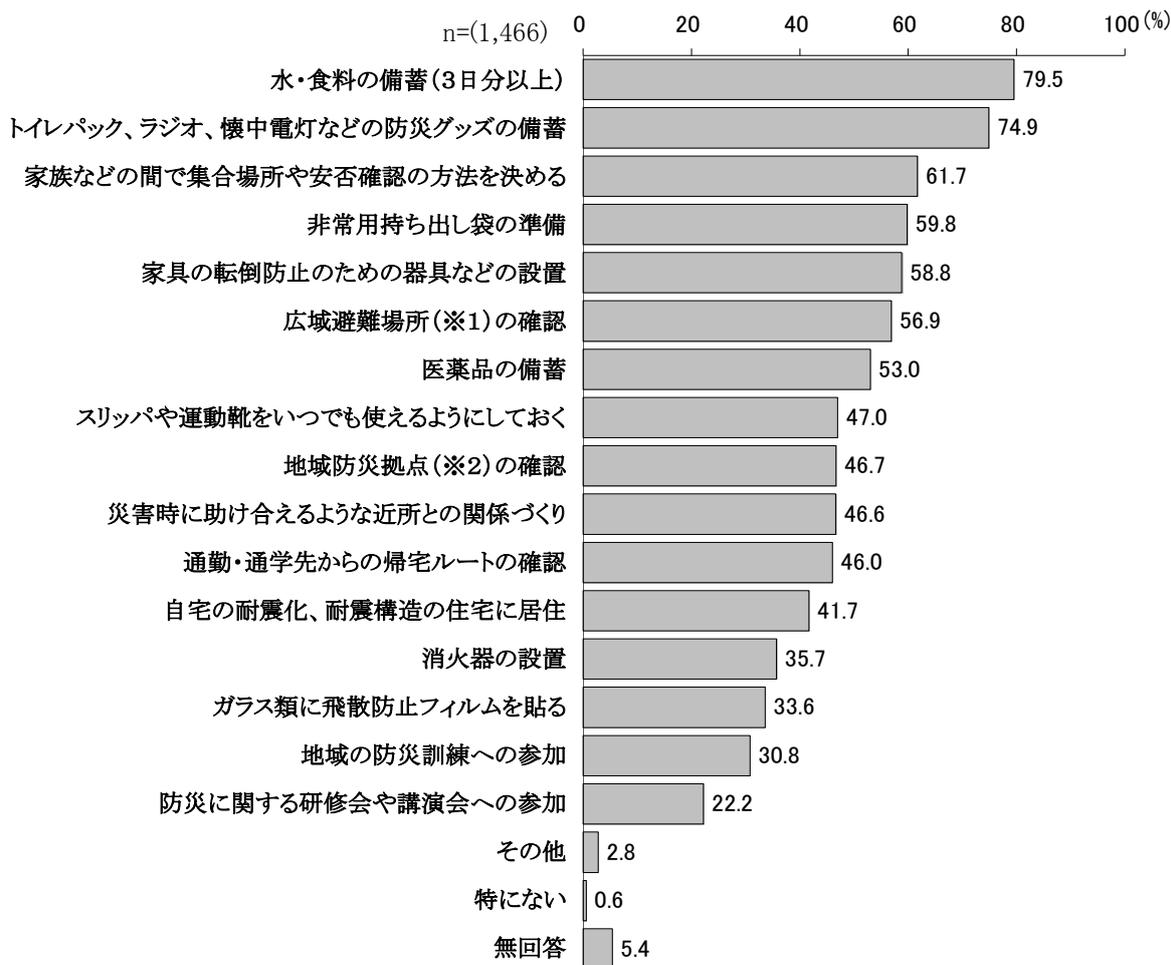
(1) 家庭の地震災害に対する備えについて

問1 あなたのご家庭の地震災害に対する備えについておたずねします。(ア)と(イ)について該当する欄の番号に○をつけてください。(○はそれぞれいくつでも)
 (ア) 昨年の東日本大震災で必要性を感じたこと (既に備えていた対策と行っていないこと)の両方を合わせてお答えください。
 (イ) 現在対策を行っていること

(ア) 昨年の東日本大震災で必要性を感じたこと

「水・食料の備蓄(3日以上)」が79.5%、約8割と最も高く、「トイレパック、ラジオ、懐中電灯などの防災グッズの備蓄」74.9%、「家族などの間で集合場所や安否確認の方法を決める」61.7%、「非常用持ち出し袋の準備」59.8%、「家具の転倒防止のための器具などの設置」58.8%、「広域避難場所(※1)の確認」56.9%、「医薬品の備蓄」53.0%と続いている。

図 昨年の東日本大震災で必要性を感じたこと [全体] (複数回答)



※1 広域避難場所:地震による大火災発生時の避難場所。

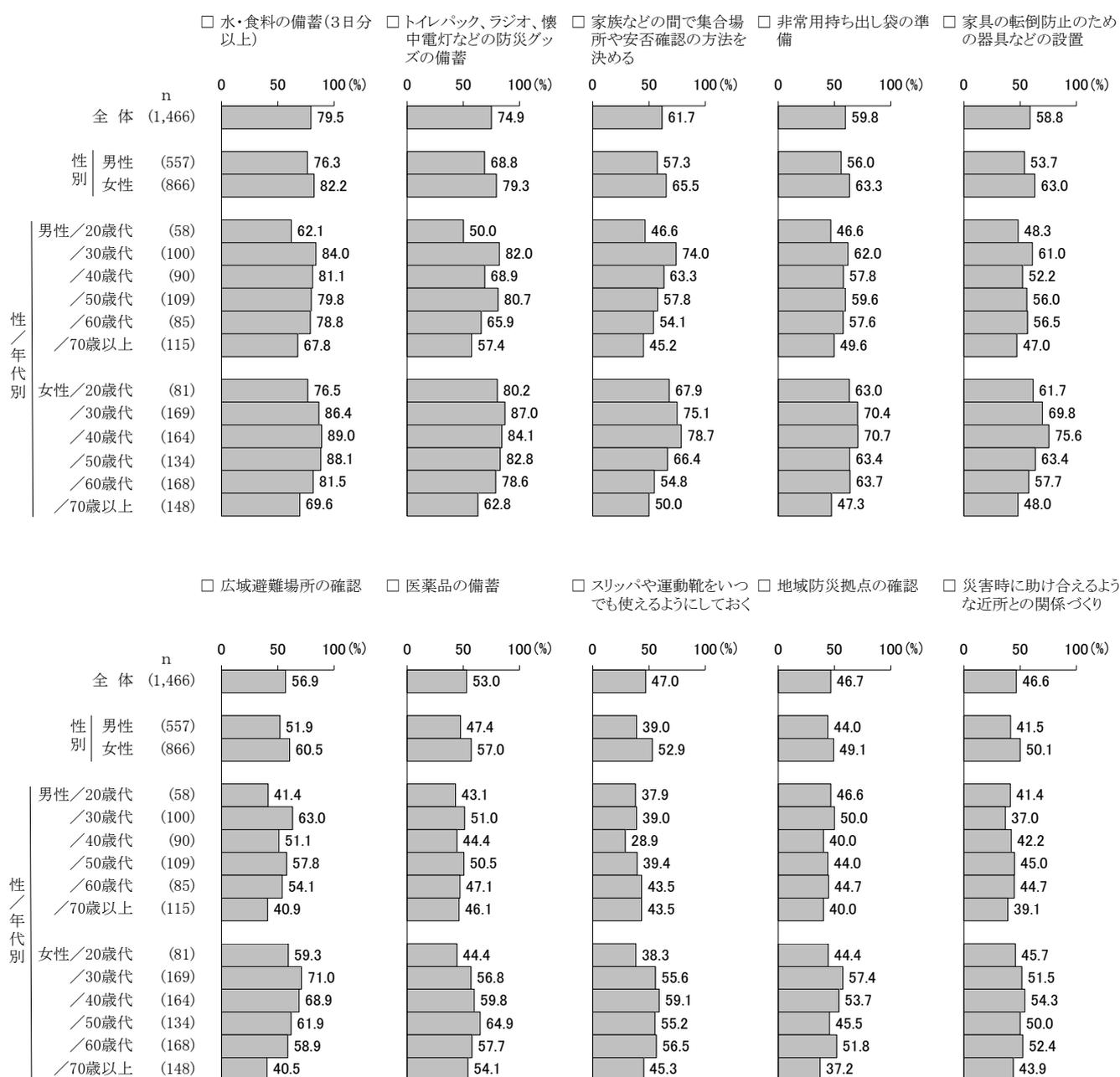
※2 地域防災拠点:家屋の倒壊などにより自宅で生活できない人が一定期間生活をする場所。

■ 昨年の東日本大震災で必要性を感じたこと〔性別・性／年代別・居住地域別・世帯類型別〕

性別でみると、「水・食料の備蓄（3日分以上）」で女性82.2%、男性76.3%で5.9ポイント、次いで「トイレパック、ラジオ、懐中電灯などの防災グッズの備蓄」が女性79.3%、男性68.8%で10.5ポイントそれぞれ女性が高くなっている。

性／年代別では、「水・食料の備蓄（3日分以上）」が男性の30歳代から40歳代、女性の30歳代から60歳代で8割台と高く、『女性／40歳代』では約9割と最も高い。一方、男性の20歳代、70歳以上、女性の70歳以上では6割台と低い。「トイレパック、ラジオ、懐中電灯などの防災グッズの備蓄」は、男性の30歳代、50歳代、女性の20歳代から50歳代で8割を超えており、男女ともに30歳代が最も高く、『女性／30歳代』87.0%、『男性／30歳代』82.0%となっている。また、ほぼすべての項目で男女とも70歳以上の割合が低い傾向になっている。

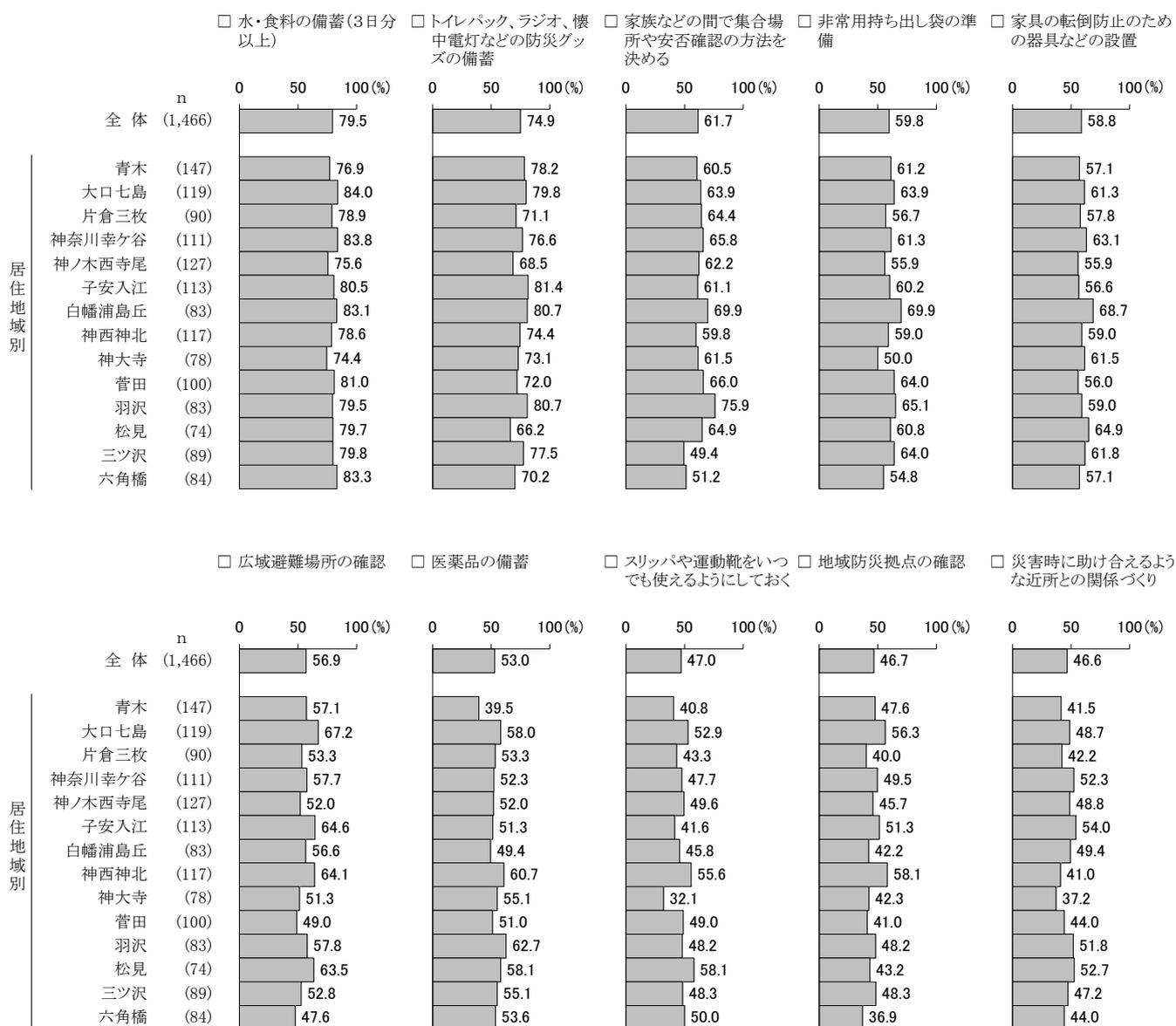
図 昨年の東日本大震災で必要性を感じたこと〔性別・性／年代別（上位10項目）〕（複数回答）



第2章 調査結果の詳細

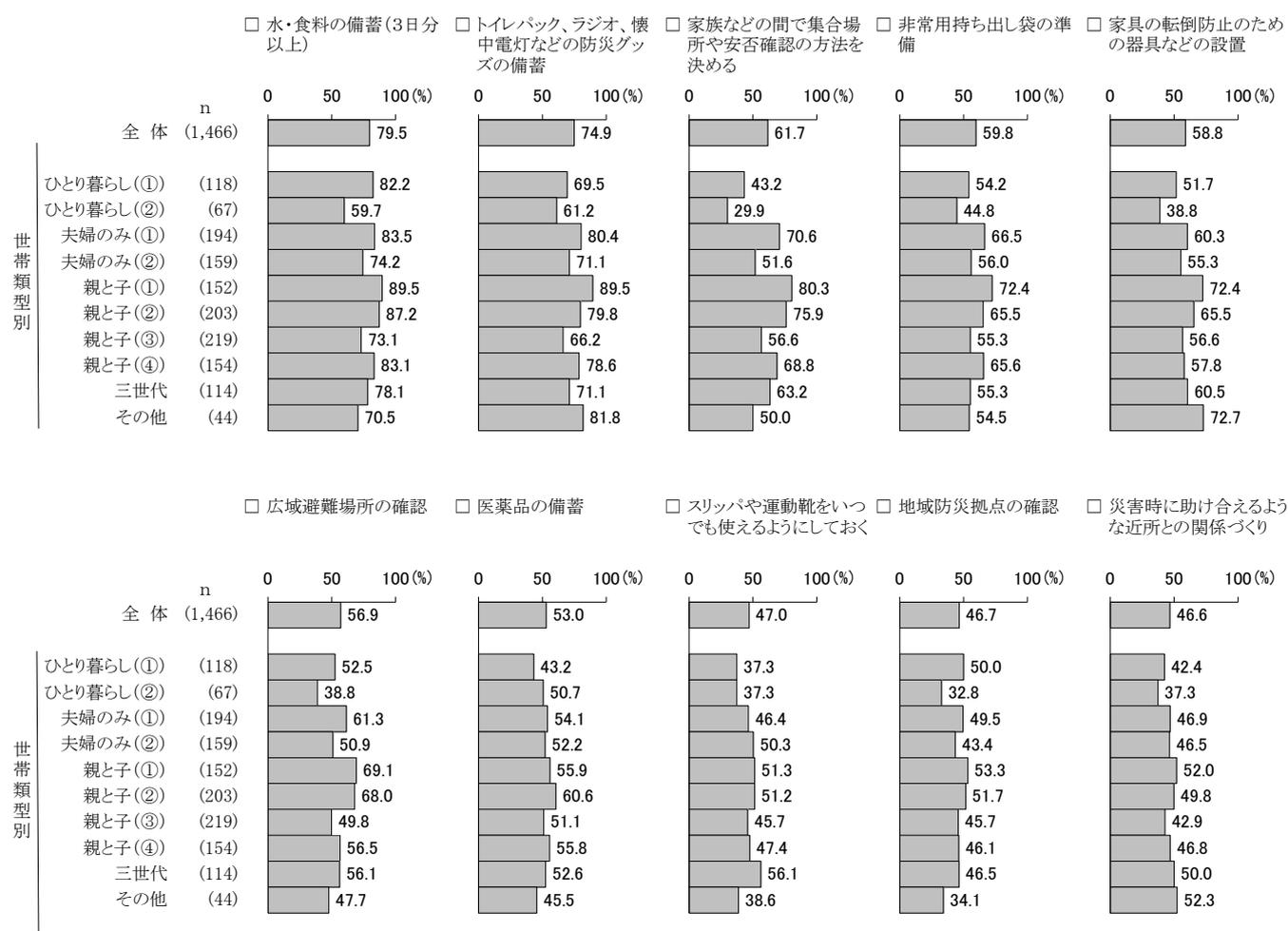
居住地域別では、「水・食料の備蓄（3日分以上）」はすべての地域で7割以上と高く、地域による差はほとんどない。「トイレパック、ラジオ、懐中電灯などの防災グッズの備蓄」は『松見』、『神ノ木西寺尾』で6割台後半と他の地域に比較して低い。「家族などの間で集合場所や安否確認の方法を決める」は『三ツ沢』、『六角橋』で約5割と低いが、『羽沢』は7割台半ばと高い。「非常用持ち出し袋の準備」は『神大寺』が5割と最も低く、『白幡浦島丘』が約7割と最も高い。「医薬品の備蓄」は『青木』が約4割で他の地域に比較して低い割合となっている。また、「スリッパや運動靴をいつでも使えるようにしておく」は『神大寺』が3割台前半と低い。『白幡浦島丘』は上位5項目で割合が高くなっている。

図 昨年の東日本大震災で必要性を感じたこと〔居住地域別（上位10項目）〕（複数回答）



世帯類型別では、「水・食料の備蓄（3日分以上）」は『ひとり暮らし（本人が65歳以上）』で約6割と低いが、他の世帯類型は7割を超え、『親と子（構成員に未就学児含む）』では約9割と最も高い。「トイレパック、ラジオ、懐中電灯などの防災グッズの備蓄」は、『ひとり暮らし（本人が65歳以上）』が6割台前半と低い。上位10項目すべてで『親と子（構成員に未就学児含む）』の割合が高く、逆に『ひとり暮らし（本人が65歳以上）』の割合は低い傾向にある。

図 昨年の東日本大震災で必要性を感じたこと [世帯類型別（上位10項目）]（複数回答）



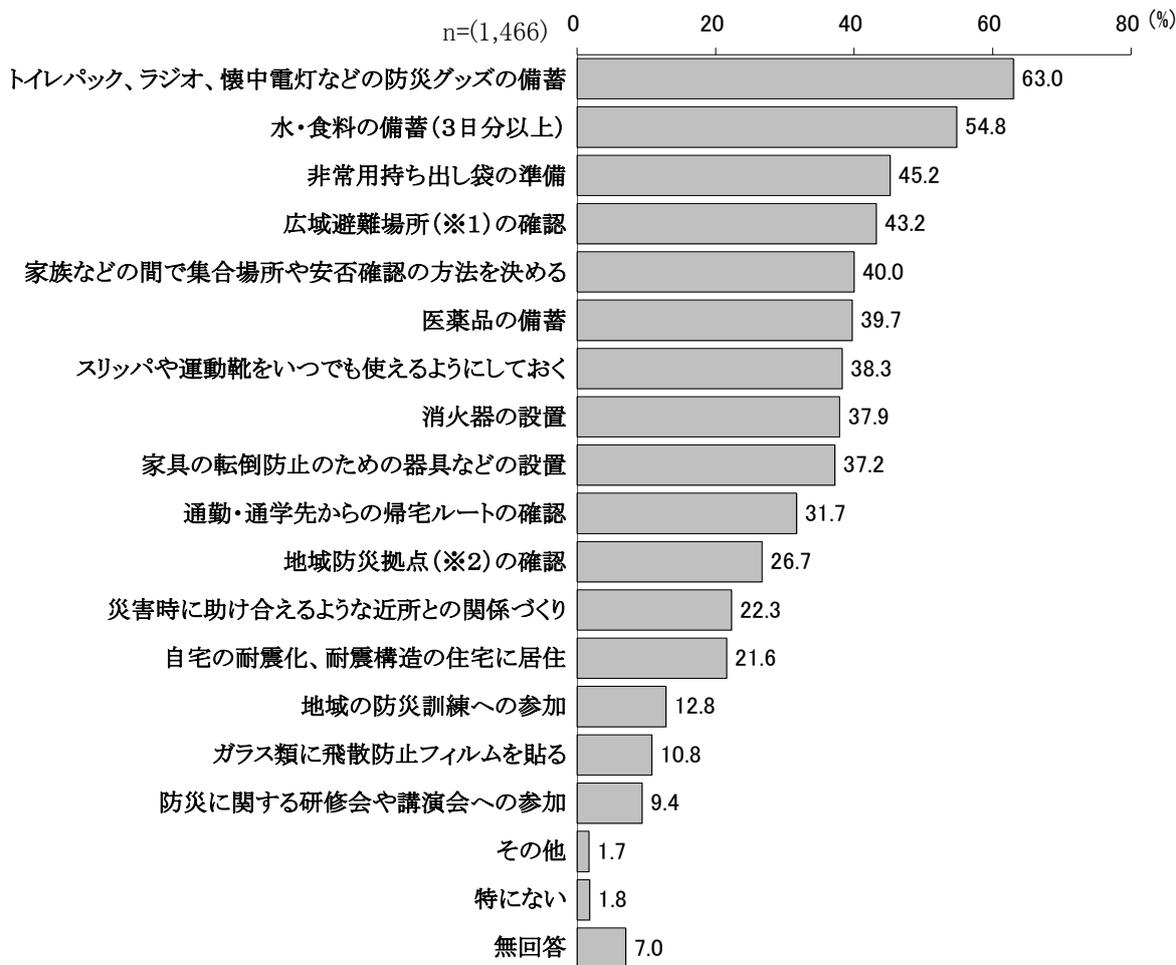
※世帯類型

- ひとり暮らし (①) 本人が65歳未満
- ひとり暮らし (②) 本人が65歳以上
- 夫婦のみ (①) 本人及び構成員が65歳未満
- 夫婦のみ (②) 本人もしくは構成員が65歳以上
- 親と子 (①) 構成員に未就学児含む
- 親と子 (②) 構成員に学齢期含む (小～大)
- 親と子 (③) 本人もしくは構成員に65歳以上含む
- 親と子 (④) その他

(イ) 現在対策を行っていること

「トイレパック、ラジオ、懐中電灯などの防災グッズの備蓄」が63.0%と最も高く、「水・食料の備蓄（3日以上）」54.8%、「非常用持ち出し袋の準備」45.2%、「広域避難場所の確認」43.2%、「家族などの間で集合場所や安否確認の方法を決める」40.0%と続いている。

図 現在対策を行っていること [全体] (複数回答)



※1 広域避難場所:地震による大火災発生時の避難場所。

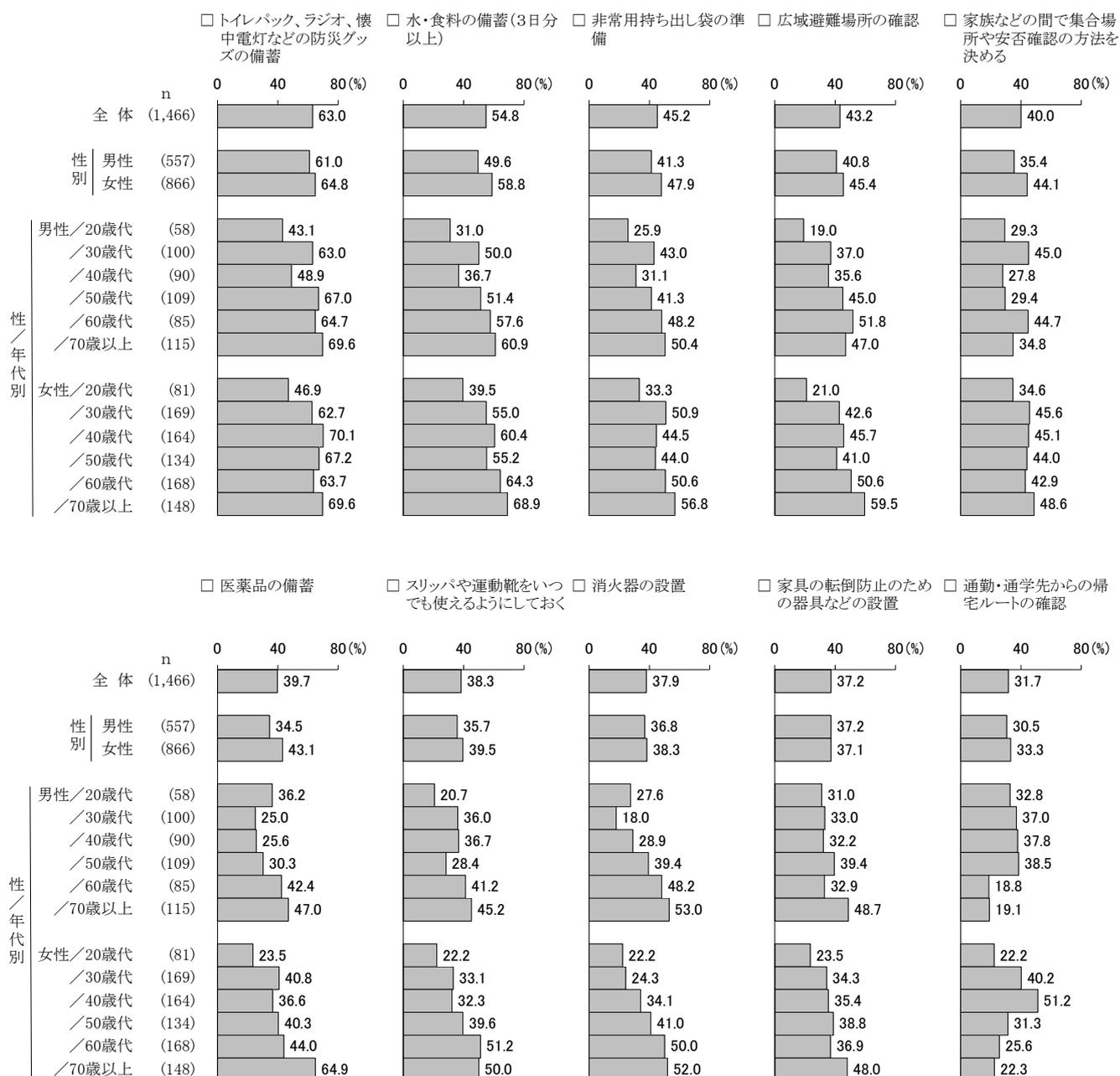
※2 地域防災拠点:家屋の倒壊などにより自宅で生活できない人が一定期間生活をする場所。

■ 現在対策を行っていること [性別・性/年代別・居住地域別・世帯類型別]

性別でみると、「トイレパック、ラジオ、懐中電灯などの防災グッズの備蓄」は女性64.8%、男性61.0%で3.8ポイント、次いで、「水・食料の備蓄（3日分以上）」は女性58.8%、男性49.6%で9.2ポイントそれぞれ女性が高くなっている。

性/年代別でみると、「トイレパック、ラジオ、懐中電灯などの防災グッズの備蓄」は『女性/40歳代』70.1%で最も高く、男女とも30歳代、50歳代以上で6割台となっており、男女とも70歳以上で69.6%と最も高くなっている。「水・食料の備蓄（3日分以上）」は男性の20歳代、40歳代、女性の20歳代は3割台と低いが、男性の30歳代、50歳代以上、女性の30歳代、50歳代で5割台となっている。男性の70歳以上、女性の40歳代、60歳代以上が6割台で『女性/70歳以上』が68.9%と最も高い。また、ほぼすべての項目で男女とも70歳以上の割合が高い傾向になっている。

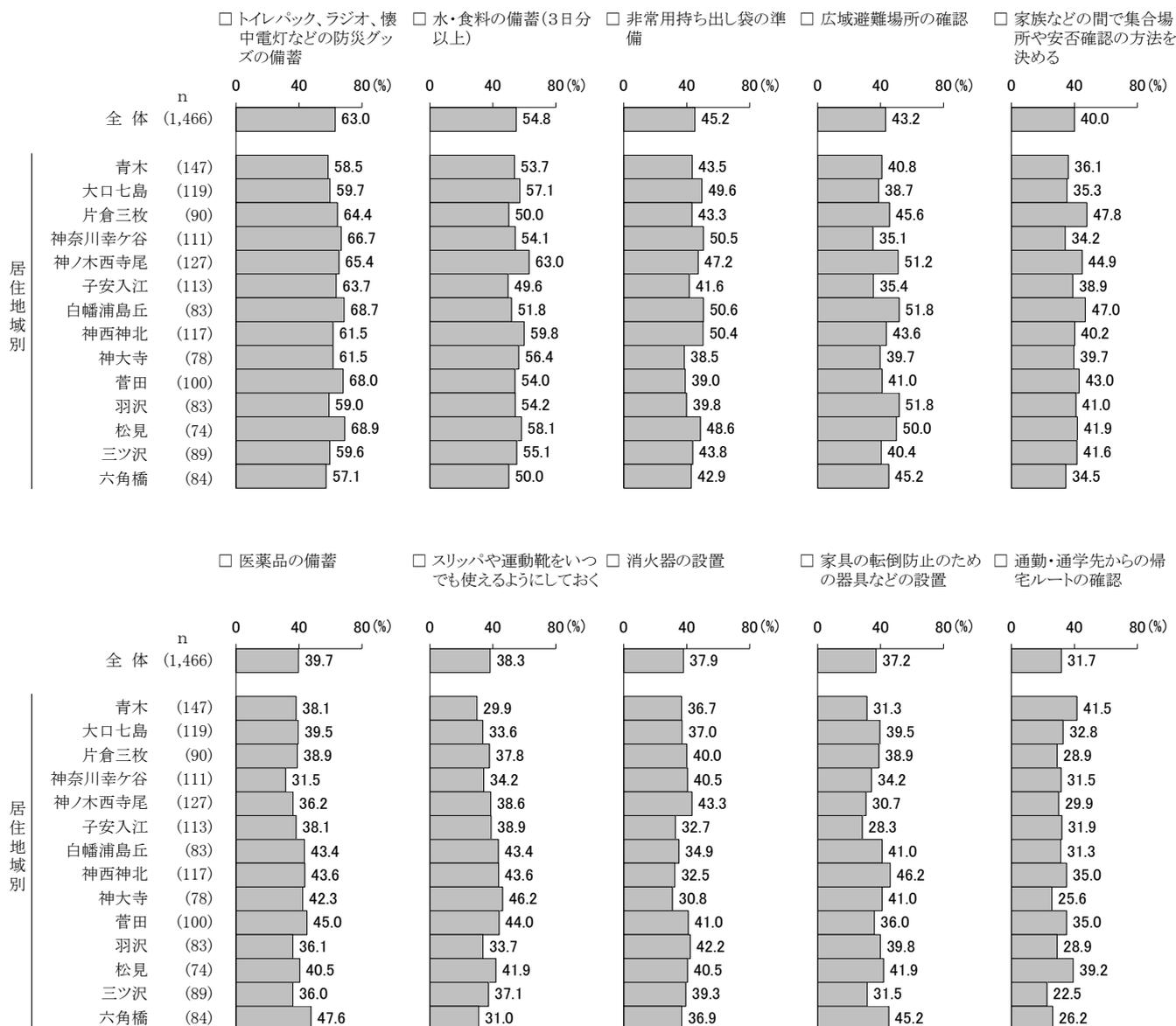
図 現在対策を行っていること [性別・性/年代別（上位10項目）]（複数回答）



第2章 調査結果の詳細

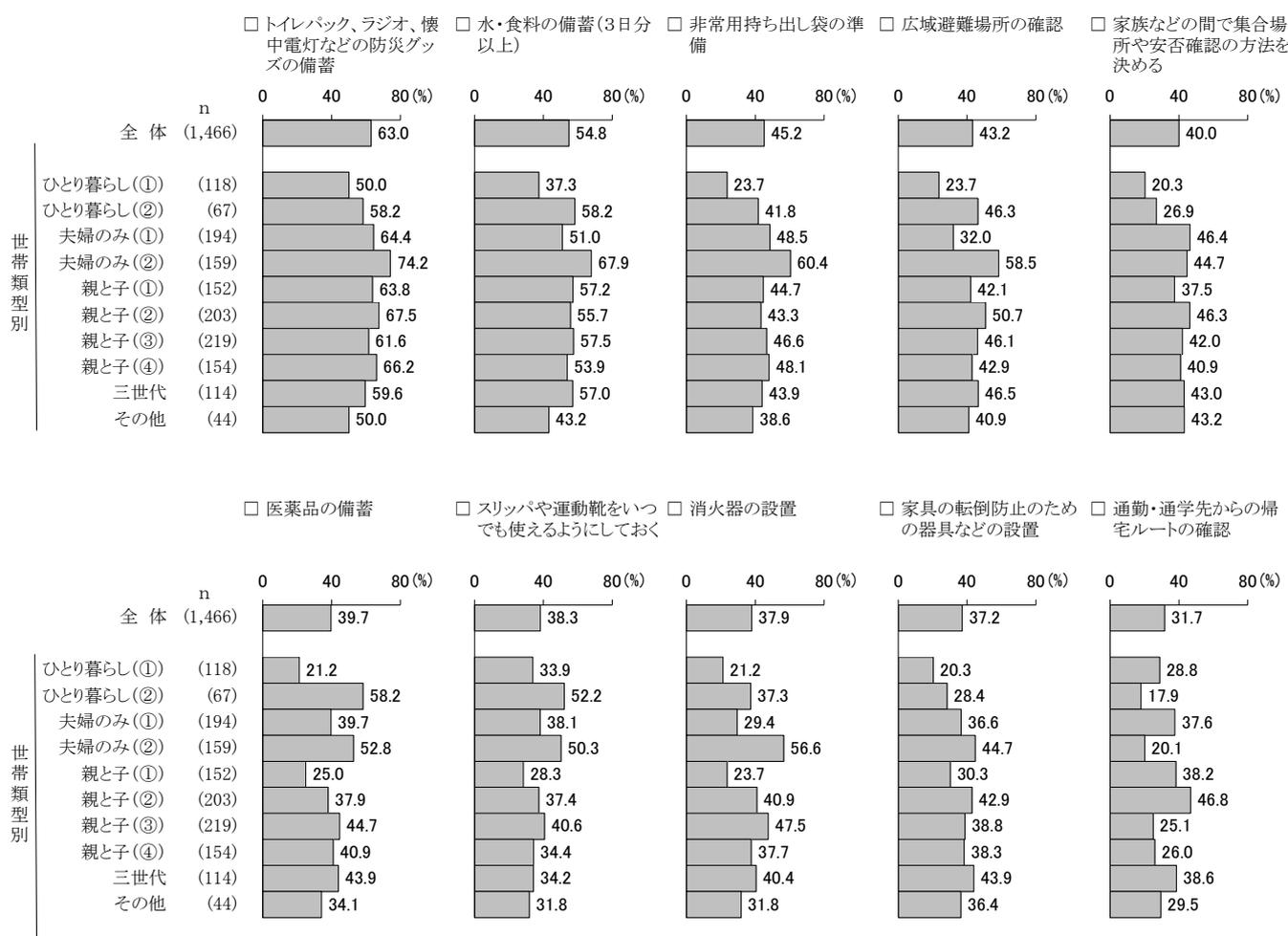
居住地域別でみると、「トイレパック、ラジオ、懐中電灯などの防災グッズの備蓄」はすべての地域で5割台後半から6割台後半となっている。「水・食料の備蓄（3日分以上）」は『神ノ木西寺尾』で63.0%と最も高く、他の地域では約5割以上となっている。「非常用持ち出し袋の準備」は『神大寺』、『菅田』、『羽沢』で4割弱、他の地域では4割台前半から5割となっている。「避難場所の確認」は地域により差があり、『神奈川幸ヶ谷』、『子安入江』では3割台半ばと低い。「家族などの中で集合場所や安否確認の方法を決める」は『片倉三枚』、『白幡浦島丘』で4割台後半と高い。

図 現在対策を行っていること〔居住地域別（上位10項目）〕（複数回答）



世帯類型別では、「トイレパック、ラジオ、懐中電灯などの防災グッズの備蓄」はすべての世帯類型で5割を超えており、『夫婦のみ（本人もしくは構成員が65歳以上）』では74.2%と最も高い。「水・食料の備蓄（3日分以上）」は『ひとり暮らし（本人が65歳未満）』を除いて5割以上で『夫婦のみ（本人もしくは構成員が65歳以上）』で67.9%と高い。「非常用持ち出し袋の準備」は『夫婦のみ（本人もしくは構成員が65歳以上）』が60.4%で最も高い。「広域避難場所の確認」は『ひとり暮らし（本人が65歳未満）』と『夫婦のみ（本人もしくは構成員が65歳以上）』で2割から3割台と低い。「消火器の設置」、「医薬品の備蓄」、「スリッパや運動靴をいつでも使えるようにしておく」は『親と子（構成員に未就学児含む）』は2割台と低い。上位9項目で『ひとり暮らし（本人が65歳未満）』の割合が低く、逆に『夫婦のみ（本人もしくは構成員が65歳以上）』の割合が高い傾向となっている。

図 現在対策を行っていること〔世帯類型別（上位10項目）〕（複数回答）



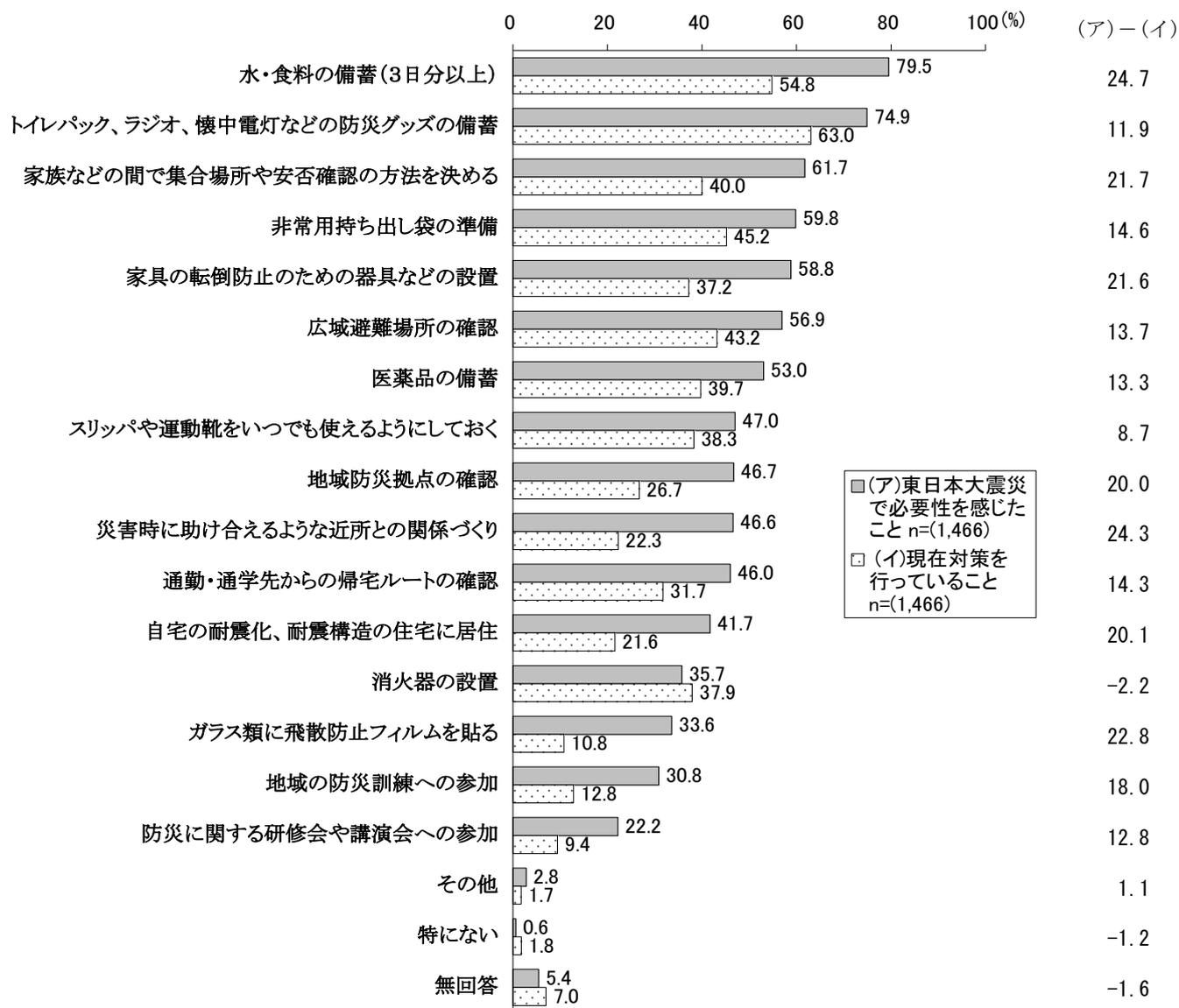
※世帯類型

- ひとり暮らし (①) 本人が65歳未満
- ひとり暮らし (②) 本人が65歳以上
- 夫婦のみ (①) 本人及び構成員が65歳未満
- 夫婦のみ (②) 本人もしくは構成員が65歳以上
- 親と子 (①) 構成員に未就学児含む
- 親と子 (②) 構成員に学齢期含む (小～大)
- 親と子 (③) 本人もしくは構成員に65歳以上含む
- 親と子 (④) その他

■ 昨年の東日本大震災で必要性を感じたこと・現在対策を行っていること

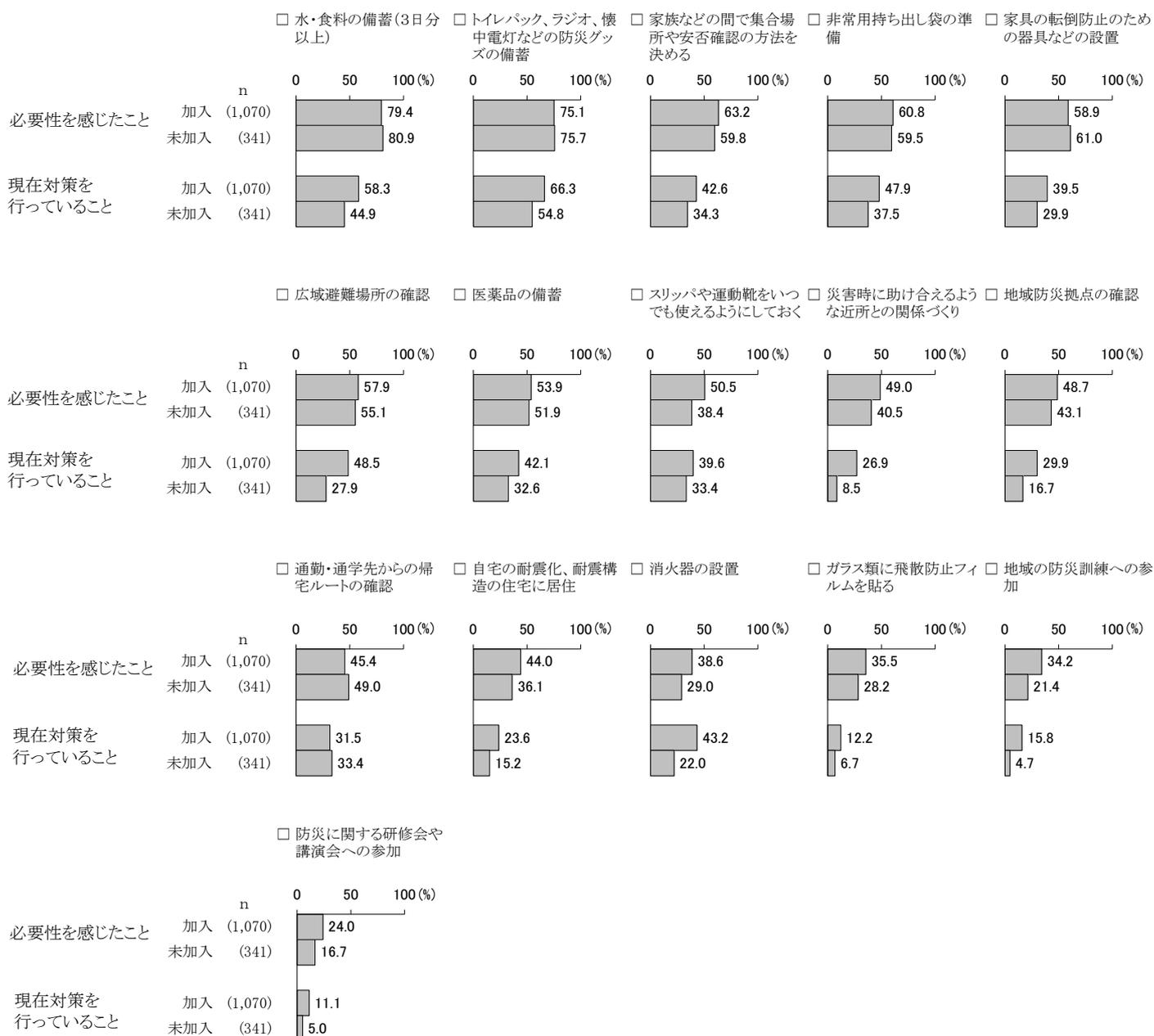
(ア) 昨年の東日本大震災で必要性を感じたことと (イ) 現在対策を行っていることを比較すると、「消火器の設置」以外はすべての項目で必要性を感じた割合が現在対策を行っている割合よりも高く、必要性と対策に開きがある結果となっている。最も必要性を感じた割合が高い「水・食料の備蓄（3日分以上）」79.5%に対して、現在の対策は54.8%で24.7ポイント、「災害時に助け合えるような近所との関係づくり」24.3ポイント、「ガラス類に飛散防止フィルムを貼る」22.8ポイント、「家族などの間で集合場所や安否確認の方法を決める」21.7ポイント、「家具の転倒防止のための器具などの設置」21.6ポイントそれぞれ必要性が高くなっている。一方、必要性と現在行っている対策の割合の差が低いのは、「スリッパや運動靴をいつでも使えるようにしておく」8.7ポイント、「トイレパック、ラジオ、懐中電灯などの防災グッズの備蓄」11.9ポイントとなっている。唯一、「消火器の設置」については、必要性35.7%、現在の対策37.9%で、2.2ポイント現在対策を行っている割合が高い。

図 昨年の東日本大震災で必要性を感じたこと・現在対策を行っていること [全体] (複数回答)



自治会町内会への加入の有無別でみると、必要性を感じたことに関して差が大きいのは、「地域の防災訓練への参加」で『加入している』34.2%、『加入していない』21.4%で『加入している』が12.8ポイント高い。現在対策を行っていることに関して、加入の有無別で差が大きい項目は「水・食料の備蓄（3日分以上）」で『加入している』58.3%に対し、『加入していない』44.9%と13.4ポイント『加入している』が高い。

図 昨年の東日本大震災で必要性を感じたこと・現在対策を行っていること
[自治会町内会への加入の有無別] (複数回答)



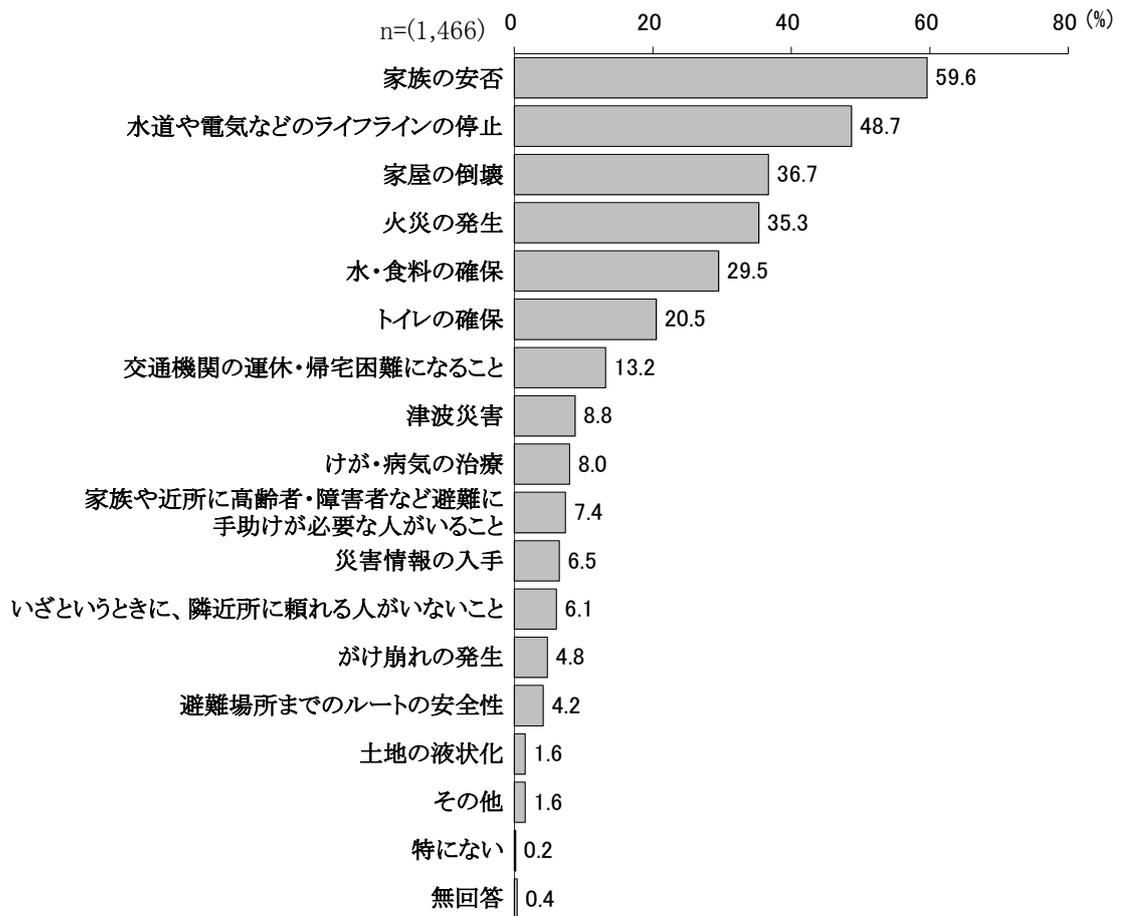
※加入・・・自治会町内会に『加入している』
未加入・・・自治会町内会に『加入していない』

(2) 地震災害発生時に特に心配なこと

問2 地震災害が起きたときにあなたが特に心配なことは何ですか。(〇は3つまで)

地震災害が起きたときに特に心配なことは、「家族の安否」が59.6%、約6割で最も高く、「水道や電気などのライフラインの停止」48.7%、「家屋の倒壊」36.7%、「火災の発生」35.3%と続いている。

図 地震災害発生時に特に心配なこと [全体] (複数回答)

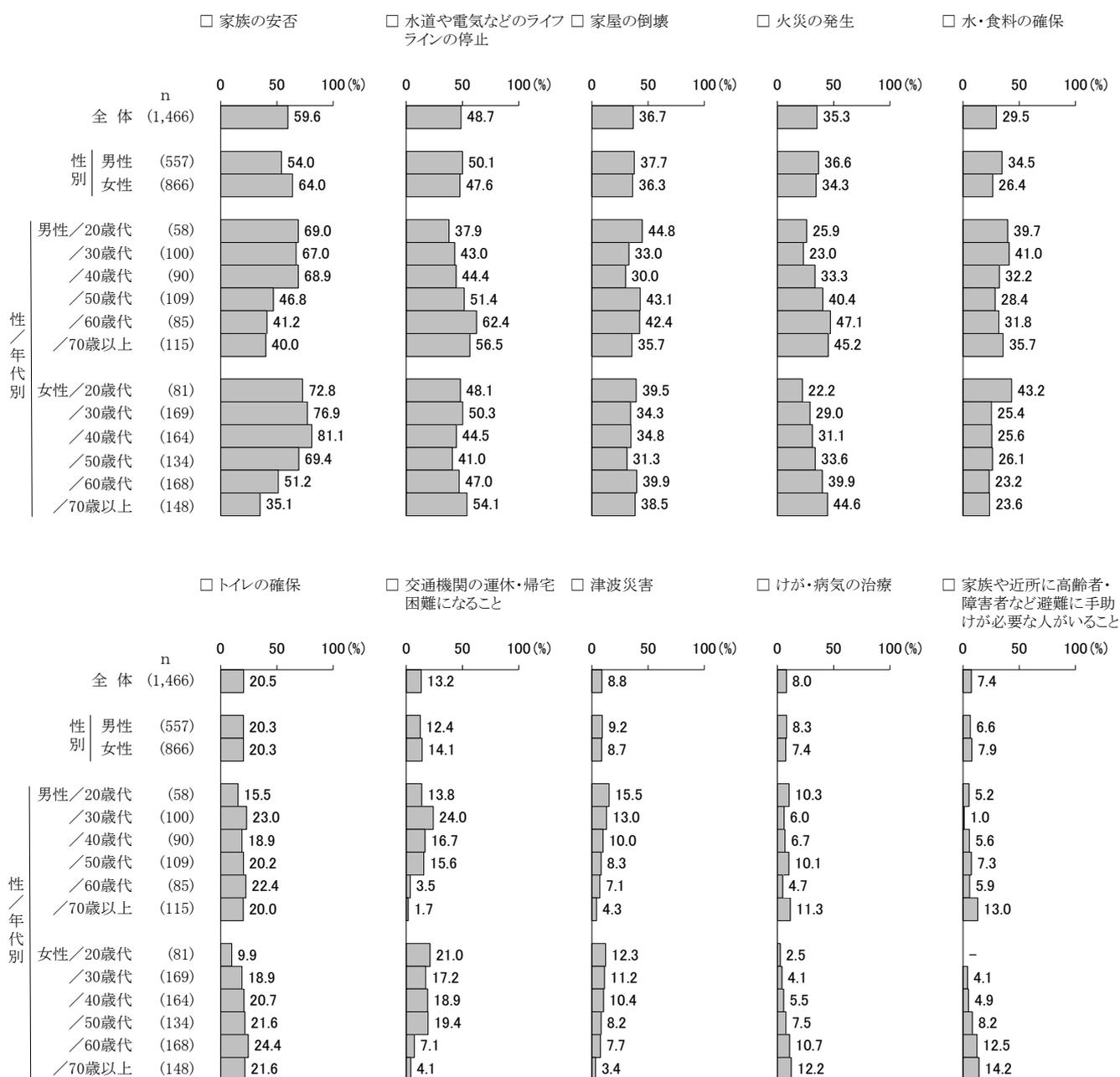


■ 地震災害発生時に特に心配なこと〔性別・性／年代別・居住地域別・世帯類型別〕

性別でみると、「家族の安否」が女性64.0%、男性54.0%で女性が10ポイント高い。次いで、「水道や電気などのライフラインの停止」が男性50.1%、女性47.6%、「家屋の倒壊」は男性37.7%、女性36.3%、「火災の発生」は男性36.6%、女性34.3%、「水・食料の確保」は男性34.5%、女性26.4%でそれぞれ男性の割合が高くなっている。

性／年代別では、「家族の安否」は男女とも20歳代から40歳代で高く、男性は6割台、女性は7割台から8割台と高くなっているが、50歳代以上では、男女ともに年齢があがるに従い減少している。「水道や電気などのライフラインの停止」は男性では20歳代が3割台と最も低く、60歳代までは年齢があがるに従い割合も高くなり、60歳代が62.4%と最も高いが、70歳以上では5割台になっている。女性は30歳代、70歳以上で5割台、それ以外の年代は4割台となっている。

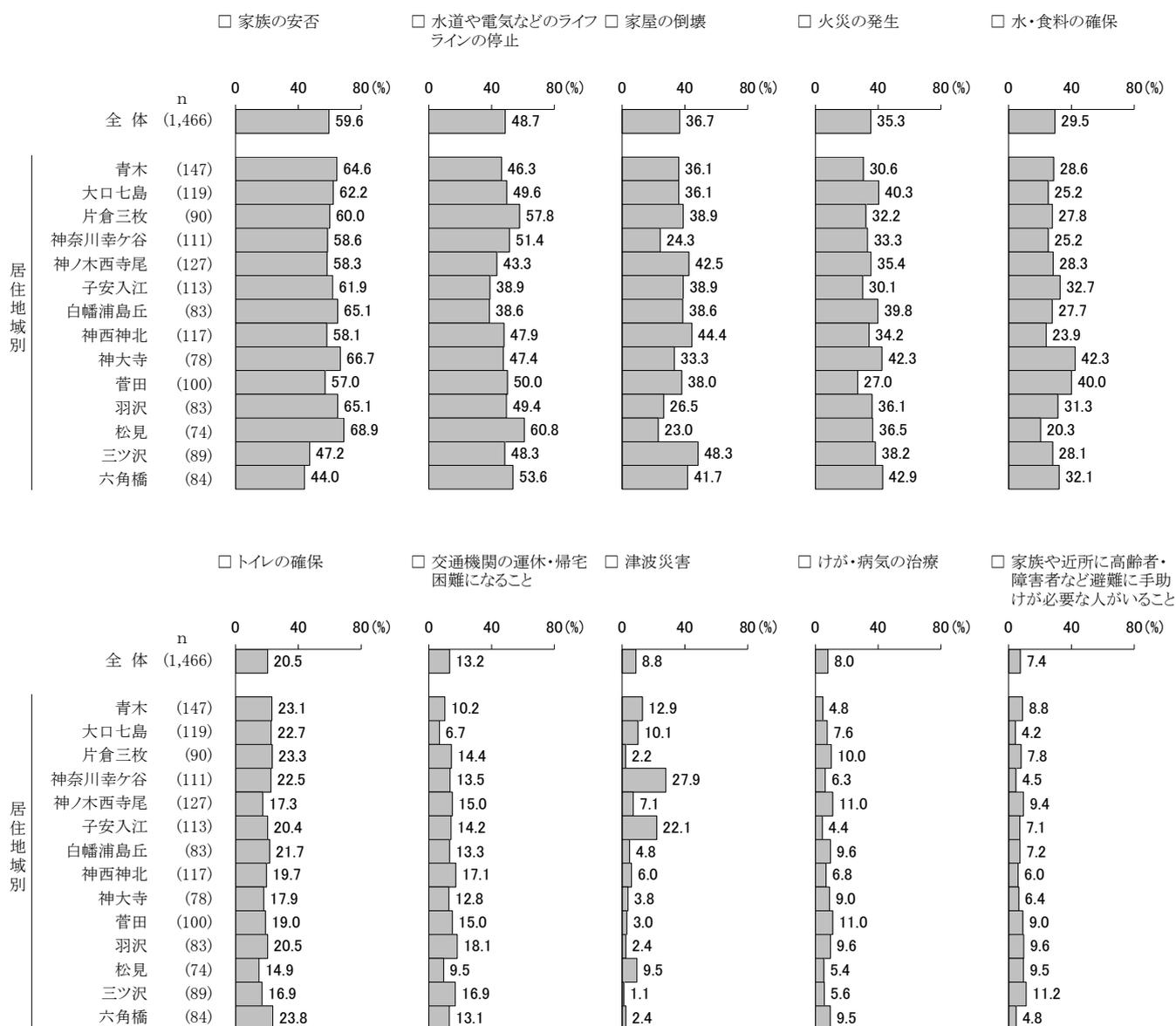
図 地震災害発生時に特に心配なこと〔性別・性／年代別（上位10項目）〕（複数回答）



第2章 調査結果の詳細

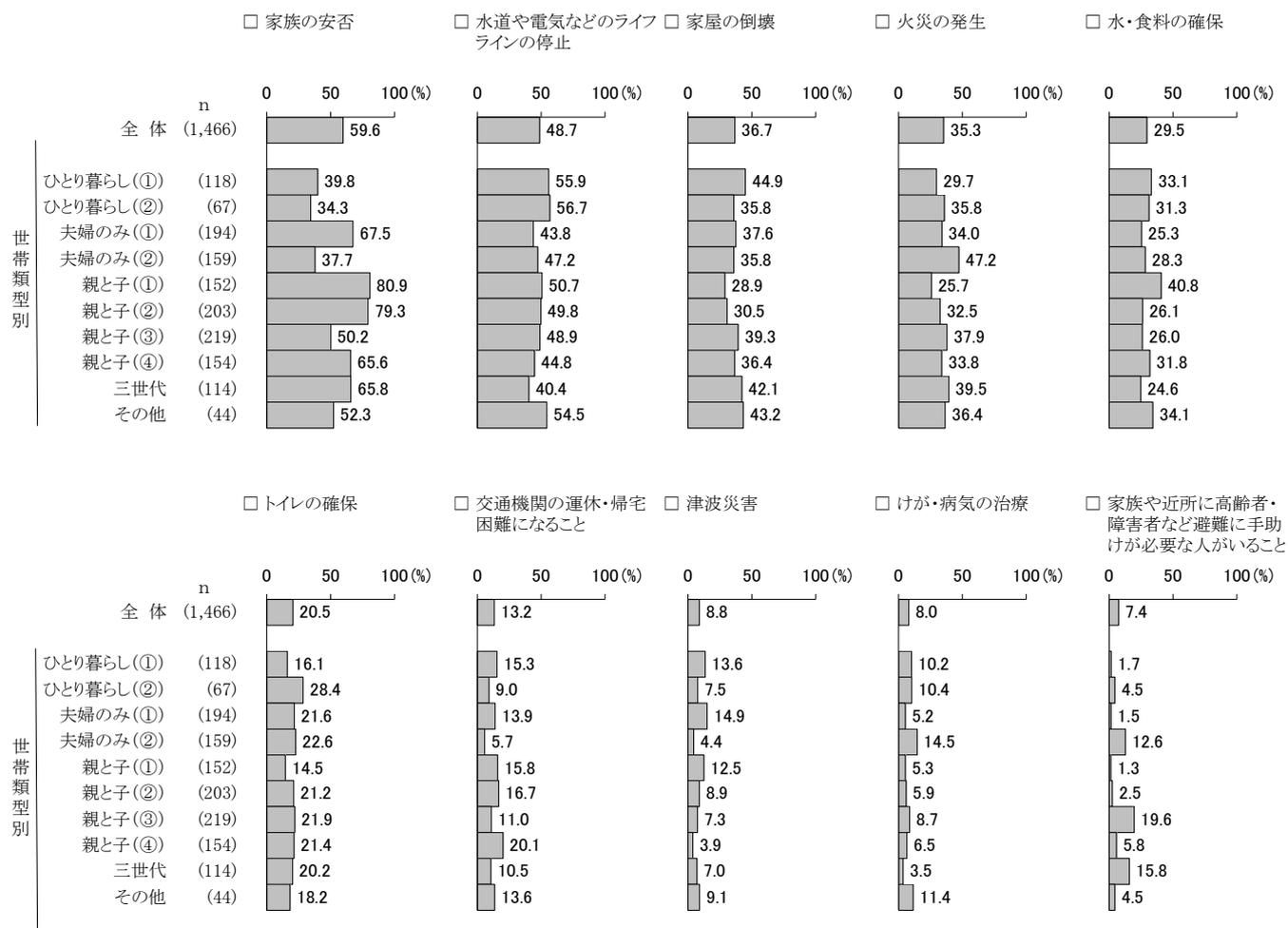
居住地域別では「家族の安否」は、『松見』が6割台後半と高く、『三ツ沢』、『六角橋』が4割台と低い。「水道や電気などのライフラインの停止」は『松見』は約6割と最も高く、『子安入江』、『白幡浦島丘』で3割台後半と低いが、他の地域では4割を超えている。「家屋の倒壊」は『三ツ沢』が4割台後半と最も高く、『松見』、『神奈川幸ヶ谷』、『羽沢』は2割台と低い。「火災の発生」は『六角橋』が42.9%と最も高く、『菅田』が27.0%と低い。「水・食料の確保」は『神大寺』、『菅田』で4割を超えて高い。「津波災害」は『神奈川幸ヶ谷』、『子安入江』で2割台と他の地域が1割台から1割未満に対し高い割合となっている。

図 地震災害発生時に特に心配なこと [居住地域別 (上位10項目)] (複数回答)



世帯類型別では、「家族の安否」は『親子（構成員に未就学児含む）』、『親子（構成員に学齢期含む（小～大））』が約8割と最も高い。「水道や電気などのライフラインの停止」はすべての世帯類型で4割台から5割台後半で大きな差はない。「家屋の倒壊」は『ひとり暮らし（本人が65歳未満）』が44.9%で最も高い。「火災の発生」は『夫婦のみ（本人もしくは構成員が65歳以上）』で47.2%と高い。「水・食料の確保」は『親子（構成員に未就学児含む）』で40.8%と高くなっている。

図 地震災害発生時に特に心配なこと〔世帯類型別（上位10項目）〕（複数回答）



※世帯類型

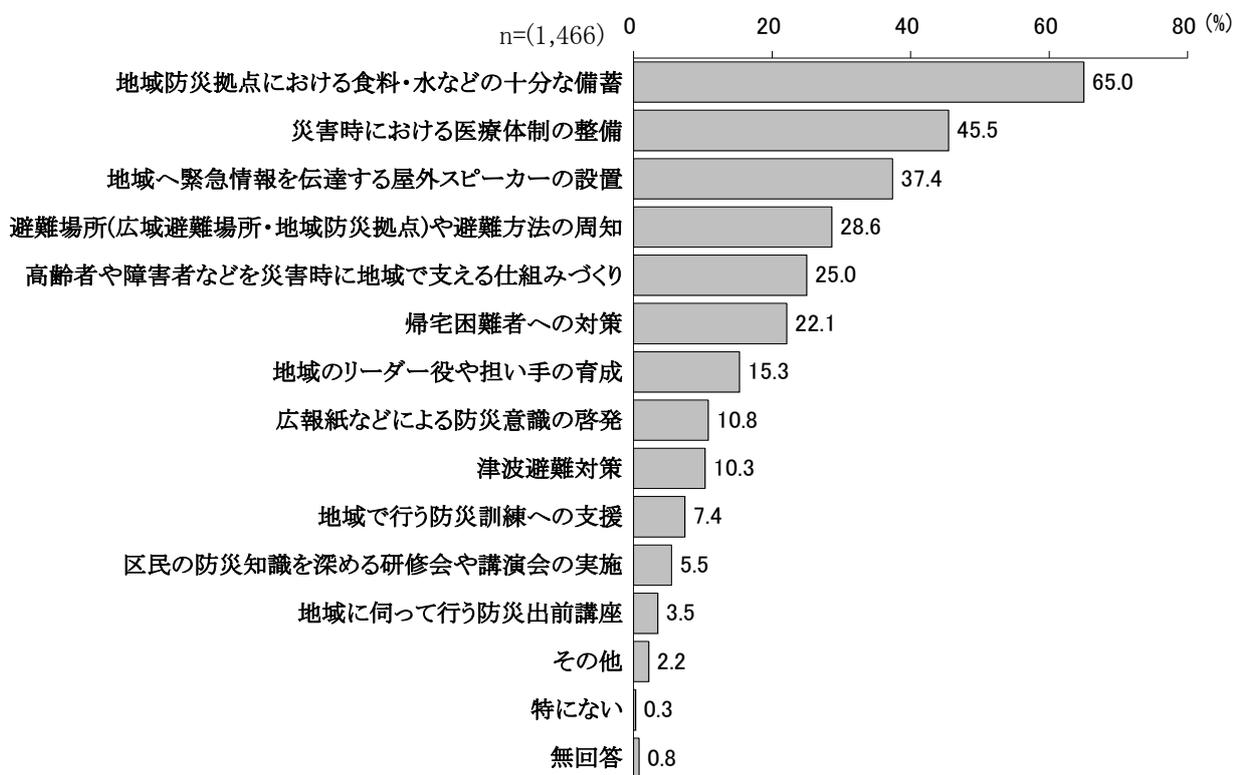
- ひとり暮らし (①) 本人が65歳未満
- ひとり暮らし (②) 本人が65歳以上
- 夫婦のみ (①) 本人及び構成員が65歳未満
- 夫婦のみ (②) 本人もしくは構成員が65歳以上
- 親子 (①) 構成員に未就学児含む
- 親子 (②) 構成員に学齢期含む（小～大）
- 親子 (③) 本人もしくは構成員に65歳以上含む
- 親子 (④) その他

(3) 区役所の防災対策として力を入れて実施すべきこと

問3 区役所が取り組む防災対策で、特に力を入れて実施すべきと考えられるのは何ですか。
(〇は3つまで)

区役所が取り組む防災対策で、特に力を入れて実施すべきと考えられるのは、「地域防災拠点における食料・水などの十分な備蓄」が65.0%、6割台半ばで最も高く、「災害時における医療体制の整備」45.5%、「地域へ緊急情報を伝達する屋外スピーカーの設置」37.4%と続いている。

図 区役所の防災対策として力を入れて実施すべきこと [全体] (複数回答)

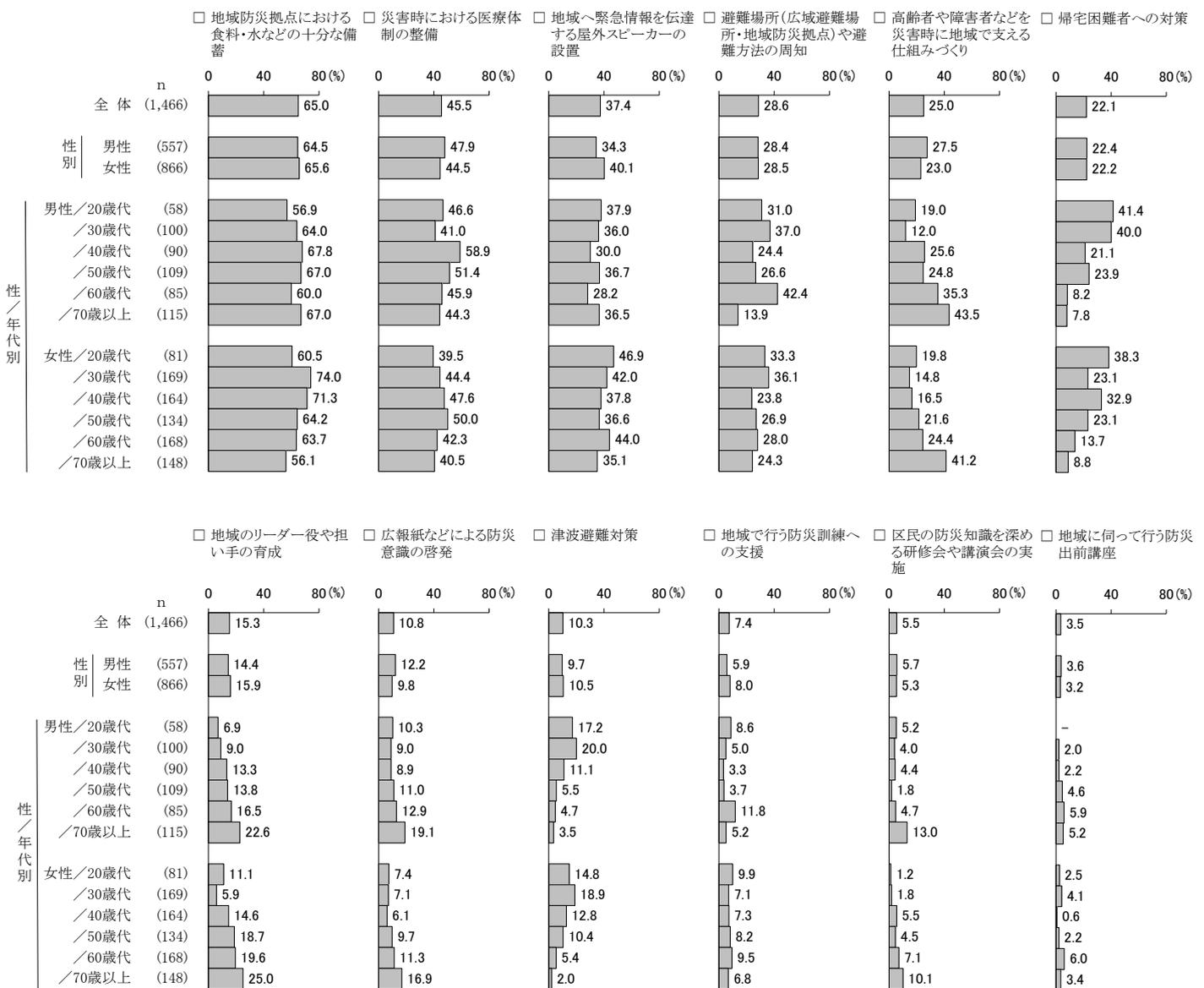


■ 区役所の防災対策として力を入れて実施すべきこと〔性別・性／年代別・居住地域別・世帯類型別〕

性別でみると、「地域防災拠点における食料・水などの十分な備蓄」は男性、女性とも6割台半ばと高く、「災害時における医療体制の整備」は男性47.9%、女性44.5%で男性が3.4ポイント高い。「地域へ緊急情報を伝達する屋外スピーカーの設置」は女性40.1%、男性34.3%で女性が5.8ポイント高い。

性／年代別では、「地域防災拠点における食料・水などの十分な備蓄」は男性の20歳代を除き6割台で『男性／40歳代』が67.8%で最も高い。女性では、30歳代と40歳代が7割台で『女性／30歳代』が74.0%で最も高い。「災害時における医療体制の整備」は『男性／40歳代』58.9%が最も高く、年齢があがるに従い低くなり、『男性／70歳以上』で44.3%となっている。女性では『女性／20歳代』39.5%で低く、『女性／50歳代』50.0%が最も高く、60歳代、70歳以上で4割台前半と低くなっている。

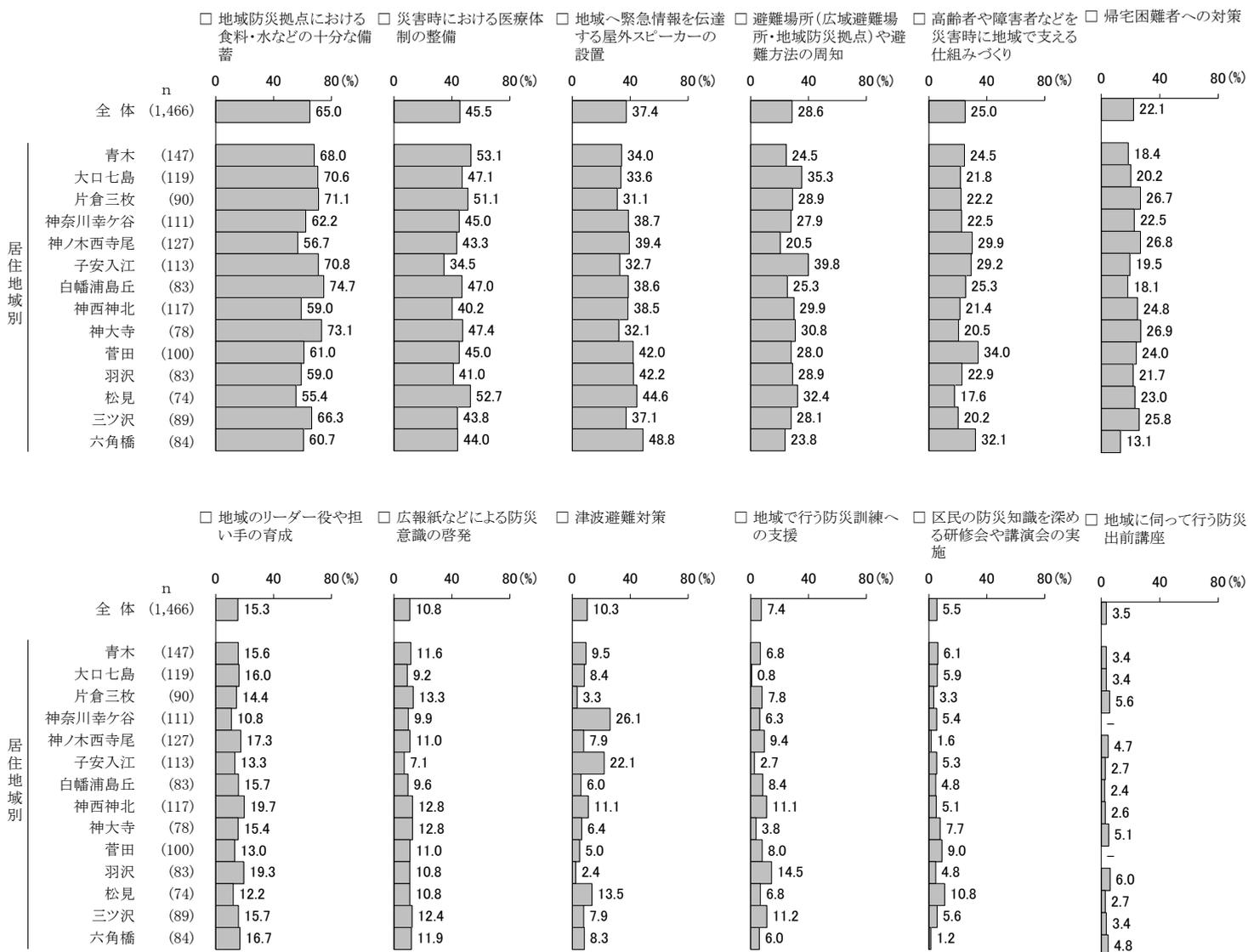
図 区役所の防災対策として力を入れて実施すべきこと〔性別・性／年代別〕（複数回答）



第2章 調査結果の詳細

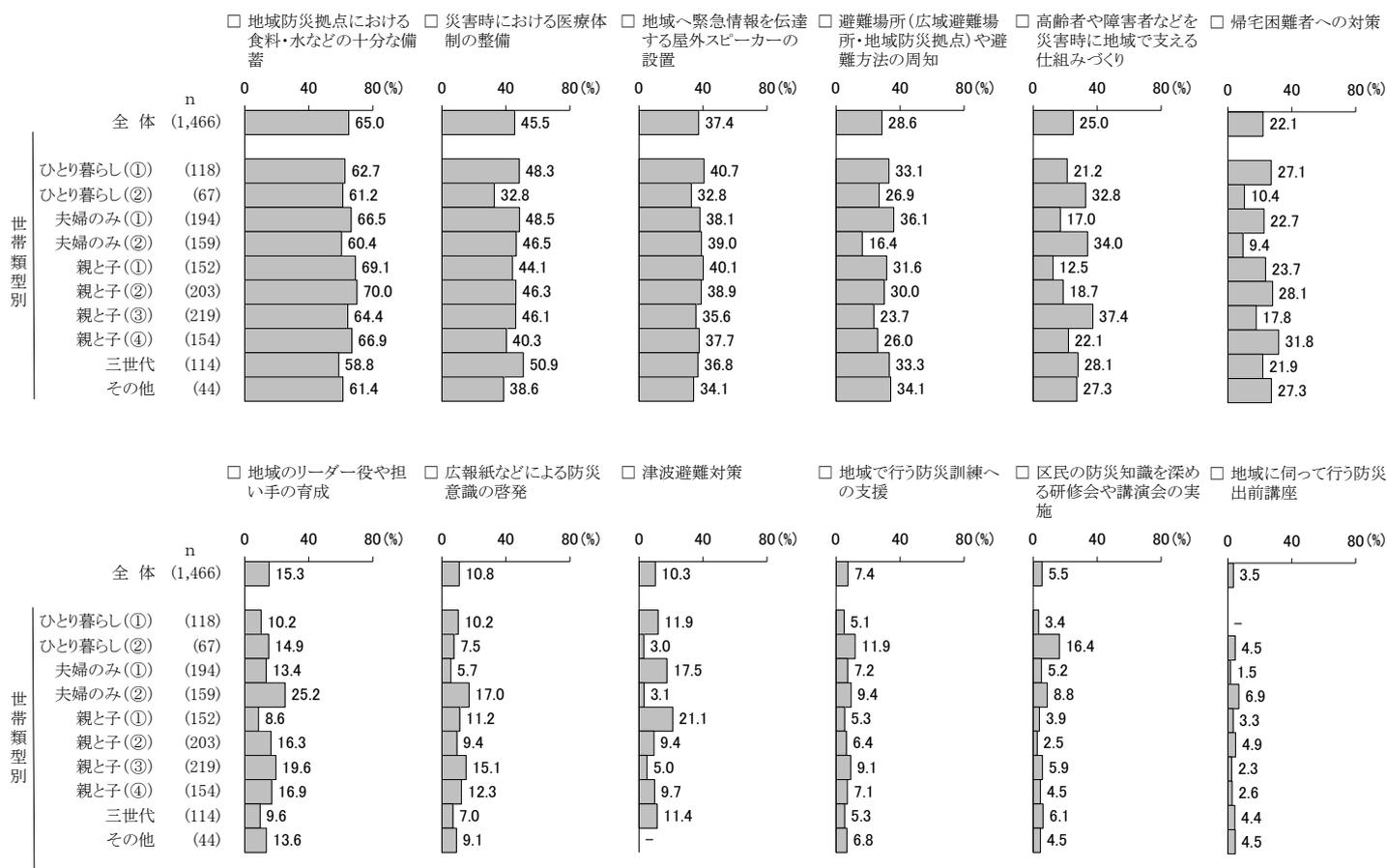
居住地域別では、「地域防災拠点における食料・水などの十分な備蓄」はすべての居住地域で5割を超えており、『白幡浦島丘』、『神大寺』、『片倉三枚』で7割台と高く、「災害時における医療体制の整備」は『子安入江』を除き、他の地域では4割台から5割前半と高くなっている。「地域へ緊急情報を伝達する屋外スピーカーの設置」は『六角橋』で48.8%と最も高い。「避難場所（広域避難場所・地域防災拠点）や避難方法の周知」は『子安入江』が約4割、『大口七島』が3割台半ばと高い。「避難場所（広域避難場所・地域防災拠点）や避難方法の周知」は『子安入江』が約4割、『大口七島』が3割台半ばと高い。

図 区役所の防災対策として力を入れて実施すべきこと〔居住地域別〕（複数回答）



世帯類型別では、「地域防災拠点における食料・水などの十分な備蓄」はすべての世帯類型で5割台後半から7割と高い。「災害時における医療体制の整備」は『ひとり暮らし（本人が65歳以上）』が32.8%と最も低く、『三世代』で5割と高い。「地域へ緊急情報を伝達する屋外スピーカーの設置」は3割前半から約4割で世帯類型による差は少ない。「避難場所（広域避難場所・地域防災拠点）や避難方法の周知」は『夫婦のみ（本人もしくは構成員が65歳以上）』で16.4%と低く、他の世帯類型では2割台から3割台となっている。「高齢者や障害者などを災害時に地域で支える仕組みづくり」は『親子（本人もしくは構成員に65歳以上含む）』、『夫婦のみ（本人もしくは構成員が65歳以上）』、『ひとり暮らし（本人が65歳以上）』で3割を超えて高い。

図 区役所の防災対策として力を入れて実施すべきこと〔世帯類型別〕（複数回答）



※世帯類型

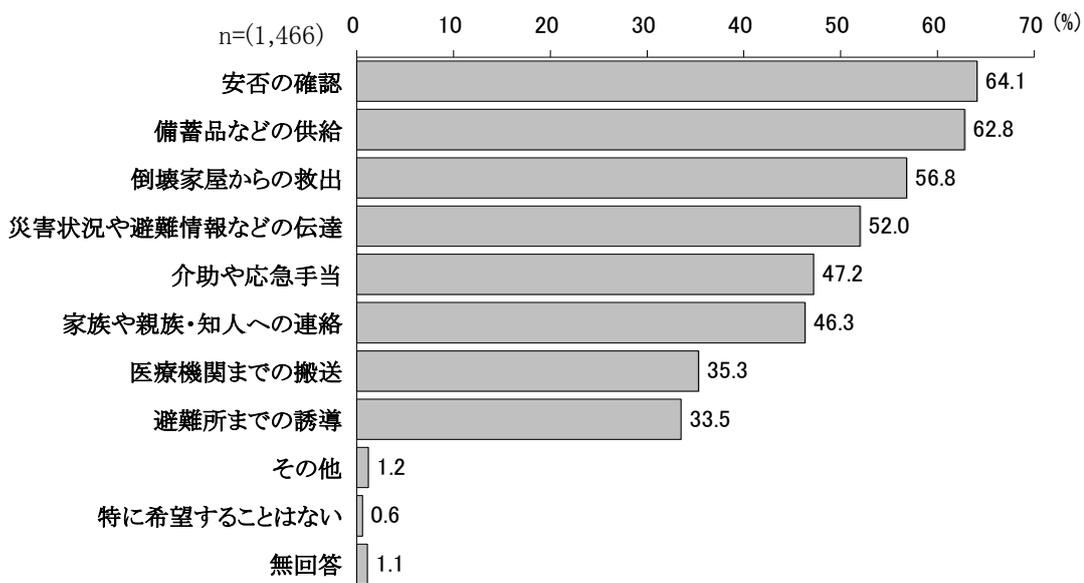
- ひとり暮らし (①) 本人が65歳未満
- ひとり暮らし (②) 本人が65歳以上
- 夫婦のみ (①) 本人及び構成員が65歳未満
- 夫婦のみ (②) 本人もしくは構成員が65歳以上
- 親子 (①) 構成員に未就学児含む
- 親子 (②) 構成員に学齢期含む (小～大)
- 親子 (③) 本人もしくは構成員に65歳以上含む
- 親子 (④) その他

(4) 災害発生時に希望する手助け

問4 災害が発生した際、あなた自身やあなたの家族が必要とする地域の（近所の人などの）手助けは何ですか。（〇はいくつでも）

災害発生時に希望する地域の手助けは、「安否の確認」が64.1%で最も高く、「備蓄品などの供給」62.8%、「倒壊家屋からの救出」56.8%、「災害状況や避難情報などの伝達」52.0%と続いている。

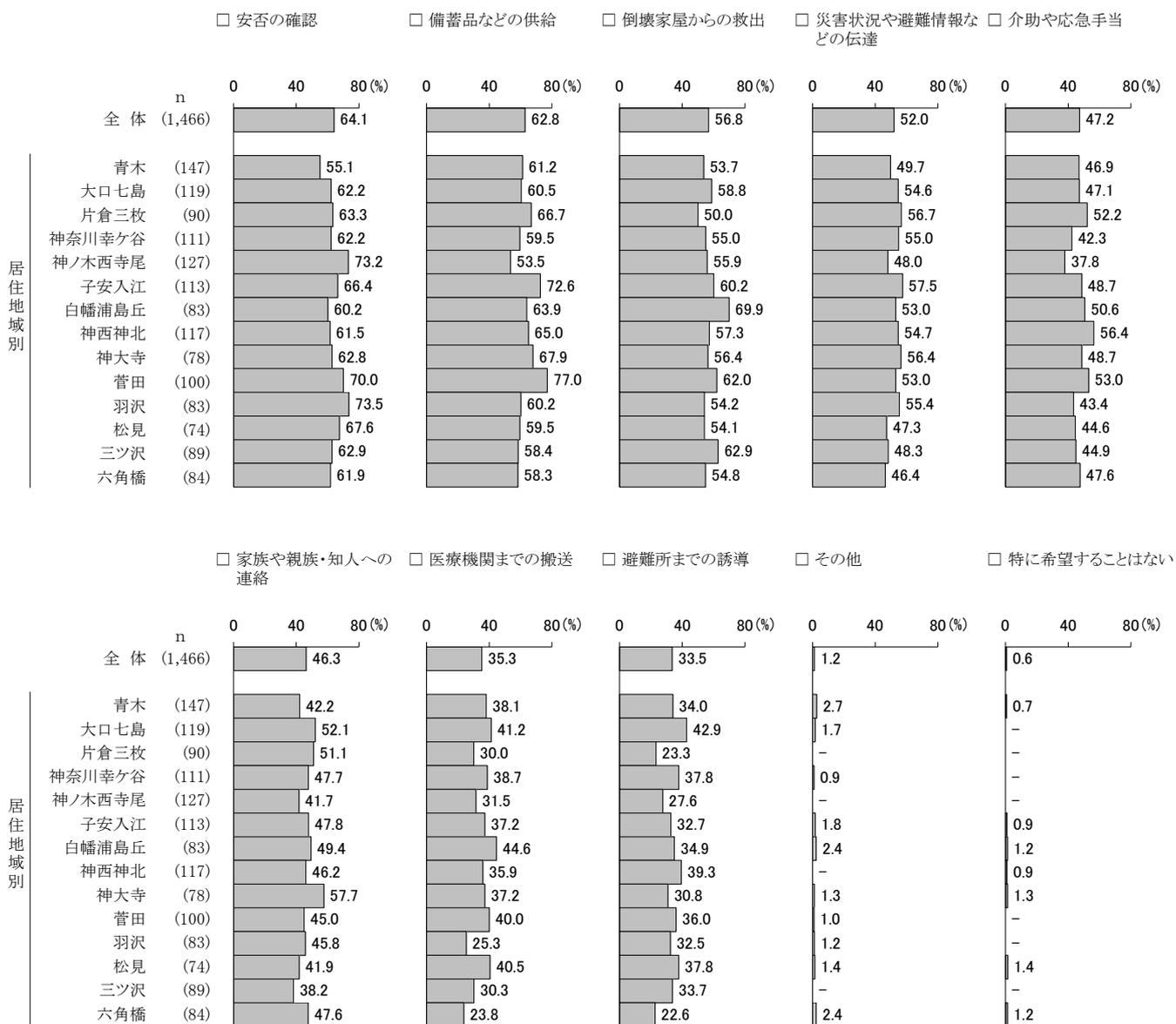
図 災害発生時に希望する手助け [全体] (複数回答)



第2章 調査結果の詳細

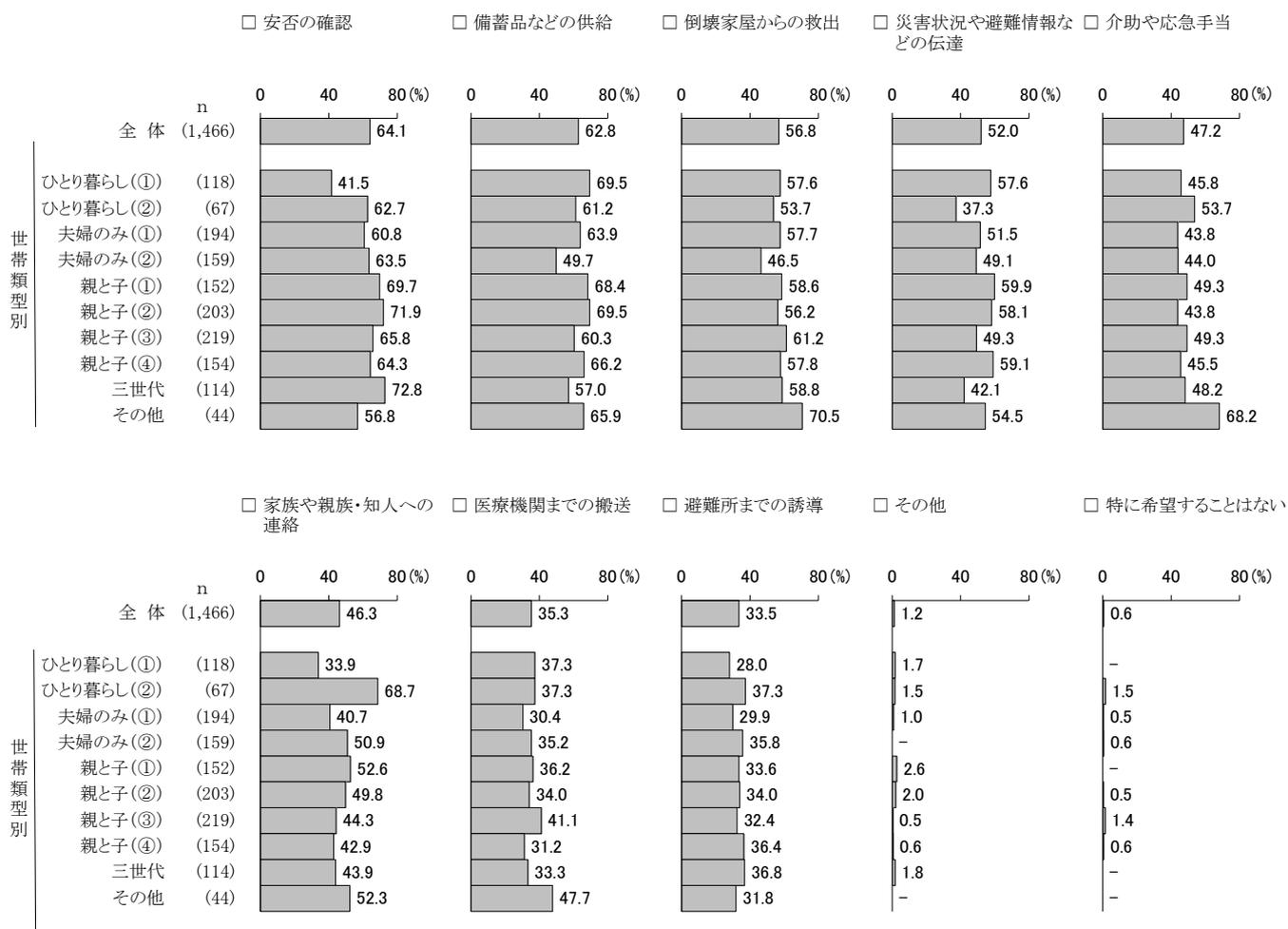
居住地域別では、「安否の確認」は『羽沢』、『神ノ木西寺尾』、『菅田』で7割台と高く、『青木』では55.1%と低くなっている。「備蓄品などの供給」は、『菅田』、『子安入江』で7割台と高い。「倒壊家屋からの救出」は『白幡浦島丘』で約7割と高くなっている。「災害状況や避難情報などの伝達」はすべての地域で4割台から5割台で地域による大きな差はない。

図 災害発生時に希望する手助け〔居住地域別〕（複数回答）



世帯類型別では、「安否の確認」は『三世代』、『親と子（構成員に学齢期含む（小～大））』が7割台前半と高い。「備蓄品などの供給」は、『夫婦のみ（本人もしくは構成員が65歳以上）』を除いて5割台後半から約7割と高く、『ひとり暮らし（本人が65歳未満）』、『親と子（構成員に学齢期含む（小～大））』がともに69.5%と最も高い。「倒壊家屋からの救出」は『夫婦のみ（本人もしくは構成員が65歳以上）』4割台後半、他の世帯類型では5割台前半から6割台となっている。「介助や応急手当」は、『ひとり暮らし（本人が65歳以上）』が53.7%と高く、他の世帯は4割台前半から5割台前半となっている。「家族や親族・知人への連絡」は『ひとり暮らし（本人が65歳以上）』が68.7%と高い。

図 災害発生時に希望する手助け【世帯類型別】（複数回答）



※世帯類型

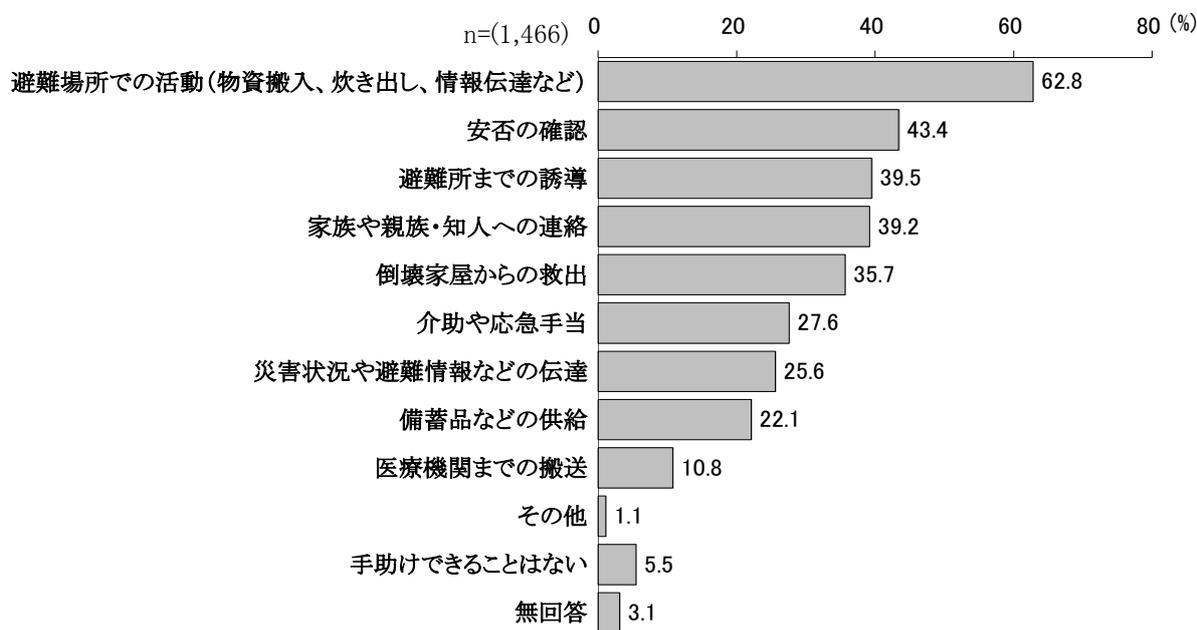
- ひとり暮らし (①) 本人が65歳未満
- ひとり暮らし (②) 本人が65歳以上
- 夫婦のみ (①) 本人及び構成員が65歳未満
- 夫婦のみ (②) 本人もしくは構成員が65歳以上
- 親と子 (①) 構成員に未就学児含む
- 親と子 (②) 構成員に学齢期含む（小～大）
- 親と子 (③) 本人もしくは構成員に65歳以上含む
- 親と子 (④) その他

(5) 災害発生時にできる手助け

問5 災害が発生した際、あなたが地域でできる手助けは何ですか。(〇はいくつでも)

災害発生時にできる手助けは、「避難場所での活動（物資搬入、炊き出し、情報伝達など）」が62.8%で最も高く、次いで「安否の確認」43.4%、「避難所までの誘導」39.5%、「家族や親族・知人への連絡」39.2%、「倒壊家屋からの救出」35.7%となっている。一方、「手助けできることはない」は5.5%となっている。

図 災害発生時にできる手助け [全体] (複数回答)

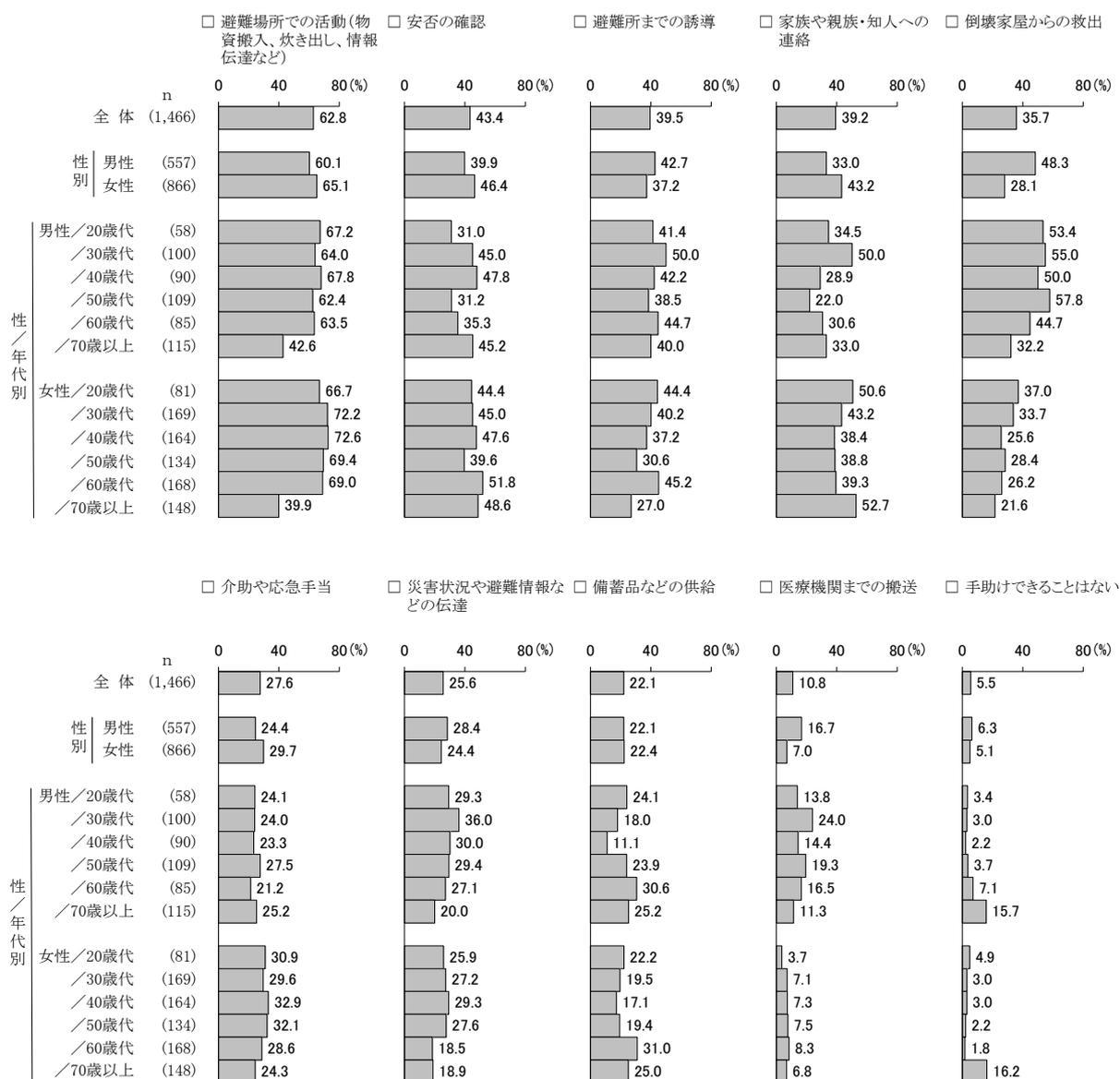


■ 災害発生時にできる手助け [性別・性/年代別・居住地域別・世帯類型別]

性別でみると、「避難場所での活動（物資搬入、炊き出し、情報伝達など）」は女性65.1%、男性60.1%で女性が5.0ポイント高く、「安否の確認」は女性46.4%、男性39.9%で女性が6.5ポイント高い。「避難所までの誘導」は男性42.7%、女性37.2%で男性が5.5ポイント高く、「家族や親族・知人への連絡」は女性43.2%、男性33.0%で女性が10.2ポイント高い。「倒壊家屋からの救出」は男性48.3%、女性28.1%で男性が20.2ポイント高い。

性/年代別では、「避難場所での活動（物資搬入、炊き出し、情報伝達など）」は男女とも70歳以上を除くすべての年代で6割台、女性の30歳代、40歳代では7割台と高くなっている。「安否の確認」は『女性/60歳代』が51.8%で高いが、男性の20歳代、50歳代、60歳代、女性の50歳代で3割台と低い。「避難所までの誘導」は『男性/30歳代』が5割、『女性/60歳代』で4割台半ばと高い。「家族や親族・知人への連絡」、「安否の確認」は『女性/70歳以上』で高い割合となっているが、他の項目では70歳以上の割合は低い傾向にある。

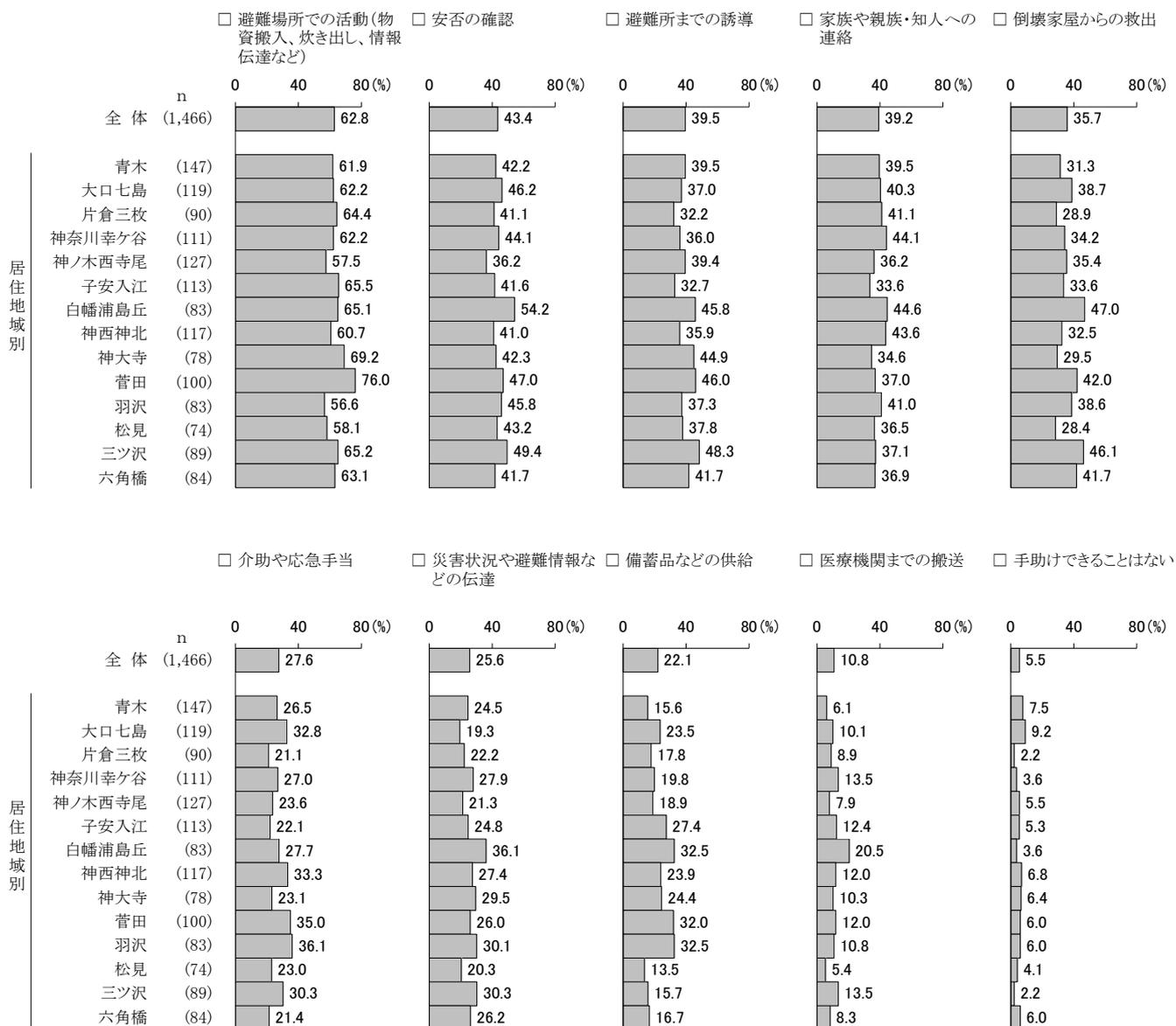
図 災害発生時にできる手助け [性別・性/年代別] (複数回答)



第2章 調査結果の詳細

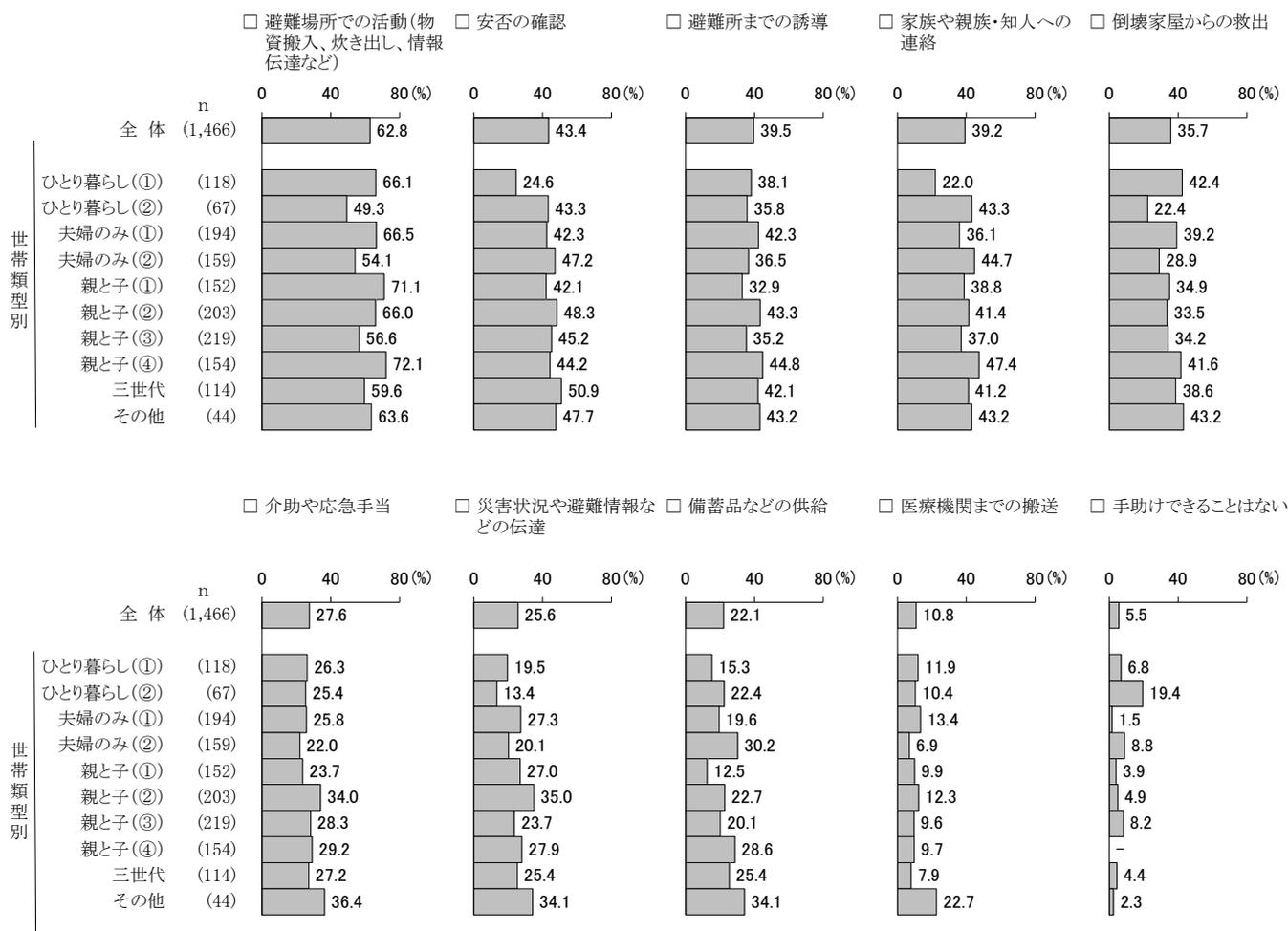
居住地域別では、「避難場所での活動（物資搬入、炊き出し、情報伝達など）」は『菅田』で76.0%と最も高い。「安否の確認」は『白幡浦島丘』が54.2%と高く、『神ノ木西寺尾』が3割台後半と低い。『三ツ沢』が48.3%と高く、『神ノ木西寺尾』が3割台後半と低い。『三ツ沢』が48.3%で最も高い。

図 災害発生時にできる手助け [居住地域別] (複数回答)



世帯類型別では、「避難場所での活動（物資搬入、炊き出し、情報伝達など）」は『親子（その他）』、『親子（構成員に未就学児含む）』で7割を超えて高いが、『ひとり暮らし（本人が65歳以上）』では約5割となっている。「安否の確認」は『ひとり暮らし（本人が65歳未満）』を除いて4割以上、『三世代』では約5割と高い。「避難所までの誘導」は世帯類型による差はあまりみられず、3割台前半から4割台前半となっている。「倒壊家屋からの救出」は『ひとり暮らし（本人が65歳未満）』が42.4%と高い。

図 災害発生時にできる手助け〔世帯類型別〕（複数回答）



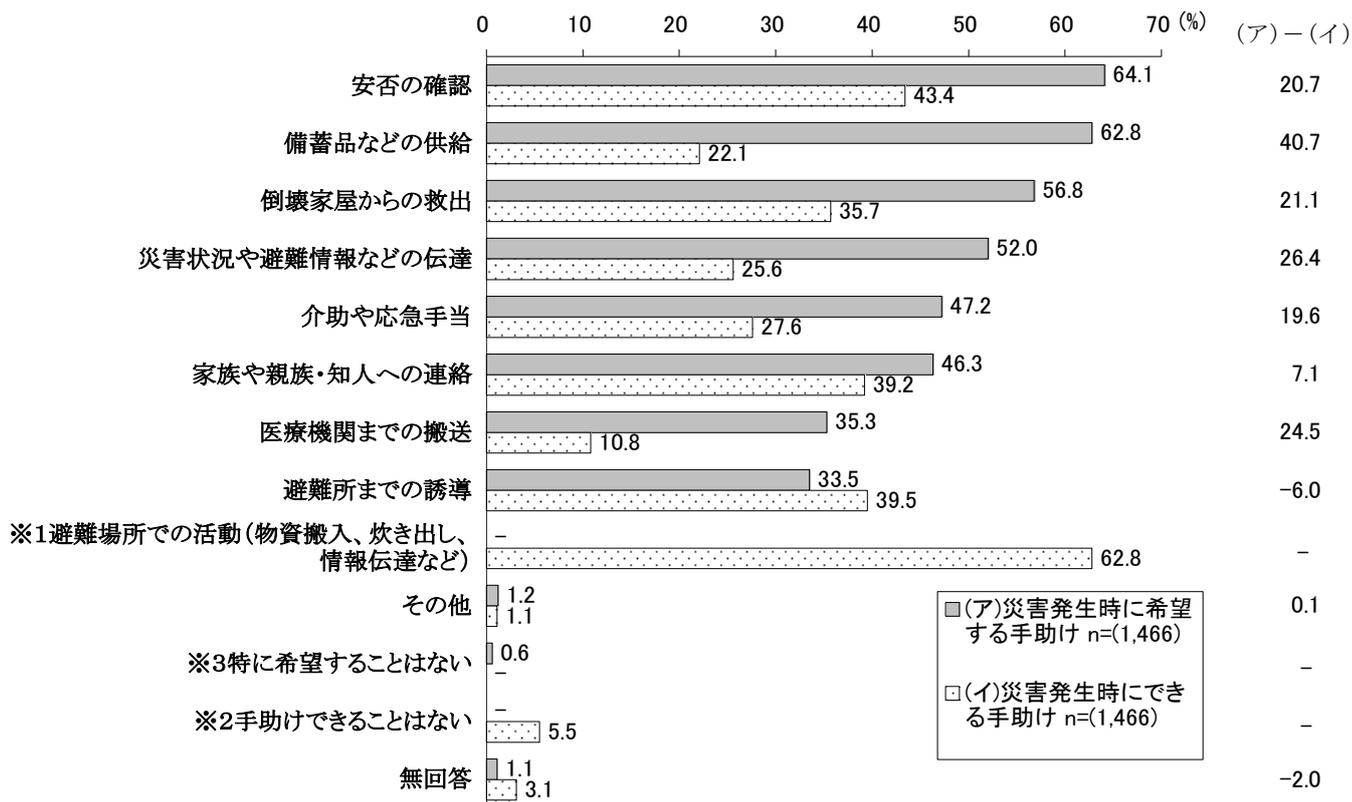
※世帯類型

- ひとり暮らし (①) 本人が65歳未満
- ひとり暮らし (②) 本人が65歳以上
- 夫婦のみ (①) 本人及び構成員が65歳未満
- 夫婦のみ (②) 本人もしくは構成員が65歳以上
- 親子 (①) 構成員に未就学児含む
- 親子 (②) 構成員に学齢期含む (小～大)
- 親子 (③) 本人もしくは構成員に65歳以上含む
- 親子 (④) その他

■ 災害発生時に希望する手助け・できる手助け

災害発生時に希望する手助けで最も割合の高い「安否の確認」(64.1%)は、災害発生時にできる手助けでは43.4%で20.7ポイントの差がある。次いで割合の高い「備蓄品などの供給」(62.8%)は、できる手助けは22.1%で40.7ポイントの大きな差となっている。一方、災害発生時にできる手助けの方の割合が高いのは、「避難所までの誘導」39.5%で必要とする手助けより6ポイント高くなっている。

図 災害発生時に希望する手助け・できる手助け [全体] (複数回答)

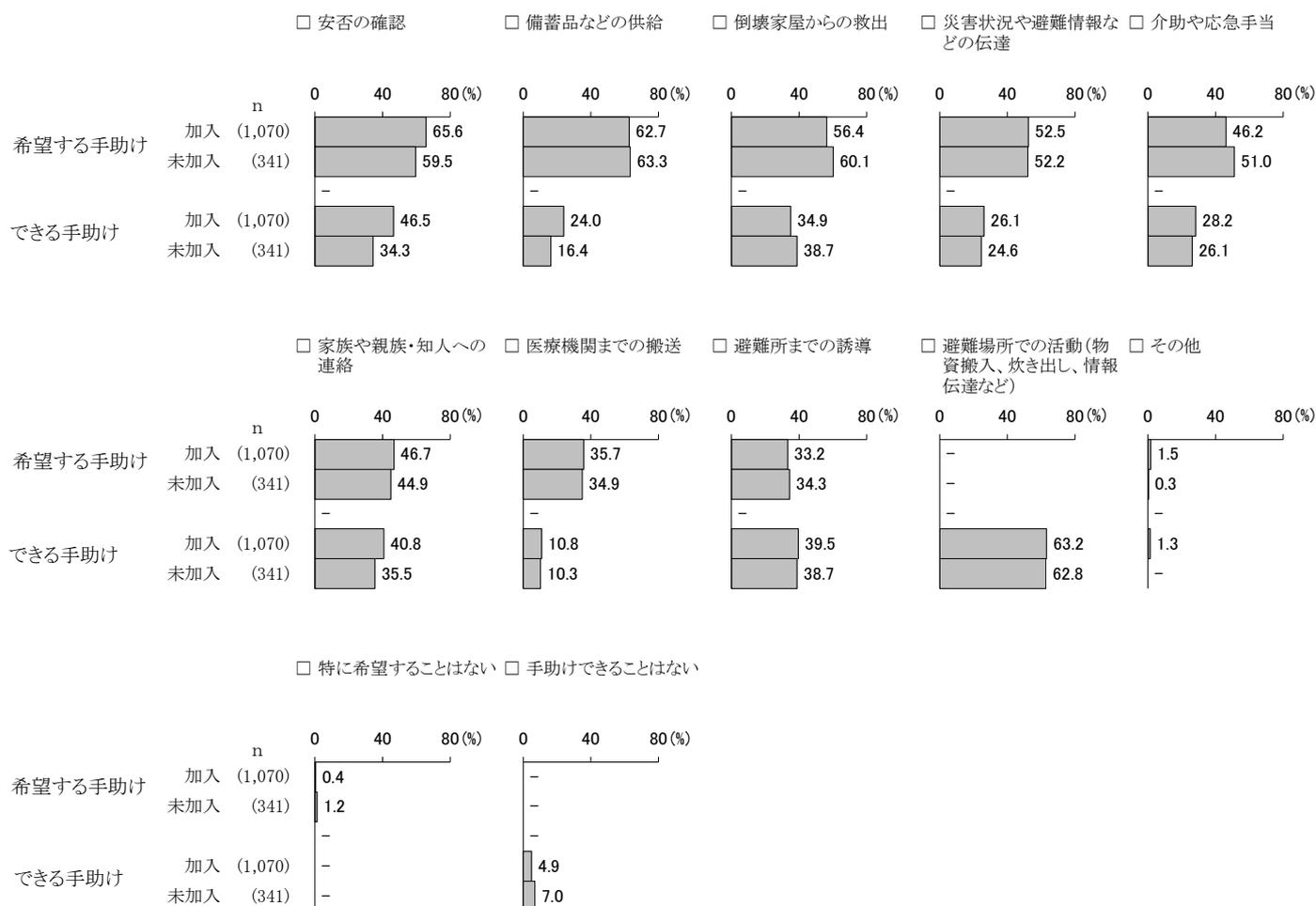


※1、※2・・・問5のみの選択肢、※3・・・問4のみの選択肢

自治会町内会への加入の有無別でみると、加入の有無に関わらず災害発生時に希望する手助けの各項目にほとんど差はないが、「安否の確認」は『加入している』が6.1ポイント高い。「介助や応急手当」は『加入していない』が4.8ポイント高い。

災害発生時にできる手助けは、「倒壊家屋からの救出」で『加入していない』が3.8ポイント高いが、その他の項目では『加入している』が高く、特に「安否の確認」では12.2ポイント高くなっている。

図 災害発生時に希望する手助け・できる手助け [自治会町内会への加入の有無別] (複数回答)



※加入・・・自治会町内会に『加入している』
未加入・・・自治会町内会に『加入していない』

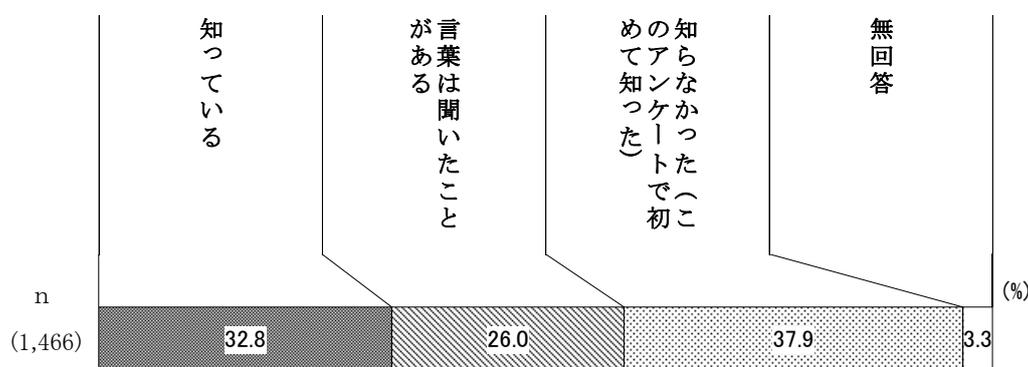
3. 「ヨコハマ3R^{スリム}夢プラン」について

(1) 「ヨコハマ3R^{スリム}夢プラン」の認知度

問6 あなたは、横浜市が実施している、ごみを発生させないための取組「ヨコハマ3R^{スリム}夢プラン」を知っていますか。(〇は1つ)

「ヨコハマ3R^{スリム}夢プラン」については、「知っている」は32.8%、「言葉は聞いたことがある」26.0%となっている。一方、「知らなかった（このアンケートで初めて知った）」が37.9%、3割台後半となっている。

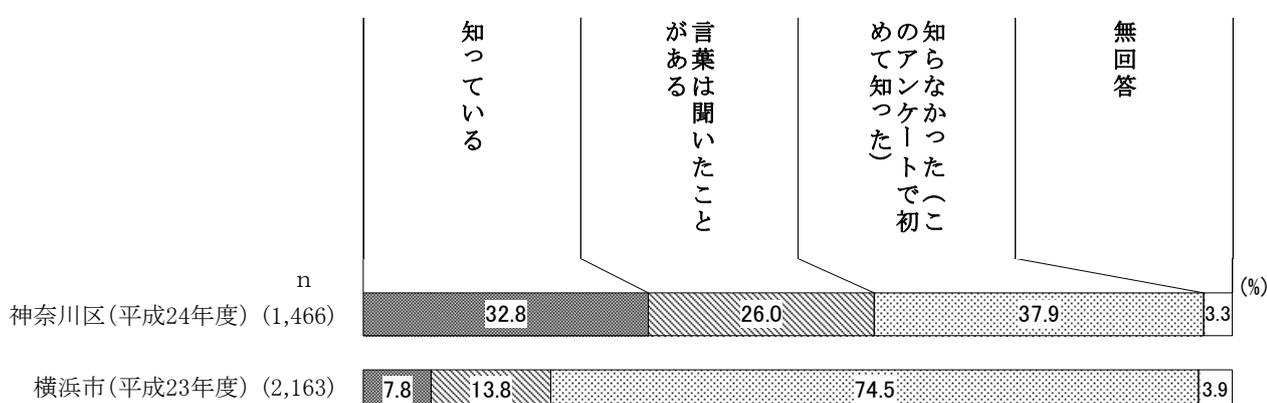
図 「ヨコハマ3R^{スリム}夢プラン」の認知度 [全体]



■ 横浜市調査との比較

「知っている」は横浜市調査（平成23年度）7.8%に対し、神奈川区調査は25.0ポイント、「言葉は聞いたことがある」は横浜市調査（平成23年度）13.8%に対して12.2ポイントそれぞれ高い。一方、「知らなかった（このアンケートで初めて知った）」は横浜市調査74.5%に対して36.6ポイント低い。

図 「ヨコハマ3R^{スリム}夢プラン」の認知度（横浜市調査との比較）

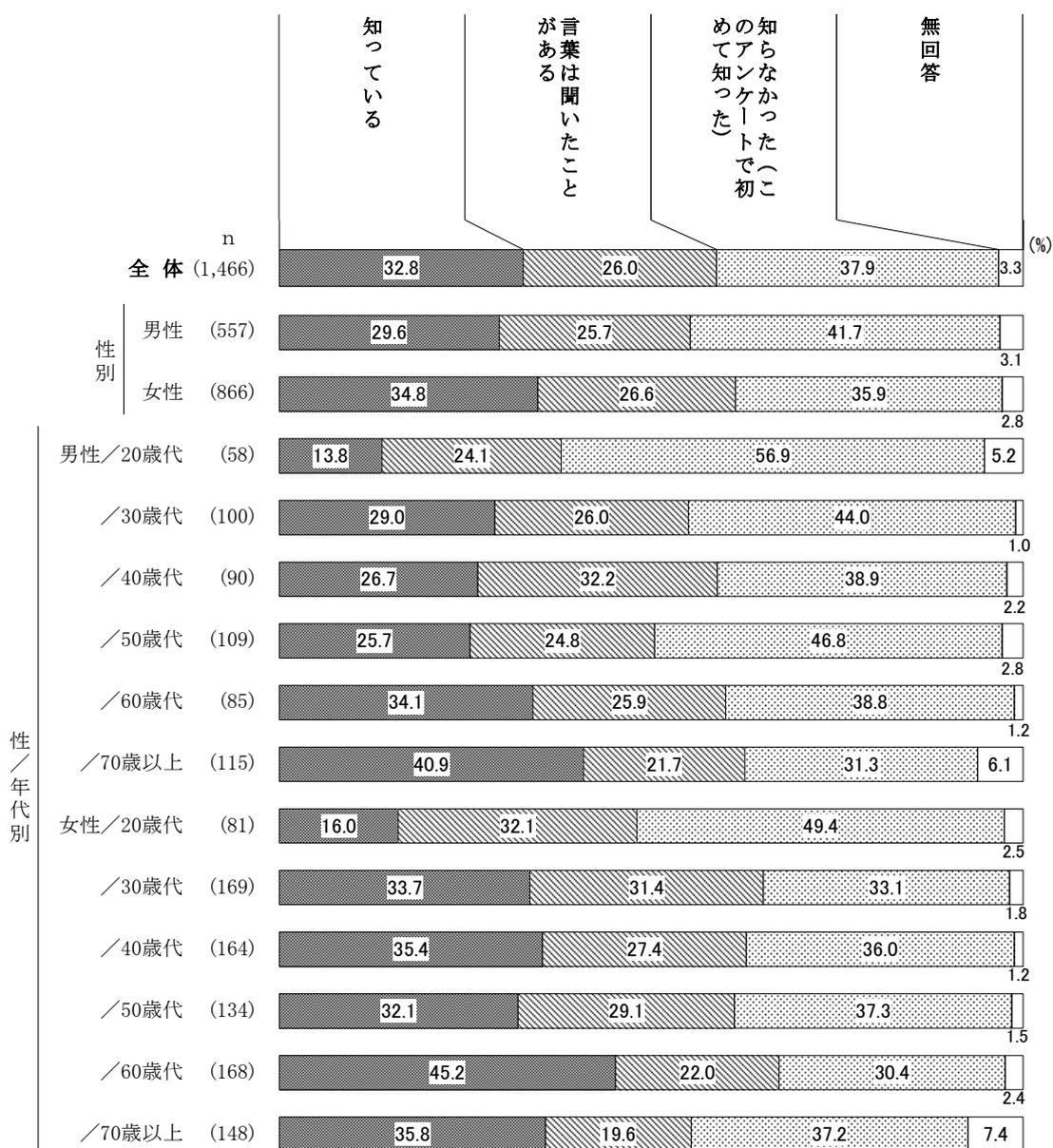


スリム
 ■ 「ヨコハマ3R夢プラン」の認知度 [性別・性/年代別・居住地域別・自治会町内会加入の有無別]

性別でみると、「知っている」「言葉は聞いたことがある」は男性より女性の割合が高く、「ヨコハマ3R夢プラン」の認知度は女性が高い。

性/年代別でみると、「知っている」は『女性/60歳代』が45.2%と最も高く、次いで、『男性/70歳以上』40.9%となっている。『女性/70歳以上』を除くすべての年代で女性の割合が男性より高い。一方、「知らなかった（このアンケートで初めて知った）」は、『男性/20歳代』56.9%で最も高く、次いで『女性/20歳代』49.4%となっており、男女とも20歳代の認知度が低くなっている。

スリム
 図 「ヨコハマ3R夢プラン」の認知度 [性別・性/年代別]

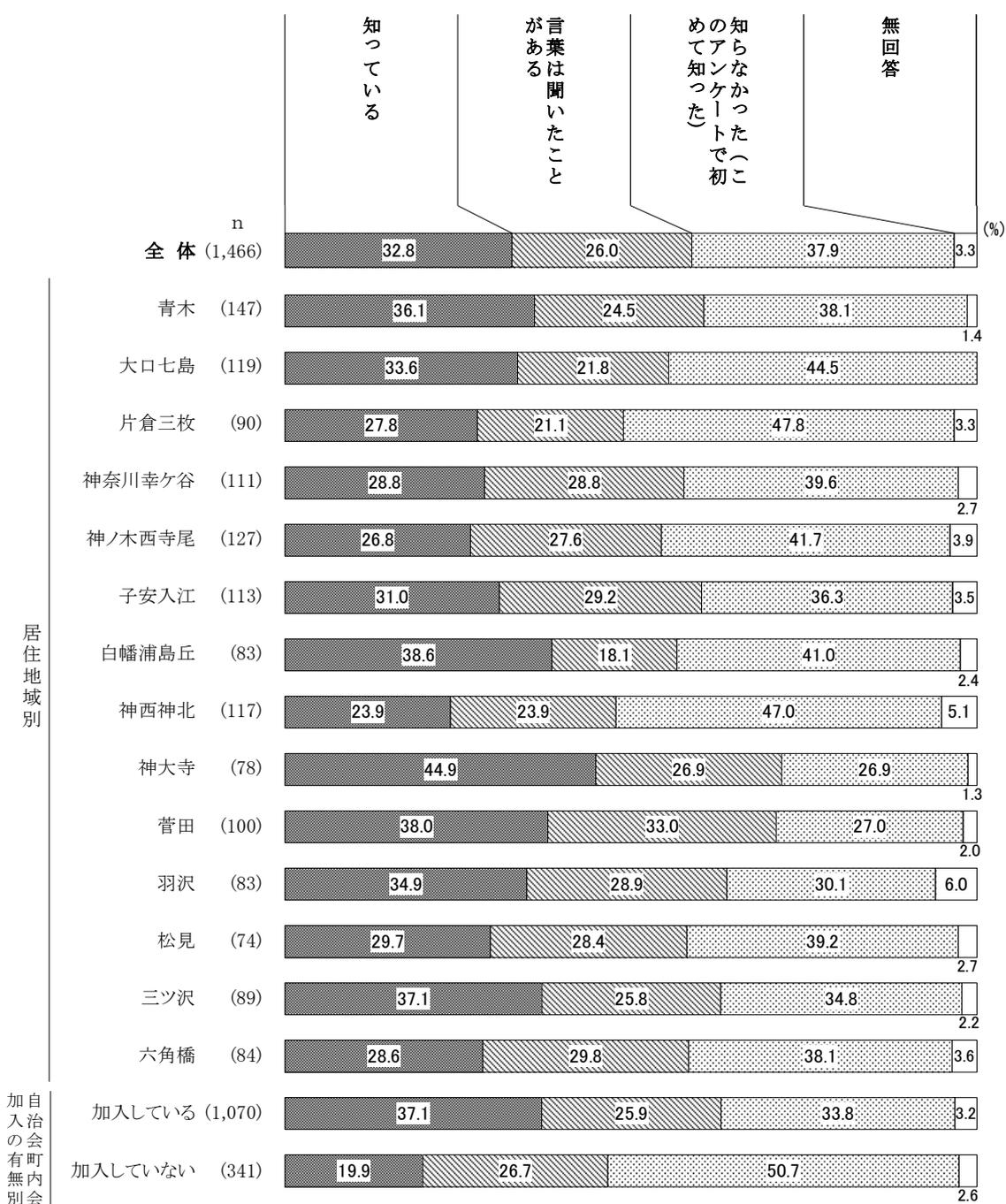


第2章 調査結果の詳細

居住地域別でみると、「知っている」は『神大寺』が44.9%と最も高く、次いで『白幡浦島丘』38.6%となっている。「知らなかった（このアンケートで初めて知った）」は、『片倉三枚』47.8%が最も高く、次いで『神西神北』47.0%となっている。

自治会町内会への加入の有無別では、「知っている」は『加入している』が37.1%、『加入していない』が19.9%で『加入している』が17.2ポイント高い。「知らなかった（このアンケートで初めて知った）」は『加入していない』が16.9ポイント高い。

図 「ヨコハマスリム3R夢プラン」の認知度〔居住地域別・自治会町内会への加入の有無別〕



スリム
 (2) 「ヨコハマ3R夢プラン」の取組について

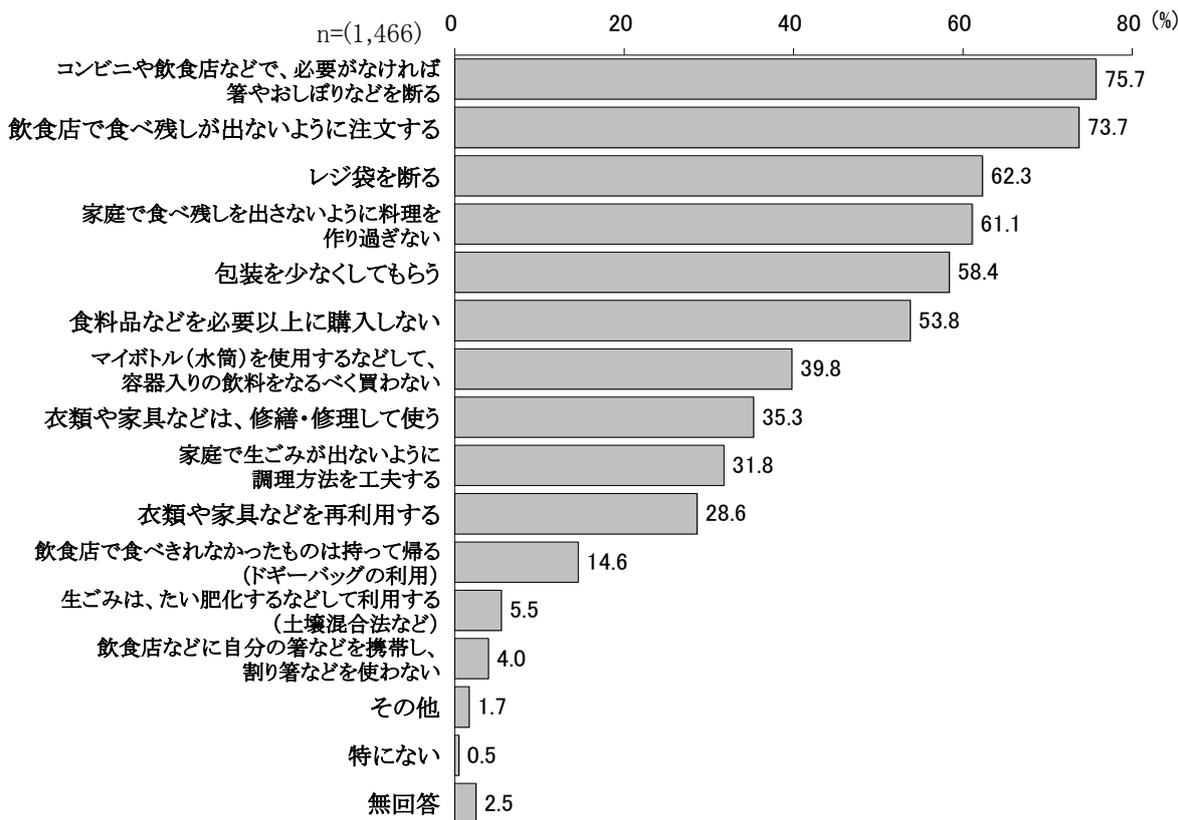
問7 「ヨコハマ^{スリム}3R夢プラン」では、3R（リデュース（発生抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（再生利用）の頭文字）を推進しています。その中の取組（不要なものは断わる、必要な分だけ購入する、ごみになるものを増やさないなど）についておたずねします。（ア）と（イ）について該当する欄の番号に○をつけてください。（○はそれぞれいくつでも）

- (ア) 現在、実行していることは何ですか。
- (イ) 今後、実行しようと思うことは何ですか。

(ア) 現在、実行していること

「コンビニや飲食店などで、必要がなければ箸やおしぼりなどを断る」75.7%、「飲食店で食べ残しが出ないように注文する」73.7%でそれぞれ7割を超えて高く、「レジ袋を断る」62.3%、「家庭で食べ残しを出さないように料理を作り過ぎない」61.1%と続いている。

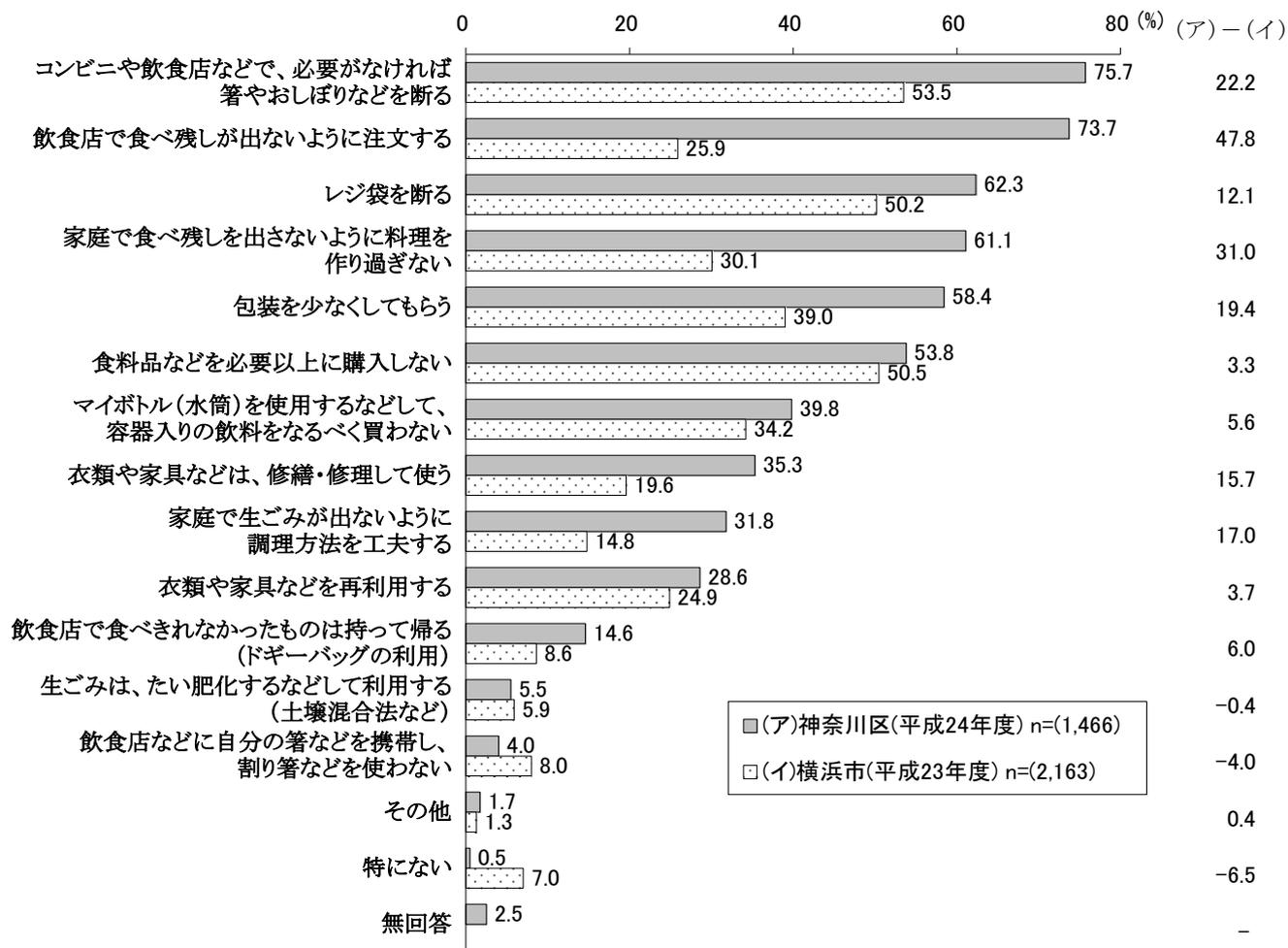
スリム
 図 「ヨコハマ3R夢プラン」で実行していること [全体] (複数回答)



■ 横浜市調査との比較（現在、実行していること）

現在、実行していることを横浜市調査（平成23年度）と比較すると、「生ごみは、たい肥化するなどして利用する（土壌混合法など）」、「飲食店などに自分の箸などを携帯し、割り箸などを使わない」、「特にない」を除く項目すべてで神奈川区の割合が高い項目が多い。「飲食店で食べ残しが出ないように注文する」47.8ポイント、「家庭で食べ残しを出さないように料理を作り過ぎない」31.0ポイント、「コンビニや飲食店などで、必要がなければ箸やおしぼりなどを断る」は22.2ポイント、「包装を少なくしてもらう」19.4ポイントそれぞれ神奈川区の割合が高くなっている。

図 「ヨコハマスリムプラン」で実行していること（横浜市調査との比較）（複数回答）

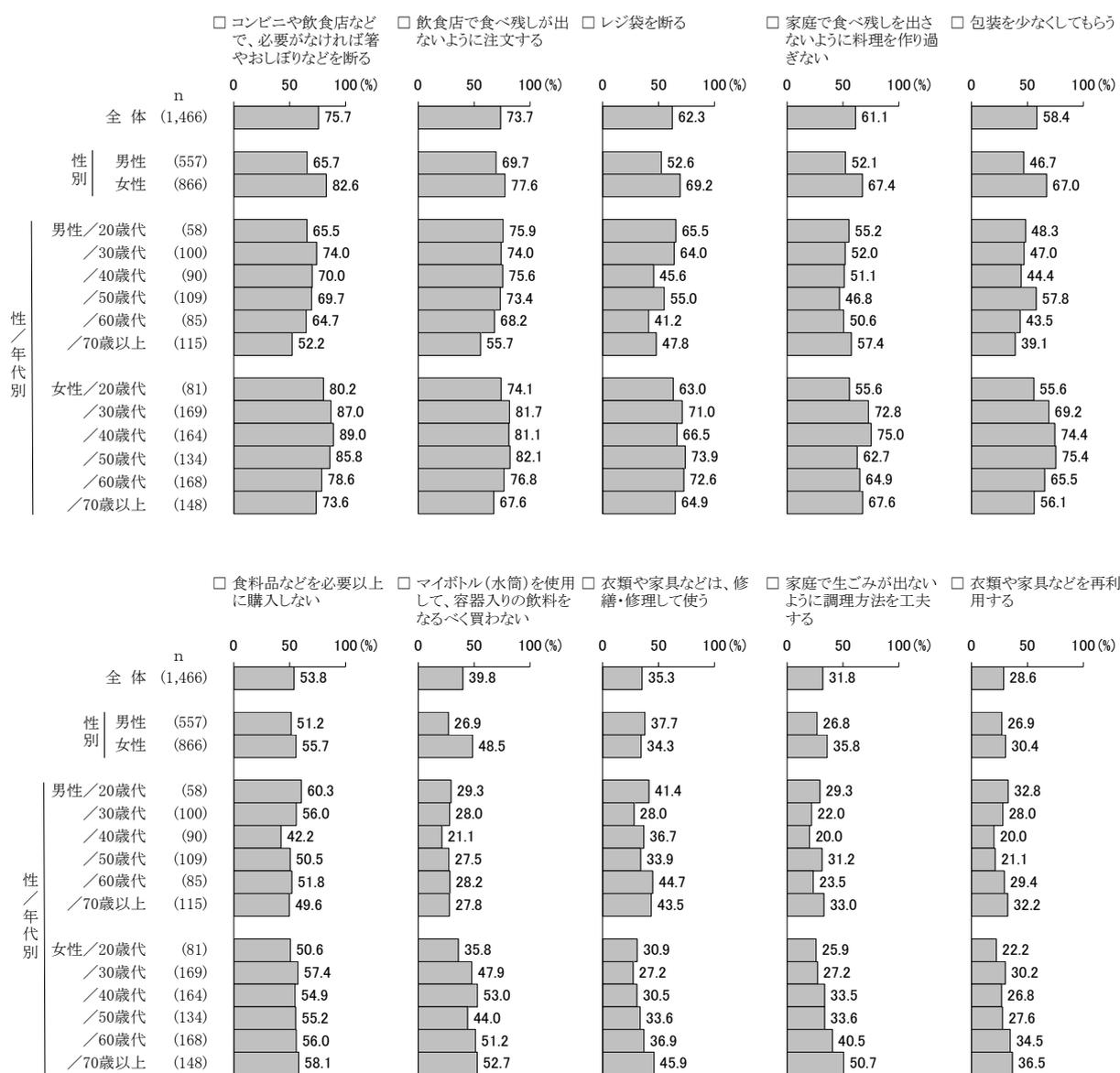


■ 「ヨコハマ3^{スリム}R夢プラン」で実行していること [性別・性/年代別]

性別でみると、「衣類や家具などは、修繕・修理して使う」以外のすべての項目で女性の割合が高くなっている。「コンビニや飲食店などで、必要がなければ箸やおしぼりを断る」は16.9ポイント、「飲食店で食べ残しが出ないように注文する」は7.9ポイント、「レジ袋を断る」は16.6ポイントそれぞれ女性の割合が高い。

性/年代別でみると、「コンビニや飲食店などで、必要がなければ箸やおしぼりを断る」はすべての年代で女性が高い。『女性/40歳代』が89.0%で最も高く、『男性/70歳以上』52.2%が最も低くなっている。「飲食店で食べ残しが出ないように注文する」は、20歳代を除いたすべての年代で女性の割合が高く、30歳代から50歳代で8割を超えている。「レジ袋を断る」は、女性の30歳代、50歳代、60歳代で7割を超えて高く、『男性/60歳代』が41.2%で最も低い。

図 「ヨコハマ3^{スリム}R夢プラン」で実行していること [性別・性/年代別 (上位10項目)] (複数回答)



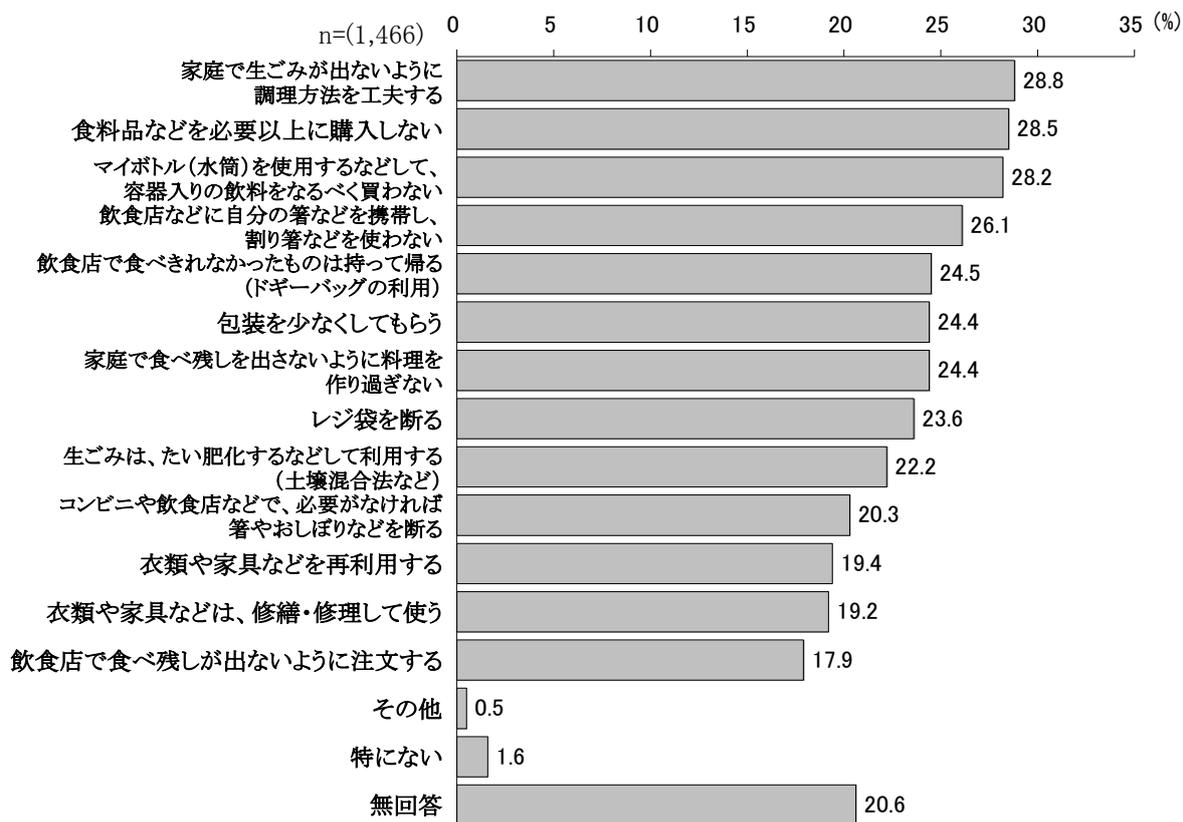
※ 「□マイボトル(水筒)を使用して、容器入りの飲料をなるべく買わない」は「□マイボトル(水筒)を使用するなとして、容器入りの飲料をなるべく買わない」を略している。

第2章 調査結果の詳細

(イ) 今後、実行しようと思うこと

「家庭で生ごみが出ないように調理方法を工夫する」28.8%、「食料品などを必要以上に購入しない」28.5%、「マイボトル（水筒）を使用するなどして、容器入りの飲料をなるべく買わない」28.2%となっている。

図 「ヨコハマ3^{スリム}R夢プラン」で今後、実行しようと思うこと [全体] (複数回答)

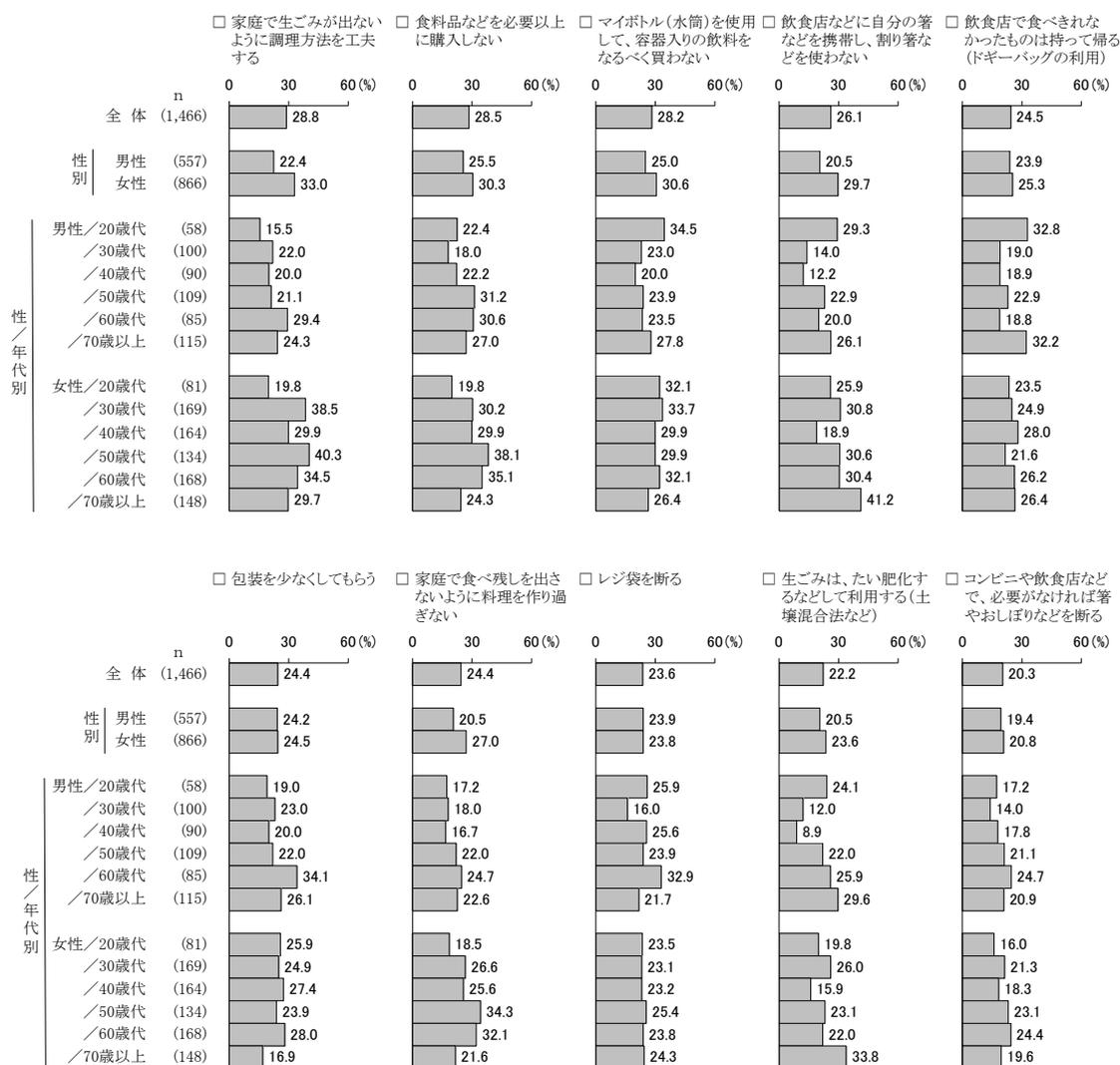


■ 「ヨコハマ3R夢プラン」で今後、実行しようと思うこと [性別・性/年代別]

性別でみると、「レジ袋を断る」を除いたすべての項目で女性の割合が高くなっている。「家庭で生ごみが出ないように調理方法を工夫する」は10.6ポイント、「食料品などを必要以上に購入しない」は4.8ポイント、「マイボトル（水筒）を使用するなどして、容器入りの飲料をなるべく買わない」は5.6ポイントそれぞれ女性の割合が高い。

性/年代別でみると、「家庭で生ごみが出ないように調理方法を工夫する」はすべての年代で女性の割合が高く、『女性/50歳代』が40.3%で最も高く、次いで女性の30歳代、60歳代が3割台となっている。男性では『男性/60歳代』が29.4%で最も高い。「食料品などを必要以上に購入しない」は『女性/50歳代』が38.1%で最も高く、男性では50歳代、60歳代で3割台となっている。「マイボトル（水筒）を使用するなどして、容器入りの飲料をなるべく買わない」は『男性/20歳代』が34.5%で最も高い。

図 「ヨコハマ3R夢プラン」で今後、実行しようと思うこと [性別・性/年代別（上位10項目）]（複数回答）

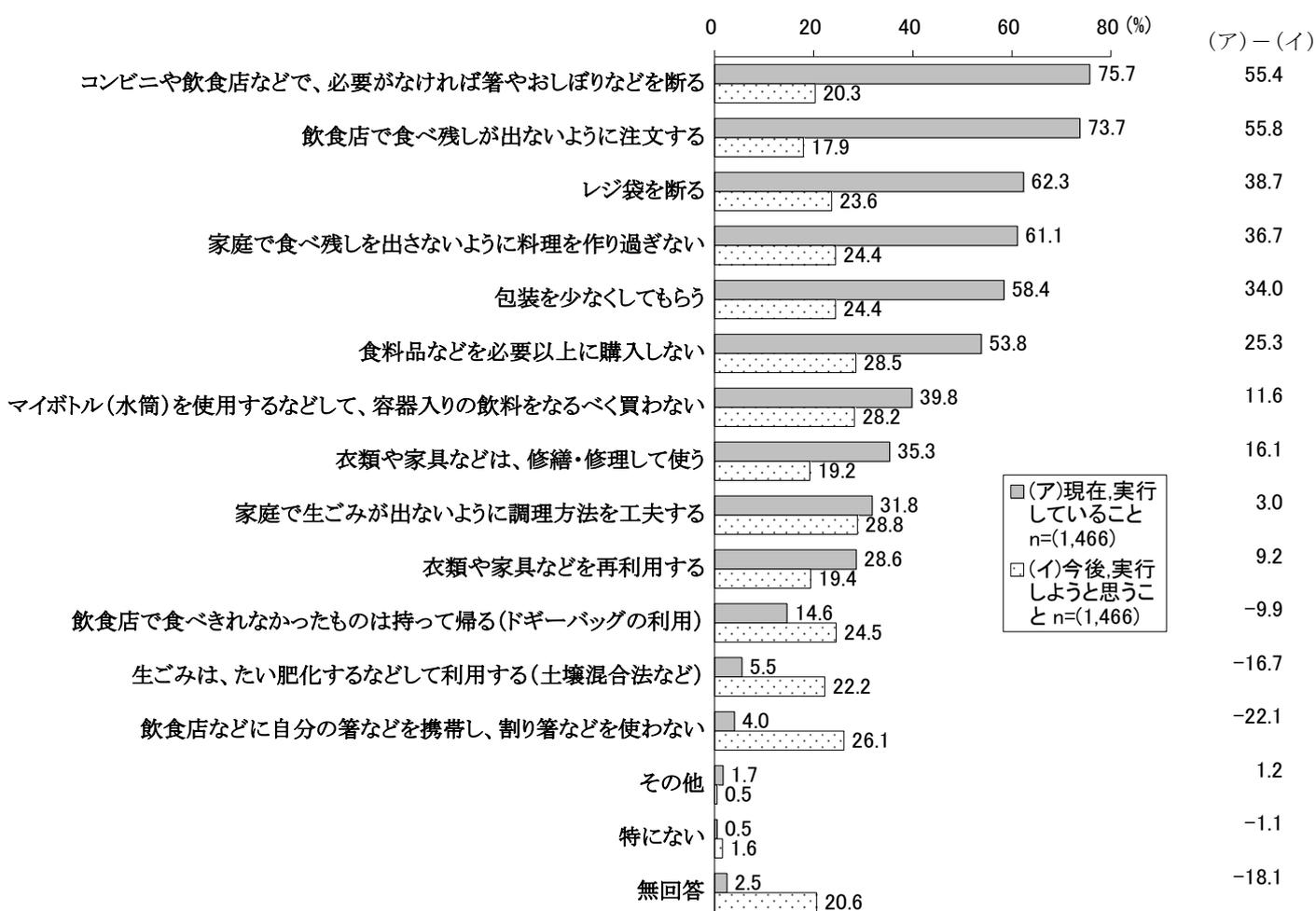


※ 「□マイボトル（水筒）を使用して、容器入りの飲料をなるべく買わない」は「□マイボトル（水筒）を使用するなどして、容器入りの飲料をなるべく買わない」を略している。

■ 「ヨコハマ3^{スリム}R夢プラン」で実行していること・今後、実行しようと思うこと

現在実行していることと今後、実行しようと思うことを比較すると、現在実行していることの割合が高い項目が多い。実行している割合より、今後、実行しようと思うことの割合が高い項目は、「飲食店などに自分の箸などを携帯し、割り箸などを使わない」26.1%、現在実行していること（4.0%）より22.1ポイント、「生ごみは、たい肥化するなどして利用する（土壌混合法など）」22.2%、現在実行していること（5.5%）より16.7ポイント、「飲食店で食べきれなかったものは持って帰る（ドギーバッグの利用）」は9.9ポイント今後、実行しようと思うことの割合が高い。

図 「ヨコハマ3^{スリム}R夢プラン」で実行していること・今後、実行しようと思うこと（複数回答）



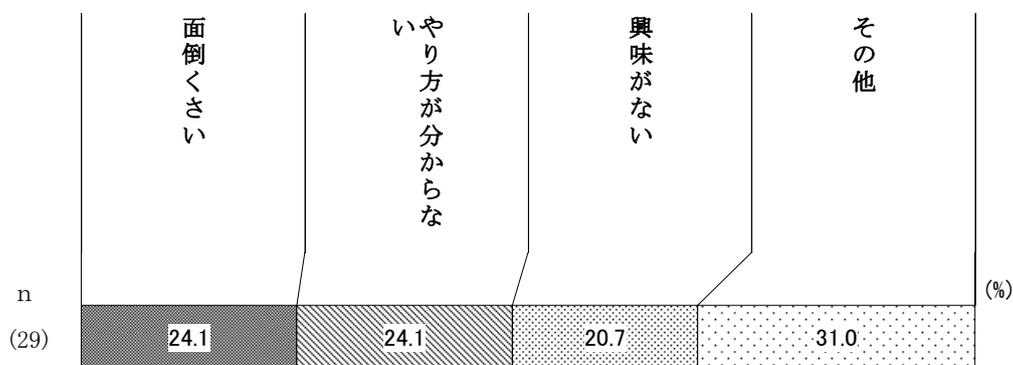
(3) 取組をしていない理由

問8 問7で(ア)または(イ)に「15 特にない」と答えた方におたずねします。その理由は何ですか。(〇は1つ)

3R(リデュース(発生抑制)・リユース(再使用)・リサイクル(再生利用)の頭文字)の取り組みをしていない理由は、「面倒くさい」、「やり方が分からない」がともに24.1%、「興味がない」20.7%となっている。

その他の回答は、「元々無駄なことをしていない。」、「現在、十分行っていると感じている。」、「今やっているもので限界だから。」などの意見があった。

図 取組をしていない理由 [全体]



4. 地域のコミュニティについて

(1) 地域の活動について

問9 地域の活動についておたずねします。(ア)～(ウ)について該当する欄の番号に○をつけてください。

(ア) 参加している(したことがある)活動は何ですか。(○はいくつでも)

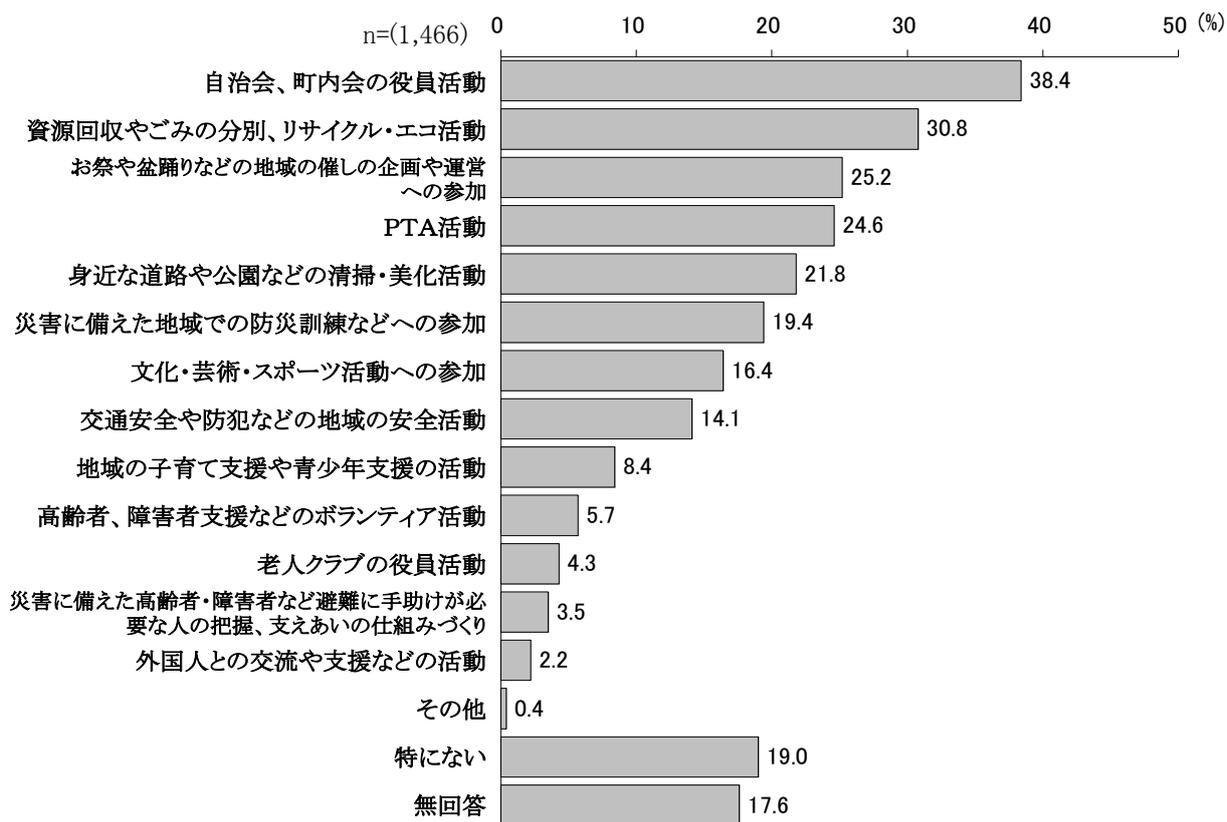
(イ) 今後参加してみたい活動は何ですか。(○はいくつでも)

(ウ) 特に重要だと思う活動は何ですか。(○は3つまで)

(ア) 参加している(したことがある)活動

「自治会、町内会の役員活動」が38.4%で最も高く、「資源回収やごみの分別、リサイクル・エコ活動」30.8%、「お祭や盆踊りなどの地域の催しの企画や運営への参加」25.2%、「PTA活動」24.6%と続いている。一方、「特にない」は19.0%となっている。

図 参加している(したことがある)活動 [全体] (複数回答)

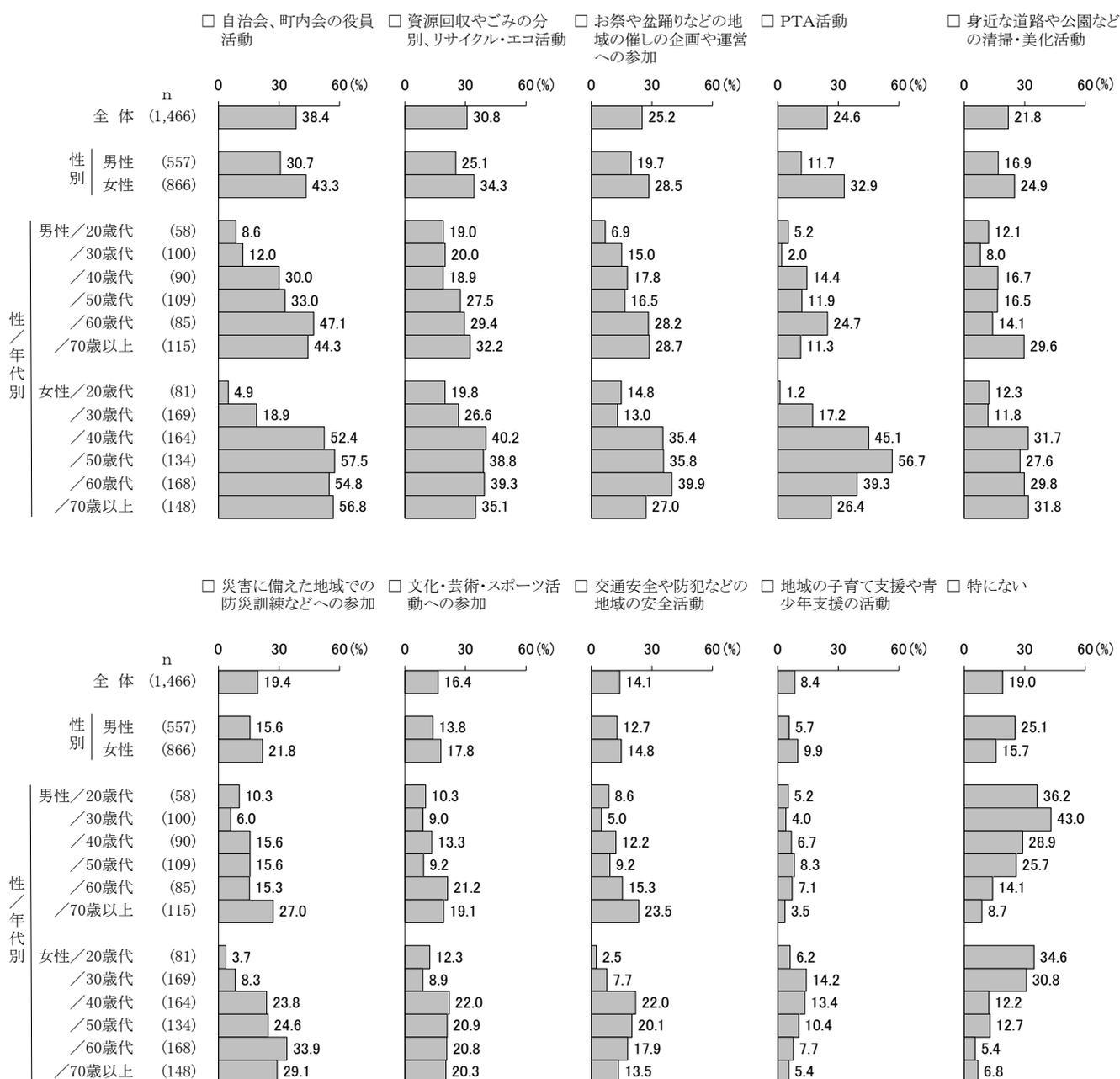


■ 参加している（したことがある）活動〔性別・性／年代別・居住地域別・世帯類型別〕

性別でみると、すべての項目で女性の割合が高く、「自治会、町内会の役員活動」は12.6ポイント、「資源回収やごみの分別、リサイクル・エコ活動」は9.2ポイント、「お祭りや盆踊りなどの地域の催しの企画や運営への参加」は8.8ポイントそれぞれ女性が高く、中でも「PTA活動」は女性32.9%、男性11.7%で女性が21.2ポイント高い。

性／年代別でみると、「自治会、町内会の役員活動」は女性では40歳代以上で5割を超えて高く、男性では60歳代、70歳以上で4割台と高くなっている。「資源回収やごみの分別、リサイクル・エコ活動」は女性の40歳代で4割台と高く、男性では70歳以上で3割台と高くなっている。「お祭りや盆踊りなどの地域の催しの企画や運営への参加」は女性の30歳代から60歳代で3割台と高い。「PTA活動」は20歳代を除き男女の割合の差が大きく、『女性／50歳代』56.7%に対し、『男性／50歳代』11.9%で女性が44.8ポイント高い。また、『男性／30歳代』は2.0%と低い

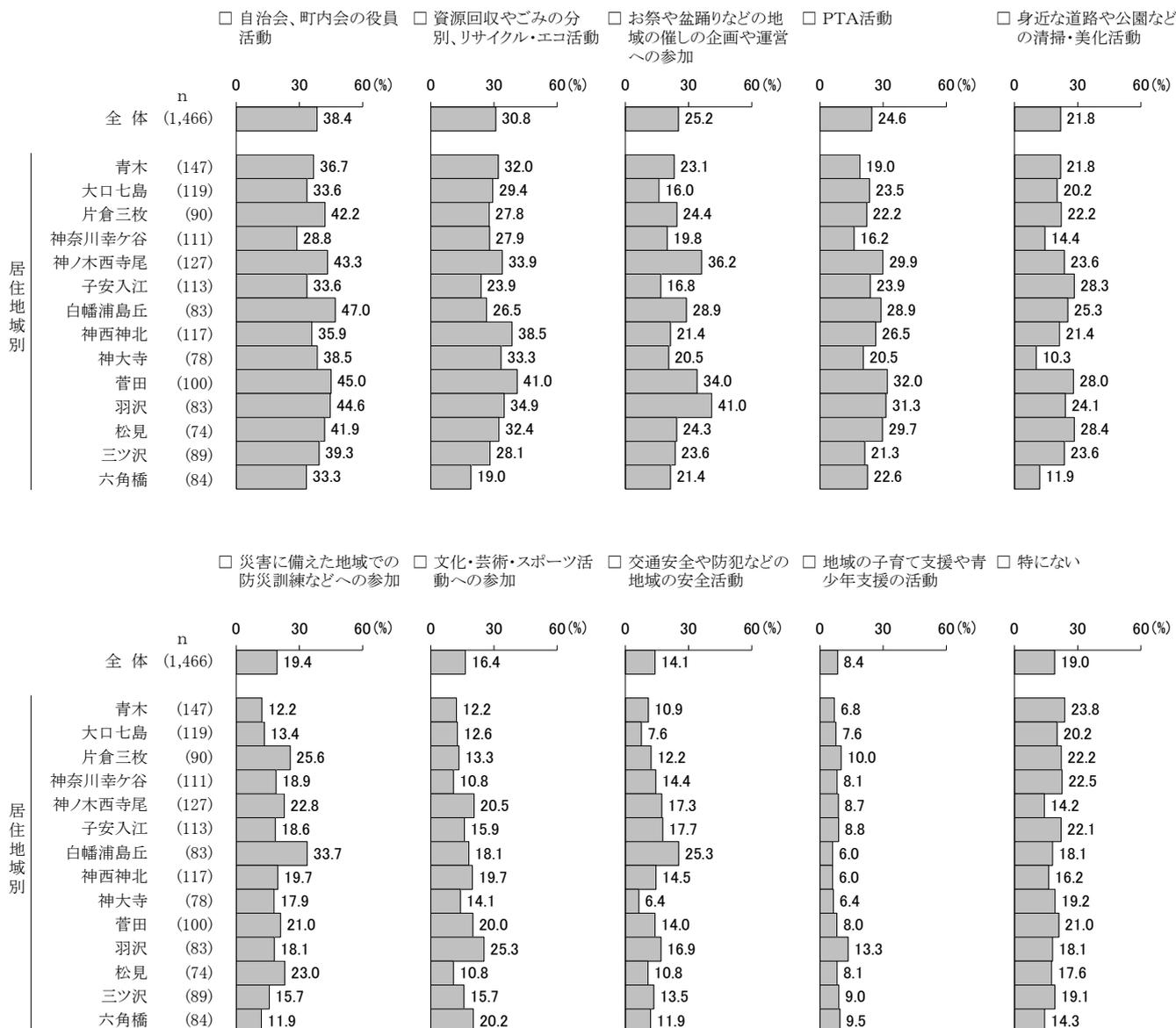
図 参加している（したことがある）活動〔性別・性／年代別（上位10項目）〕（複数回答）



第2章 調査結果の詳細

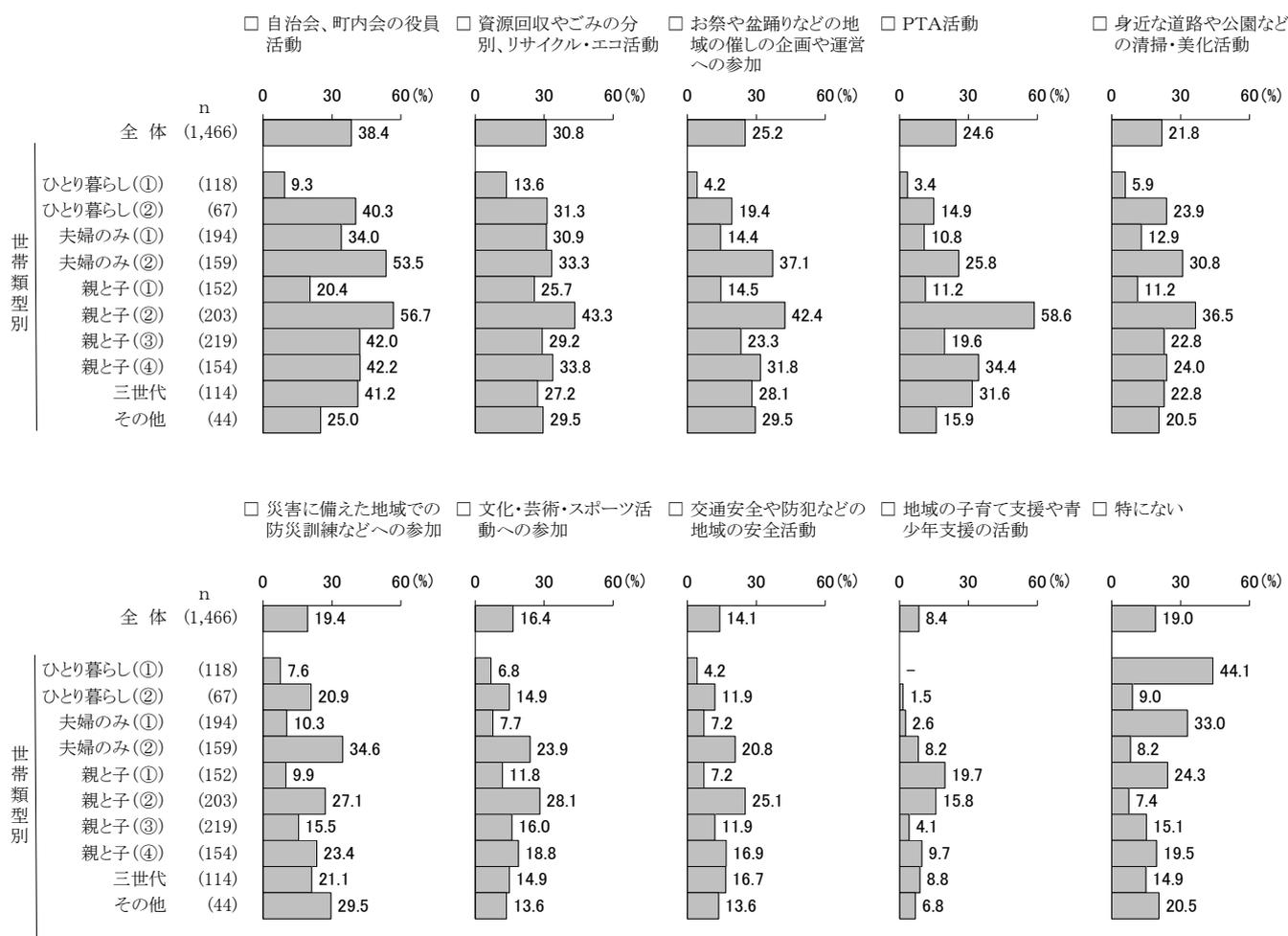
居住地域別では、「自治会、町内会の役員活動」は『白幡浦島丘』が47.0%で最も高い。「資源回収やごみの分別、リサイクル・エコ活動」は『菅田』が41.0%、「お祭りや盆踊りなどの地域の催しの企画や運営への参加」は『羽沢』が41.0%と高い。「災害に備えた地域での防災訓練などへの参加」は『白幡浦島丘』33.7%、「交通安全や防犯などの地域安全活動」は『白幡浦島丘』25.3%で他の地域に比較して高い。

図 参加している（したことがある）活動 [居住地域別（上位10項目）]（複数回答）



世帯類型別では、多くの項目で『親と子（構成員に学齢期（小～大））』の割合が高く、「PTA活動」58.6%、「自治会、町内会の役員活動」56.7%、「資源回収やごみの分別、リサイクル・エコ活動」43.3%、「お祭りや盆踊りなどの地域の催しの企画や運営への参加」42.4%「身近な道路や公園などの清掃・美化活動」36.5%と他の世帯類型に比較して高い。「災害に備えた地域での防災訓練などへの参加」は『夫婦のみ（本人もしくは構成員が65歳以上）』で34.6%と高い。「特にない」は『ひとり暮らし（本人が65歳未満）』が44.1%で最も高い。

図 参加している（したことがある）活動 [世帯類型別（上位10項目）]（複数回答）



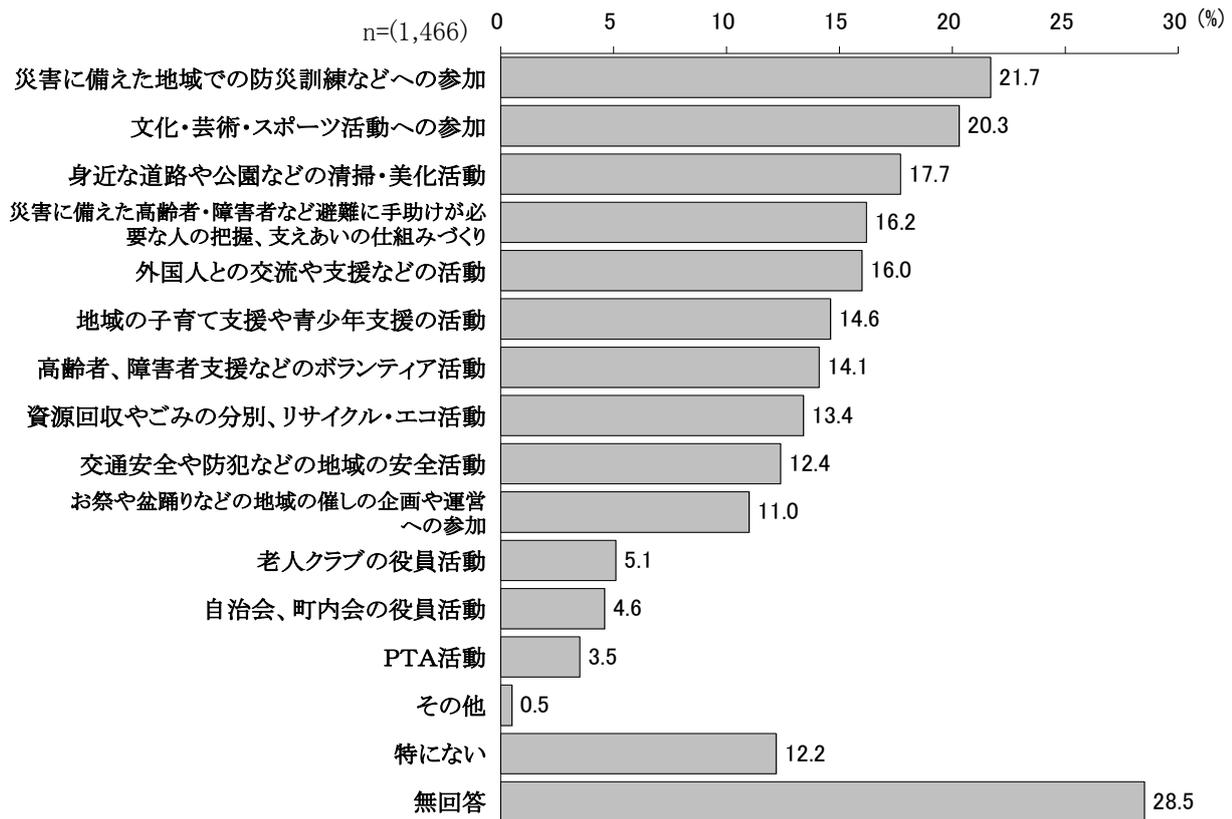
※世帯類型

- ひとり暮らし (①) 本人が65歳未満
- ひとり暮らし (②) 本人が65歳以上
- 夫婦のみ (①) 本人及び構成員が65歳未満
- 夫婦のみ (②) 本人もしくは構成員が65歳以上
- 親と子 (①) 構成員に未就学児含む
- 親と子 (②) 構成員に学齢期含む (小～大)
- 親と子 (③) 本人もしくは構成員に65歳以上含む
- 親と子 (④) その他

(イ) 今後参加してみたい活動

「災害に備えた地域での防災訓練などへの参加」が21.7%で最も高く、「文化・芸術・スポーツ活動への参加」20.3%、「身近な道路や公園などの清掃・美化活動」17.7%、「災害に備えた高齢者・障害者など避難に手助けが必要な人の把握、支えあいの仕組みづくり」16.2%、「外国人との交流や支援などの活動」16.0%と続いている。一方、「特にない」は12.2%となっている。

図 今後参加してみたい活動 [全体] (複数回答)

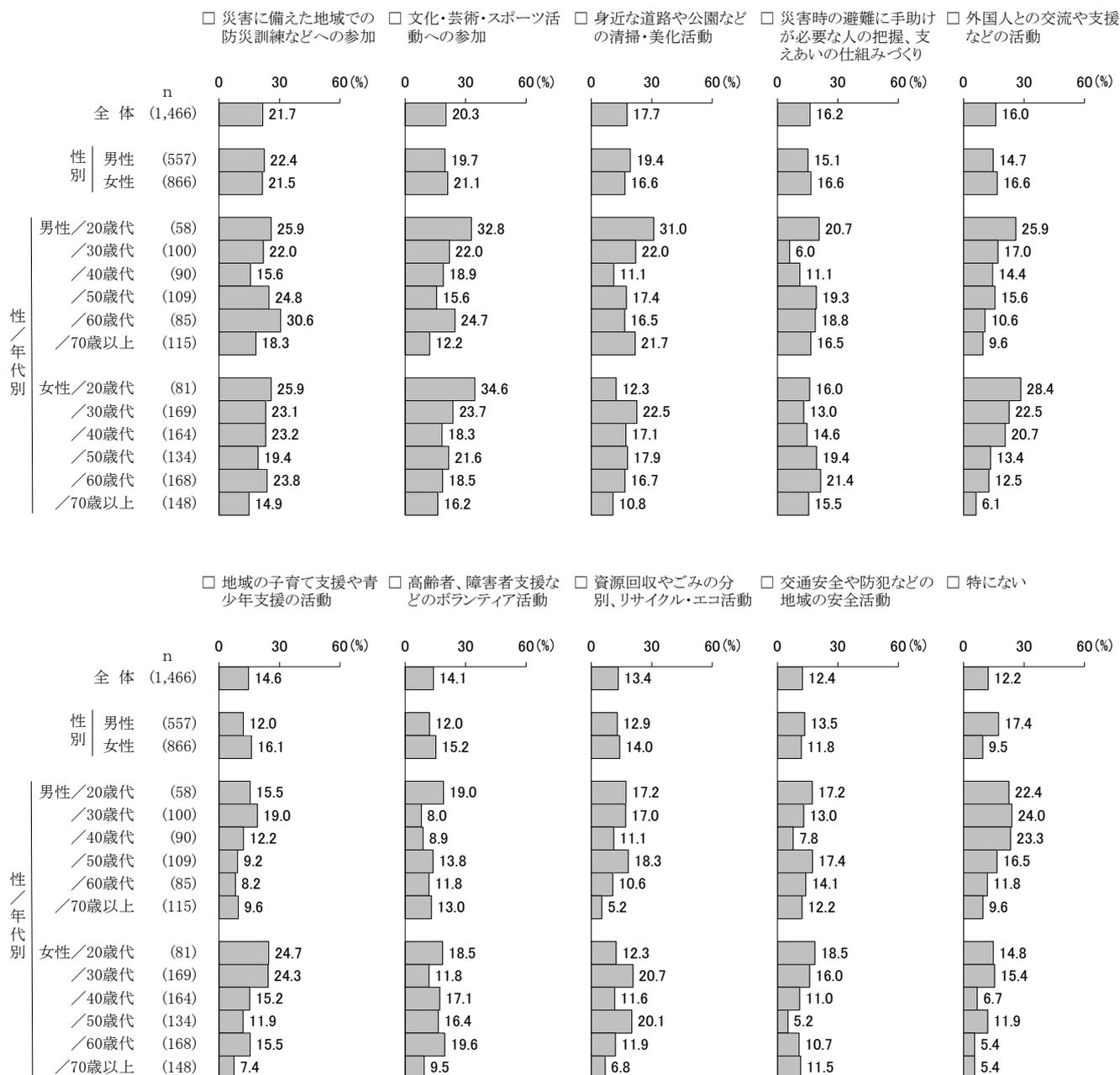


■ 今後参加してみたい活動 [性別・性/年代別・居住地域別・世帯類型別]

性別でみると、すべての項目で男女の割合の差は少ない。

性/年代別でみると、「災害に備えた地域での防災訓練などへの参加」は男性の60歳代で30.6%と最も高いが、男性の40歳代で15.6%と低い。「文化・芸術・スポーツ活動への参加」は男女とも20歳代が3割台で最も高くなっている。「特にない」は男性の20歳代から40歳代で2割台前半と高い。

図 今後参加してみたい活動 [性別・性/年代別 (上位10項目)] (複数回答)

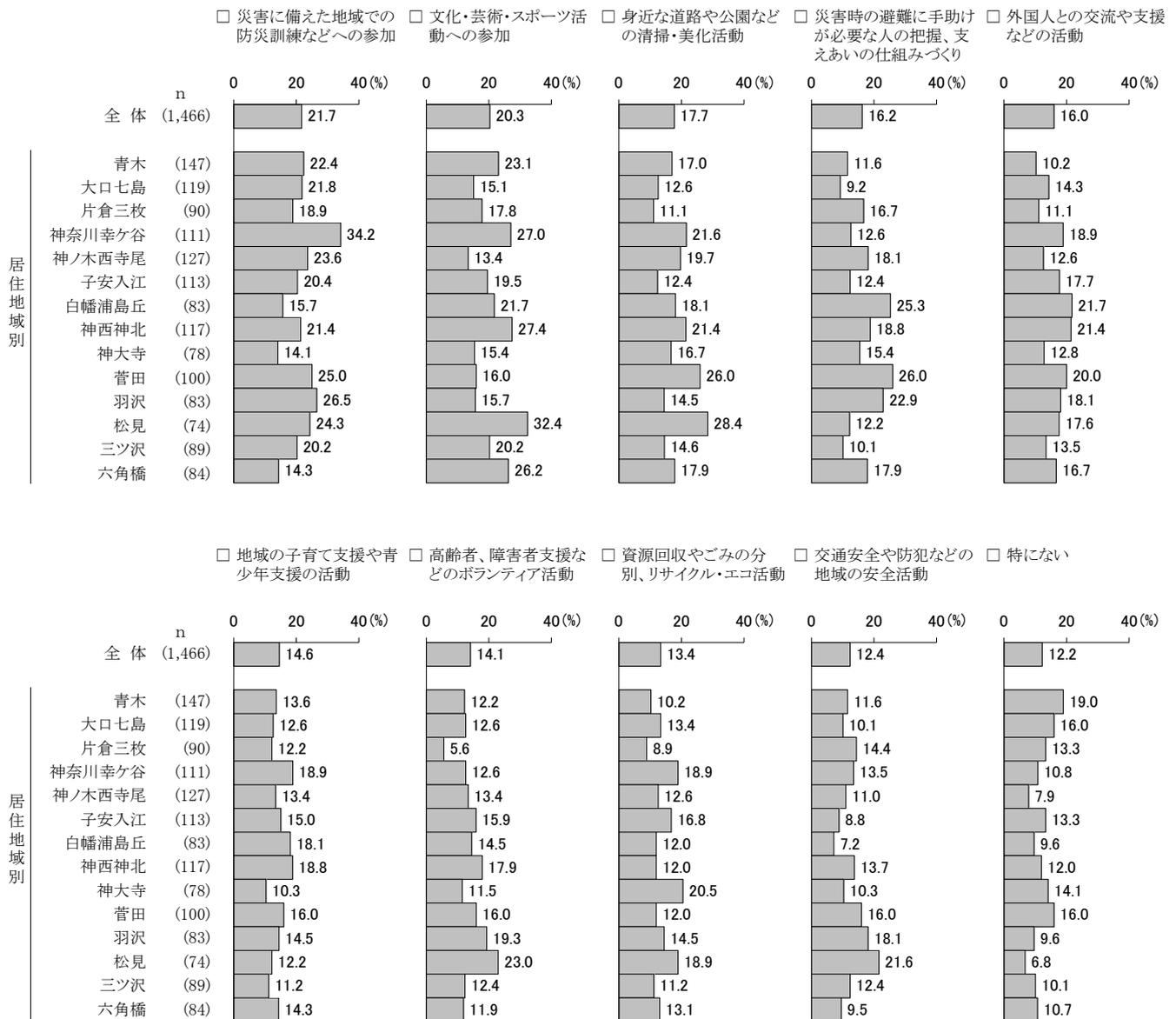


※ 「□災害時の避難に手助けが必要な人の把握、支えあいの仕組みづくり」は「□災害に備えた高齢者・障害者など避難に手助けが必要な人の把握、支えあいの仕組みづくり」を略している。

第2章 調査結果の詳細

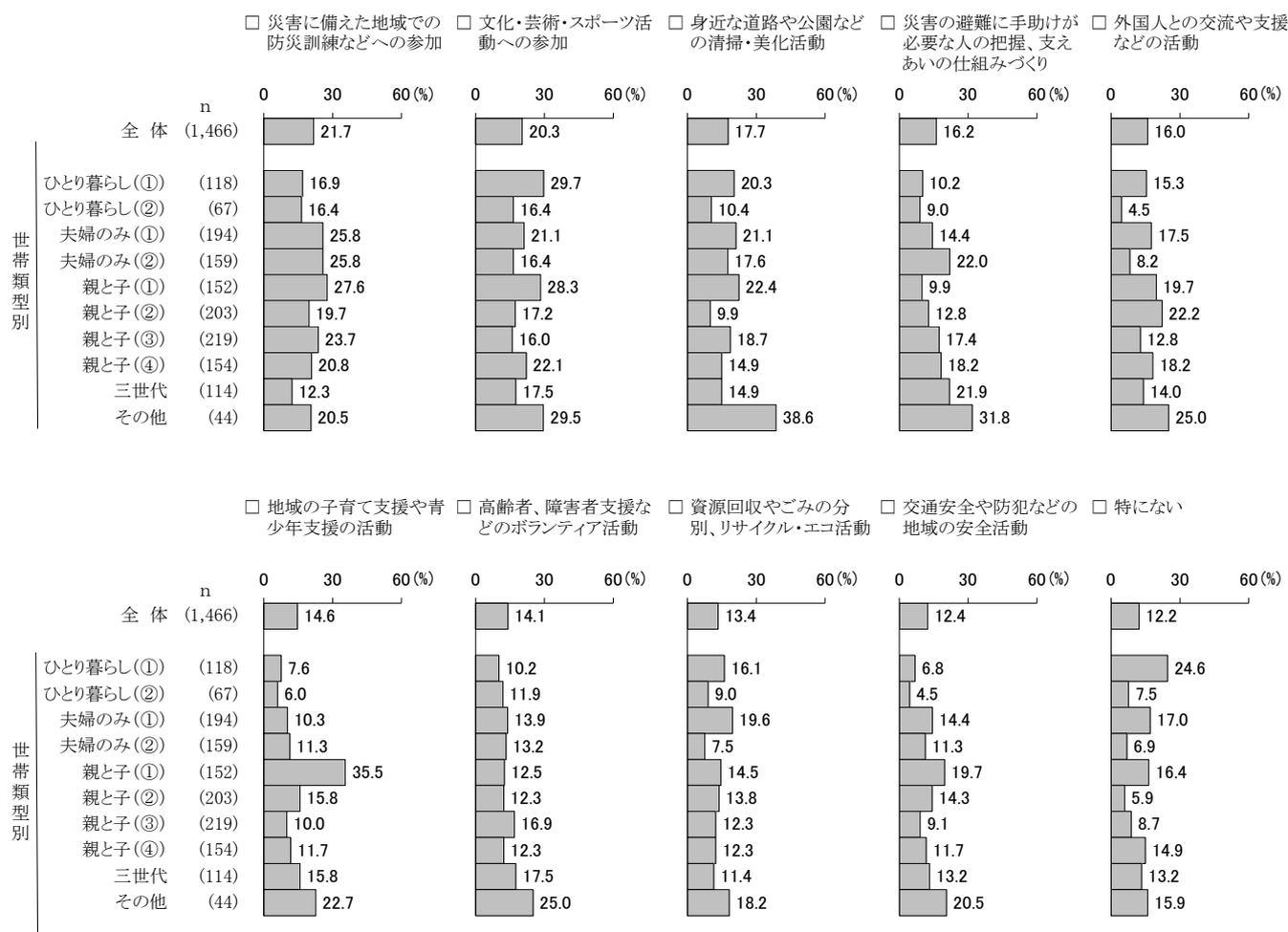
居住地域別では、「災害に備えた地域での防災訓練などへの参加」は『神奈川幸ヶ谷』34.2%、「文化・芸術・スポーツ活動への参加」は『松見』32.4%、「身近な道路や公園などの清掃・美化活動」は『松見』28.4%と最も高くなっている。「特にない」は『青木』が19.0%と最も高い。

図 今後参加してみたい活動 [居住地域別 (上位10項目)] (複数回答)



世帯類型別では、「災害に備えた地域での防災訓練などへの参加」は27.6%、「地域の子育てや青少年支援の活動」35.5%で『親子（構成員に未就学児含む）』がそれぞれ最も高い。「文化・芸術・スポーツ活動への参加」は『ひとり暮らし（本人が65歳未満）』が29.7%で最も高い。「身近な道路や公園などの清掃・美化活動」は『親子（構成員に未就学児含む）』が22.4%で最も高く、次いで『ひとり暮らし（本人が65歳未満）』20.3%となっている。「特にない」は『ひとり暮らし（本人が65歳未満）』が24.6%で最も高い。

図 今後参加してみたい活動〔世帯類型別（上位10項目）〕（複数回答）



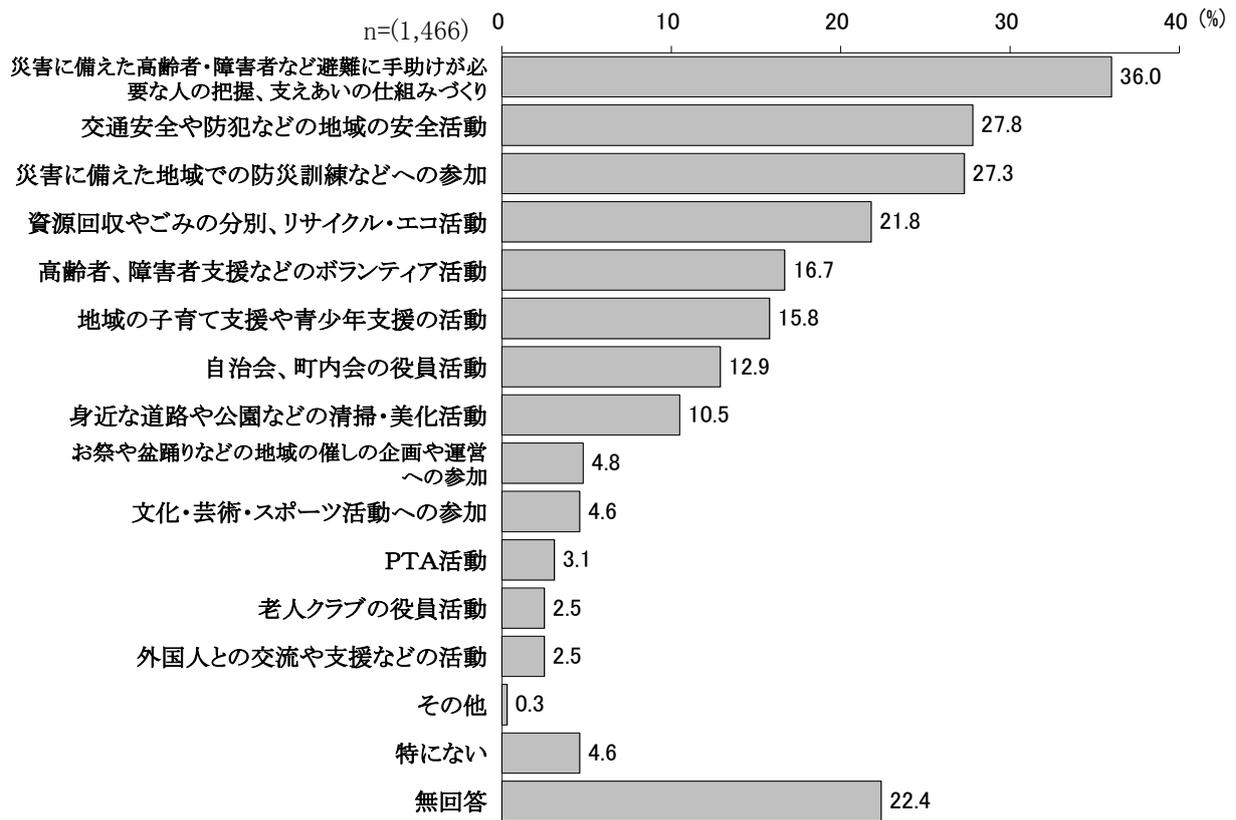
※世帯類型

- ひとり暮らし ① 本人が65歳未満
- ひとり暮らし ② 本人が65歳以上
- 夫婦のみ ① 本人及び構成員が65歳未満
- 夫婦のみ ② 本人もしくは構成員が65歳以上
- 親子 ① 構成員に未就学児含む
- 親子 ② 構成員に学齢期含む（小～大）
- 親子 ③ 本人もしくは構成員に65歳以上含む
- 親子 ④ その他

(ウ) 特に重要だと思う活動

「災害に備えた高齢者・障害者など避難に手助けが必要な人の把握、支えあいの仕組みづくり」が36.0%で最も高く、「交通安全や防犯などの地域の安全活動」27.8%、「災害に備えた地域での防災訓練などへの参加」27.3%、「資源回収やごみの分別、リサイクル・エコ活動」21.8%となっている。

図 特に重要だと思う活動 [全体] (複数回答)

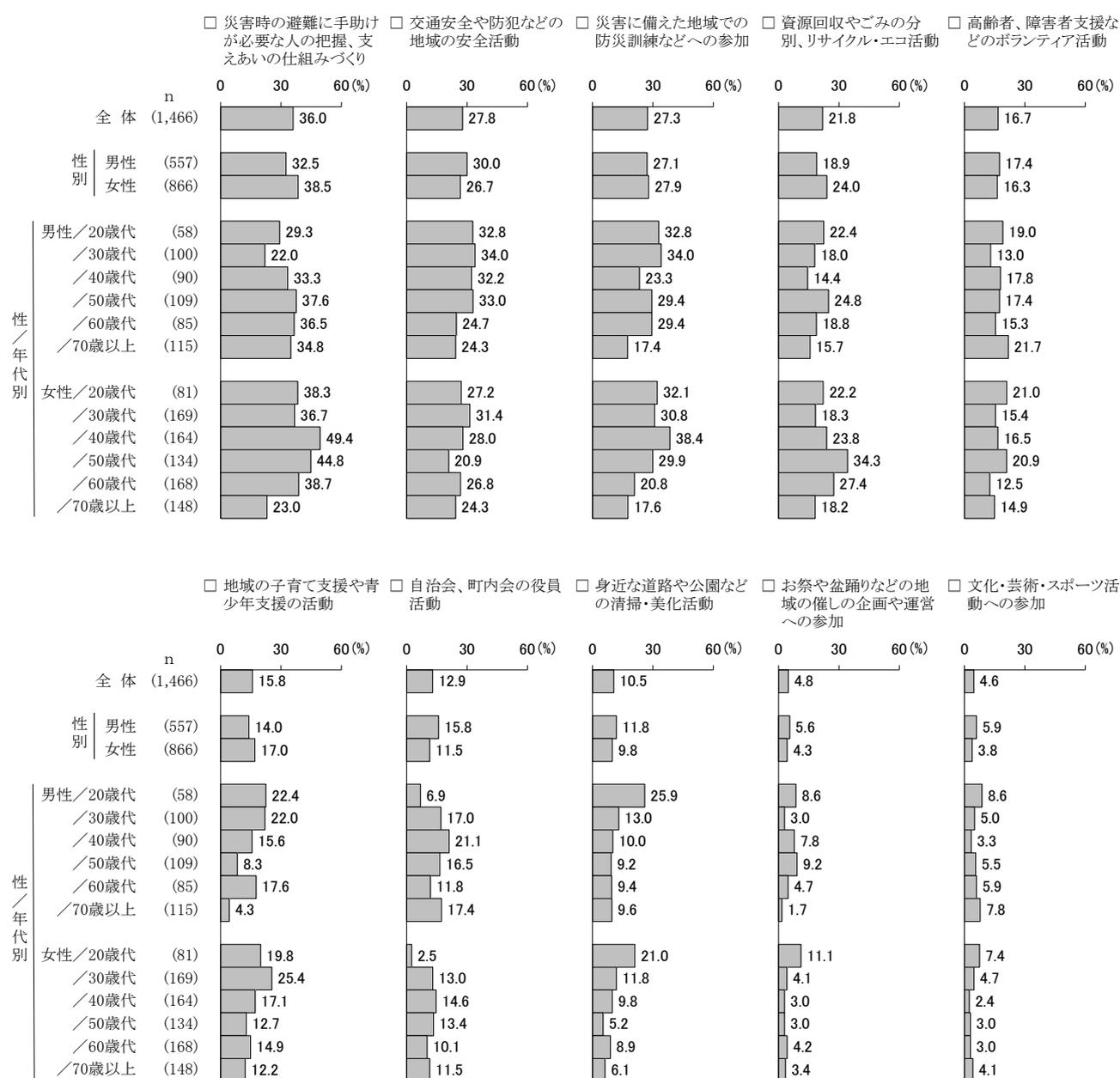


■ 特に重要だと思う活動 [性別・性/年代別・居住地域別・世帯類型別]

性別でみると、「災害に備えた高齢者・障害者など避難に手助けが必要な人の把握、支えあいの仕組みづくり」は、女性が6.0ポイント高く、「自治会、町内会の役員活動」は4.3ポイント、「交通安全や防犯などの地域の安全活動」は3.3ポイントそれぞれ男性が高い。

性/年代別でみると、「災害に備えた高齢者・障害者など避難に手助けが必要な人の把握、支えあいの仕組みづくり」は、女性では40歳代が49.4%で最も高く、年齢があがるに従って低くなっている。男性では30歳代が22.0%と低い。「交通安全や防犯などの地域の安全活動」は男性の20歳代から50歳代と女性の30歳代で3割を超えている。

図 特に重要だと思う活動 [性別・性/年代別 (上位10項目)] (複数回答)

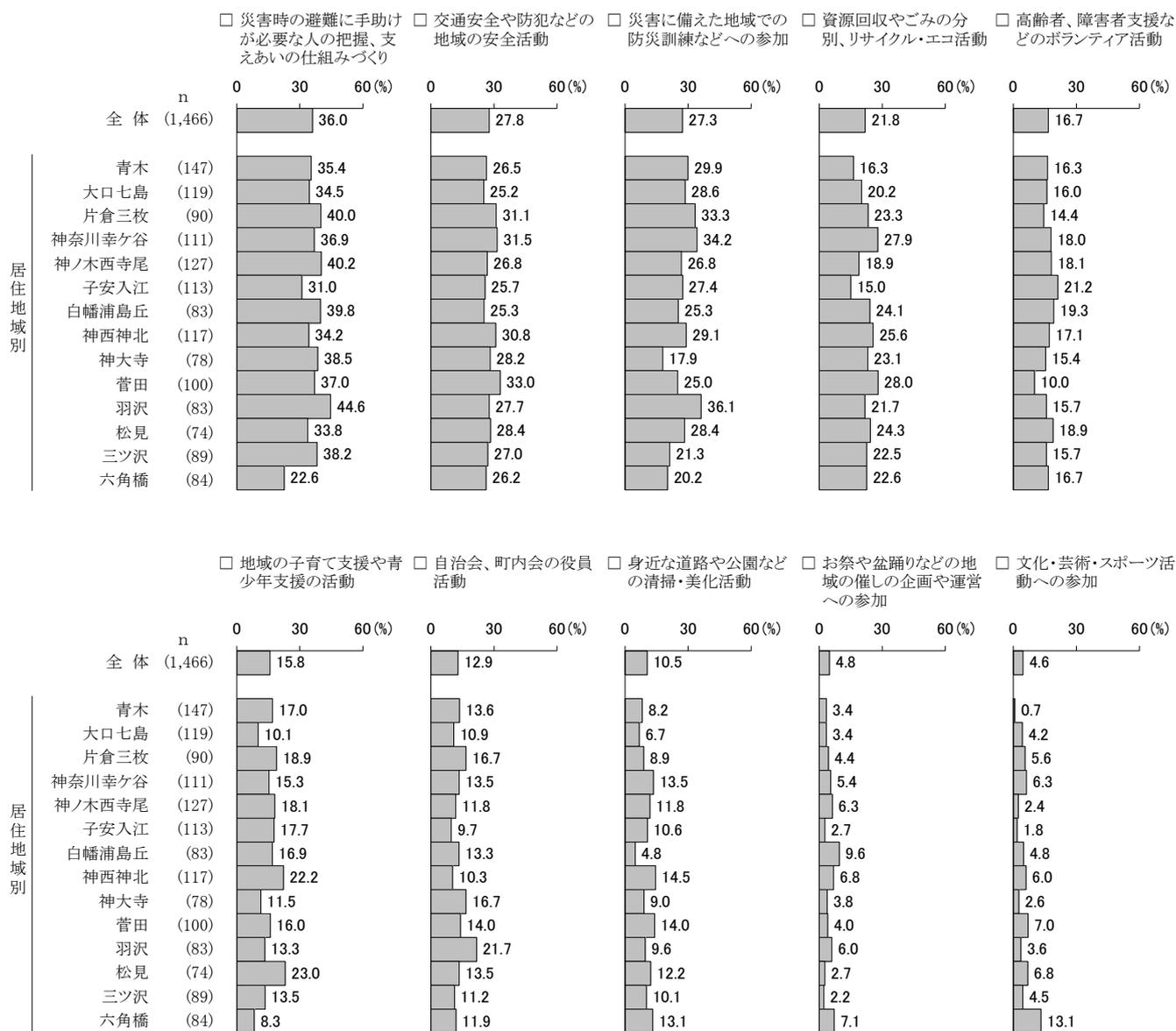


※ 「□災害時の避難に手助けが必要な人の把握、支えあいの仕組みづくり」は「□災害に備えた高齢者・障害者など避難に手助けが必要な人の把握、支えあいの仕組みづくり」を略している。

第2章 調査結果の詳細

居住地域別では、「災害に備えた高齢者・障害者など避難に手助けが必要な人の把握、支えあいの仕組みづくり」は44.6%、「災害に備えた地域での防災訓練などへの参加」は36.1%、「自治会、町内会の役員活動」は21.7%でそれぞれ『羽沢』が最も高い。「交通安全や防犯などの地域の安全活動」はすべての地域で2割台半ばから3割台前半で地域による差は少ない。「資源回収やごみの分別、リサイクル・エコ活動」は『菅田』が28.0%で高い。

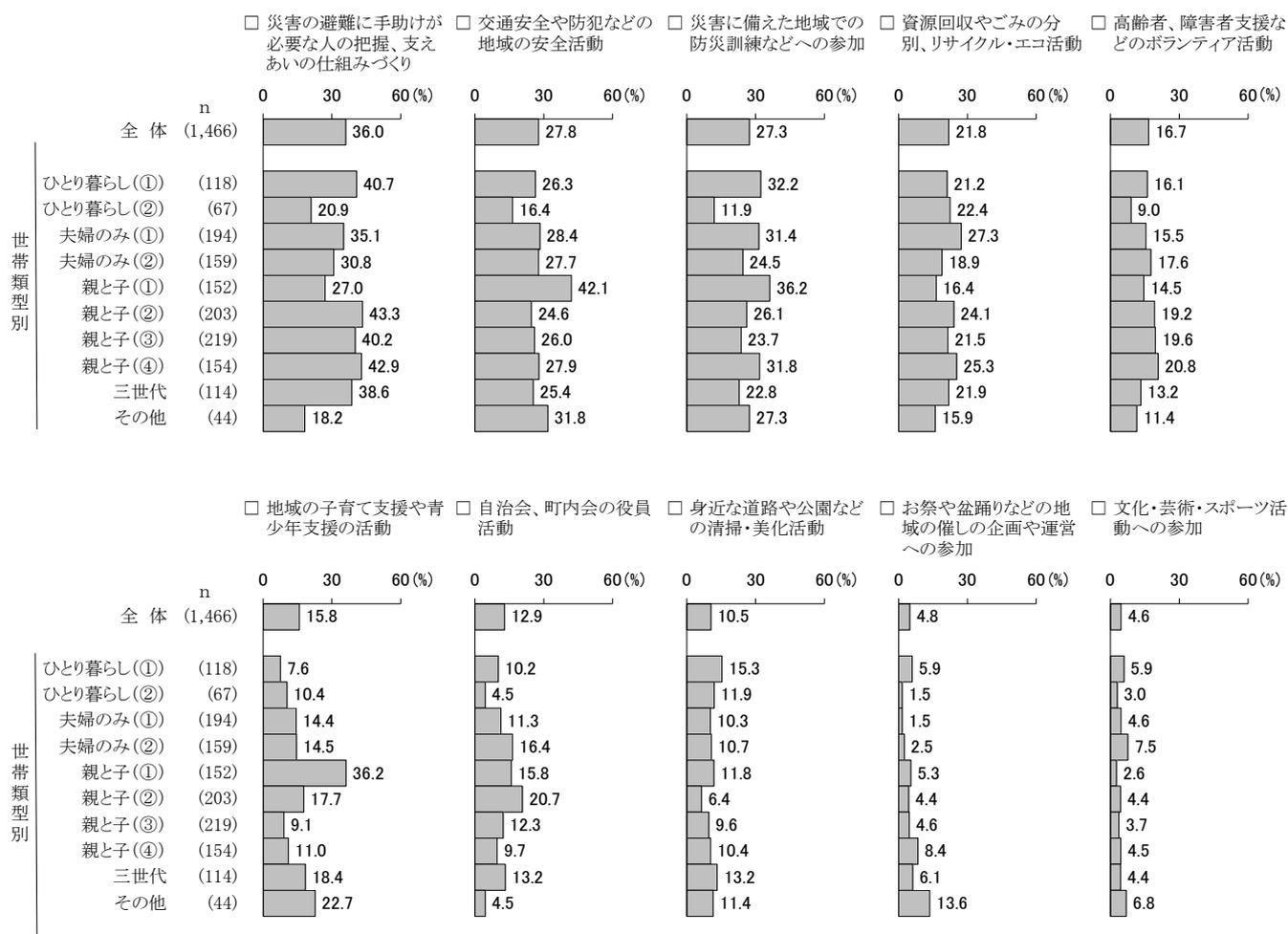
図 特に重要だと思う活動 [居住地域別 (上位10項目)] (複数回答)



※ 「□災害時の避難に手助けが必要な人の把握、支えあいの仕組みづくり」は「□災害に備えた高齢者・障害者など避難に手助けが必要な人の把握、支えあいの仕組みづくり」を略している。

世帯類型別では、「災害に備えた高齢者・障害者など避難に手助けが必要な人の把握、支えあいの仕組みづくり」43.3%、「自治会、町内会の役員活動」20.7%で『親と子（構成員に学齢期（小～大））』がそれぞれ最も高い。「交通安全や防犯などの地域の安全活動」42.1%、「災害に備えた地域での防災訓練などへの参加」36.2%、「地域の子育て支援や青少年支援の活動」36.2%で『親と子（構成員に未就学児を含む）』が最も高くなっている。

図 特に重要だと思う活動 [世帯類型別（上位10項目）]（複数回答）



※「□災害時の避難に手助けが必要な人の把握、支えあいの仕組みづくり」は「□災害に備えた高齢者・障害者など避難に手助けが必要な人の把握、支えあいの仕組みづくり」を略している。

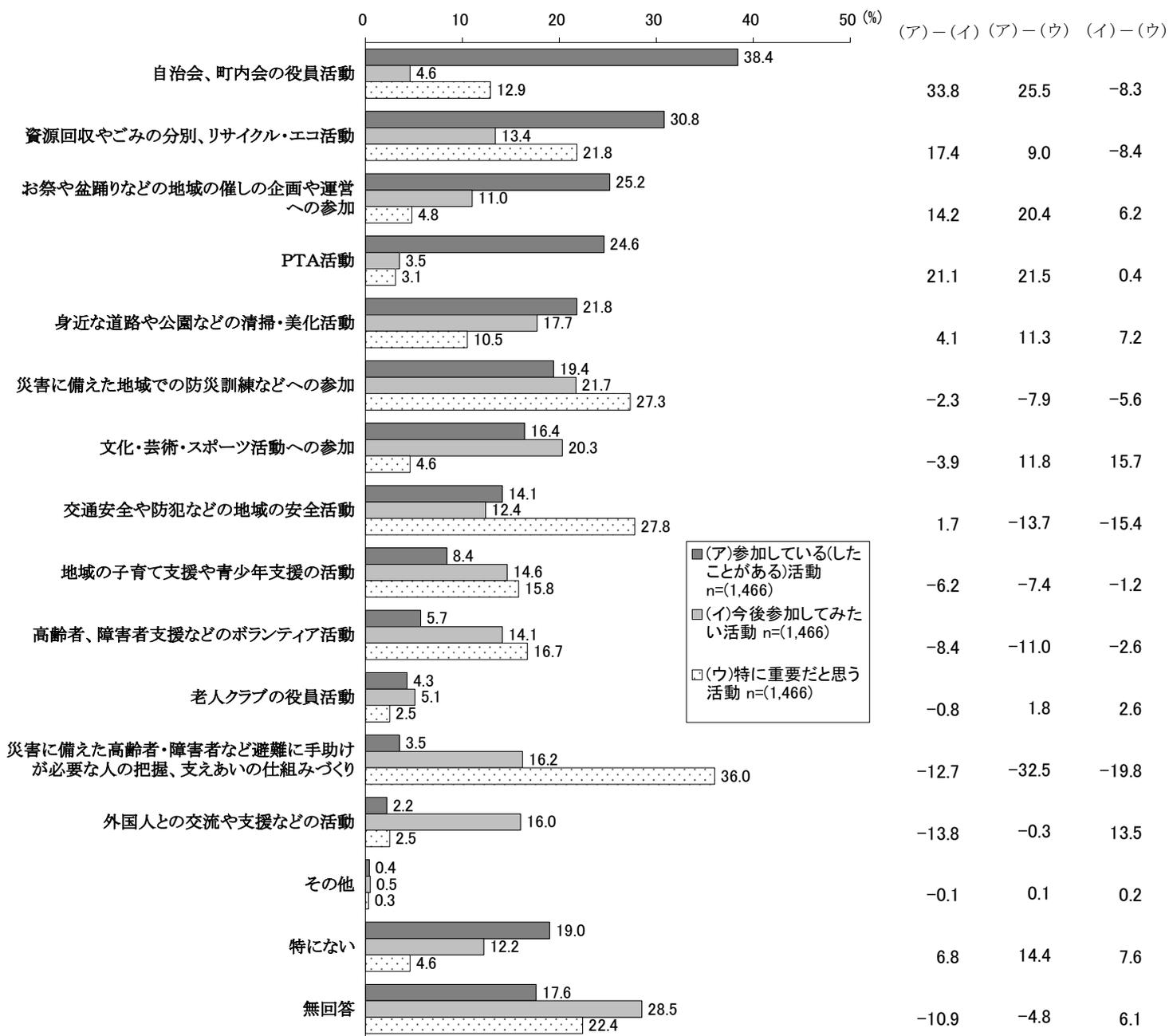
※世帯類型

- ひとり暮らし (①) 本人が65歳未満
- ひとり暮らし (②) 本人が65歳以上
- 夫婦のみ (①) 本人及び構成員が65歳未満
- 夫婦のみ (②) 本人もしくは構成員が65歳以上
- 親と子 (①) 構成員に未就学児含む
- 親と子 (②) 構成員に学齢期含む (小～大)
- 親と子 (③) 本人もしくは構成員に65歳以上含む
- 親と子 (④) その他

■ 参加している（したことがある）活動・今後参加してみたい活動・特に重要だと思う活動

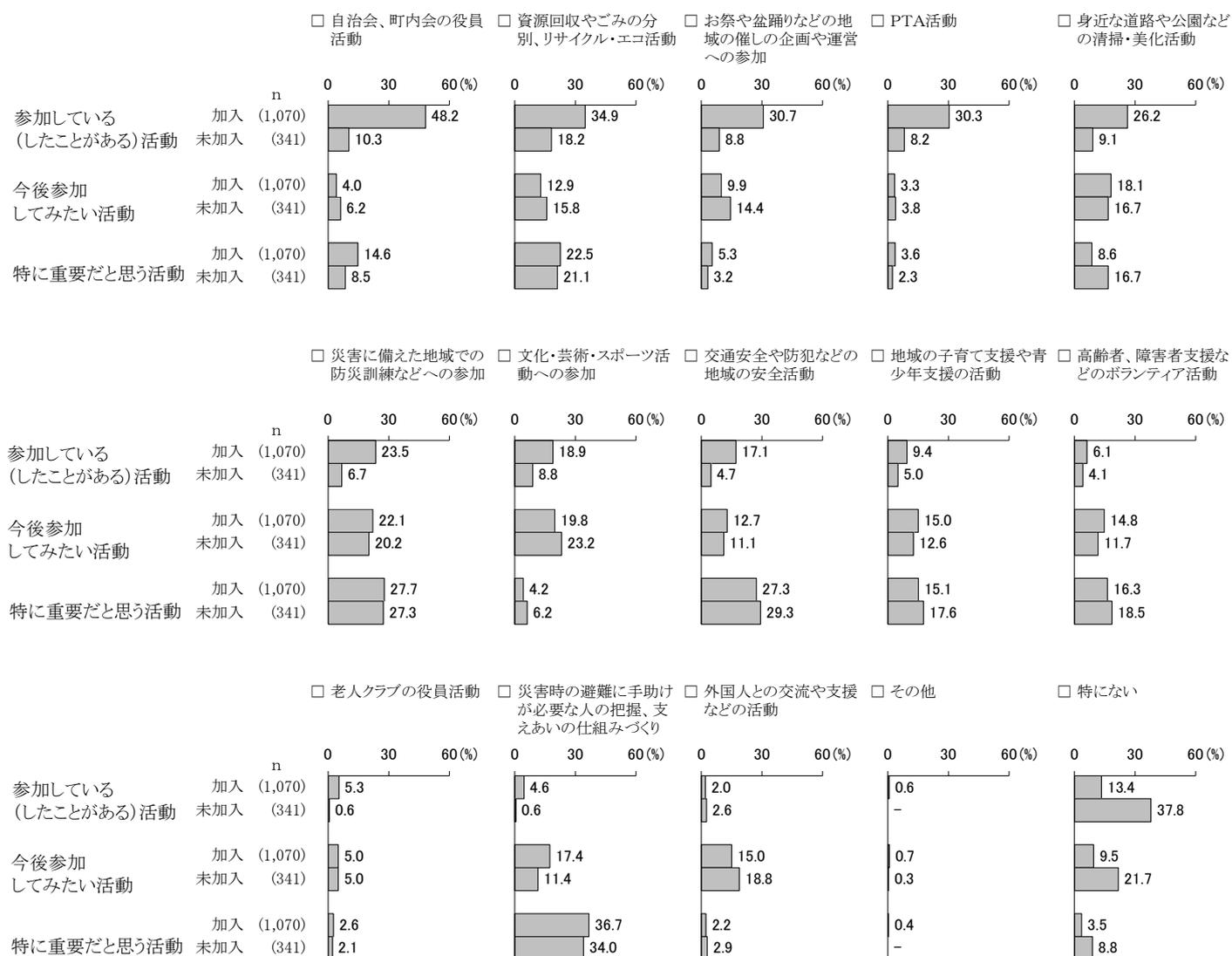
『参加している（したことがある）活動』と『今後参加してみたい活動』に大きな差があるのは「自治会、町内会の役員活動」で33.8ポイントの差がある。『特に重要だと思う活動』の割合が36.0%と高い「災害に備えた高齢者・障害者など避難に手助けが必要な人の把握、支えあいの仕組みづくり」は『今後参加してみたい活動』の割合は16.2%で19.8ポイントの差がある。更に、『参加している（したことがある）活動』は3.5%で、重要だと思うが実際には活動していない結果となっている。「交通安全や防犯などの地域の安全活動」も『特に重要だと思う活動』の割合と『参加している（したことがある）活動』、『今後参加してみたい活動』の割合の差が大きい。

図 参加している（したことがある）活動・今後参加してみたい活動・特に重要だと思う活動



自治会町内会への加入の有無別では、参加している（したことがある）活動は、ほぼすべての項目で『加入している』の割合が高い。今後参加してみたい活動で、加入の有無で差が大きいのは、「災害に備えた高齢者・障害者など避難に手助けが必要な人の把握、支えあいの仕組みづくり」で『加入している』が17.4%、『加入していない』は11.4%で6.0ポイント『加入している』の割合が高い。特に重要だと思う活動は、「身近な道路や公園などの清掃・美化活動」で『加入していない』16.7%、『加入している』8.6%で『加入していない』が8.1ポイント高い。

図 参加している（したことがある）活動・今後参加してみたい活動・特に重要だと思う活動
 [自治会町内会加入の有無別]（複数回答）



※「□災害時の避難に手助けが必要な人の把握、支えあいの仕組みづくり」は「□災害に備えた高齢者・障害者など避難に手助けが必要な人の把握、支えあいの仕組みづくり」を略している。

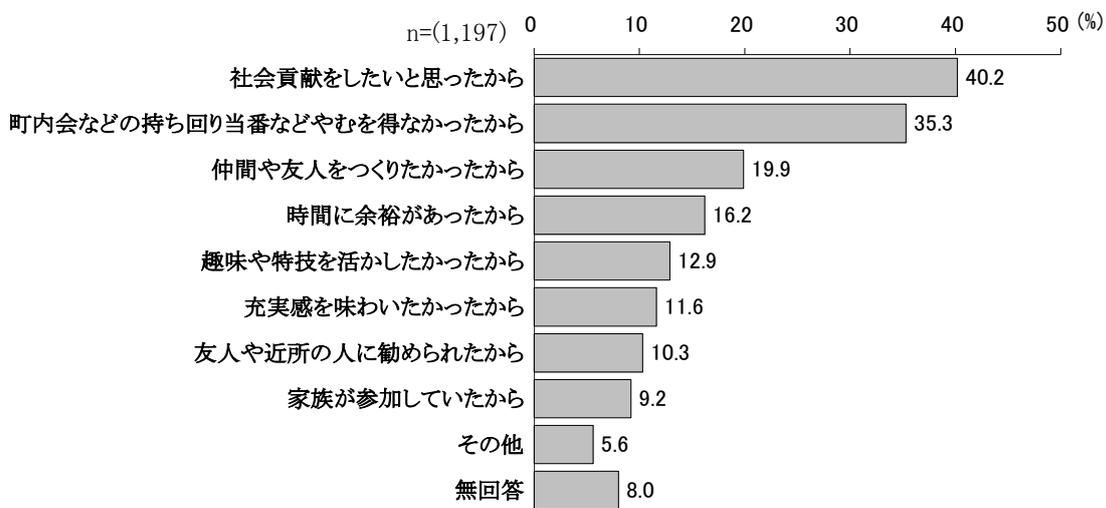
※加入・・・自治会町内会に『加入している』
 未加入・・・自治会町内会に『加入していない』

(2) 地域活動に参加した(したい)主な理由

問10 問9の(ア)または(イ)で参加した活動や今後参加してみたい活動が1つでもあると答えた方におたずねします。あなたが活動に参加した(したい)主な理由はどのようなことですか。(〇は3つまで)

地域活動に参加した(したい)主な理由は、「社会貢献をしたいと思ったから」が40.2%で最も高く、次いで、「町内会などの持ち回り当番などやむを得なかったから」35.3%、「仲間や友人をつくりたかったから」19.9%と続いている。

図 地域活動に参加した(したい)主な理由 [全体] (複数回答)



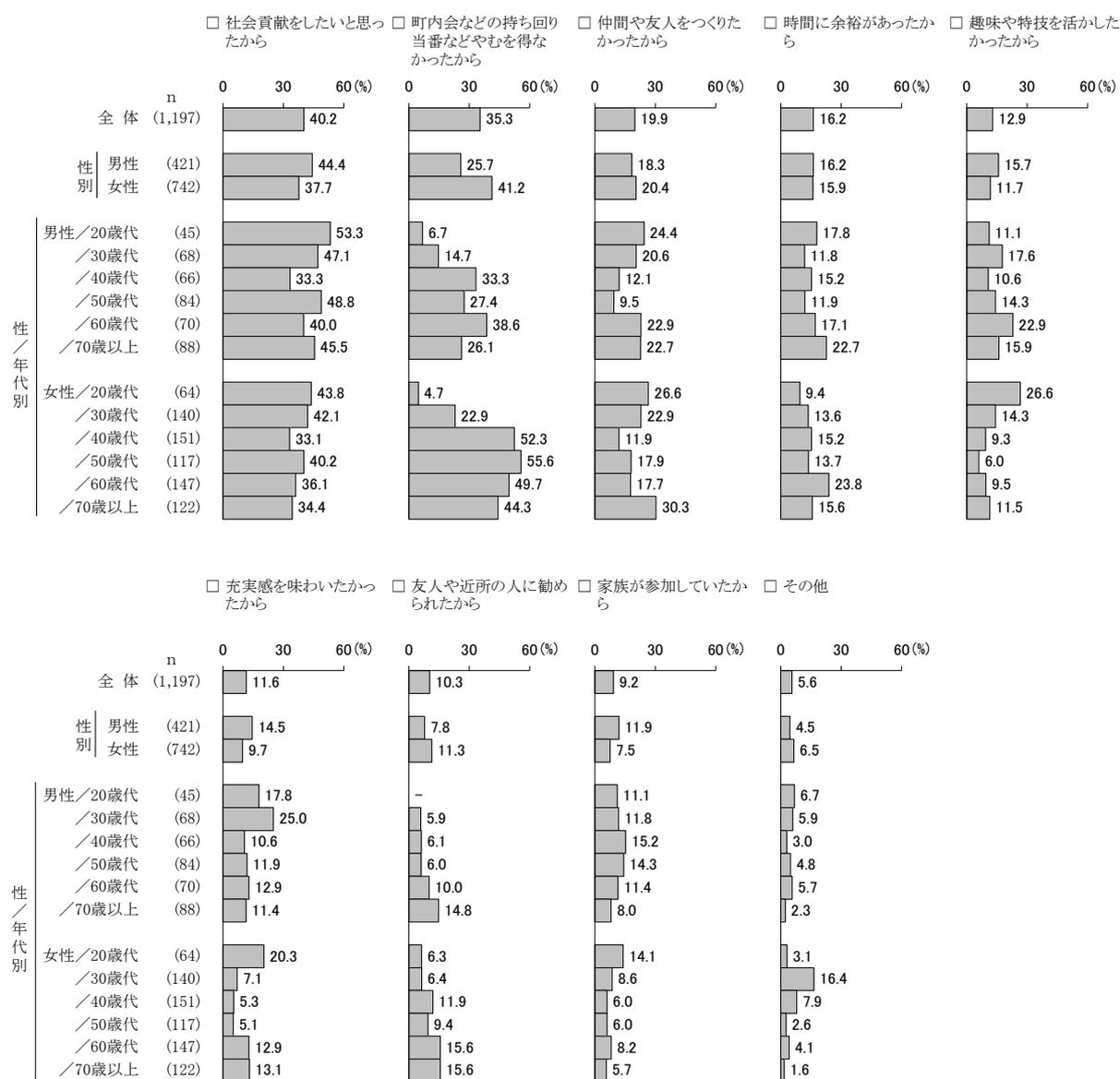
■ 地域活動に参加した（したい）主な理由

[性別・性／年代別・居住地域別・世帯類型別・自治会町内会加入の有無別]

性別でみると、「社会貢献をしたいと思ったから」は男性44.4%、女性37.7%で男性が6.7ポイント高く、「町内会などの持ち回り当番などやむを得なかったから」は女性41.2%、男性25.7%で女性が15.5ポイント高い。

性／年代別でみると、「社会貢献をしたいと思ったから」はすべての年代で男性の割合が高く、男性では40歳代を除く世代で4割を超えている。女性は、20歳代、30歳代、50歳代で4割を超えている。「町内会などの持ち回り当番などやむを得なかったから」は20歳代を除くすべての年代で女性の割合が高く、40歳代、50歳代で5割台と高く、男性では40歳代、60歳代で3割台となっている。「仲間や友人をつくりたかったから」は『女性／70歳以上』で30.3%と高い。

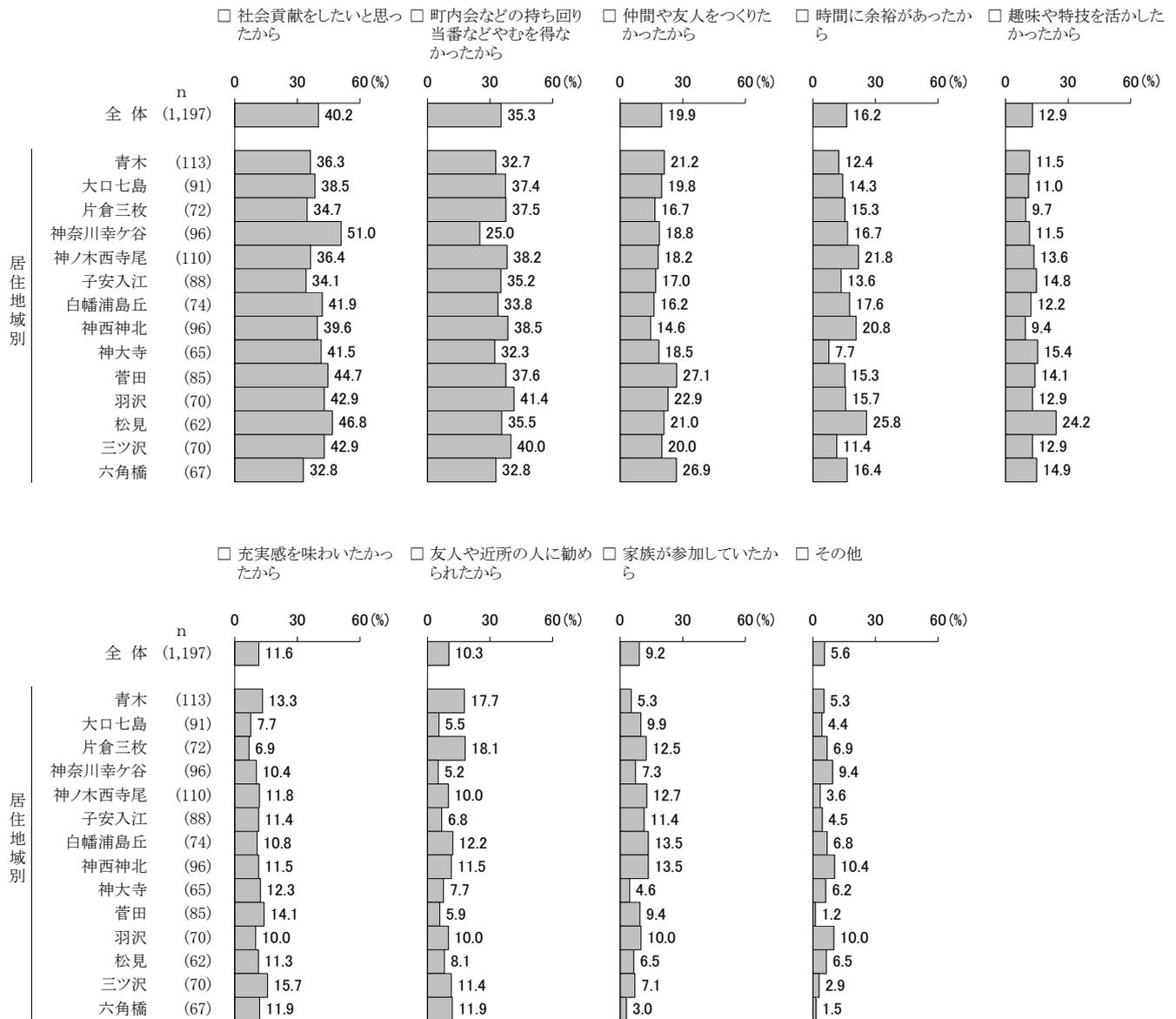
図 地域活動に参加した（したい）主な理由 [性別・性／年代別] (複数回答)



第2章 調査結果の詳細

居住地域別では、「社会貢献をしたいと思ったから」は『神奈川幸ヶ谷』が51.0%で最も高い。「町内会などの持ち回り当番などやむを得なかったから」は『羽沢』41.4%、『三ツ沢』40.0%となっている。「仲間や友人を作りたかったから」は『菅田』が27.1%と最も高い。

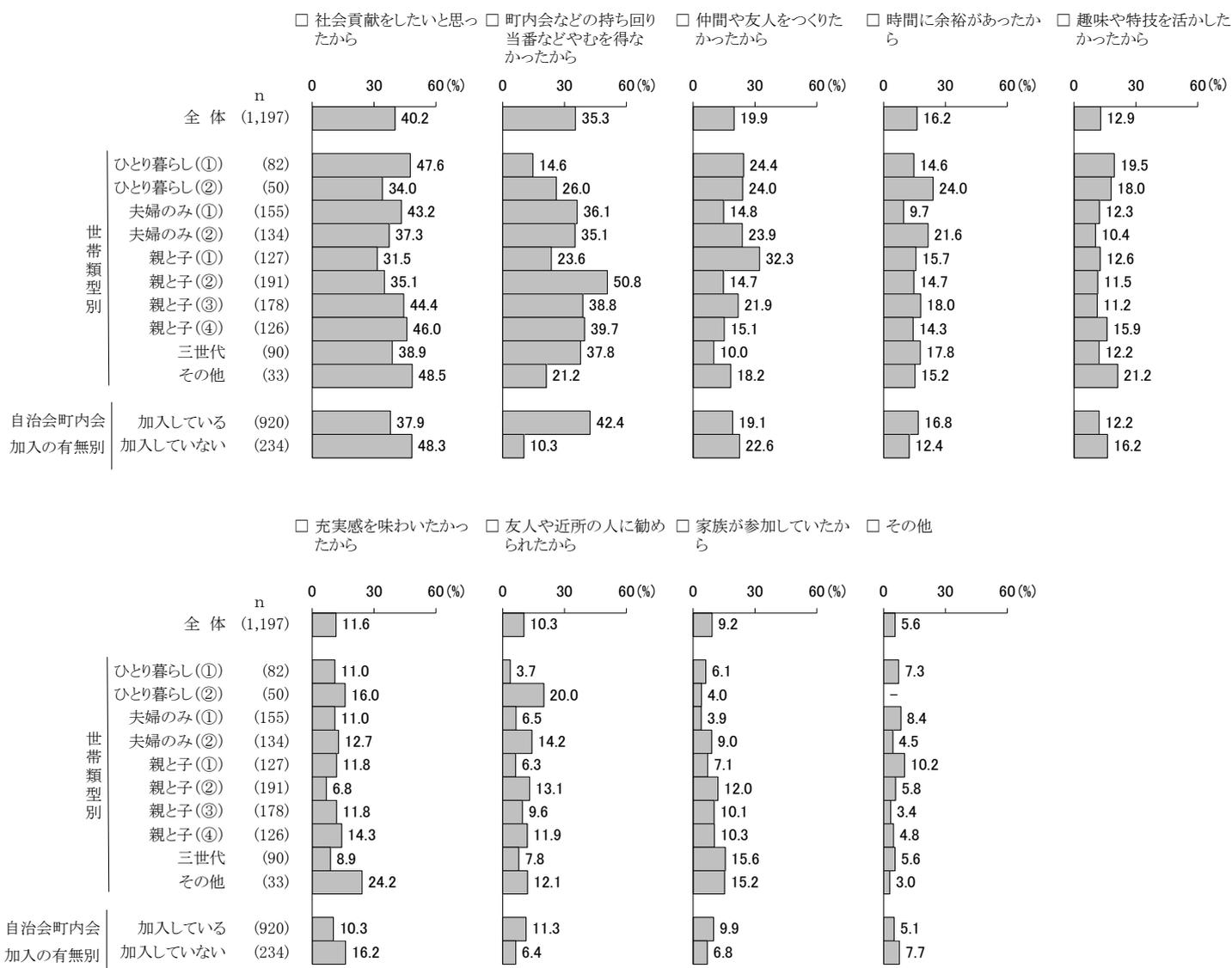
図 地域活動に参加した（したい）主な理由〔居住地域別〕（複数回答）



世帯類型別では、「社会貢献をしたいと思ったから」は『ひとり暮らし（本人が65歳未満）』が47.6%で最も高く、「町内会などの持ち回り当番などやむを得なかったから」は『親子（構成員に学齢期含む（小～大））』50.8%で最も高い。「仲間や友人をつくりたかったから」は『親子（構成員に未就学児を含む）』32.3%と高い。「友人や近所の人に勧められたから」は『ひとり暮らし（本人が65歳以上）』が20.0%で最も高くなっている。

自治会町内会への加入の有無別では、「社会貢献をしたいと思ったから」は10.4ポイント、「充実感を味わいたかったから」は5.9ポイント、それぞれ『加入していない』が高い。

図 地域活動に参加した（したい）主な理由〔世帯類型別・自治会町内会への加入の有無別〕（複数回答）



※世帯類型

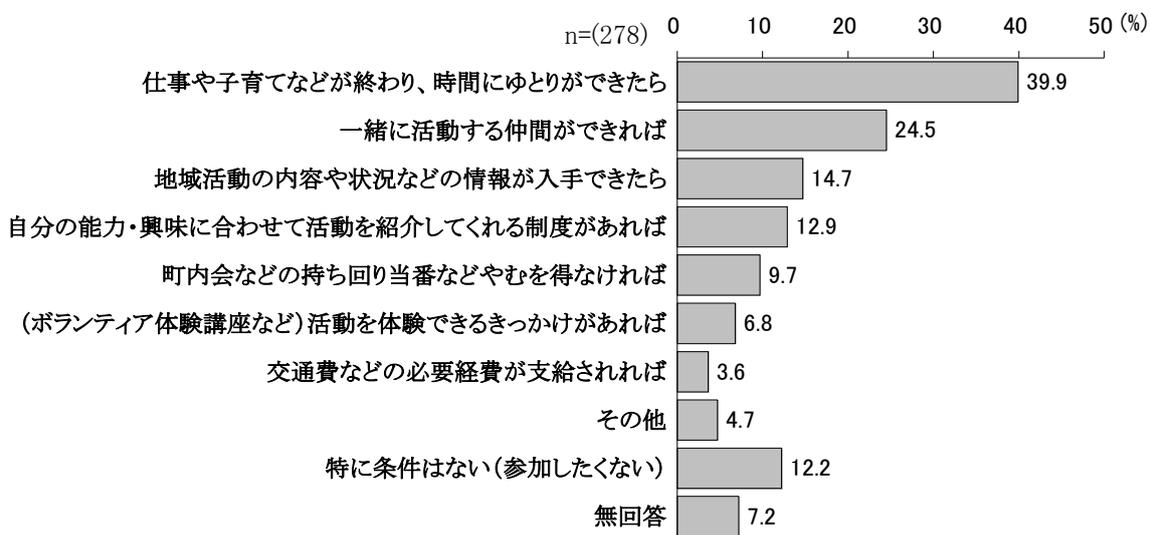
- ひとり暮らし (①) 本人が65歳未満
- ひとり暮らし (②) 本人が65歳以上
- 夫婦のみ (①) 本人及び構成員が65歳未満
- 夫婦のみ (②) 本人もしくは構成員が65歳以上
- 親子 (①) 構成員に未就学児含む
- 親子 (②) 構成員に学齢期含む (小～大)
- 親子 (③) 本人もしくは構成員に65歳以上含む
- 親子 (④) その他

(3) 地域活動に参加できる条件

問11 問9の(ア)で参加している(したことがある)活動が「15 特にない」と答えた方におたずねします。あなたは、どのような場合であれば、地域活動に参加できると思いますか。(〇は2つまで)

問9の(ア)で参加している(したことがある)活動が「特にない」と答えた方に、地域活動に参加できる条件をたずねたところ、「仕事や子育てなどが終わり、時間にゆとりができれば」が39.9%で約4割、次いで、「一緒に活動する仲間ができれば」24.5%となっている。一方、「特に条件はない(参加したくない)」は12.2%、1割台前半となっている。

図 地域活動に参加できる条件 [全体] (複数回答)

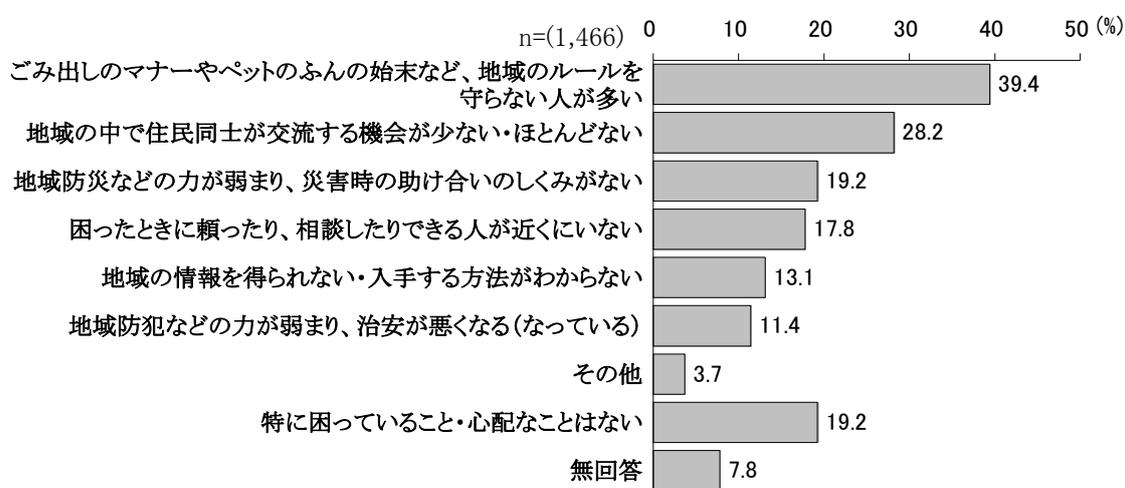


(4) 地域コミュニティ（地域社会）に関する困りごと・心配ごと

問12 地域コミュニティ（地域社会）に関することで、あなたが困っていること、心配なことはどのようなことですか。（〇はいくつでも）

地域コミュニティ（地域社会）に関することで、困っていること、心配なことについては、「ごみ出しのマナーやペットのふんの始末など、地域のルールを守らない人が多い」が39.4%で約4割、次いで、「地域の中で住民同士が交流する機会が少ない・ほとんどない」が28.2%となっている。一方、「特に困っていること・心配なことはない」は19.2%で約2割となっている。

図 地域コミュニティ（地域社会）に関する困りごと・心配ごと [全体]（複数回答）



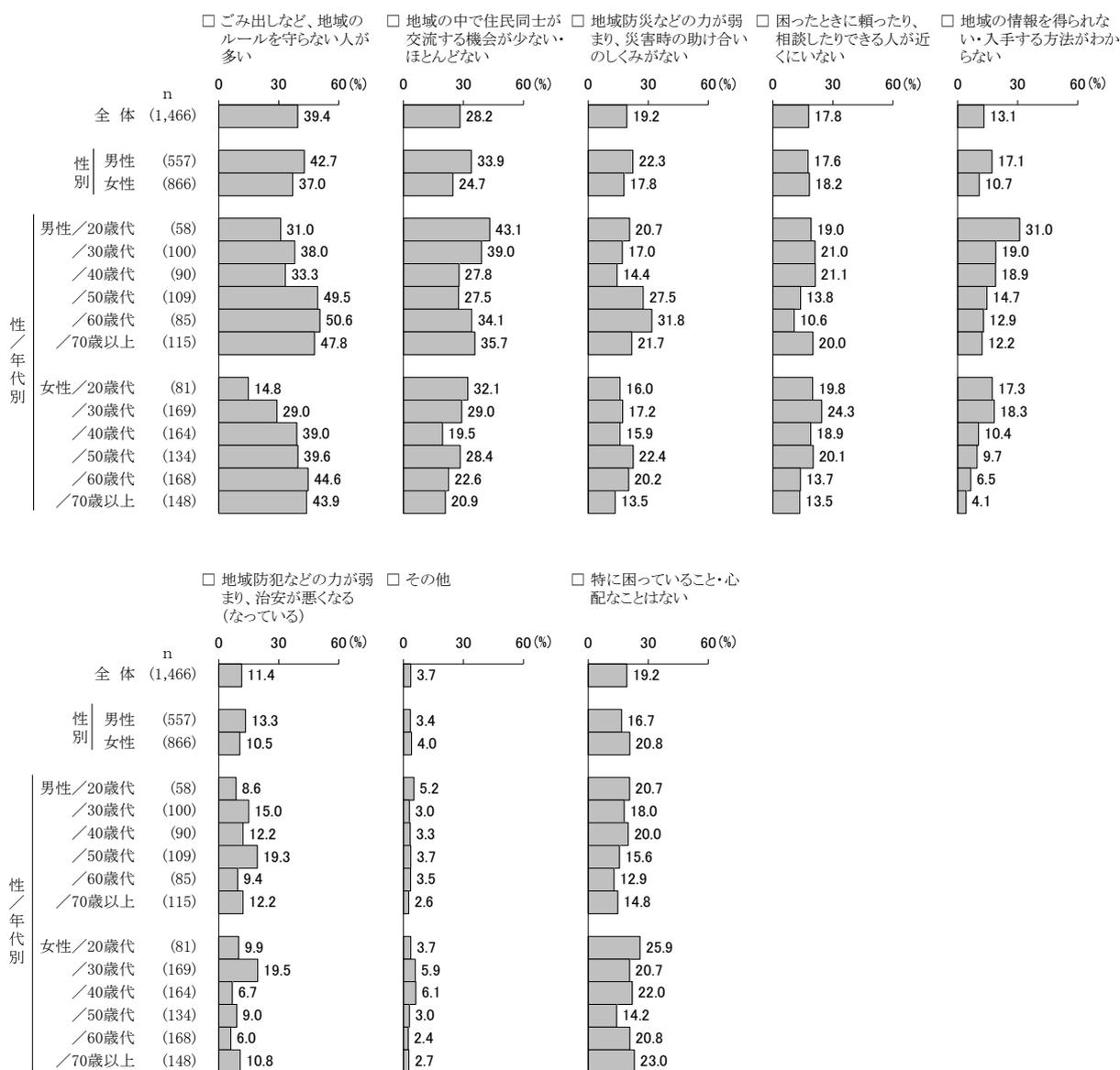
■ 地域コミュニティ（地域社会）に関する困りごと・心配ごと

[性別・性／年代別・居住地域別・世帯類型別・自治会町内会加入の有無別]

性別でみると、「ごみ出しのマナーやペットのふんの始末など、地域のルールを守らない人が多い」は、男性42.7%、女性37.0%で5.7ポイント、「地域の中で住民同士が交流する機会が少ない・ほとんどない」は男性33.9%、女性24.7%で9.2ポイントそれぞれ男性の割合が高い。

性／年代別でみると、「ごみ出しのマナーやペットのふんの始末など、地域のルールを守らない人が多い」は男性では50歳代以上で4割を超えて高く、女性では60歳代以上で4割を超えている。「地域の中で住民同士が交流する機会が少ない・ほとんどない」は男女とも20歳代、30歳代の割合が高くなっている。

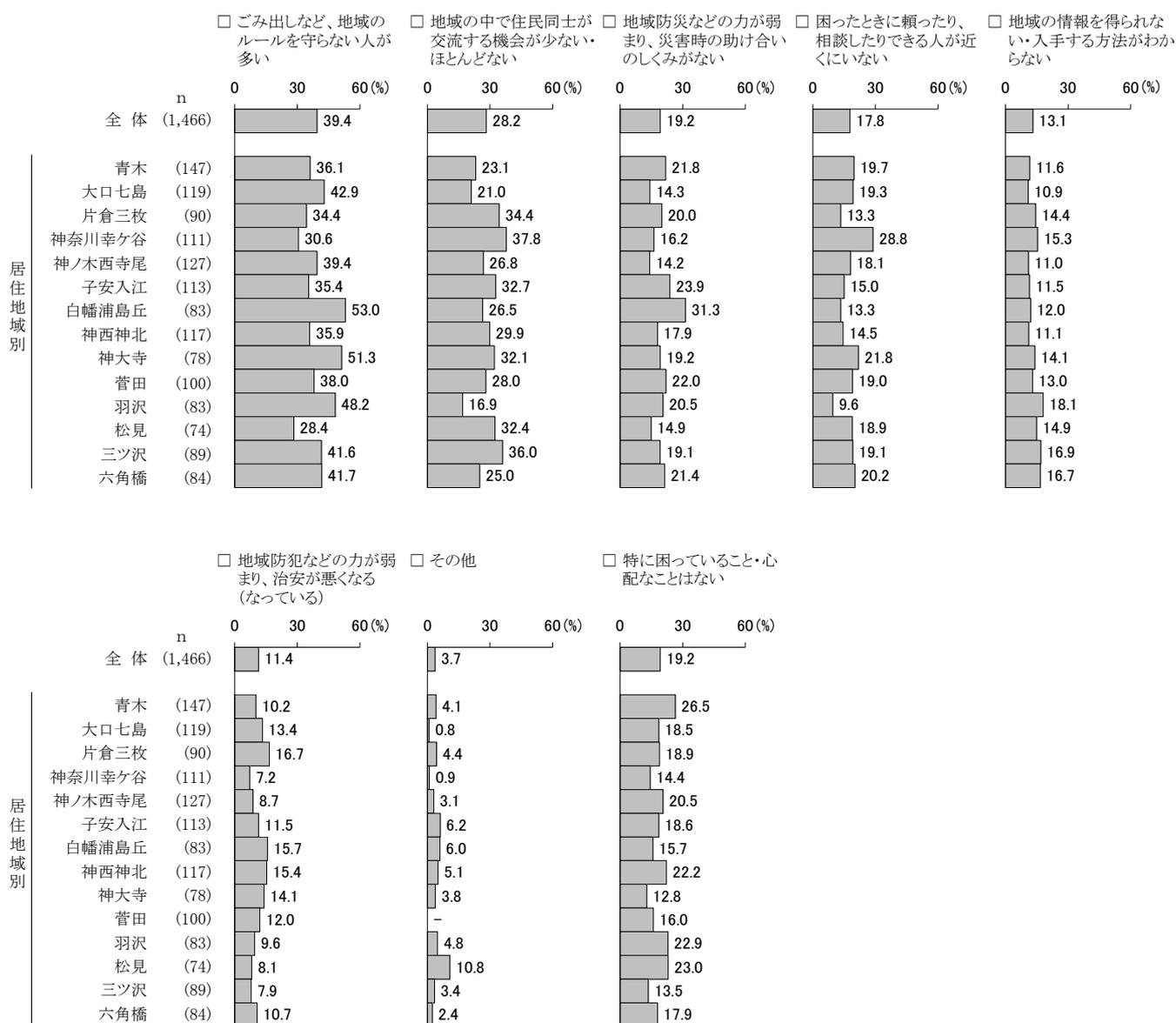
図 地域コミュニティ（地域社会）に関する困りごと・心配ごと [性別・性／年代別]（複数回答）



※「ごみ出しなど、地域のルールを守らない人が多い」は「ごみ出しのマナーやペットのふんの始末など、地域のルールを守らない人が多い」を略している。

居住地域別では、「ごみ出しのマナーやペットのふんの始末など、地域のルールを守らない人が多い」53.0%、「地域防災などの力が弱まり、災害時の助け合いのしくみがない」31.3%で『白幡浦島丘』がそれぞれ最も高い。「地域の中で住民同士が交流する機会が少ない・ほとんどない」37.8%、「困ったときに頼ったり、相談したりできる人が近くにいない」28.8%で『神奈川幸ヶ谷』がそれぞれ最も高くなっている。「特に困っていること・心配なことはない」は『青木』26.5%が最も高い。

図 地域コミュニティ（地域社会）に関する困りごと・心配ごと [居住地域別] (複数回答)



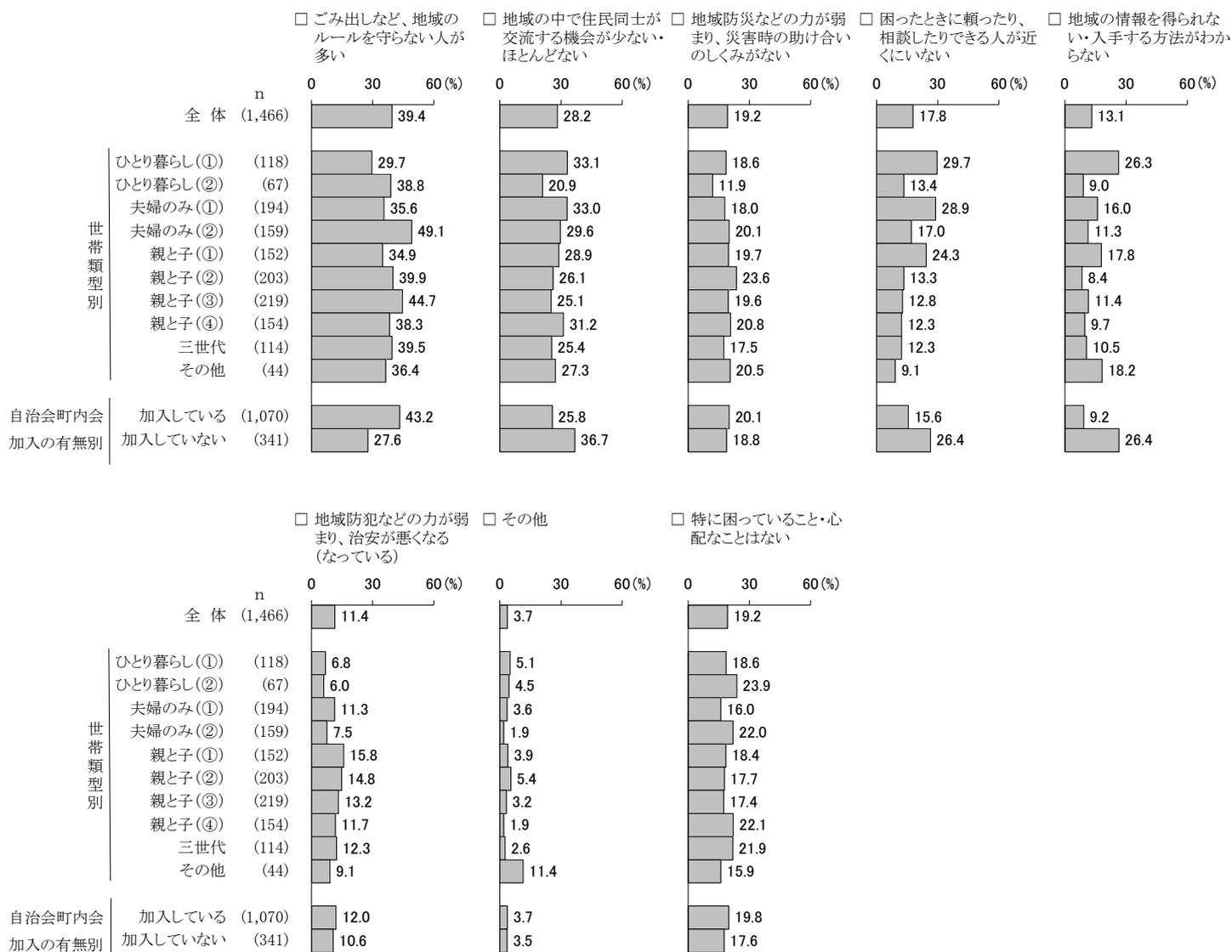
※「ごみ出しなど、地域のルールを守らない人が多い」は「ごみ出しのマナーやペットのふんの始末など、地域のルールを守らない人が多い」を略している。

第2章 調査結果の詳細

世帯類型別では、『ひとり暮らし（本人が65歳未満）』の割合が高い項目が多く、「地域の中で住民同士が交流する機会が少ない・ほとんどない」33.1%、「困ったときに頼ったり、相談したりできる人が近くにいない」29.7%、「地域の情報を得られない・入手する方法がわからない」26.3%となっている。「特に困っていること・心配なことはない」は『ひとり暮らし（本人が65歳以上）』23.9%が最も高い。

自治会町内会への加入の有無別では、「地域の情報を得られない・入手する方法がわからない」が最もポイント差が大きく、『加入していない』が17.2ポイント高い。

図 地域コミュニティ（地域社会）に関する困りごと・心配ごと
 [世帯類型別・自治会町内会加入の有無別]（複数回答）



※「□ごみ出しなど、地域のルールを守らない人が多い」は「□ごみ出しのマナーやペットのふんの始末など、地域のルールを守らない人が多い」を略している。

※世帯類型

- ひとり暮らし (①) 本人が65歳未満
- ひとり暮らし (②) 本人が65歳以上
- 夫婦のみ (①) 本人及び構成員が65歳未満
- 夫婦のみ (②) 本人もしくは構成員が65歳以上
- 親と子 (①) 構成員に未就学児含む
- 親と子 (②) 構成員に学齢期含む (小～大)
- 親と子 (③) 本人もしくは構成員に65歳以上含む
- 親と子 (④) その他

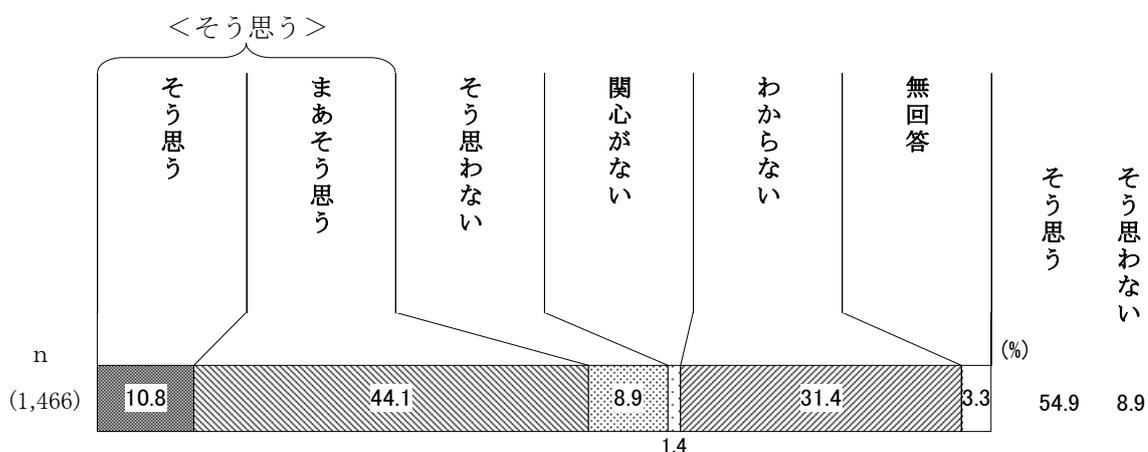
5. 青少年（中学生・高校生世代）について

(1) 神奈川区が青少年に安心・安全で暮らしやすいまちか

問13 あなたは、神奈川区が青少年にとって安心・安全で暮らしやすいまちだと思いますか。
(○は1つ)

神奈川区が青少年にとって安心・安全で暮らしやすいかについては、「まあそう思う」と「そう思う」を合わせた＜そう思う＞は54.9%で5割台前半。一方「そう思わない」は8.9%、「わからない」が31.4%で3割台前半となっている。

図 神奈川区が青少年に安心・安全で暮らしやすいまちか [全体]

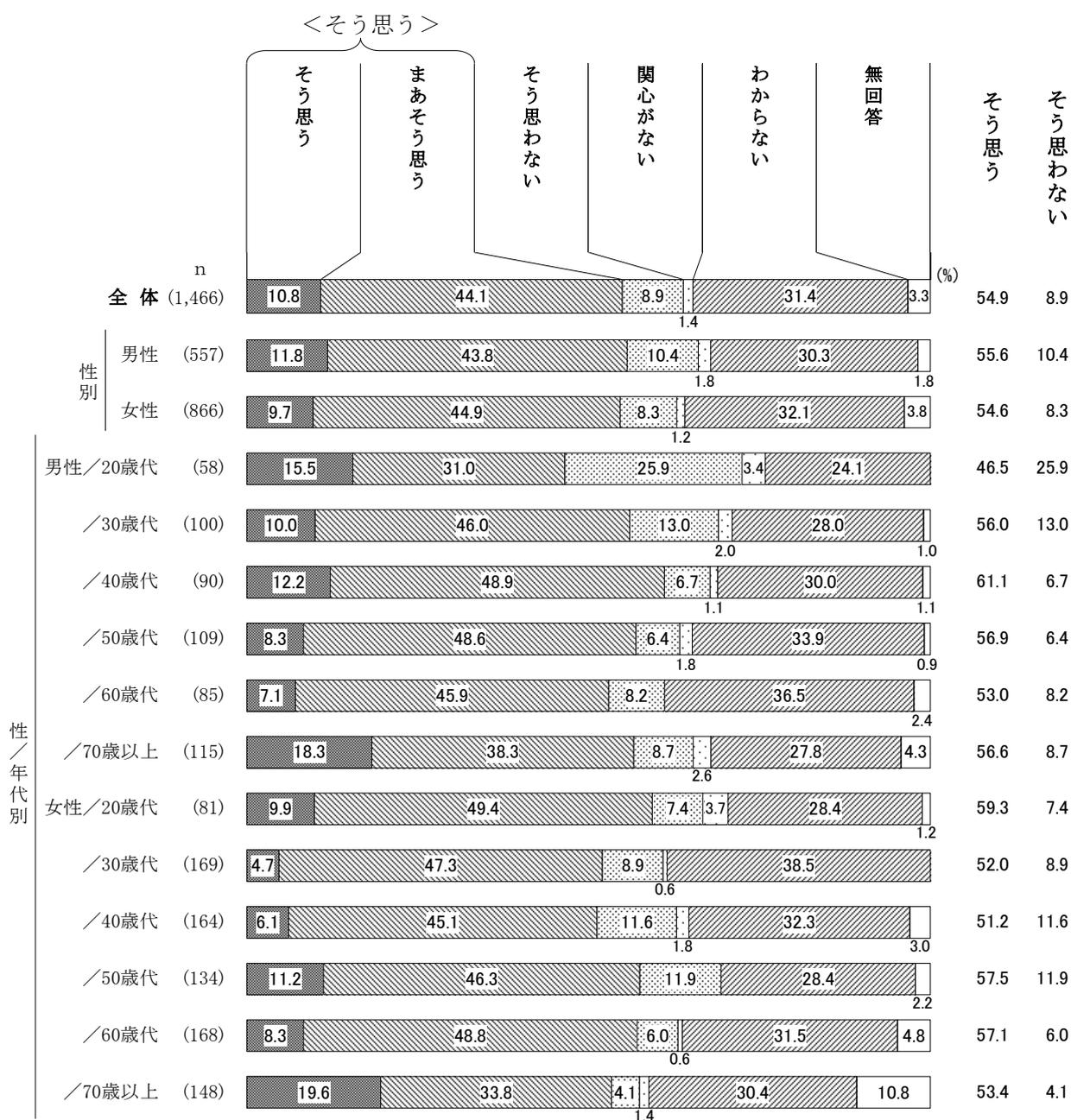


■ 神奈川区が青少年に安心・安全で暮らしやすいまちか [性別・性/年代別・居住地域別]

性別でみると、<そう思う>は男性55.6%、女性54.6%で差はほとんどない。「そう思わない」は男性10.4%、女性8.3%で男性が2.1ポイント高い。

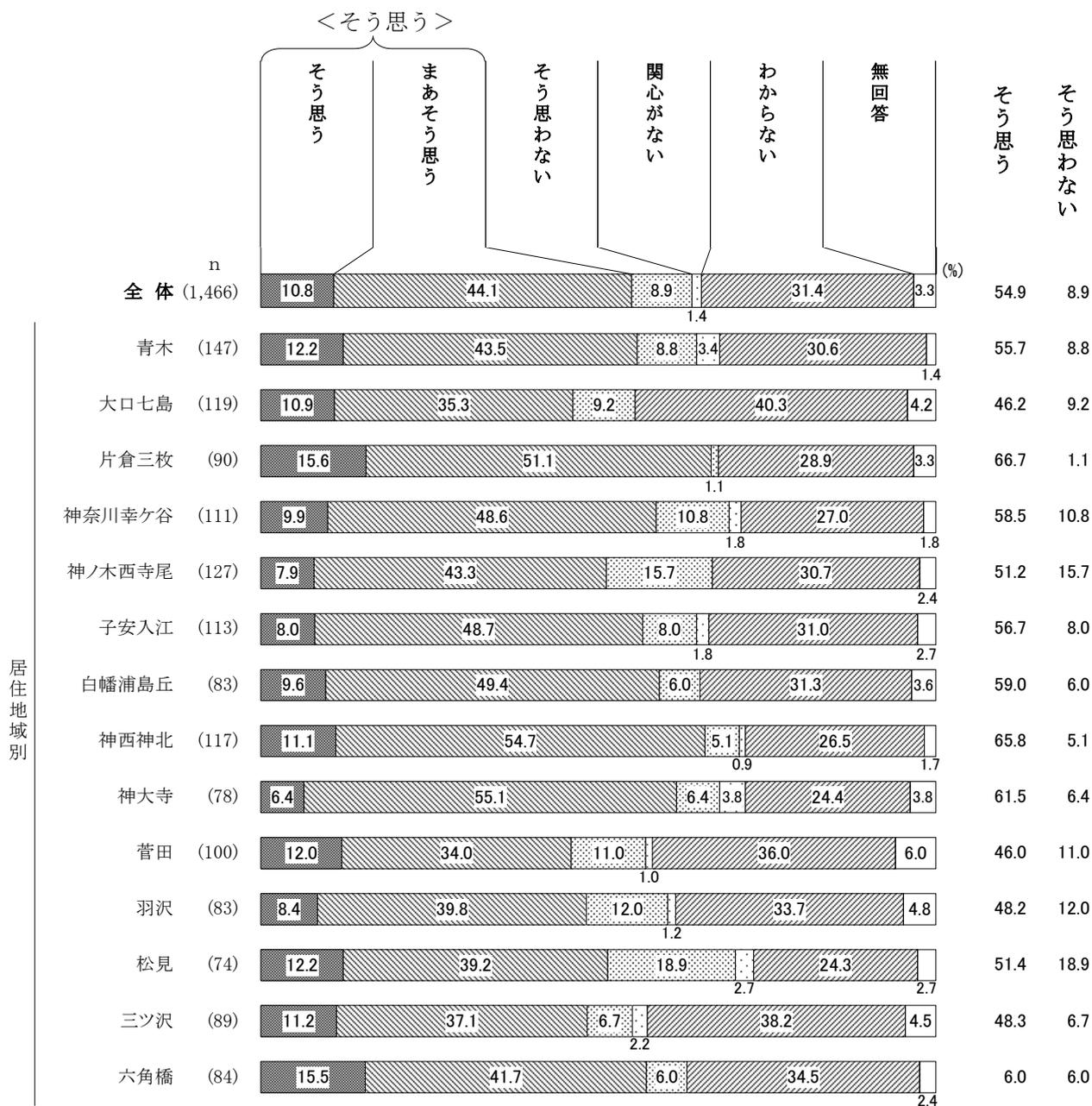
性/年代別でみると、<そう思う>は『男性/20歳代』を除くすべての年代で5割を超えており、『男性/40歳代』が61.1%で最も高く、女性は『女性/20歳代』59.3%が最も高い。一方、「そう思わない」は『男性/20歳代』が25.9%で最も高く、『男性/30歳代』13.0%、『女性/50歳代』11.9%となっている。

図 神奈川区が青少年に安心・安全で暮らしやすいまちか [性別・性/年代別]



居住地域別では、＜そう思う＞は『片倉三枚』が66.7%で最も高く、次いで『神西神北』65.8%となっている。「そう思わない」は『松見』が18.9%で最も高く、次いで『神ノ木西寺尾』が15.7%となっている。

図 神奈川区が青少年に安心・安全で暮らしやすいまちか〔居住地域別〕

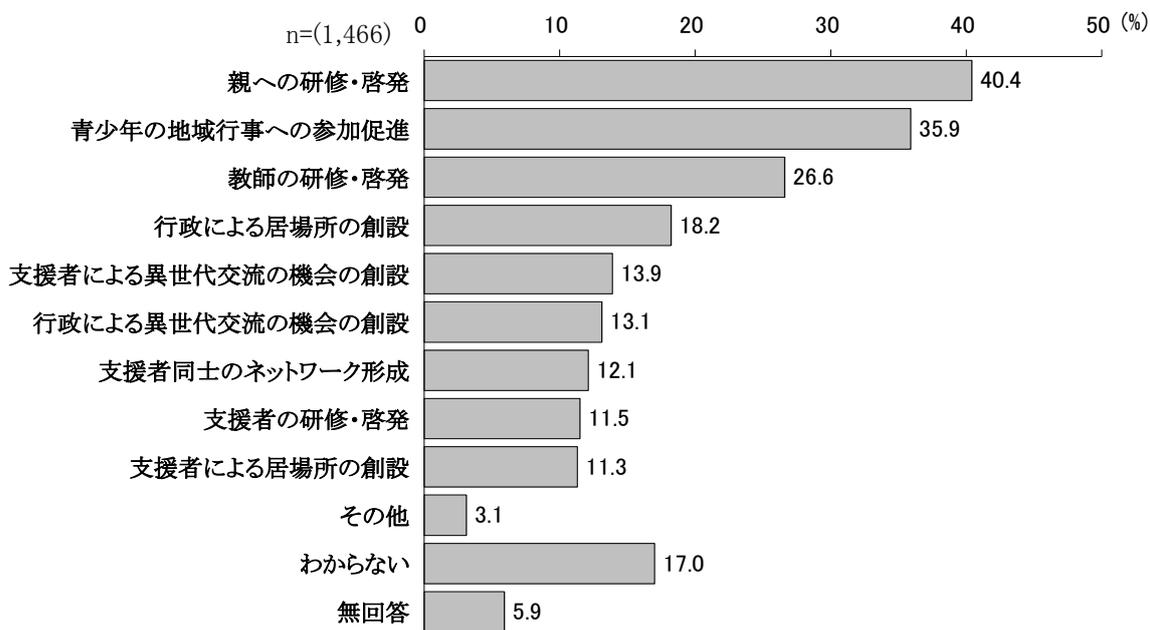


(2) 神奈川区の青少年が健やかに育つために「何をすべき」か

問14 あなたは、神奈川区の青少年が健やかに育つためには「何をすべき」だと思いますか。
(〇はいくつでも)

神奈川区の青少年が健やかに育つためには「何をすべき」かについては、「親への研修・啓発」が40.4%で約4割、次いで、「青少年の地域行事への参加促進」35.9%、「教師の研修・啓発」26.6%となっている。一方、「わからない」が17.0%である。

図 神奈川区の青少年が健やかに育つために「何をすべき」か [全体] (複数回答)

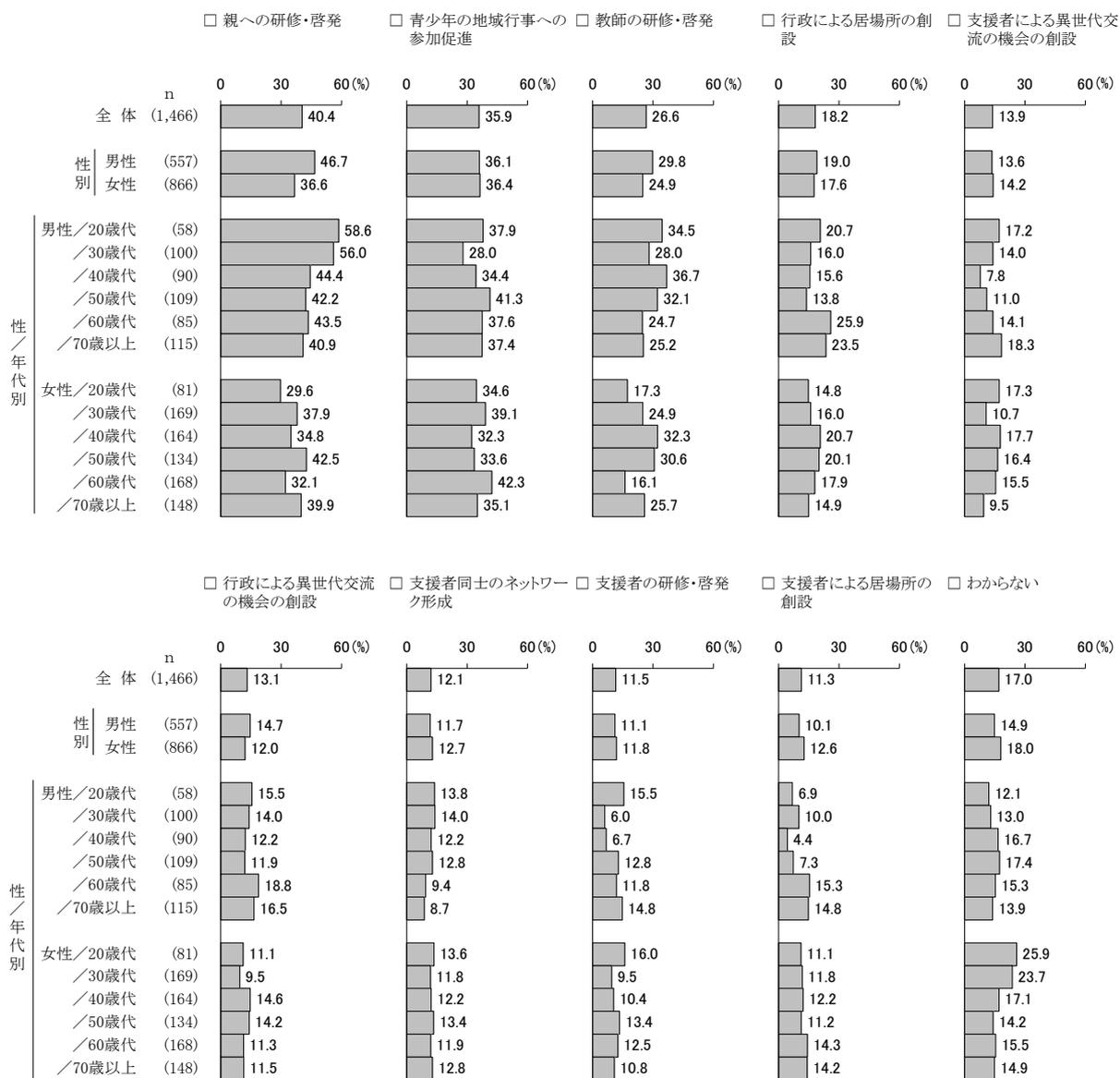


■ 神奈川区の青少年が健やかに育つために「何をすべき」か [性別・性/年代別・世帯類型別]

性別でみると、「親への研修・啓発」は男性46.7%、女性36.6%で10.1ポイント、「教師の研修・啓発」は男性29.8%、女性24.9%で4.9ポイントそれぞれ男性が高い。「青少年の地域行事への参加促進」は女性36.4%、男性36.1%でほとんど差はない。

性/年代別でみると、「親への研修・啓発」は男性では20歳代、30歳代が5割台と高く、40歳代以上は4割台と低くなっている。女性では、50歳代が42.5%と最も高い。「青少年の地域行事への参加促進」は男性50歳代、女性60歳代で4割台と高く、男性30歳代で2割台と低くなっている。

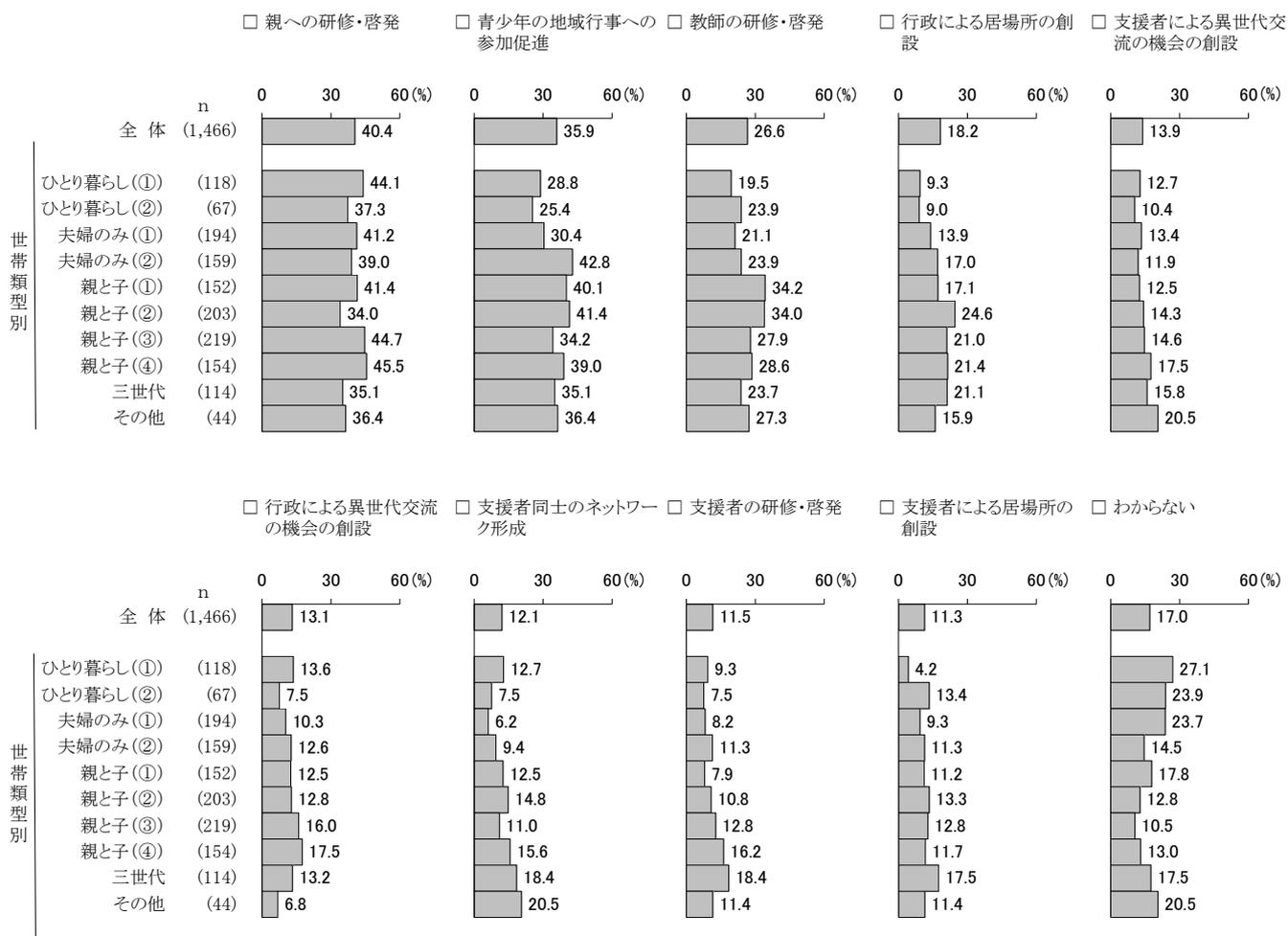
図 神奈川区の青少年が健やかに育つために「何をすべき」か [性別・性/年代別] (複数回答)



第2章 調査結果の詳細

世帯類型別でみると、「親への研修・啓発」は『親子（その他）』が45.5%と最も高い。「青少年の地域行事への参加促進」は『夫婦のみ（本人もしくは構成員が65歳以上）』が42.8%で最も高い。「教師の研修・啓発」は『親子（構成員に未就学児含む）』と『親子（構成員に学齢期含む（小～大））』が3割台と他の世帯類型より高くなっている。

図 神奈川県の青少年が健やかに育つために「何をすべき」か〔世帯類型別〕（複数回答）



※世帯類型

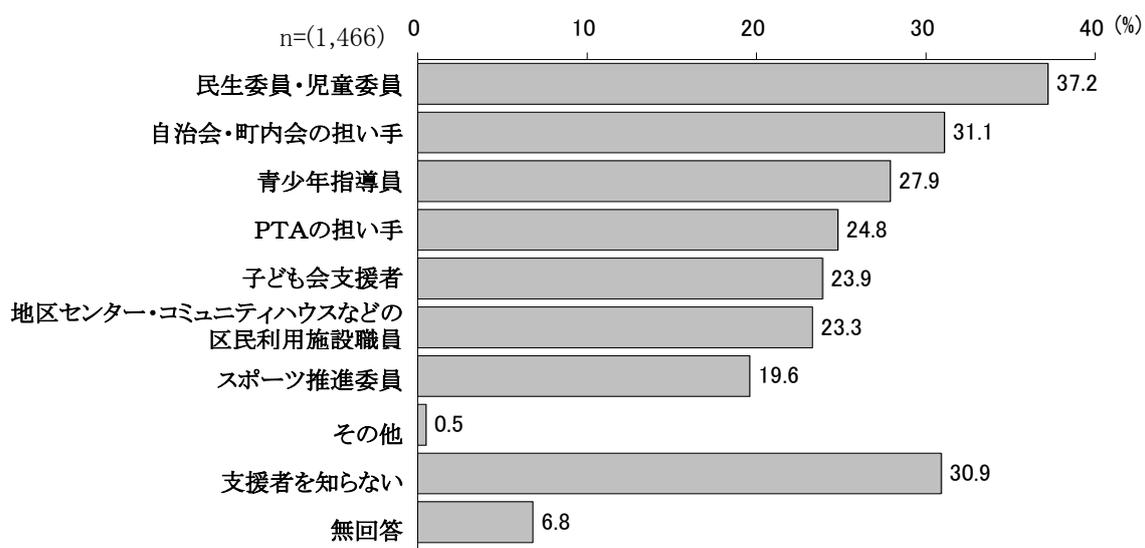
- ひとり暮らし (①) 本人が65歳未満
- ひとり暮らし (②) 本人が65歳以上
- 夫婦のみ (①) 本人及び構成員が65歳未満
- 夫婦のみ (②) 本人もしくは構成員が65歳以上
- 親子 (①) 構成員に未就学児含む
- 親子 (②) 構成員に学齢期含む（小～大）
- 親子 (③) 本人もしくは構成員に65歳以上含む
- 親子 (④) その他

(3) 青少年育成支援者の活動内容について知っているもの

問15 青少年の育成に関わる支援者について、あなたが活動内容を知っているものは何ですか。(〇はいくつでも)

青少年の育成に関わる支援者について、活動内容を知っているものは「民生委員・児童委員」37.2%、「自治会・町内会の担い手」31.1%、「青少年指導員」27.9%と続いている。一方、「支援者を知らない」が30.9%で約3割となっている。

図 青少年育成支援者の活動内容について知っているもの [全体] (複数回答)

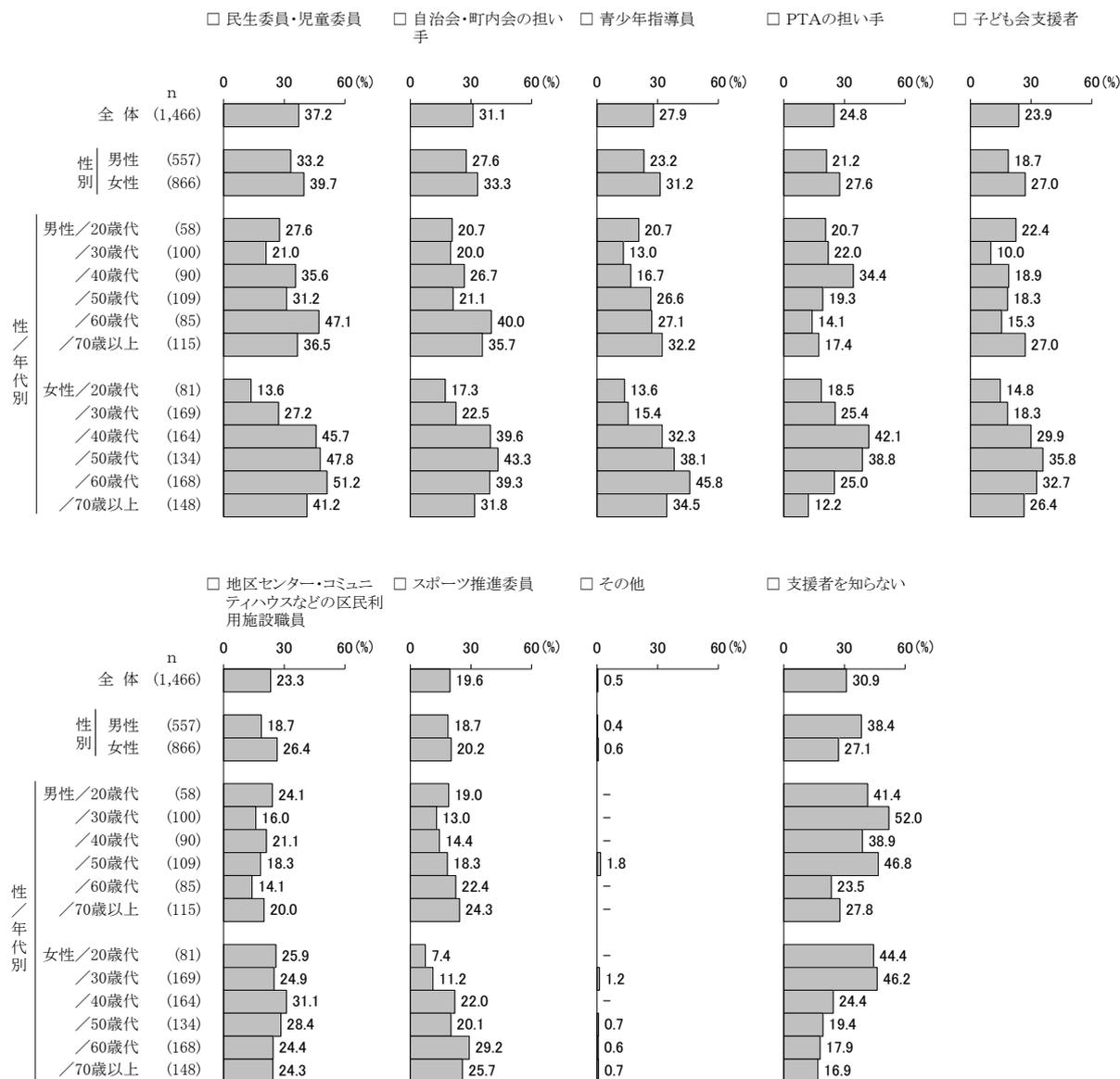


■ 青少年育成支援者の活動内容について知っているもの [性別・性/年代別]

性別でみると、「民生委員・児童委員」は女性39.7%、男性33.2%で6.5ポイント、「自治会・町内会の担い手」は女性33.3%、男性27.6%で5.7ポイント、「青少年指導員」は女性31.2%、男性23.2%で8.0ポイントそれぞれ女性の割合が高い。一方、「支援者を知らない」は男性38.4%、女性27.1%で11.3ポイント男性が高い。

性/年代別でみると、「民生委員・児童委員」は女性40歳代以上で4割を超えて高く、『女性/60歳代』は51.2%で最も高い。男性は年代によりばらつきがあり、『男性/60歳代』が47.1%で最も高い。「自治会・町内会の担い手」は、女性40歳代以上で3割を超えており、『女性/50歳代』が43.3%で最も高い。男性では20歳代から50歳代までは2割台と低く、『男性/60歳代』40.0%が最も高い。「支援者を知らない」は男性20歳代、30歳代、50歳代、女性20歳代、30歳代で4割を超えており、『男性/30歳代』が52.0%で最も高い。

図 青少年育成支援者の活動内容について知っているもの [性別・性/年代別] (複数回答)



(4) 青少年の放課後の居場所

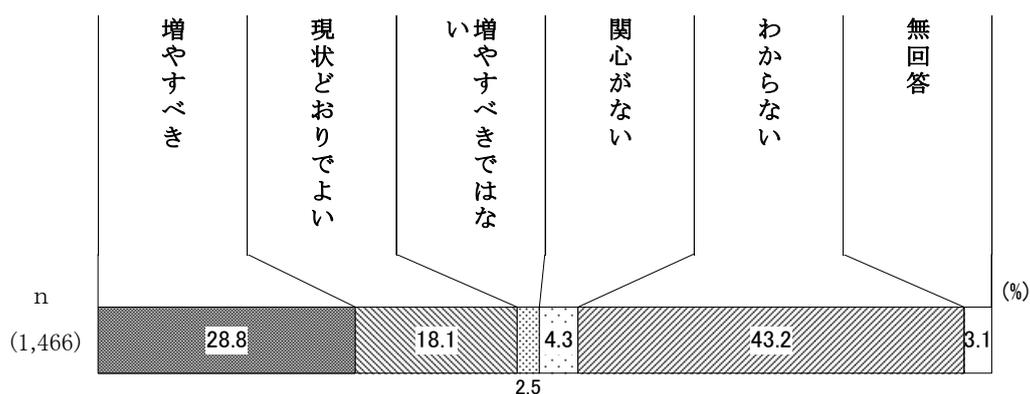
問16 あなたは、青少年の放課後の居場所についてどのように感じていますか。

- ① 放課後の居場所の今後のあり方について。(〇は1つ)
- ② ①で「1 増やすべき」と答えた方におたずねします。
その理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)
- ③ ①で「3 増やすべきではない」と答えた方におたずねします。
その理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)
- ④ 放課後の居場所とするのにふさわしいと考える場所はどこですか。(〇はいくつでも)
- ⑤ 神大寺地区センターの青少年地域活動拠点について。(〇は1つ)

① 放課後の居場所の今後のあり方

「増やすべき」が28.8%、2割台後半である。一方、「現状どおりでよい」18.1%、「増やすべきではない」は2.5%となっている。また、「わからない」が43.2%、4割台前半で最も高い。

図 放課後の居場所の今後のあり方 [全体]

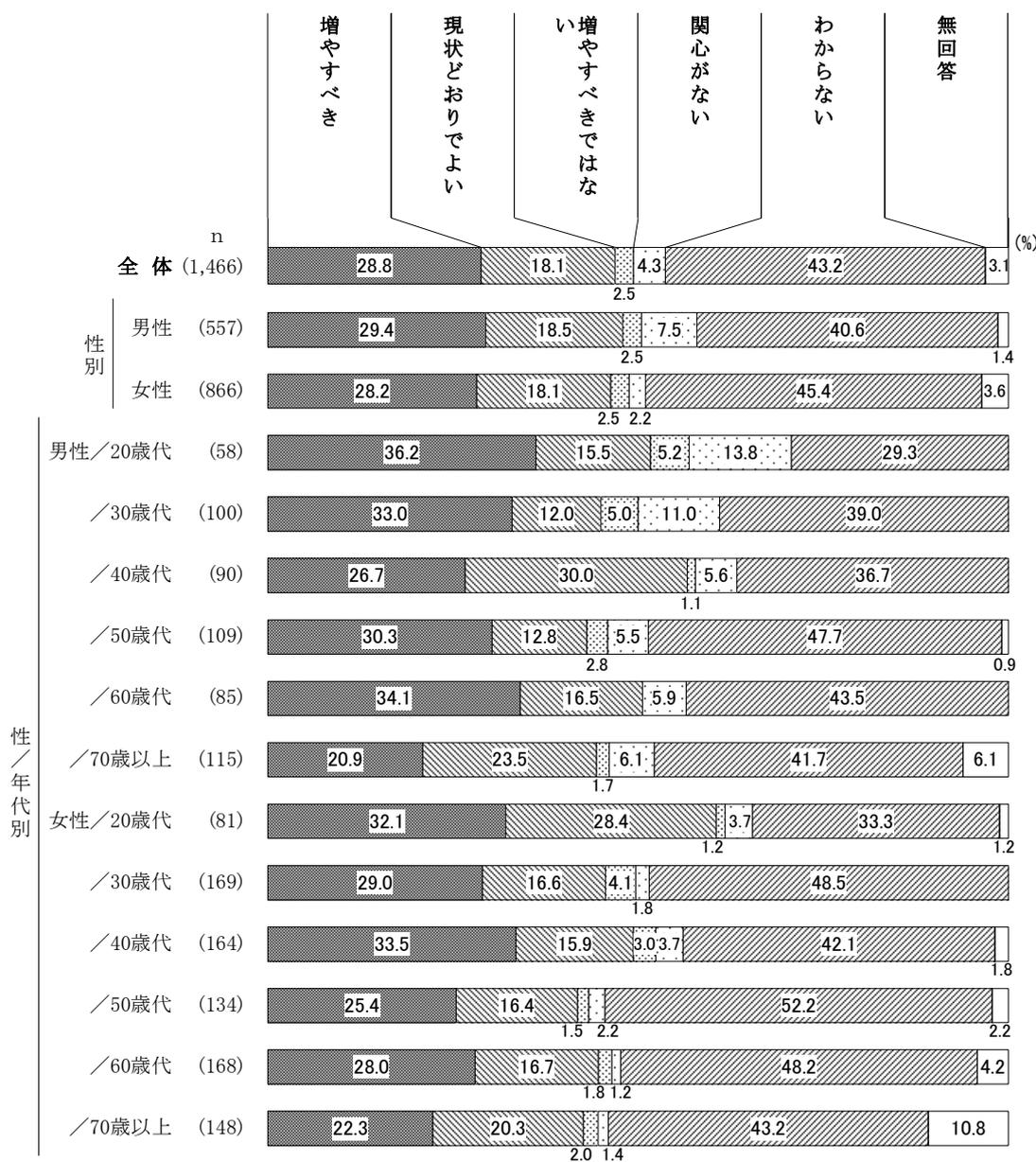


■ 放課後の居場所の今後のあり方 [性別・性/年代別]

性別でみると、「増やすべき」、「現状どおりでよい」は性別による差はほとんどなく、「増やすべきではない」、「関心がない」、「わからない」は、男性、女性とも2.5%の同率となっている。「関心がない」は男性7.5%、女性2.2%で5.3ポイント男性が高く、「わからない」は女性45.4%、男性40.6%で4.8ポイント女性が高い。

性/年代別でみると、「増やすべき」は男性では40歳代、70歳以上で2割台、他の年代は3割台で、『男性/20歳代』が36.2%で高い。女性では20歳代、40歳代で3割を超え、『女性/40歳代』33.5%と高くなっている。「現状どおりでよい」は『男性/40歳代』30.0%で最も高く、『女性/20歳代』が28.4%となっている。「増やすべきではない」は、男性の20歳代、30歳代で5.0%台、その他の年代は5.0%未満で低い。「関心がない」は男性の20歳代、30歳代で1割台、その他の年代は1割未満で低くなっている。「わからない」は『女性/50歳代』52.2%で最も高く、男性は『男性/50歳代』47.7%が最も高い。

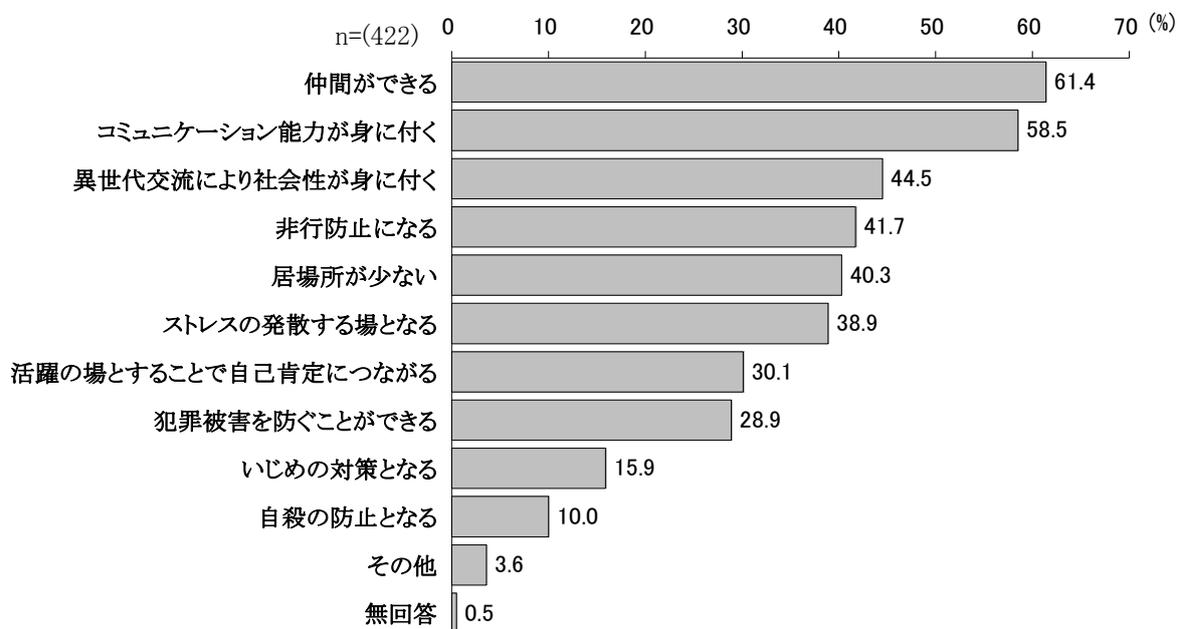
図 放課後の居場所の今後のあり方 [性別・性/年代別]



②放課後の居場所を増やすべき理由

「仲間ができる」が61.4%、「コミュニケーション能力が身に付く」58.5%、「異世代交流により社会性が身につく」44.5%となっている。

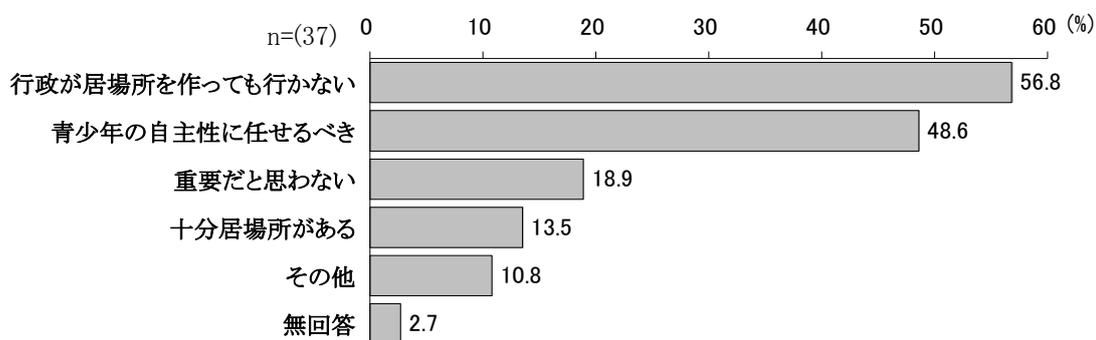
図 放課後の居場所を増やすべき理由 [全体] (複数回答)



③放課後の居場所を「増やすべきではない」理由

「行政が居場所を作っても行かない」が56.8%で最も高く、次いで「青少年の自主性に任せるべき」48.6%となっている。

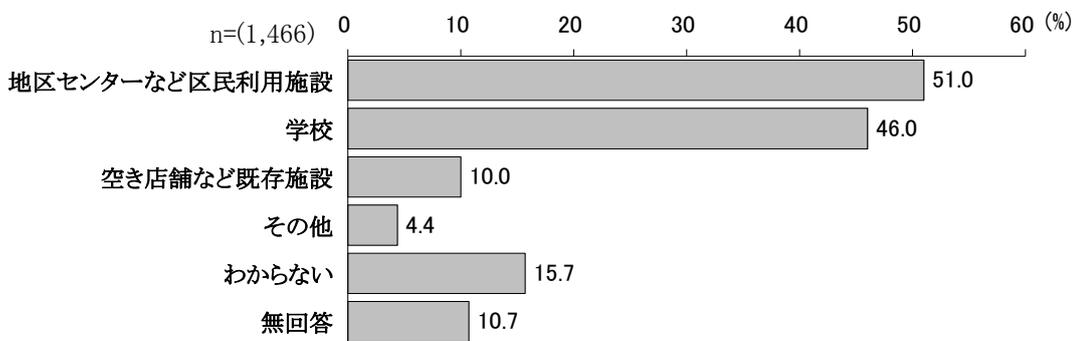
図 放課後の居場所を「増やすべきではない」理由 [全体] (複数回答)



④放課後の居場所としてふさわしい場所

「地区センターなど区民利用施設」51.0%、「学校」46.0%となっている。「その他」では、「家、家庭、自宅」「公園」の回答が多くみられた。一方、「わからない」が15.7%となっている。

図 放課後の居場所としてふさわしい場所 [全体] (複数回答)

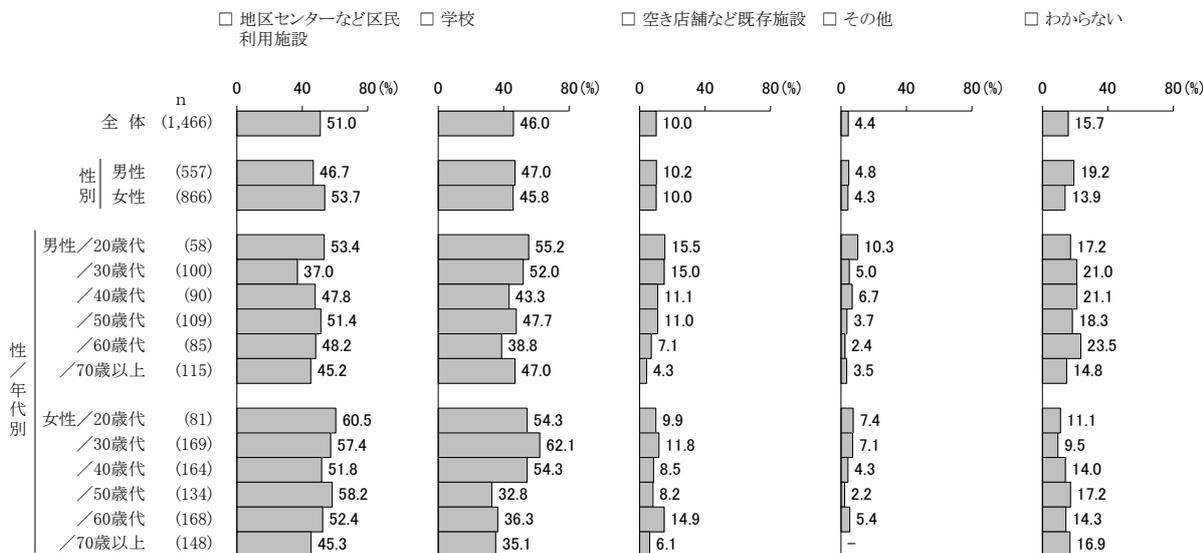


■ 放課後の居場所としてふさわしい場所 [性別・性/年代別]

性別で見ると、「地区センターなど区民利用施設」は女性53.7%、男性46.7%で女性が7.0ポイント高く、「学校」は男性47.0%、女性45.8%で男性が1.2ポイント高い。

性/年代別で見ると、「地区センターなど区民利用施設」はすべての年代で女性の割合が高く、20歳代で60.5%と最も高い。男性では20歳代、50歳代で5割を超えているが、30歳代で37.0%と最も低い。「学校」は女性の20歳代から40歳代で5割を超えており、30歳代では62.1%と最も高いが、50歳代以上では3割台となっている。男性では20歳代、30歳代で5割台で高く、60歳代で3割台と低くなっている。

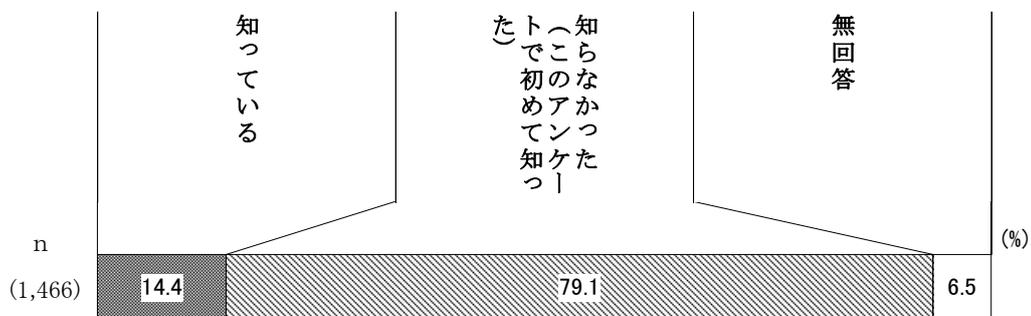
図 放課後の居場所としてふさわしい場所 [性別・性/年代別] (複数回答)



⑤青少年地域活動拠点の認知度

「知っている」は14.4%、「知らなかった（このアンケートで初めて知った）」が79.1%、約8割で青少年地域活動拠点の認知度は高くない。

図 青少年地域活動拠点の認知度 [全体]

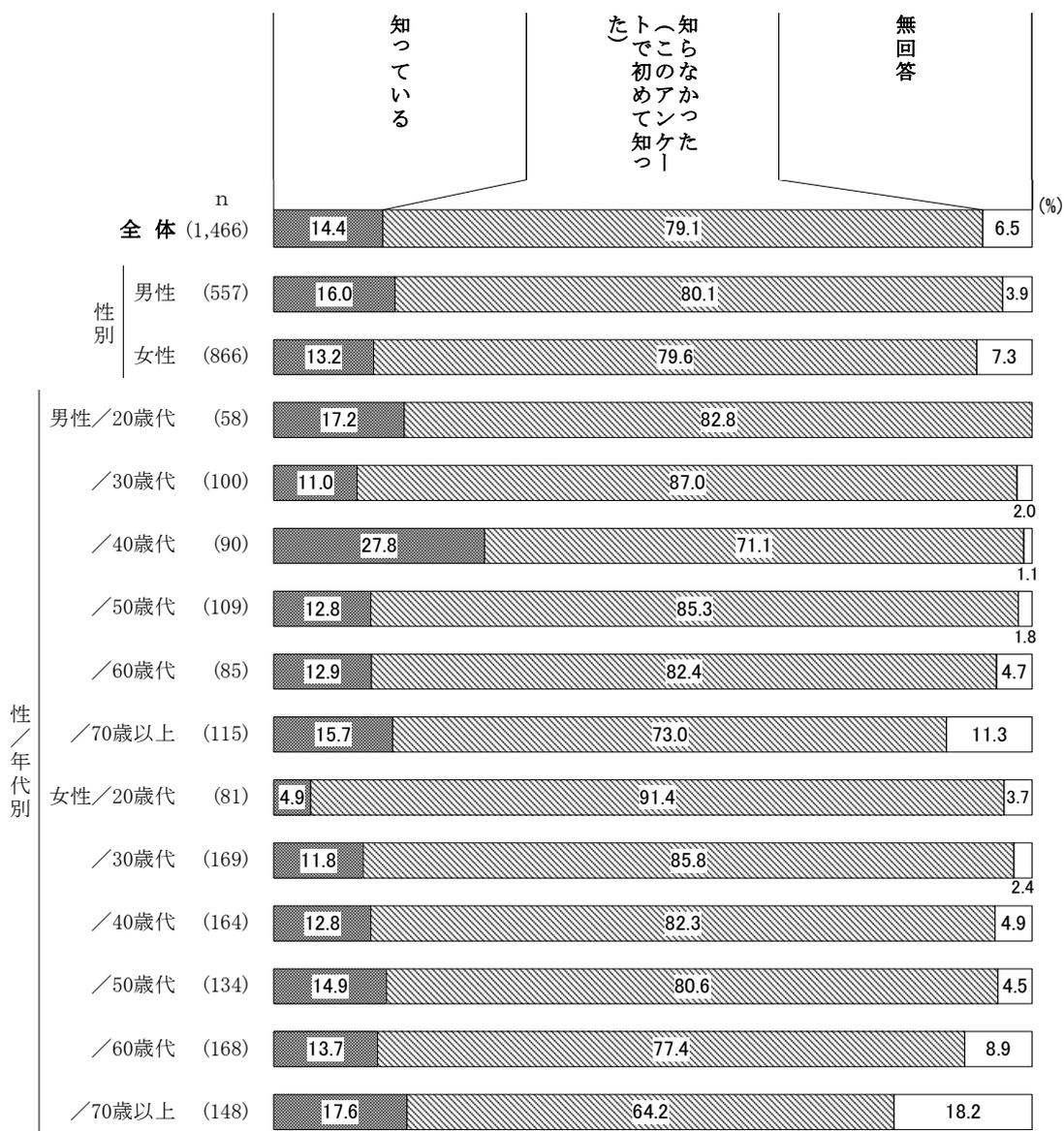


■ 青少年地域活動拠点の認知度 [性別・性/年代別・居住地域別]

性別でみると、「知っている」は男性16.0%、女性13.2%で男性が2.8ポイント高い。「知らなかった（このアンケートで初めて知った）」は男性80.1%、女性79.6%でほとんど差はない。

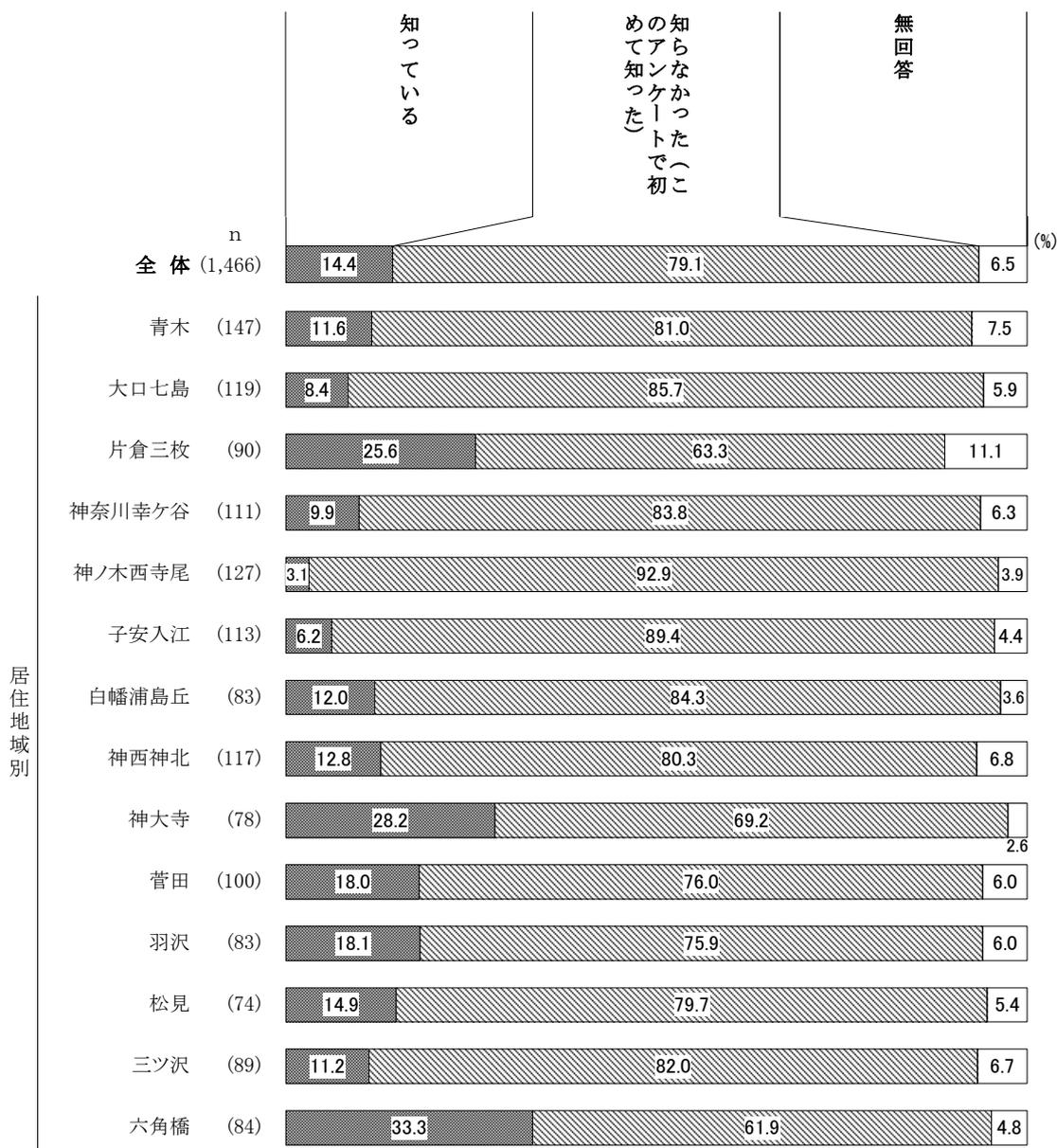
性/年代別でみると、「知っている」は『男性/40歳代』が27.8%で最も高く、次いで『女性/70歳以上』17.6%となっている。「知らなかった（このアンケートで初めて知った）」は『女性/20歳代』が91.4%で最も高くなっている。

図 青少年地域活動拠点の認知度 [性別・性/年代別]



居住地域別では、「知っている」は『六角橋』が33.3%で最も高く、次いで『神大寺』28.2%となっている。「知らなかった（このアンケートで初めて知った）」は『神ノ木西寺尾』が92.9%で最も高くなっている。すべての地域で「知らなかった（このアンケートで初めて知った）」の割合が高い。

図 青少年地域活動拠点の認知度〔居住地域別〕



(5) 異世代交流の機会について

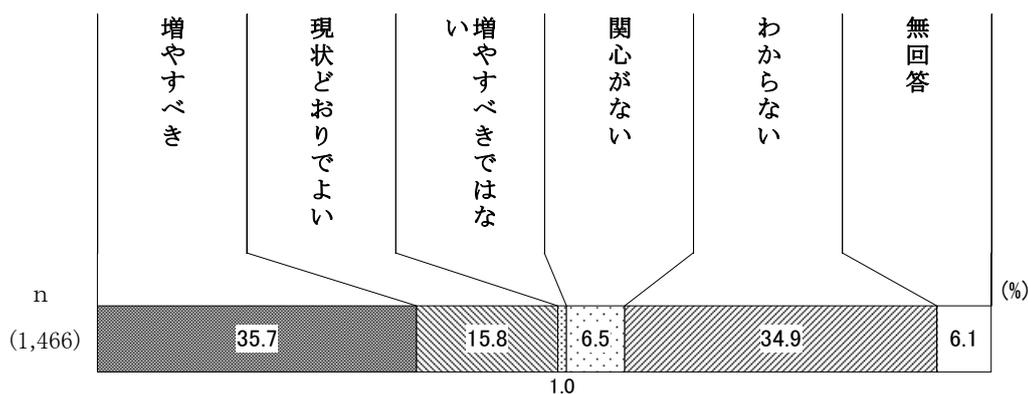
問17 あなたは、異世代交流の機会についてどのように感じていますか。

- ① 異世代交流の機会の今後のあり方について。(〇は1つ)
- ② ①で「1 増やすべき」と答えた方におたずねします。
その理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)
- ③ ①で「3 増やすべきではない」と答えた方におたずねします。
その理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)
- ④ 異世代交流の機会への参加意向。(〇は1つ)

① 異世代交流の機会の今後のあり方

「増やすべき」は35.7%、3割台半ばである。一方、「現状どおりでよい」15.8%、「増やすべきではない」1.0%となっている。また、「わからない」が34.9%、3割台前半となっている。

図 異世代交流の機会の今後のあり方 [全体]

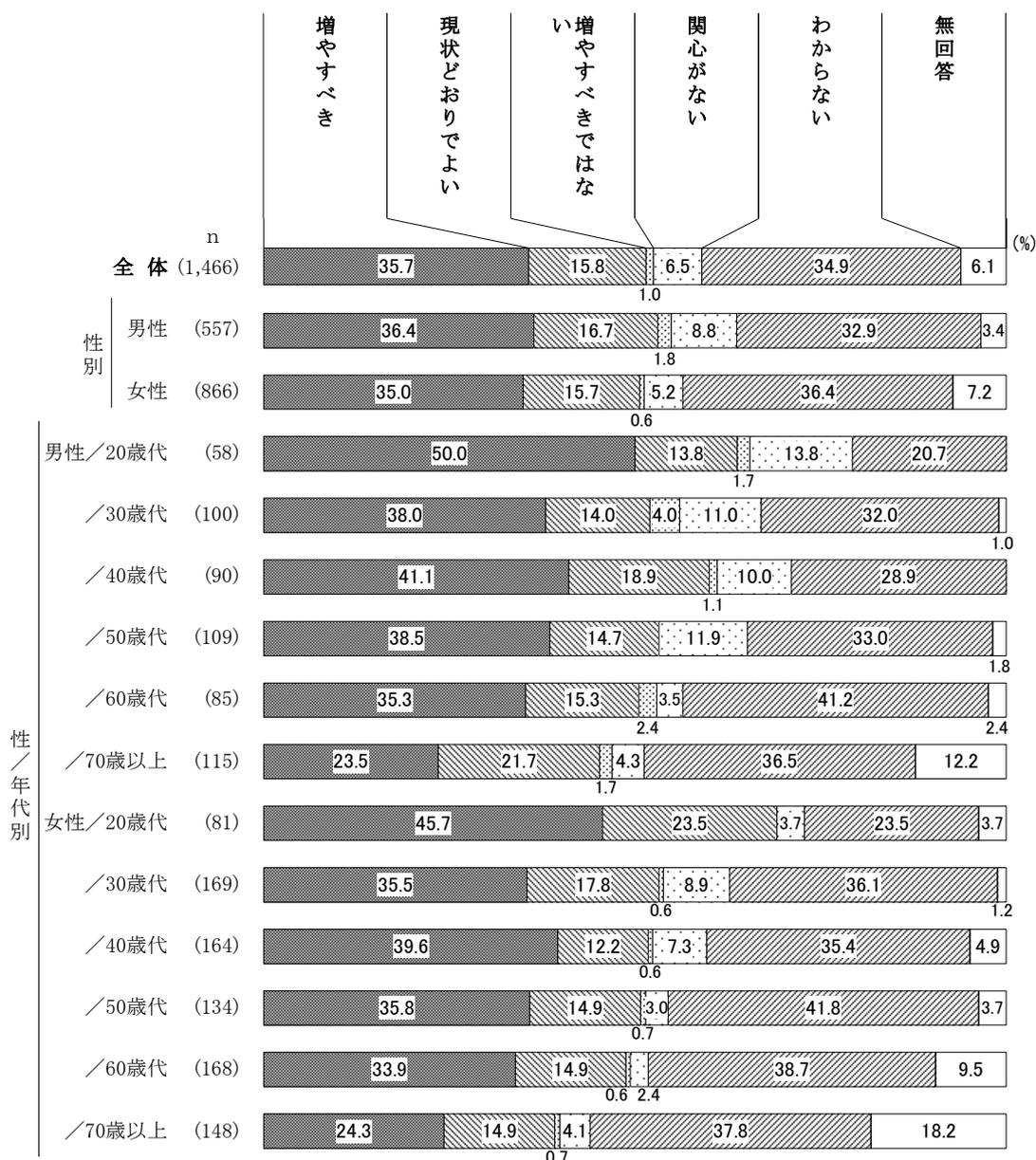


■ 異世代交流の機会の今後のあり方 [性別・性／年代別・居住地域別]

性別でみると、「増やすべき」は男性36.4%、女性35.0%でほとんど差はない。また、「現状どおりでよい」は男性16.7%、女性15.7%、「増やすべきではない」は男性1.8%、女性0.6%となっている。「関心がない」は男性8.8%、女性5.2%で男性が3.6ポイント高い。「わからない」は女性36.4%、男性32.9%で女性が3.5ポイント高い。

性／年代別では、「増やすべき」は男女とも20歳代の割合が高く、男性は5割、女性は4割台半ばとなっている。男女とも70歳以上では2割台と低い。「現状どおりでよい」は女性20歳代が23.5%で最も高く、男性では70歳以上21.7%が最も高い。「増やすべきではない」はすべての年代で低い割合になっている。「関心がない」は男性20歳代から50歳代で1割台となっている。「わからない」は男性60歳代、女性50歳代が4割台前半と高い。

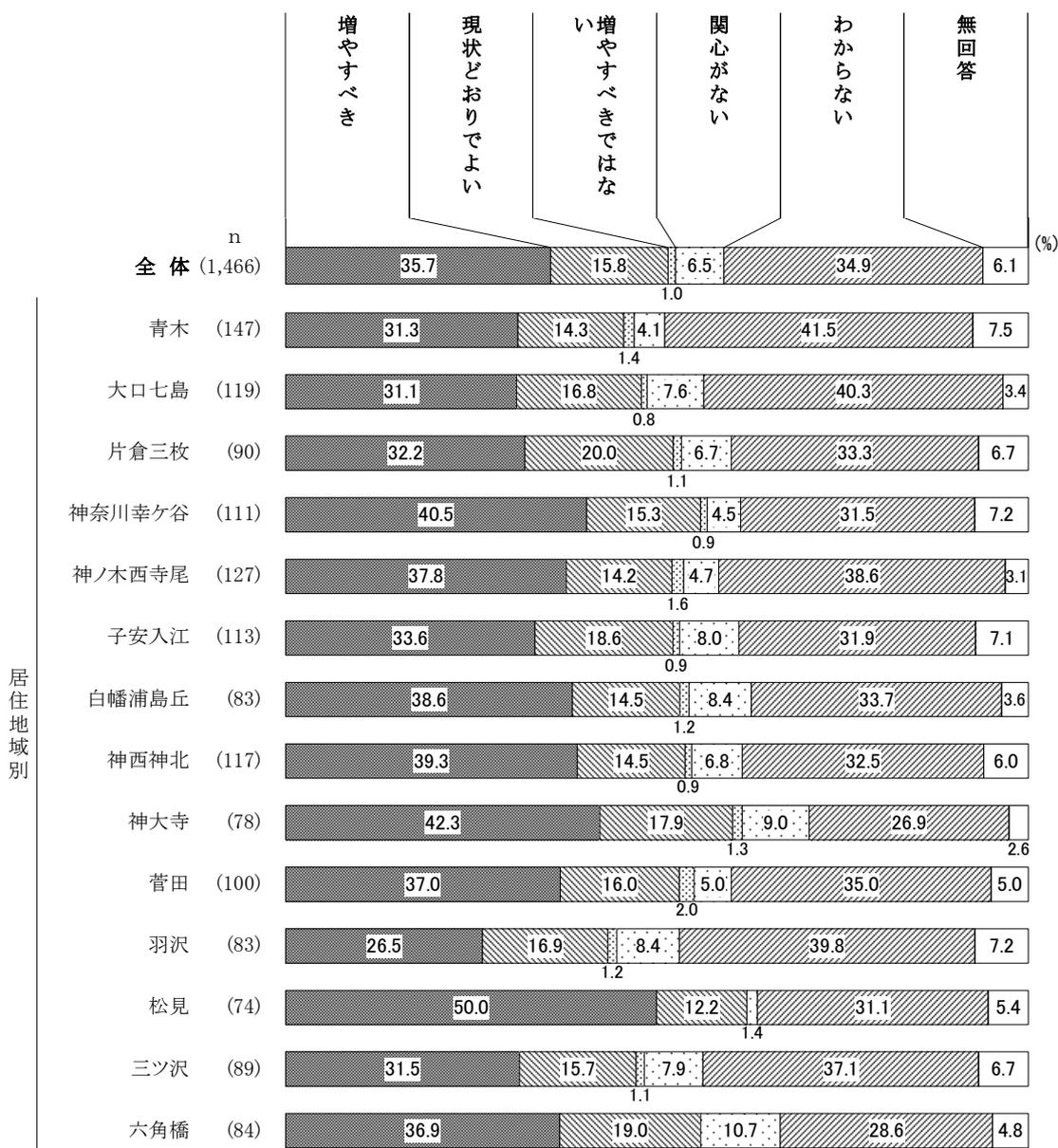
図 異世代交流の機会の今後のあり方 [性別・性／年代別]



第2章 調査結果の詳細

居住地域別では、「増やすべき」は『松見』が50.0%で最も高く、次いで『神大寺』42.3%となっている。「現状どおりでよい」は『片倉三枚』が20.0%で最も高く、『六角橋』19.0%となっている。「関心がない」は『青木』が41.5%と高い。「わからない」は『六角橋』10.7%と高い。「無回答」は『松見』5.4%と低い。

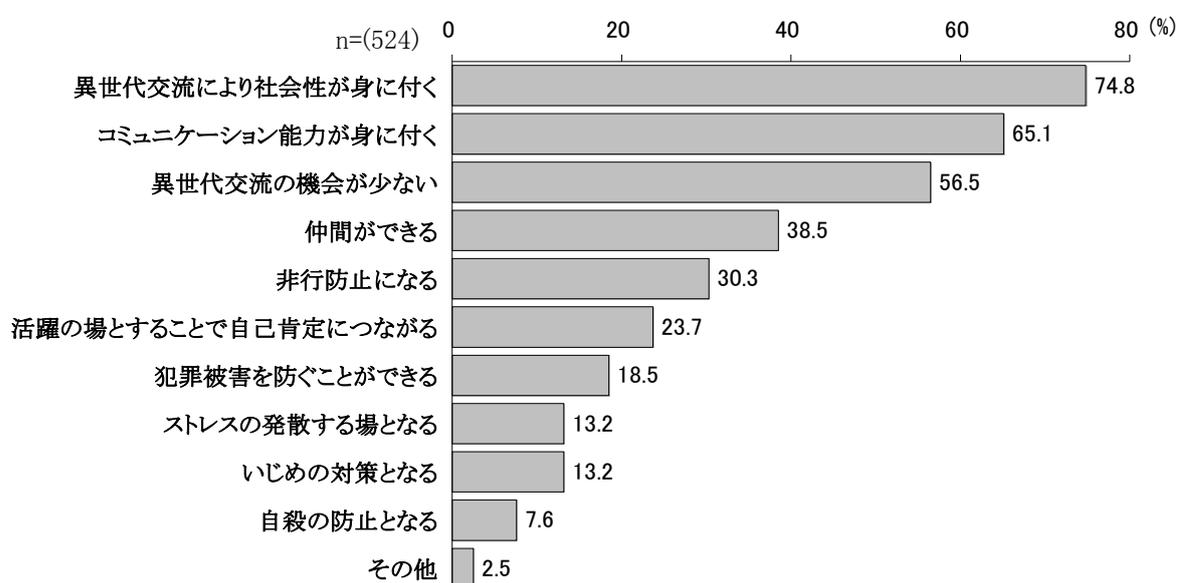
図 異世代交流の機会の今後のあり方〔居住地域別〕



②異世代交流の機会を「増やすべき」理由

「異世代交流により社会性が身に付く」が74.8%、7割台前半で最も高く、次いで「コミュニケーション能力が身に付く」65.1%、「異世代交流の機会が少ない」56.5%と続いている。

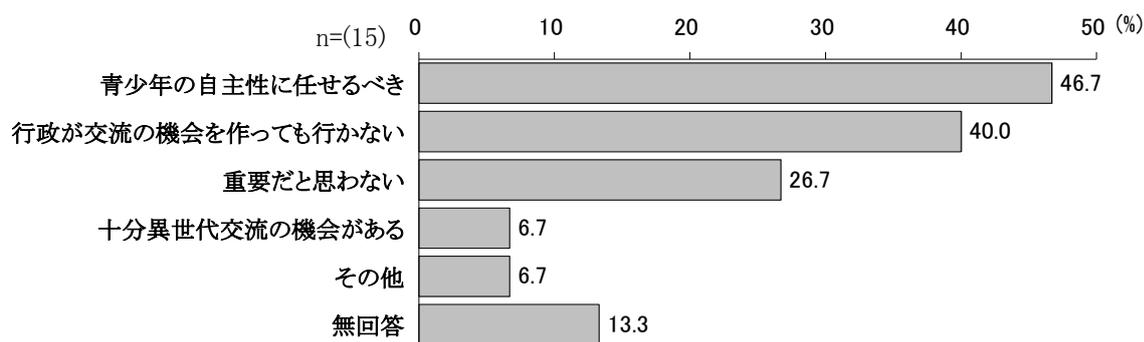
図 異世代交流の機会を「増やすべき」理由 [全体] (複数回答)



③異世代交流の機会を「増やすべきではない」理由

「青少年の自主性に任せるべき」が46.7%で最も高く、次いで「行政が交流の機会を作っても行かない」40.0%となっている。

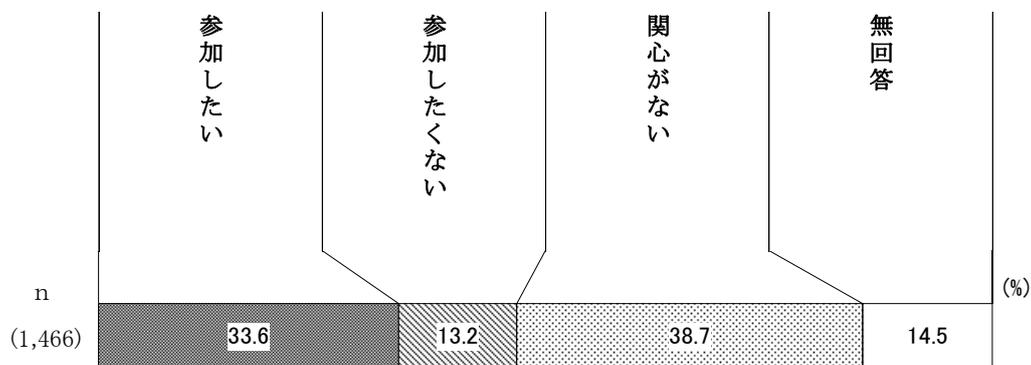
図 異世代交流の機会を「増やすべきではない」理由 [全体] (複数回答)



④異世代交流の機会への参加意向

「参加したい」が33.6%、3割台前半である。一方、「参加したくない」が13.2%となっている。また、「関心がない」が38.7%で最も高い。

図 異世代交流の機会への参加意向 [全体]

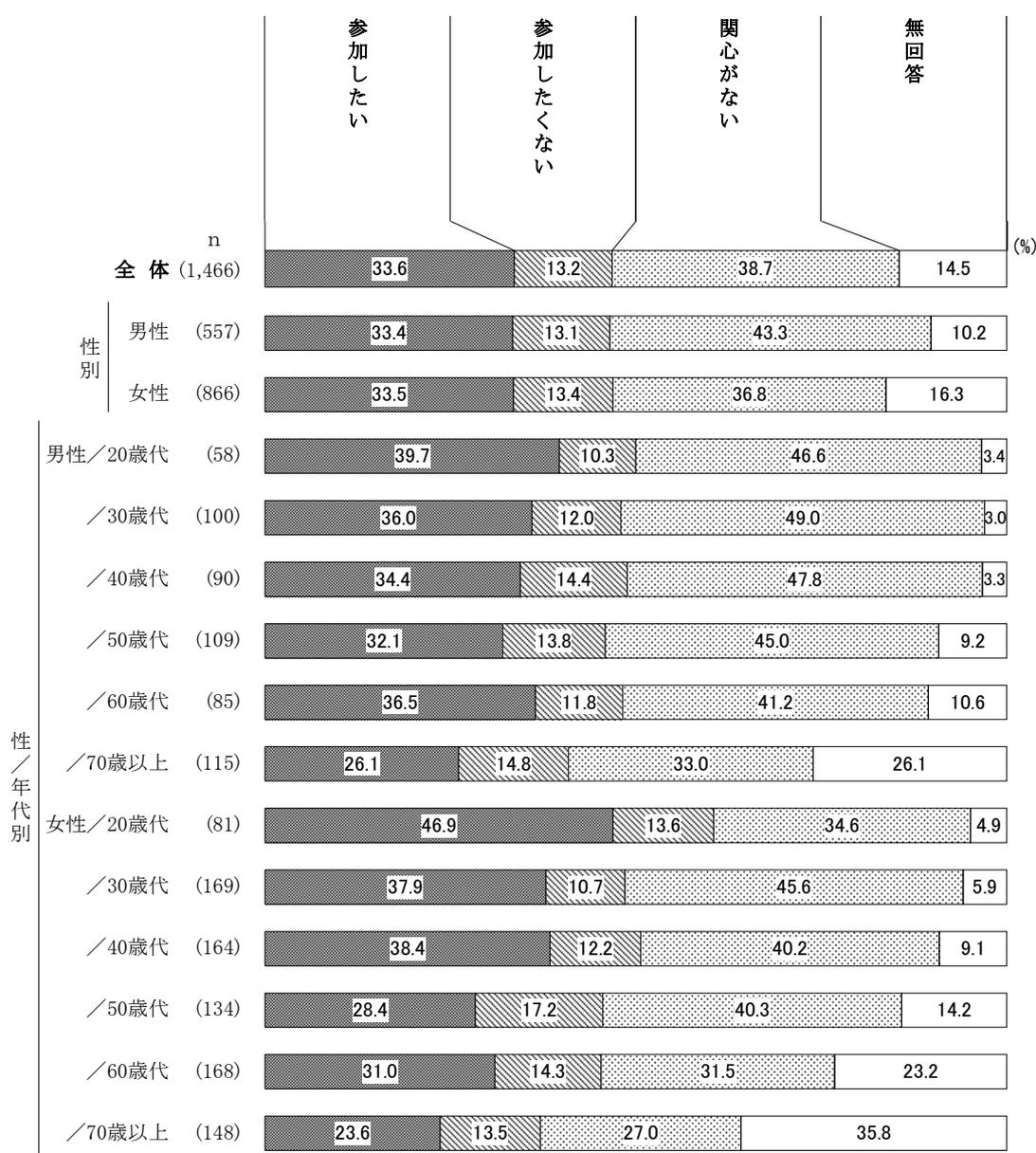


■ 異世代交流の機会への参加意向 [性別・性/年代別・居住地域別]

性別でみると、「参加したい」は女性33.5%、男性33.4%、「参加したくない」は女性13.4%、男性13.1%でほぼ同じ割合となっている。また、「関心がない」は男性43.3%、女性36.8%で男性が6.5ポイント高い。

性/年代別でみると、「参加したい」は女性では20歳代46.9%で最も高く、30歳代、40歳代、60歳代で3割台、50歳代、70歳以上で2割台となっている。男性では70歳以上は2割台、それ以外の年代は3割台となっている。「参加したくない」はすべての年代で1割台となっており、女性50歳代の17.2%が最も高い。「関心がない」は男性の30歳代49.0%が最も高く、女性では30歳代45.6%が最も高い。

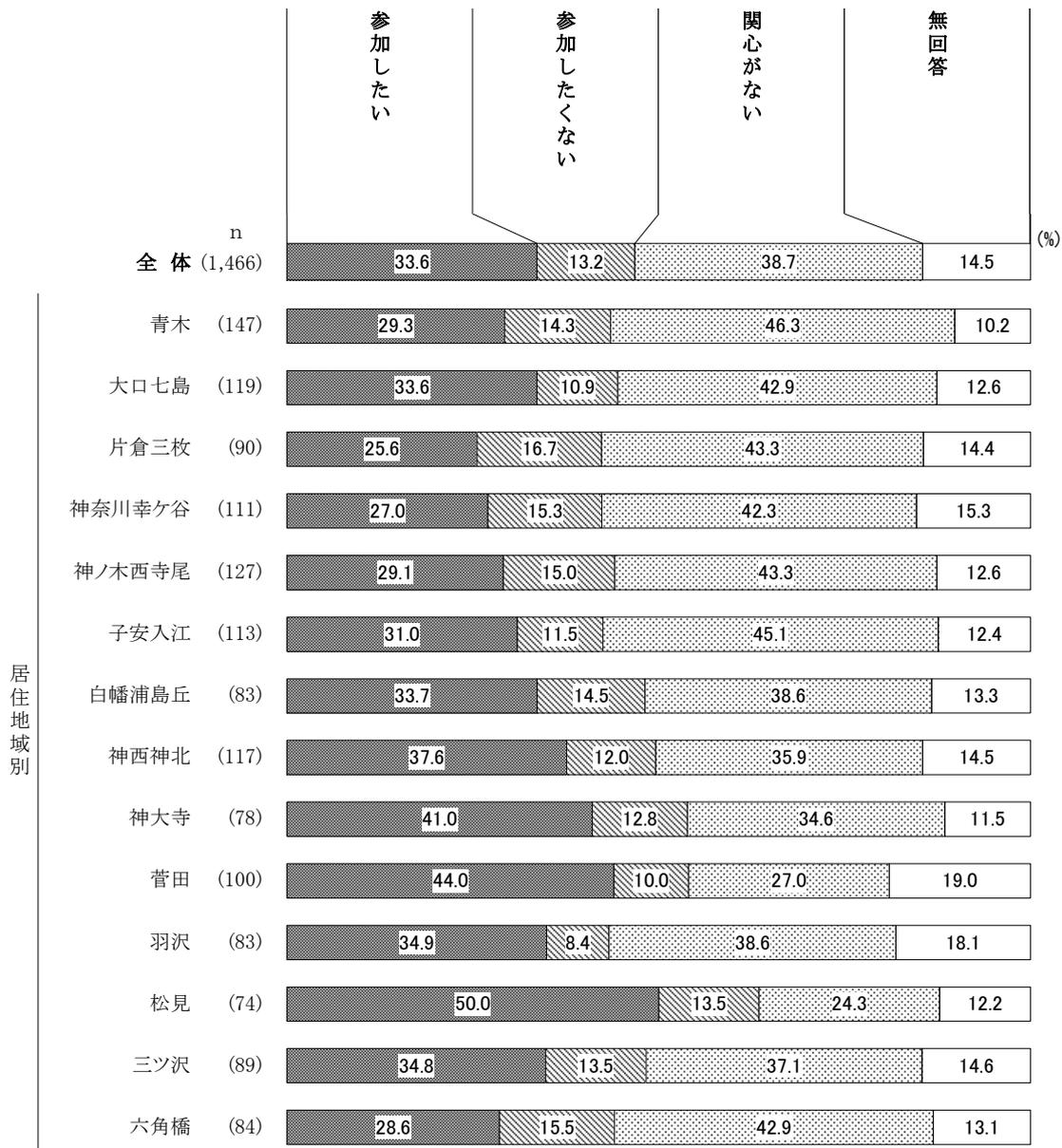
図 異世代交流の機会への参加意向 [性別・性/年代別]



第2章 調査結果の詳細

居住地域別では、「参加したい」は『松見』で50.0%、『菅田』44.0%となっている。「参加したくない」は『片倉三枚』で16.7%となっている。「関心がない」は『青木』の46.3%が最も高い。

図 異世代交流の機会への参加意向 [居住地域別]



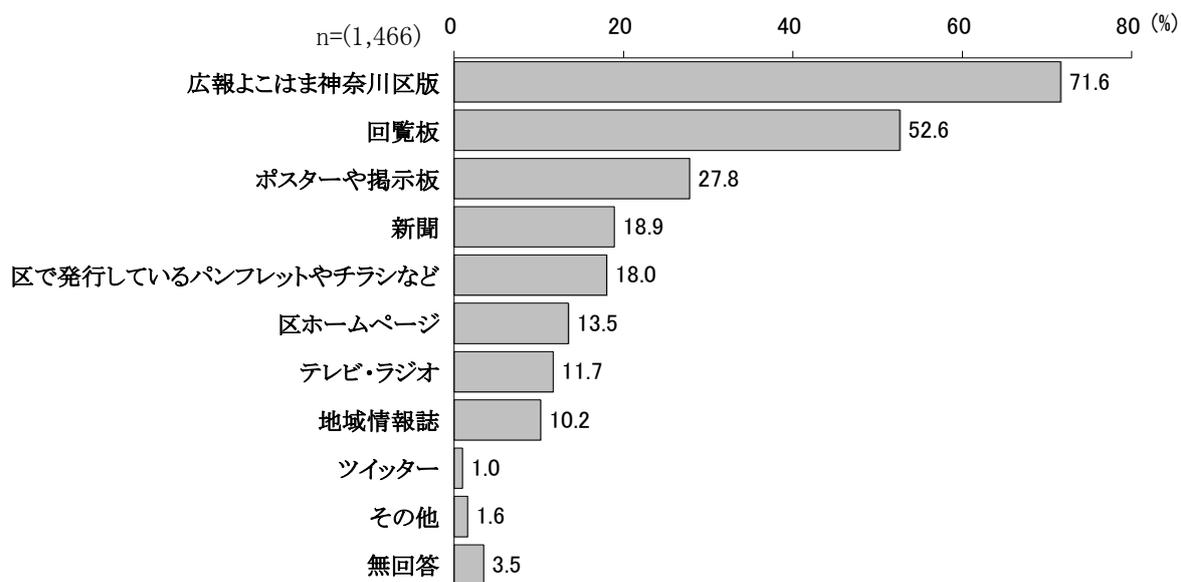
6. 広報・ホームページについて

(1) 区政情報の入手先

問18 あなたは、日頃どのようなものから、各種手続、イベント、施設などの区政の情報を得ていますか。(〇はいくつでも)

区政情報の入手先は、「広報よこはま神奈川区版」が71.6%、7割台前半と最も高く、次いで「回覧板」52.6%となっている。

図 区政情報の入手先 [全体] (複数回答)

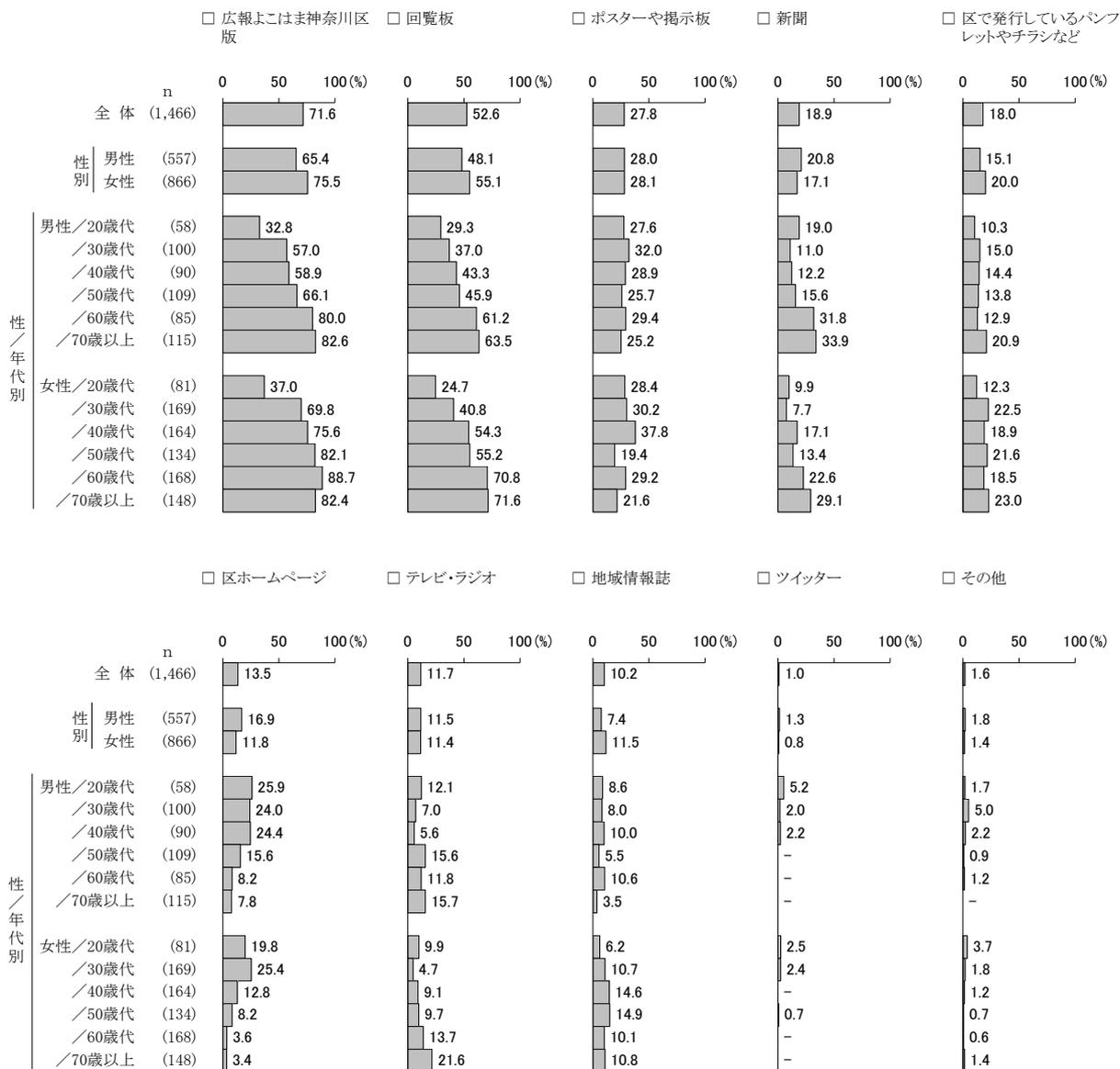


■ 区政情報の入手先 [性別・性/年代別]

性別でみると、「広報よこはま神奈川区版」は女性75.5%、男性65.4%で女性が10.1ポイント、「回覧板」は女性55.1%、男性48.1%で7.0ポイントそれぞれ女性が高い。

性/年代別でみると、「広報よこはま神奈川区版」は男性、女性とも年代があがるに従い割合も高くなり、男性では60歳代以上、女性の50歳代以上で8割を超えて高い。「回覧板」も男性、女性ともに年代があがるに従い割合も高くなり、60歳代、70歳以上で男性では6割台、女性では7割台となっている。

図 区政情報の入手先 [性別・性/年代別] (複数回答)

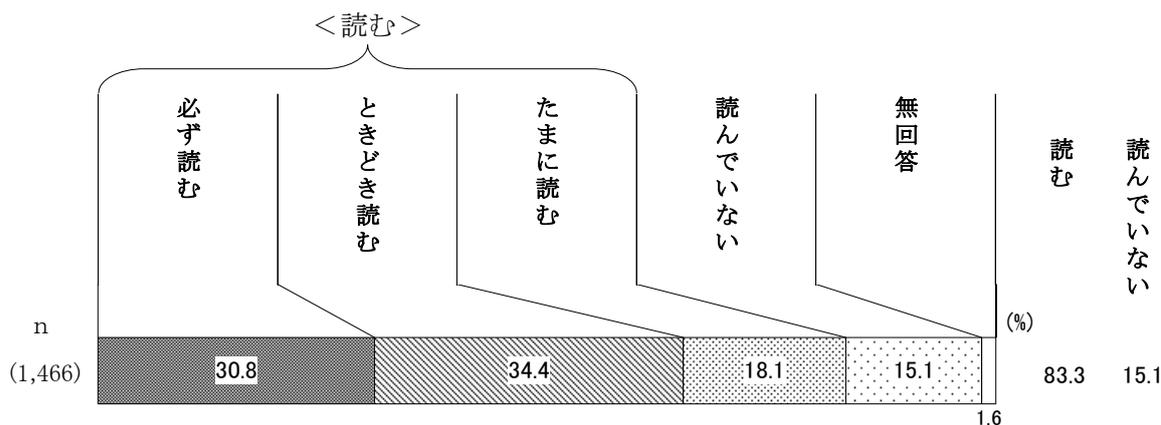


(2) 「広報よこはま神奈川区版」を読んでいるか

問19 あなたは、「広報よこはま神奈川区版」を読んでいますか。(○は1つ)

「広報よこはま神奈川区版」を読んでいるかについては、「必ず読む」30.8%、「ときどき読む」34.4%、「たまに読む」18.1%を合わせた<読む>は83.3%、8割台前半と高く、「読んでいない」は15.1%となっている。

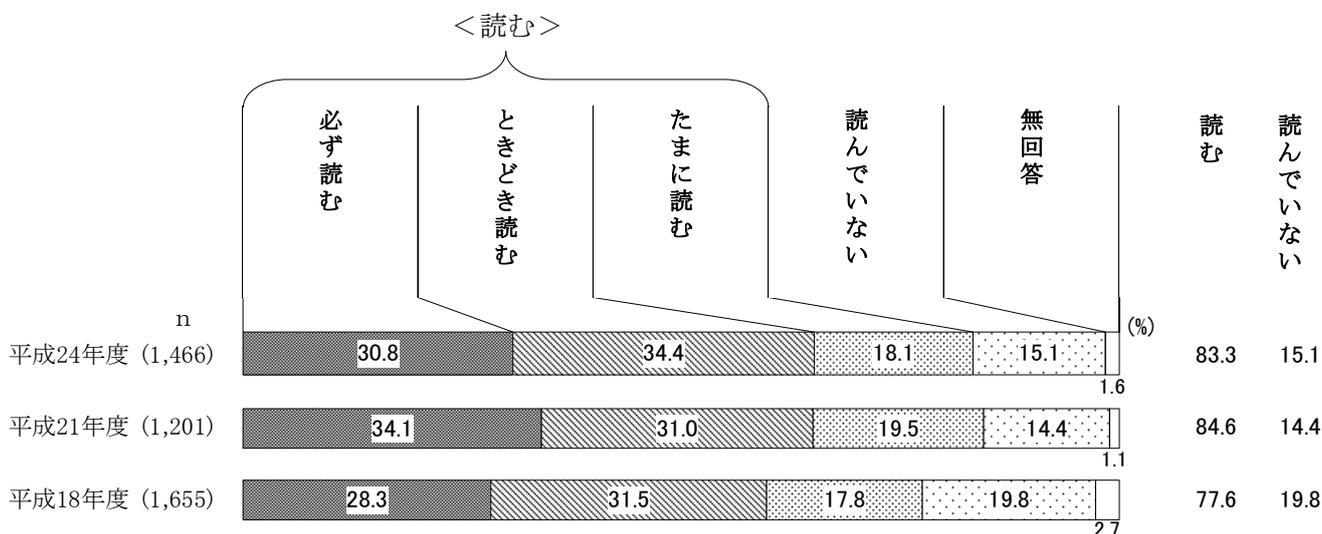
図 「広報よこはま神奈川区版」を読んでいるか [全体]



■ 時系列比較

平成21年度調査、平成18年度調査と比較すると、「必ず読む」は平成21年度調査より3.3ポイント減少、平成18年度調査より2.5ポイント増加している。「ときどき読む」は平成21年度調査より3.4ポイント、平成18年度調査より2.9ポイント増加している。「たまに読む」は平成21年度調査より1.4ポイント減少している。「必ず読む」、「ときどき読む」、「たまに読む」を合わせた<読む>は、平成21年度調査(84.6%)と平成24年度調査(83.3%)を比較すると1.3ポイント減少しているが、平成18年度調査(77.6%)より5.7ポイント増加している。「読んでいない」は平成21年度調査より0.7ポイント増加しているが、平成18年度調査より4.7ポイント減少している。

図 「広報よこはま神奈川区版」を読んでいるか (平成21年度、18年度との比較)

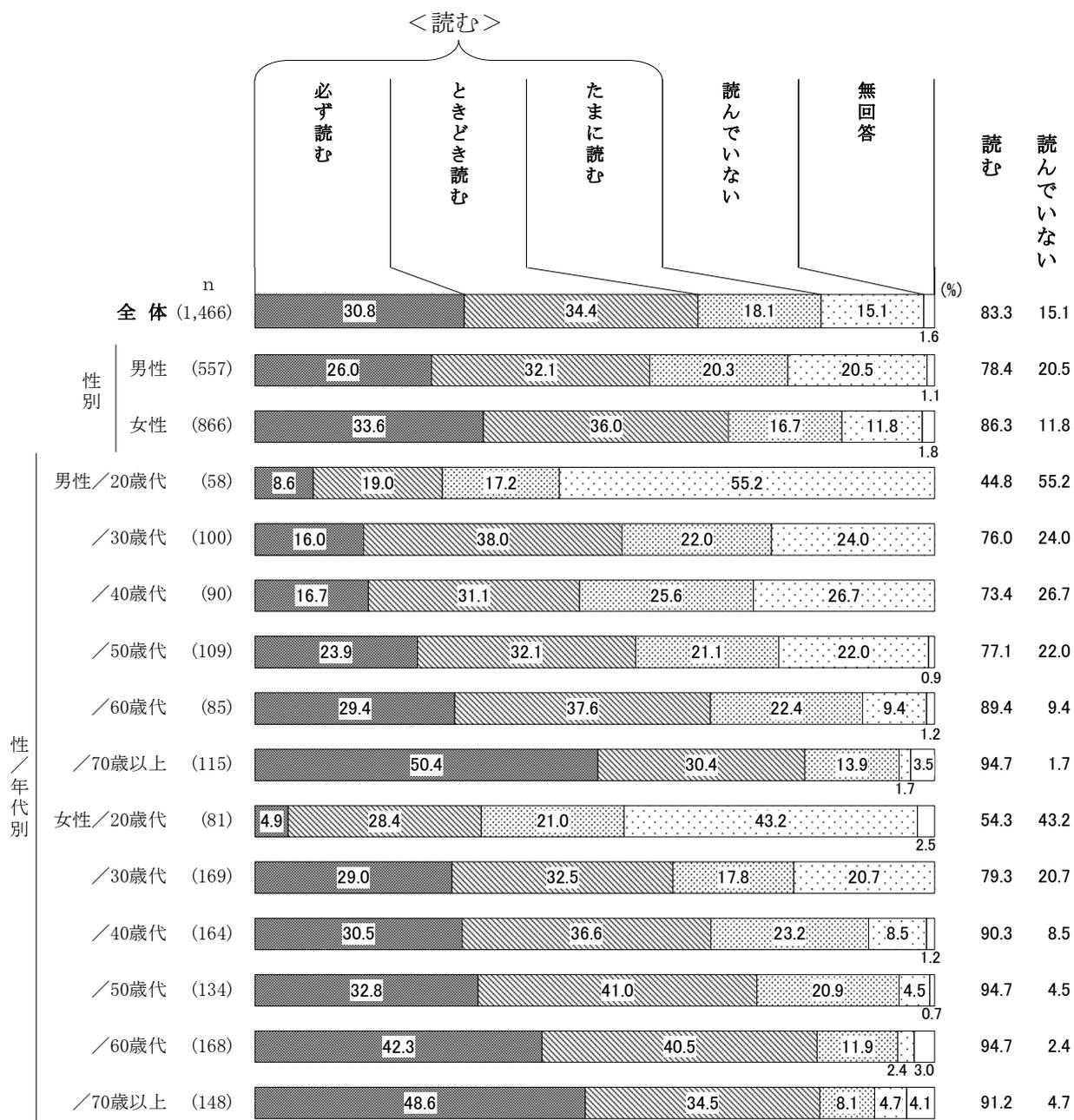


■ 「広報よこはま神奈川区版」を読んでいるか〔性別・性／年代別・居住地別〕

性別でみると、「必ず読む」、「ときどき読む」、「たまに読む」を合わせた<読む>は女性86.3%、男性78.4%で女性が7.9ポイント高い。「読んでいない」は男性20.5%、女性11.8%で男性が8.7ポイント高い。

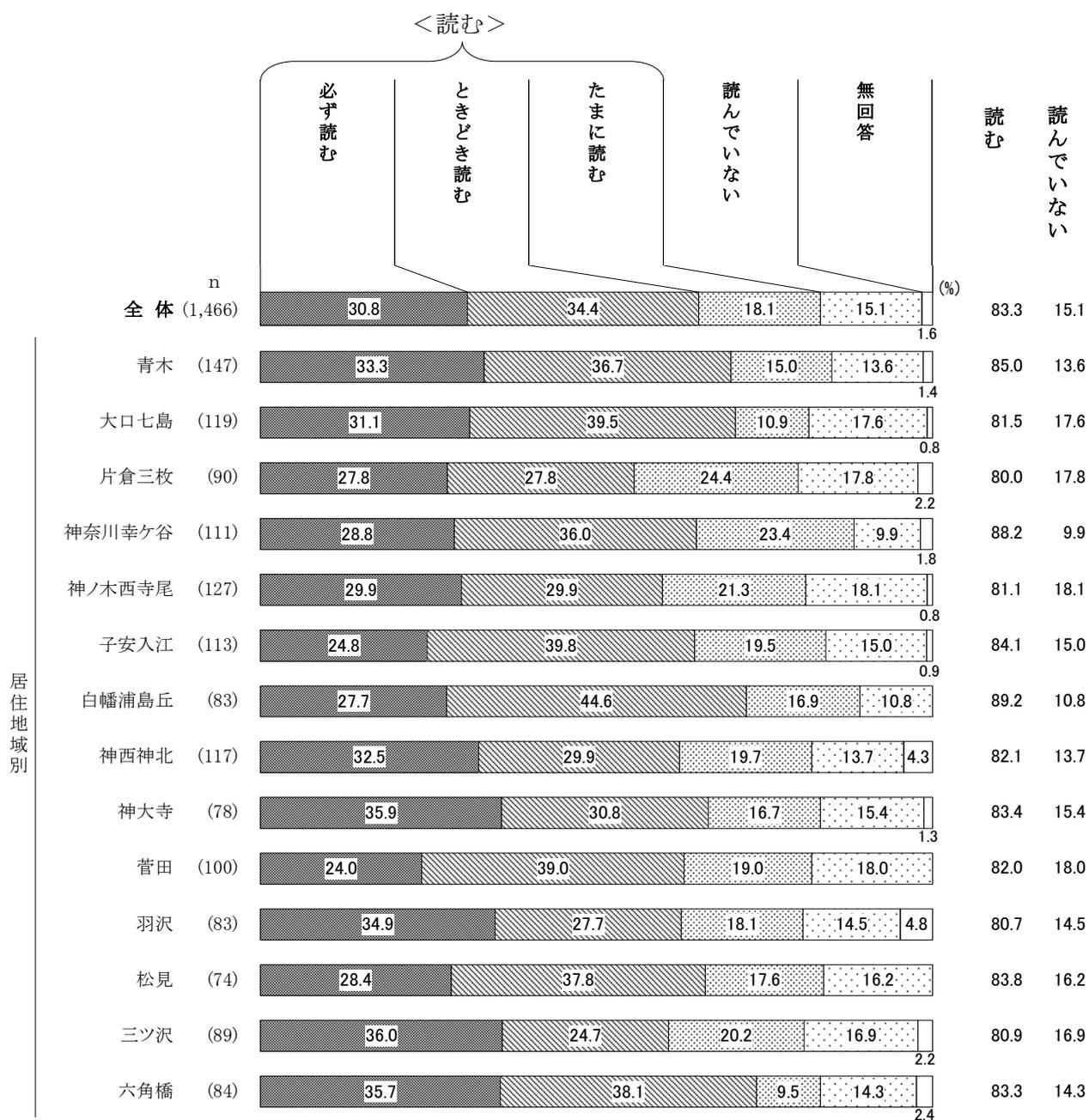
性／年代別でみると、<読む>は男女とも年代があがるに従い割合が高くなる傾向があり、男性の70歳以上と女性の40歳代以上で9割を超えて高くなっている。一方、「読んでいない」は男女とも20歳代が高く、男性は5割台、女性は4割台となっている。

図 「広報よこはま神奈川区版」を読んでいるか〔性別・性／年代別〕



居住地域別では、＜読む＞は『白幡浦島丘』で89.2%と最も高く、次いで『神奈川幸ヶ谷』88.2%となっている。一方、「読んでいない」は『神ノ木西寺尾』18.1%、『菅田』18.0%となっている。

図 「広報よこはま神奈川区版」を読んでいるか〔居住地域別〕

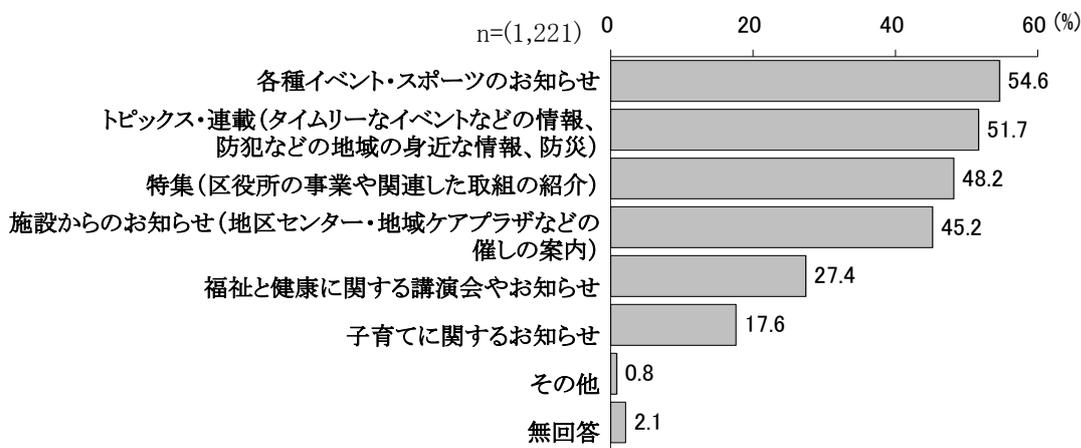


(3) 「広報よこはま神奈川区版」で主に読むもの

問20 問19で「1 必ず読む」「2 ときどき読む」「3 たまに読む」と答えた方におたずねします。「広報よこはま神奈川区版」で、あなたが主に読むのはどこですか。
(〇はいくつでも)

「広報よこはま神奈川区版」で主に読むものは、「各種イベント・スポーツのお知らせ」54.6%、「トピックス・連載（タイムリーなイベントなどの情報、防犯などの地域の身近な情報、防災）」51.7%がそれぞれ5割を超えて高く、次いで「特集（区役所の事業や関連した取組の紹介）」48.2%、「施設からのお知らせ（地区センター・地域ケアプラザなどの催しの案内）」45.2%と続いている。

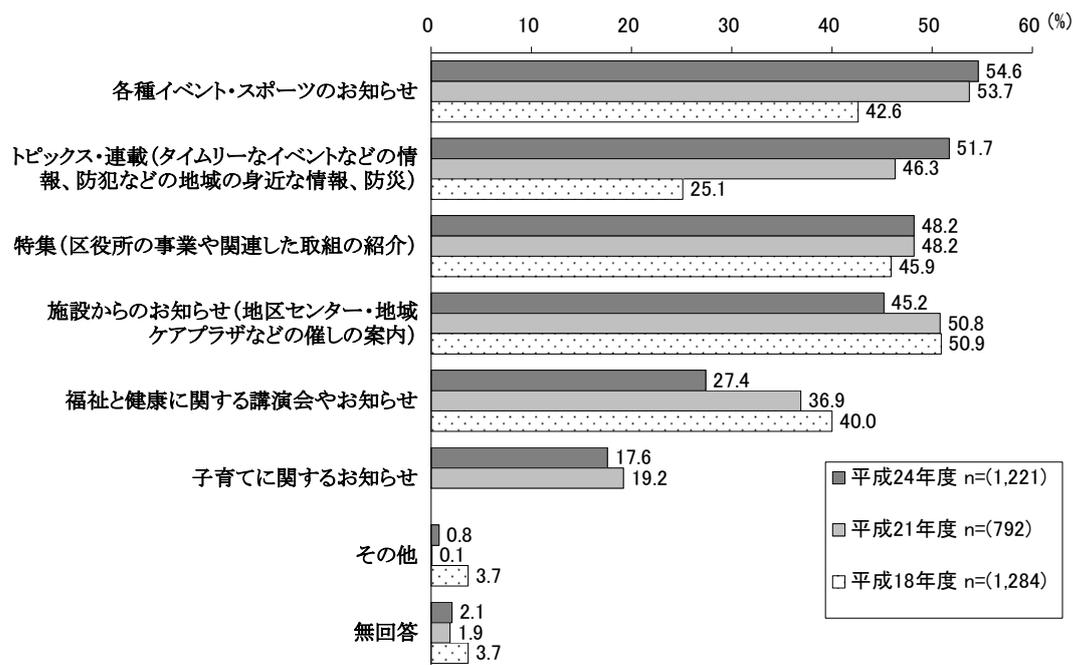
図 「広報よこはま神奈川区版」で主に読むもの [全体] (複数回答)



■ 時系列比較

平成21年度調査、平成18年度調査と比較すると、「各種イベント・スポーツのお知らせ」、「トピックス・連載（タイムリーなイベントなどの情報、防犯などの地域の身近な情報、防災）」は増加し、一方、「福祉と健康に関する講演会やお知らせ」、「施設からのお知らせ（地区センター・地域ケアプラザなどの催しの案内）」は減少している。

図 「広報よこはま神奈川区版」で主に読むもの（平成21年度、18年度との比較）（複数回答）



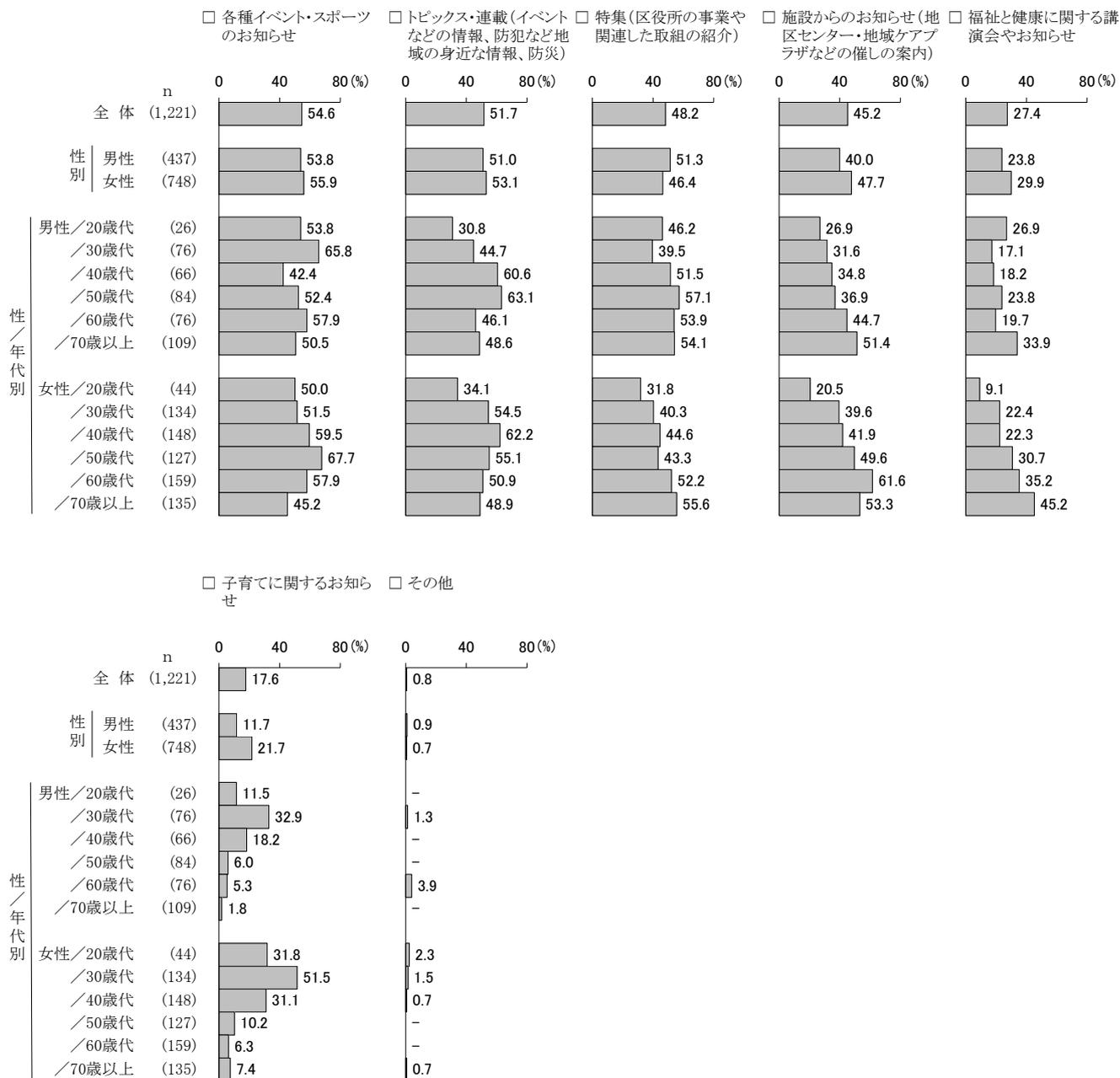
※平成24年度、平成21年度、平成18年度調査の項目は完全に一致していないが、参考に比較する。
 なお、平成18年度は、「子育てに関するお知らせ」は調査していない。

■ 「広報よこはま神奈川区版」で主に読むもの〔性別・性／年代別〕

性別でみると、「各種イベント・スポーツのお知らせ」は女性55.9%、男性53.8%、「トピックス・連載（タイムリーなイベントなどの情報、防犯などの地域の身近な情報、防災）」は女性53.1%、男性51.0%でそれぞれ女性が2.1ポイント高い。

性／年代別でみると、「各種イベント・スポーツのお知らせ」は男性40歳代、女性70歳以上で4割台、それ以外の年代で5割以上となっている。「トピックス・連載（タイムリーなイベントなどの情報、防犯などの地域の身近な情報、防災）」は、男性40歳代、50歳代、女性40歳代で6割台と高くなっている。

図 「広報よこはま神奈川区版」で主に読むもの〔性別・性／年代別〕（複数回答）



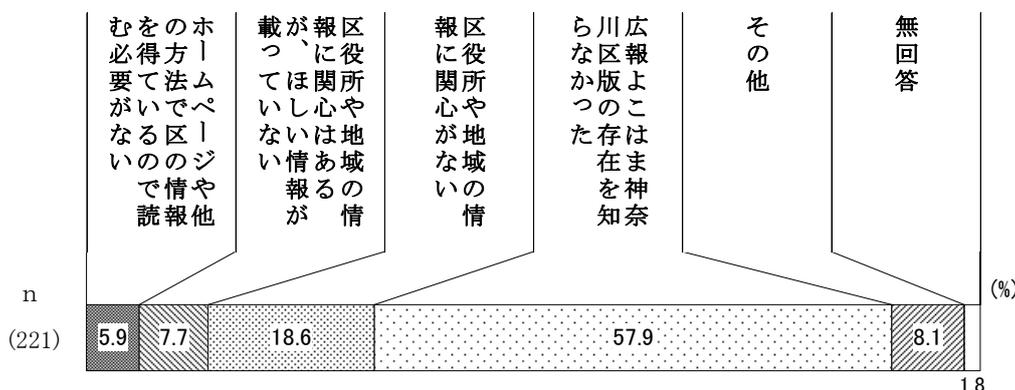
※ 「トピックス・連載（イベントなどの情報、防犯などの地域の身近な情報、防災）」は「トピックス・連載（タイムリーなイベントなどの情報、防犯などの地域の身近な情報、防災）」を略している。

(4) 「広報よこはま神奈川区版」を「読んでいない」理由

問21 問19で「4 読んでいない」と答えた方におたずねします。読んでいない理由は何ですか。(〇は1つ)

「広報よこはま神奈川区版」を「読んでいない」理由は、「広報よこはま神奈川区版の存在を知らなかった」が57.9%、5割台後半と最も高く、次いで「区役所や地域の情報に関心がない」18.6%、「区役所や地域の情報に関心はあるが、ほしい情報が載っていない」7.7%、「ホームページや他の方法で区の情報を得ているので読む必要がない」5.9%となっている。

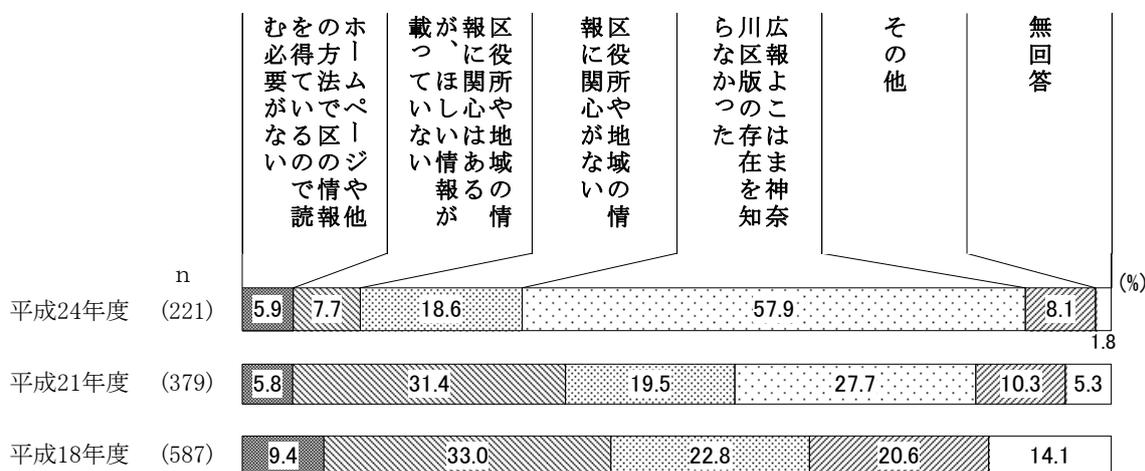
図 「広報よこはま神奈川区版」を「読んでいない」理由 [全体]



■ 時系列比較

「広報よこはま神奈川区版の存在を知らなかった」は平成21年度調査より30.2ポイント増加し、「区役所や地域の情報に関心はあるが、ほしい情報が載っていない」は平成21年度調査より23.7ポイント、平成18年度調査より25.3ポイント減少、「区役所や地域の情報に関心がない」は平成21年度調査より0.9ポイント、平成18年度調査より4.2ポイント減少している。「ホームページや他の方法で区の情報を得ているので読む必要がない」は平成21年度調査とはほとんど変化はないが、平成18年度調査と比較すると3.5ポイント減少している。

図 「広報よこはま神奈川区版」を「読んでいない」理由 (平成21年度、18年度との比較)



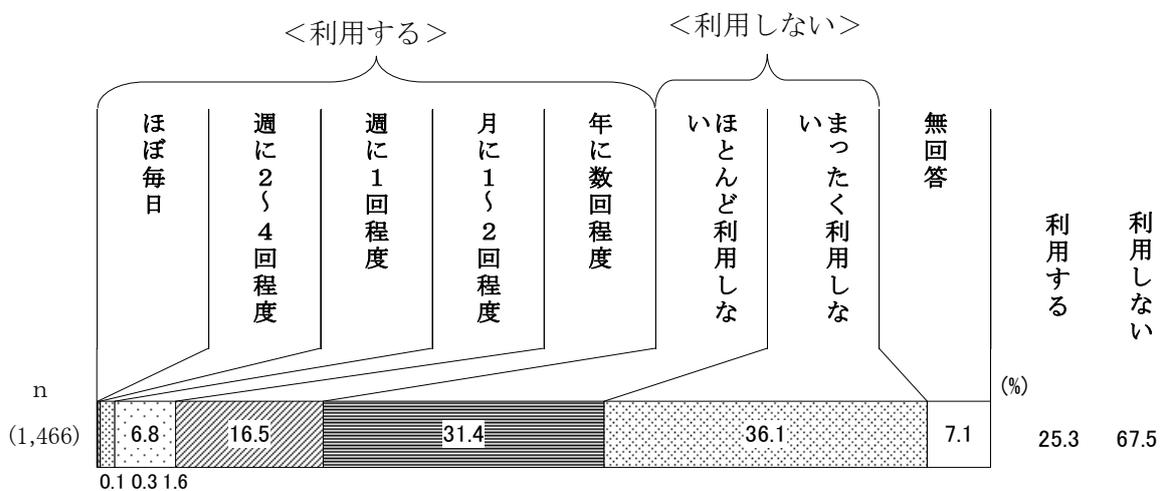
※ 「広報よこはま神奈川区版の存在を知らなかった」は平成18年度調査では項目にない。

(5) 神奈川区ホームページの利用頻度

問22 神奈川区ホームページをどのくらい利用していますか。(〇は1つ)

神奈川区ホームページの利用頻度は、「まったく利用しない」36.1%、「ほとんど利用しない」31.4%を合わせた<利用しない>は67.5%、6割台後半となっている。「年に数回程度」は16.5%、「月に1～2回程度」は6.8%となっている。「ほぼ毎日」から「年に数回程度」を合わせた<利用する>は25.3%、2割台半ばとなっている。

図 神奈川区ホームページの利用頻度 [全体]

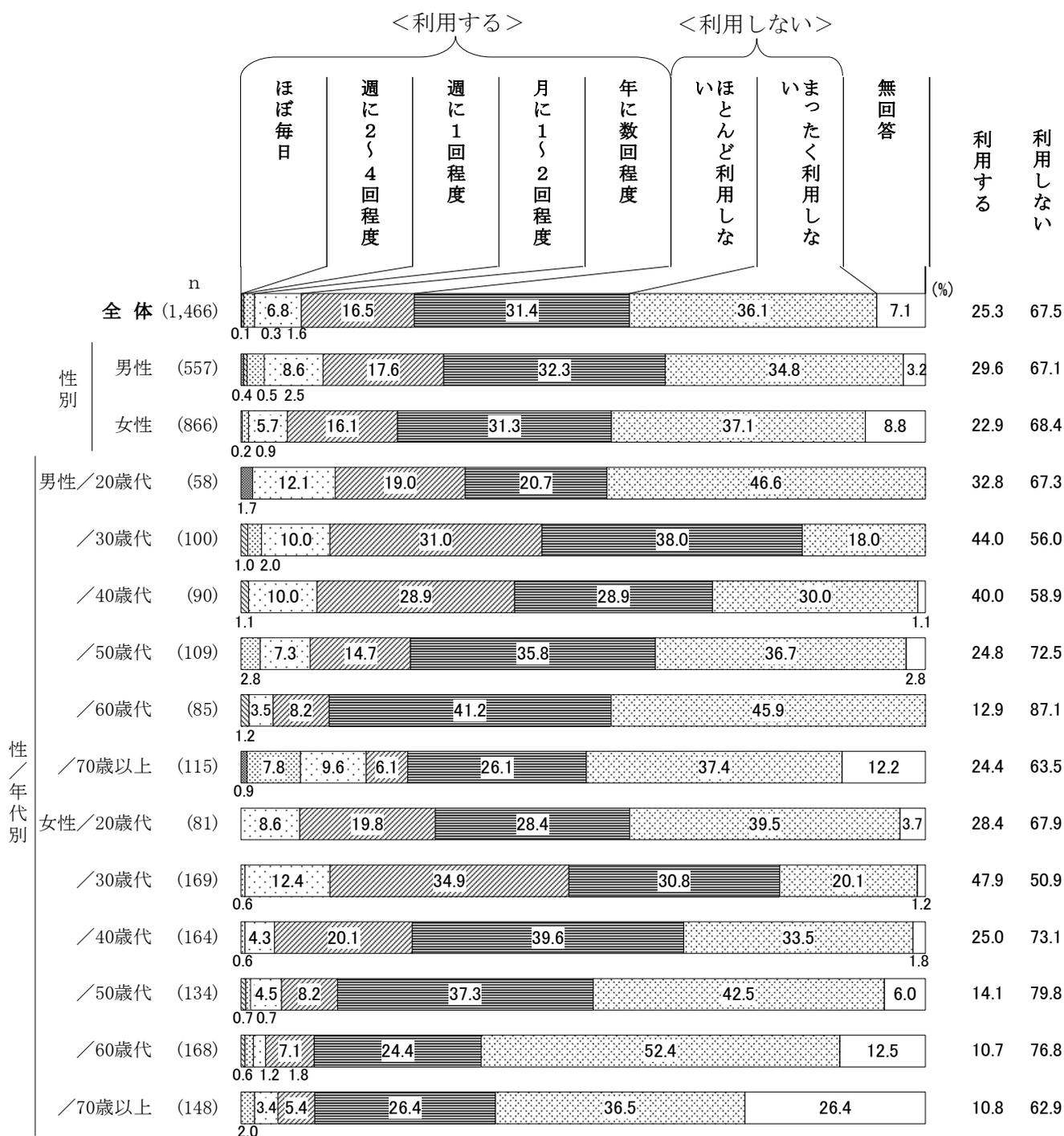


■ 神奈川区ホームページの利用頻度 [性別・性/年代別]

性別でみると、<利用しない>は女性68.4%、男性67.1%で女性が1.3ポイント高い。<利用する>は、男性が29.6%、女性22.9%で男性が6.7ポイント高い。

性/年代別でみると、<利用しない>は『男性/60歳代』87.1%で最も高く、次いで『女性/50歳代』79.8%となっている。<利用する>は『女性/30歳代』47.9%で最も高く、次いで『男性/30歳代』44.0%となっている。

図 神奈川区ホームページの利用頻度 [性別・性/年代別]



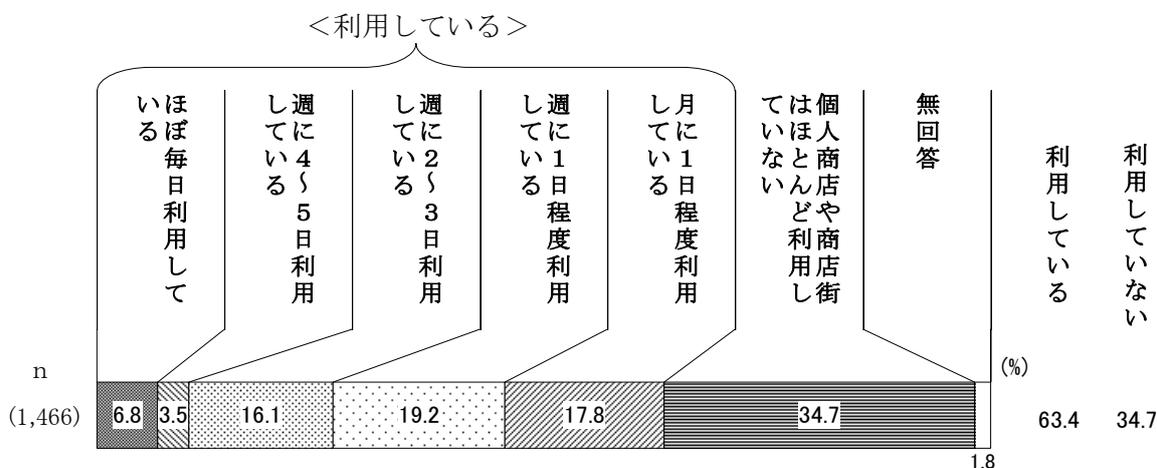
7. 商店街・「わが町 かながわ とっておき」について

(1) 個人商店や商店街の利用頻度

問23 あなたは個人商店や商店街をどの程度利用していますか。(○は1つ)

個人商店や商店街の利用については、「週に1日程度利用している」は19.2%、「月に1日程度利用している」17.8%、「週に2～3日利用している」16.1%となっている。「ほぼ毎日利用している」から「月に1日程度利用している」を合わせた<利用している>は、63.4%、6割台前半となっている。一方、「個人商店や商店街はほとんど利用していない」が34.7%となっている。

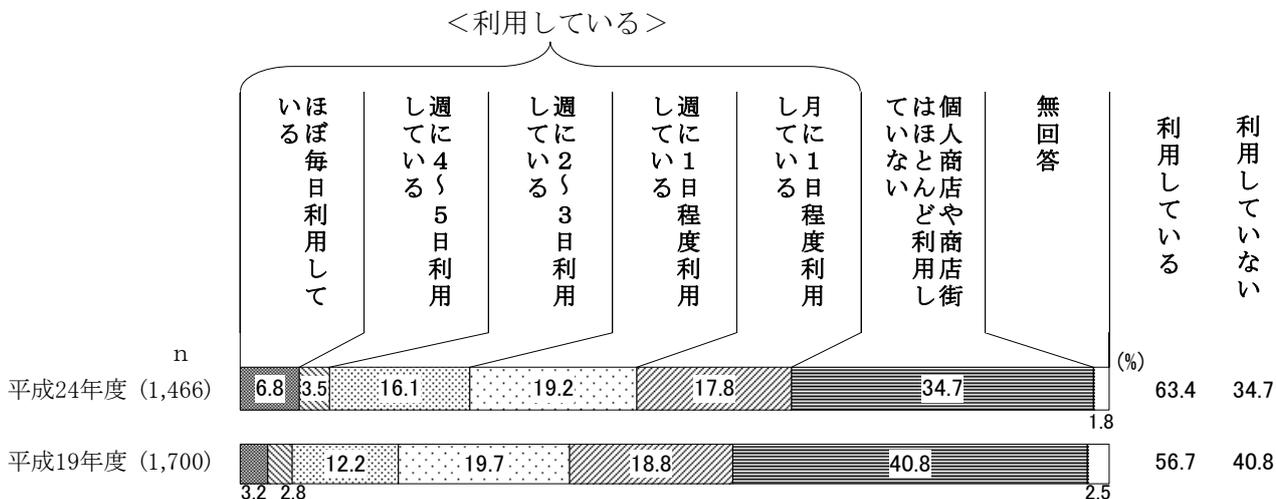
図 個人商店や商店街の利用頻度 [全体]



■ 時系列比較

平成19年度調査と比較すると、<利用している>は6.7ポイント増加し、「利用していない」は6.1ポイント減少している。

図 個人商店や商店街の利用頻度 (平成19年度との比較)

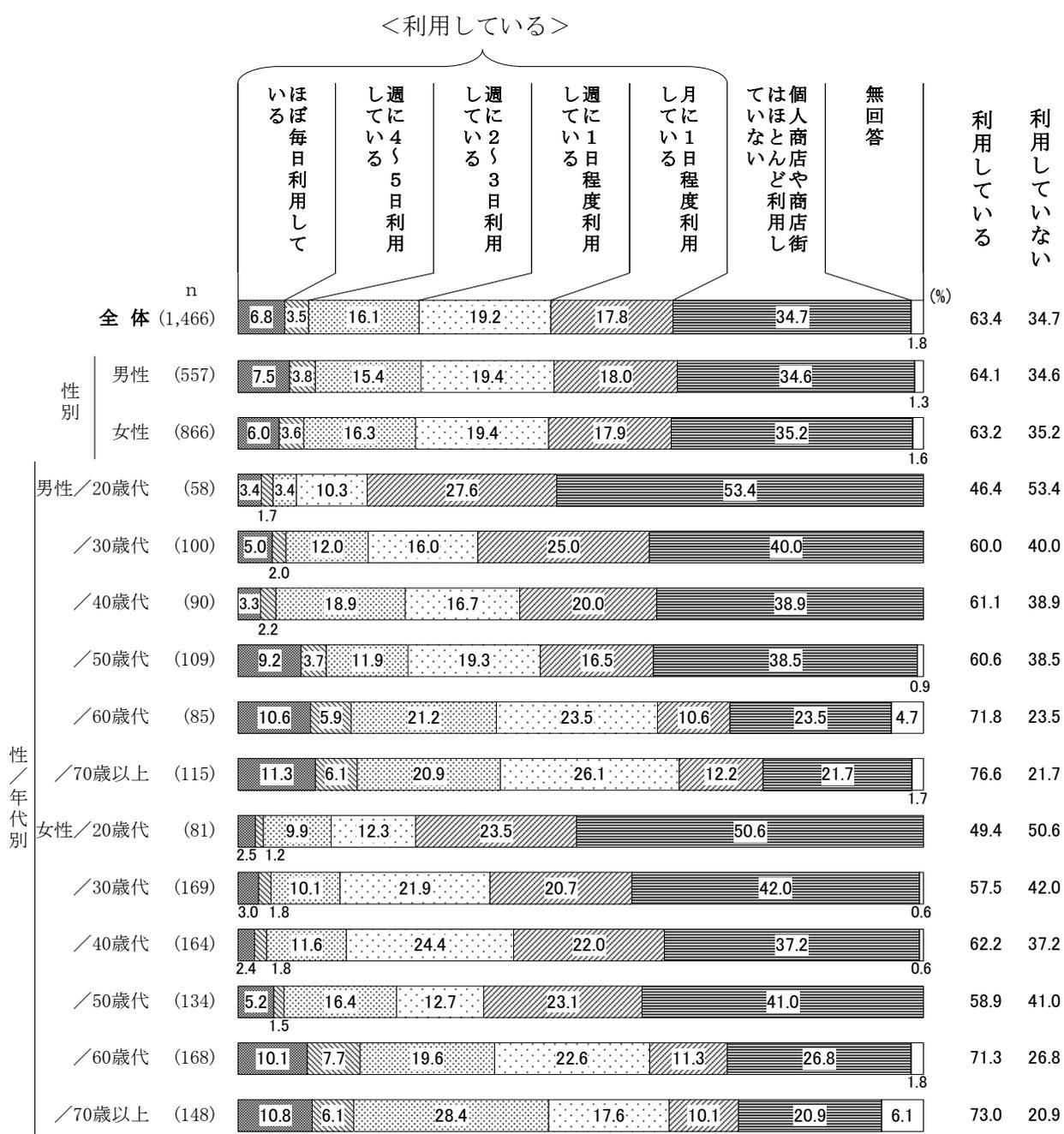


■ 個人商店や商店街の利用頻度 [性別・性/年代別・居住地域別]

性別でみると、<利用している>は男性64.1%、女性63.2%、「個人商店や商店街はほとんど利用していない」は女性35.2%、男性34.6%で性別による差はほとんどない。

性/年代別でみると、<利用している>は男女とも年齢があがるに従い割合も高くなる傾向にあり、60歳代以上で7割台となっている。一方、男女とも20歳代では「個人商店や商店街はほとんど利用していない」の割合が高く、5割台となっている。

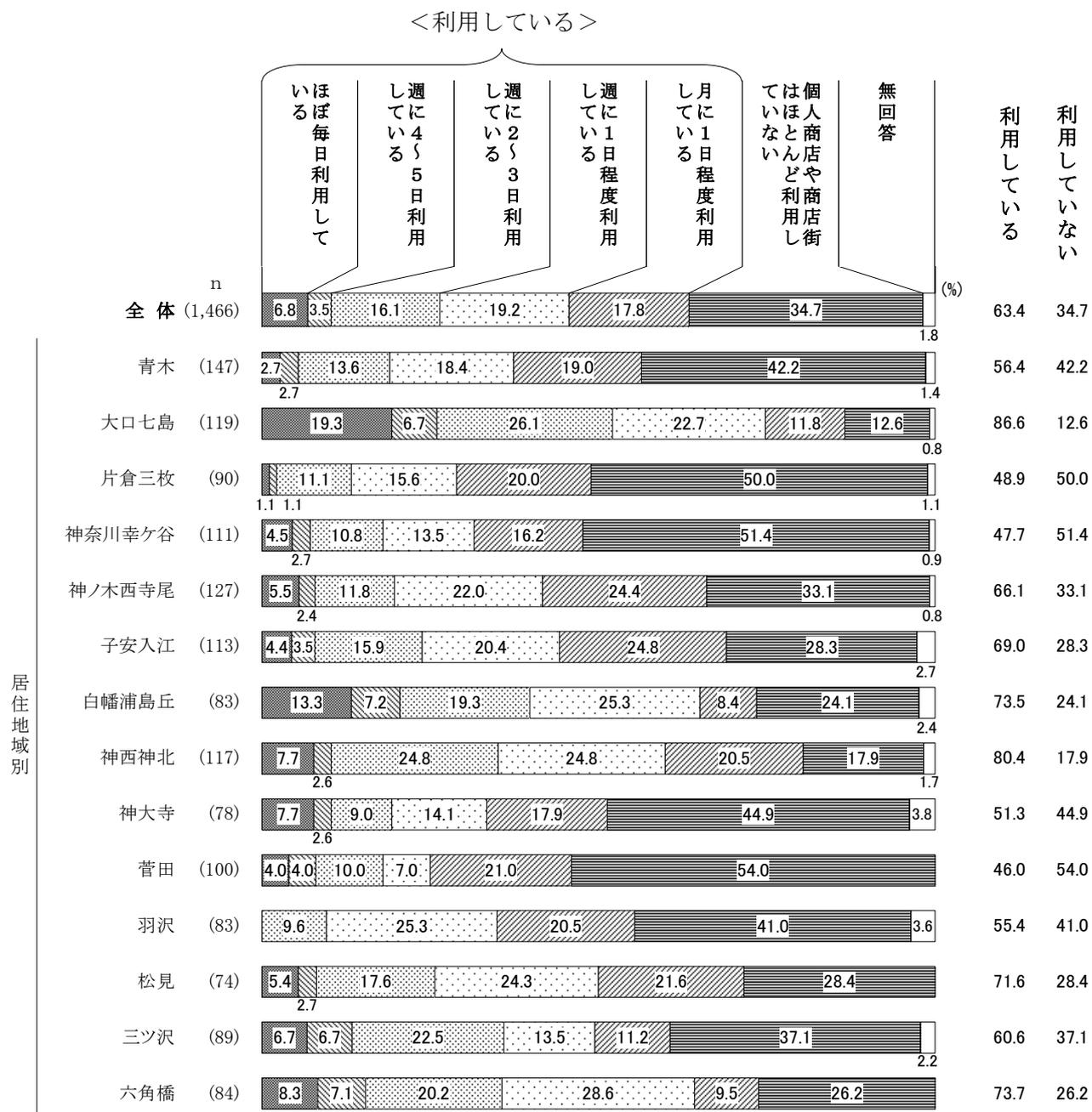
図 個人商店や商店街の利用頻度 [性別・性/年代別]



第2章 調査結果の詳細

居住地域別でみると、＜利用している＞は『大口七島』が86.6%で最も高く、次いで『神西神北』80.4%、『六角橋』73.7%と高くなっている。一方「利用していない」は『菅田』の54.0%が最も高くなっている。

図 個人商店や商店街の利用頻度〔居住地域別〕

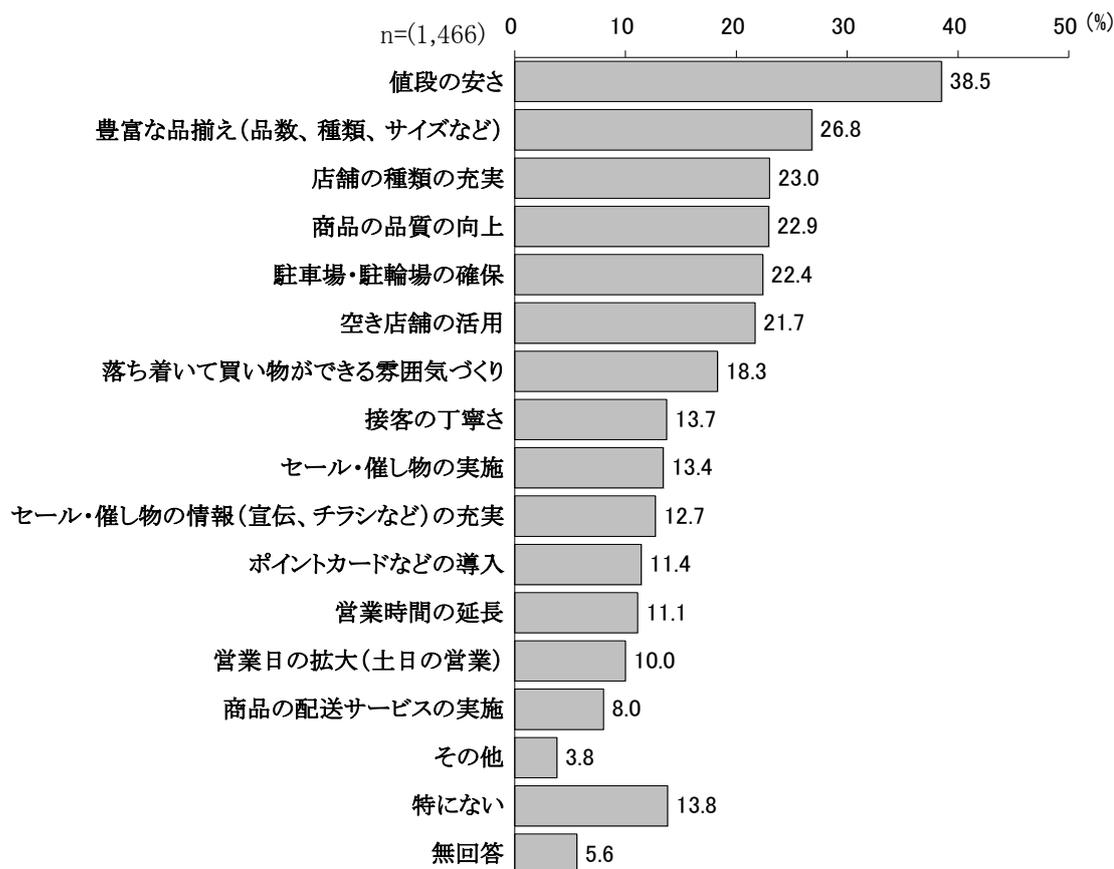


(2) 商店街に対して希望すること

問24 あなたが商店街に対して希望することは、どのようなことですか。(〇はいくつでも)

商店街に対して希望することは、「値段の安さ」が38.5%と最も高く、次いで「豊富な品揃え（品数、種類、サイズなど）」26.8%、「店舗の種類の実充実」23.0%、「商品の品質の向上」22.9%、「駐車場・駐輪場の確保」22.4%、「空き店舗の活用」21.7%と続いている。

図 商店街に対して希望すること [全体] (複数回答)



■ 時系列比較

平成19年度調査は、地域の商店街への期待について自由記入の設問であったため、本年度の調査と比較はできないが、参考までに掲載する。

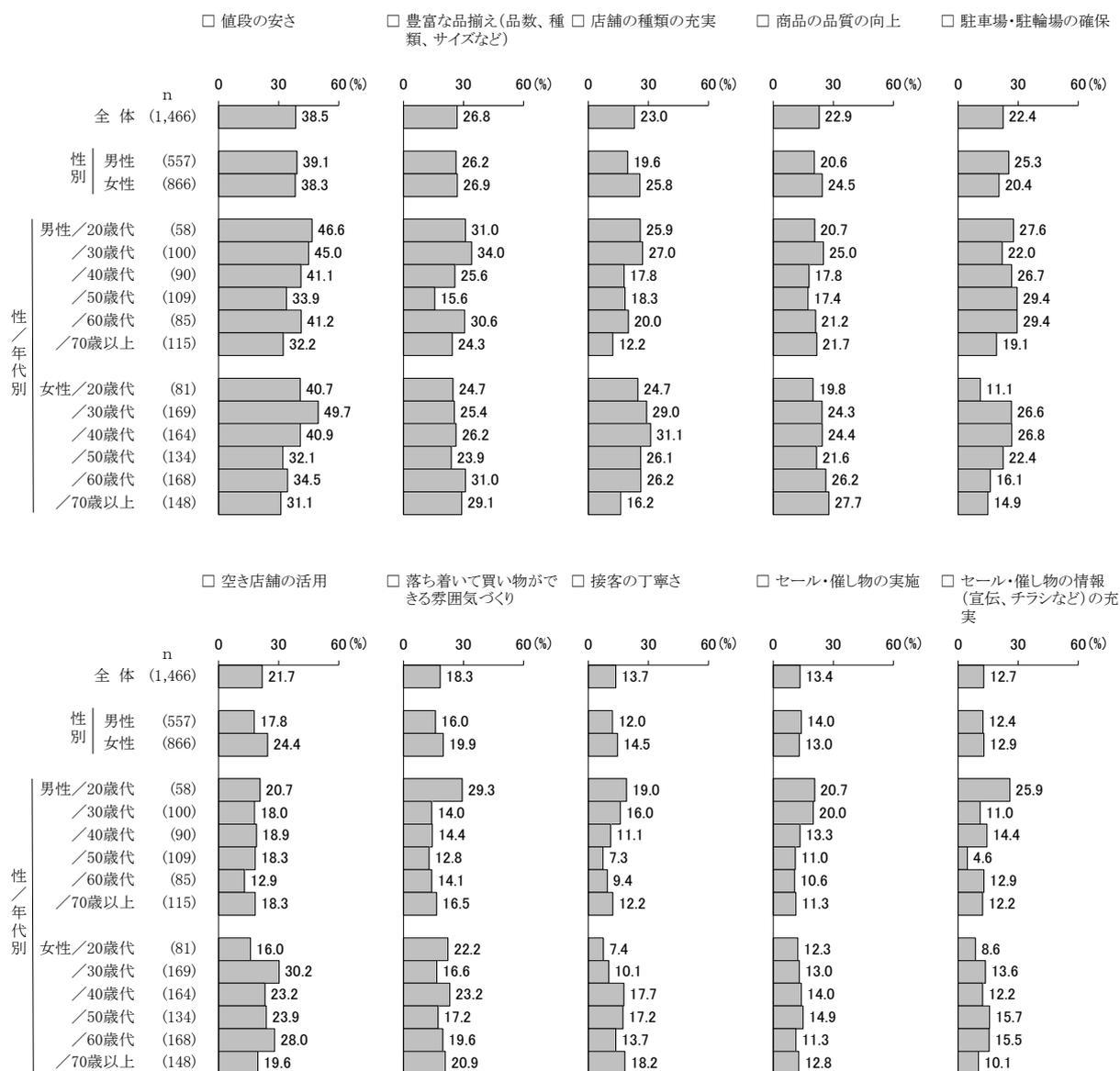
平成19年度調査、合計1,581件の意見のうち、＜商品・価格＞に関するものが678件あり、『豊富な品揃え』226件、『低価格』207件であった。本年度の調査では、「値段の安さ」が最も高く、次いで「豊富な品揃え（品数、種類、サイズなど）」となっており、商品・価格に対する希望が高い傾向は変化がない。また、＜店舗・設備＞に関する298件の意見のうち、『店舗数を多く』が73件、『駐車場、駐輪場の設置』が64件となっており、本年度の調査でも上位項目となっている。

■ 商店街に対して希望すること [性別・性/年代別]

性別でみると、「値段の安さ」は男性39.1%、女性38.3%、「豊富な品揃え（品数、種類、サイズなど）」は女性26.9%、男性26.2%でほとんど差はない。「店舗の種類の充実」は女性25.8%、男性19.6%で6.2ポイント、「商品の品質の向上」は女性24.5%、男性20.6%で3.9ポイントそれぞれ女性が高い。

性/年代別では、「値段の安さ」は男女とも20歳代から40歳代で4割台と高く、50歳代以上は3割台となっている。女性の30歳代では約5割と最も高く、男性では20歳代の4割台後半が最も高い。「豊富な品揃え（品数、種類、サイズなど）」は、男性の50歳代で1割台半ばと低い。「落ち着いて買い物ができる雰囲気づくり」は男性の20歳代で約3割と突出している。

図 商店街に対して希望すること [性別・性/年代別（上位10項目）]（複数回答）

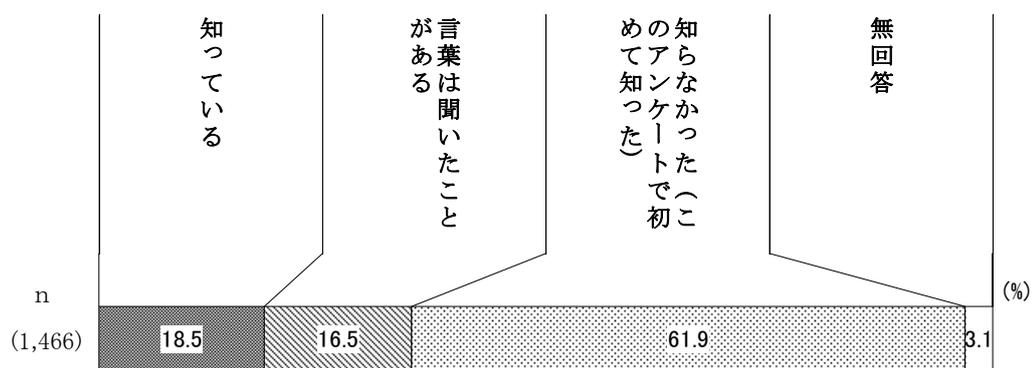


(3) 「わが町 かながわ とっておき」活用事業の認知度

問25 区役所では、区内の魅力あるスポットを情報発信する取組として、「わが町 かながわ とっておき」活用事業を行っています。この取組について知っていますか。(○は1つ)

「わが町 かながわ とっておき」活用事業については、「知っている」18.5%、「言葉は聞いたことがある」16.5%となっている。一方、「知らなかった（このアンケートで初めて知った）」は61.9%、6割台前半と高くなっている。

図 「わが町 かながわ とっておき」活用事業の認知度 [全体]

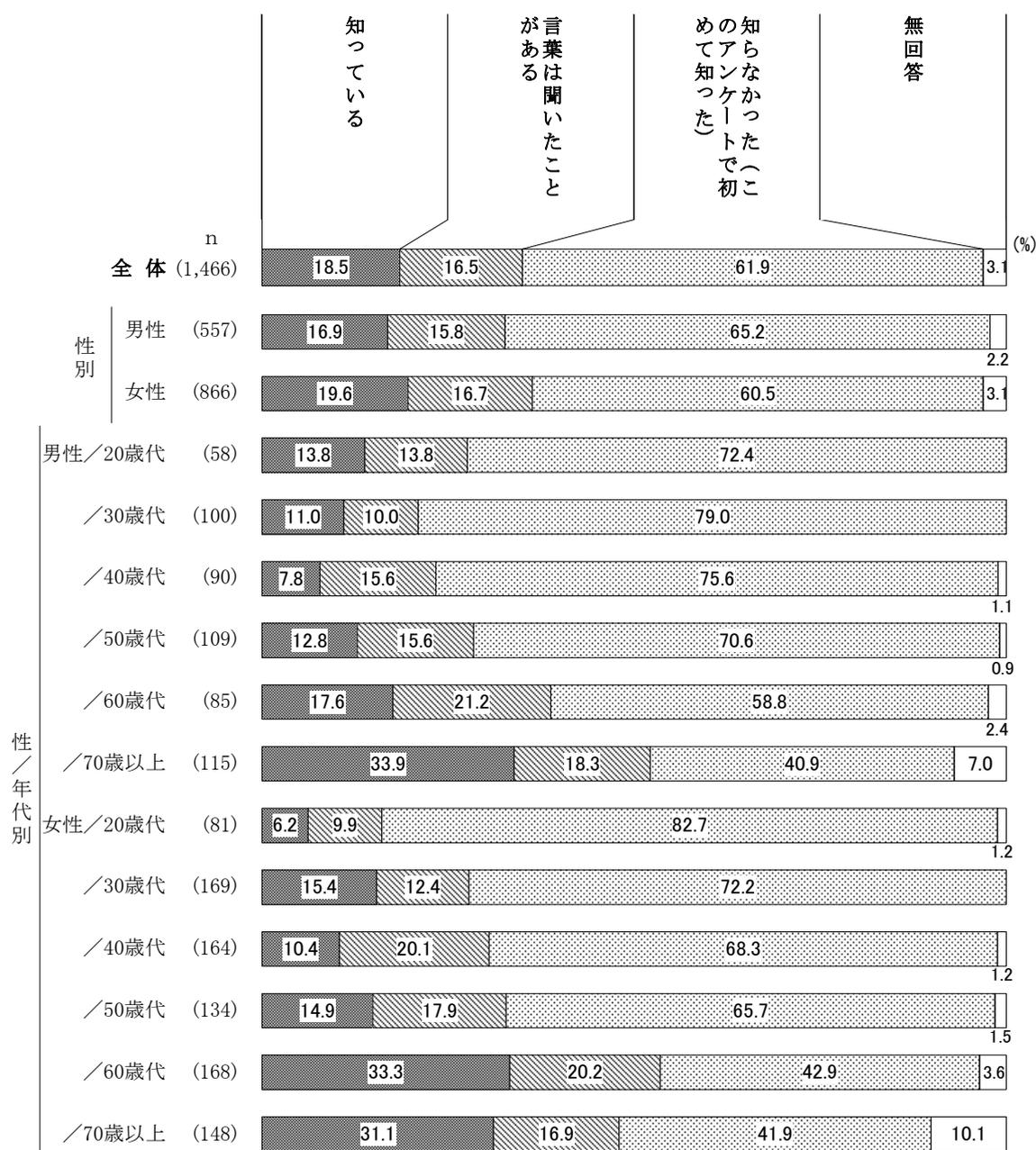


■ 「わが町 かながわ とっておき」活用事業の認知度 [性別・性/年代別]

性別でみると、「知っている」は女性19.6%、男性16.9%で女性が2.7ポイント高く、「言葉は聞いたことがある」は女性16.7%、男性15.8%で大きな差はない。一方、「知らなかった（このアンケートで初めて知った）」は男性65.2%、女性60.5%で男性が4.7ポイント高い。

性/年代別でみると、「知っている」は男性の70歳以上と女性の60歳代、70歳以上で3割を超えて高い。『女性/20歳代』では6.2%、『男性/40歳代』では7.8%と低い。「言葉は聞いたことがある」は、男性60歳代、女性40歳代、60歳代で2割台となっている。「知らなかった（このアンケートで初めて知った）」は、若い年代層の割合が高く、年代があがるに従い割合は低くなっている。

図 「わが町 かながわ とっておき」活用事業の認知度 [性別・性/年代別]

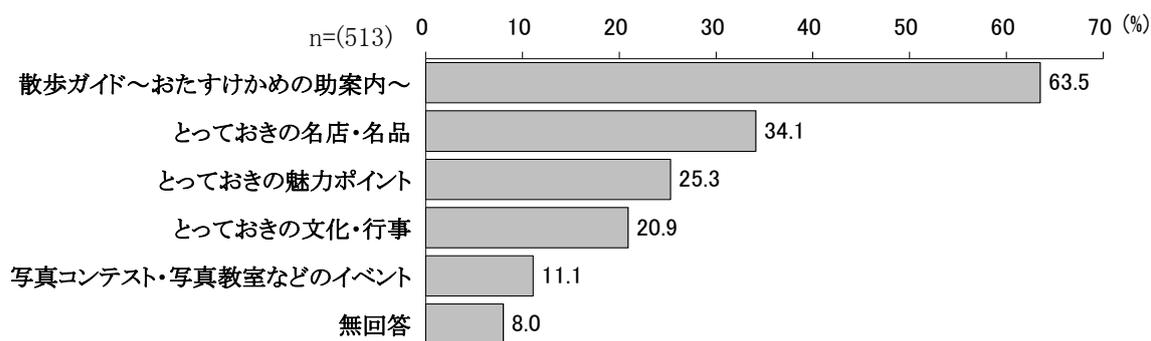


(4) 「わが町 かながわ とっておき」のうち、知っているもの

問26 問25で「1 知っている」「2 言葉は聞いたことがある」と答えた方におたずねします。
「わが町 かながわ とっておき」のうち、知っているものは何ですか。○はいくつでも

「わが町 かながわ とっておき」活用事業で知っているものは、「散歩ガイド～おたすけかめの助案内～」63.5%、6割台前半と最も高く、次いで「とっておきの名店・名品」34.1%、「とっておきの魅力ポイント」25.3%と続いている。

図 「わが町 かながわ とっておき」のうち、知っているもの [全体] (複数回答)

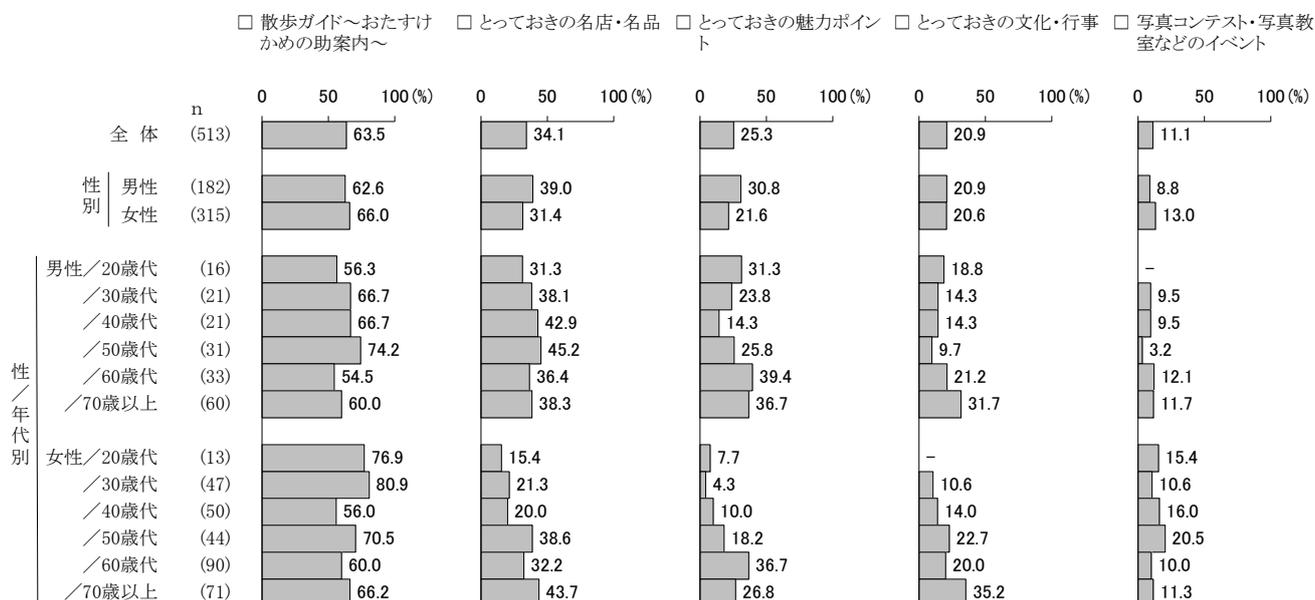


■ 「わが町 かながわ とっておき」のうち、知っているもの [性別・性/年代別]

性別でみると、「散歩ガイド～おたすけかめの助案内～」は女性66.0%、男性62.6%で女性が3.4ポイント高い。「とっておきの名店・名品」は男性39.0%、女性31.4%で7.6ポイント、「とっておきの魅力ポイント」は男性30.8%、女性21.6%で9.2ポイントそれぞれ男性が高い。

性/年代別でみると、「散歩ガイド～おたすけかめの助案内～」はすべての年代で5割を超えて高く、女性の30歳代で約8割と最も高い。「とっておきの名店・名品」は男性40歳代、50歳代、女性70歳以上で4割を超えている。「とっておきの魅力ポイント」は男性60歳以上、女性の60歳代で3割台と高い。

図 「わが町 かながわ とっておき」のうち、知っているもの [性別・性/年代別]

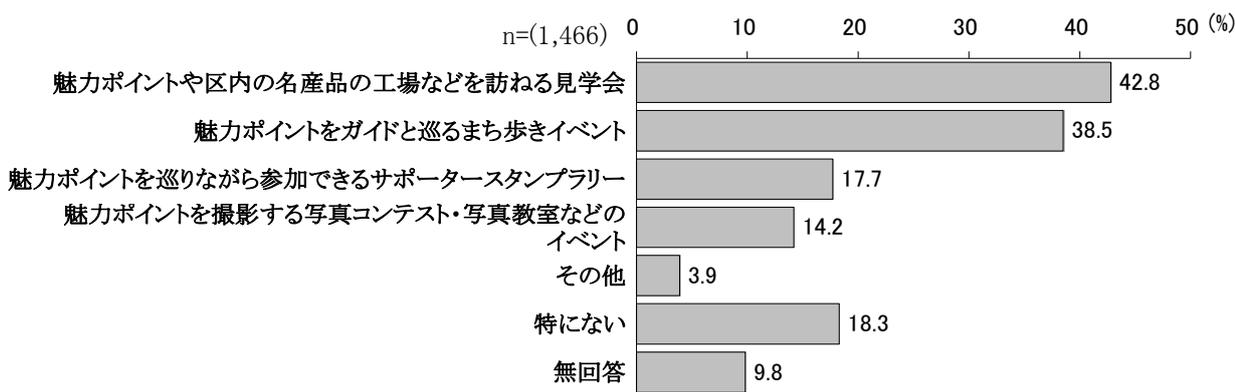


(5) 区の魅力を発信・アピールするために望ましい取組

問27 区の魅力を発信・アピールするために、どのような取組が望ましいと思いますか。
(○はいくつでも)

区の魅力を発信・アピールするために望ましい取組は、「魅力ポイントや区内の名産品の工場などを訪ねる見学会」42.8%、「魅力ポイントをガイドと巡るまち歩きイベント」38.5%となっている。一方「特にない」が18.3%となっている。

図 区の魅力を発信・アピールするために望ましい取組 [全体] (複数回答)

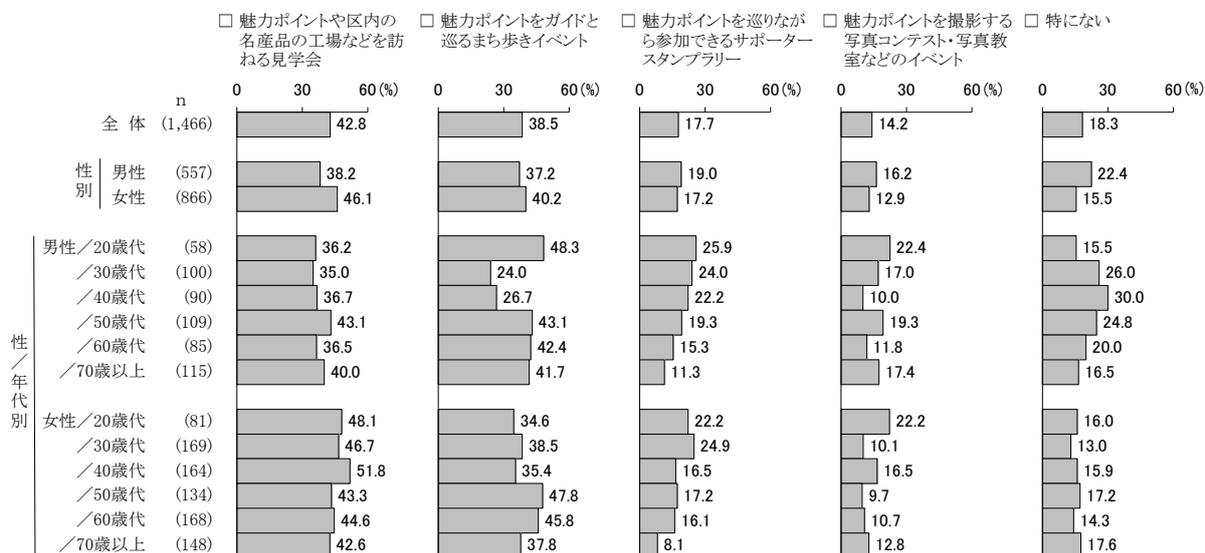


■ 区の魅力を発信・アピールするために望ましい取組 [性別・性/年代別]

性別でみると、「魅力ポイントや区内の名産品の工場などを訪ねる見学会」は7.9ポイント、「魅力ポイントをガイドと巡るまち歩きイベント」は3.0ポイントそれぞれ女性が高い。「特にない」は男性が6.9ポイント高くなっている。

性/年代別でみると、「魅力ポイントや区内の名産品の工場などを訪ねる見学会」は女性の40歳代で5割台前半ともっとも高く、男性では50歳代で4割台前半が最も高くなっている。「魅力ポイントをガイドと巡るまち歩きイベント」は男性の30歳代と40歳代で2割台と低い。

図 区の魅力を発信・アピールするために望ましい取組 [性別・性/年代別] (複数回答)



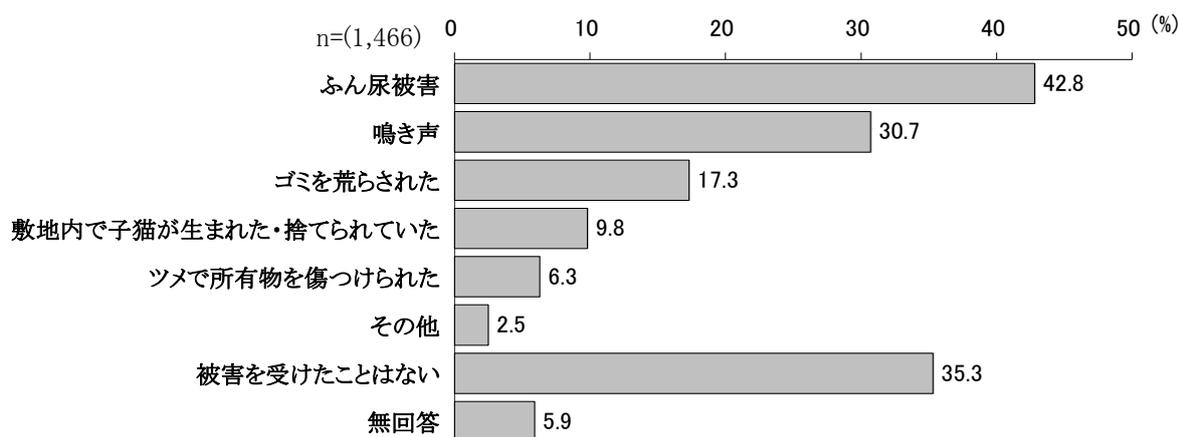
8. 猫の飼育管理などについて

(1) 猫による被害の有無

問28 あなたは猫による被害を受けたことがありますか。(〇はいくつでも)

猫による被害は、「ふん尿被害」が42.8%で最も高く、次いで「鳴き声」30.7%、「ゴミを荒らされた」17.3%と続いている。一方、「被害を受けたことはない」が35.3%である。

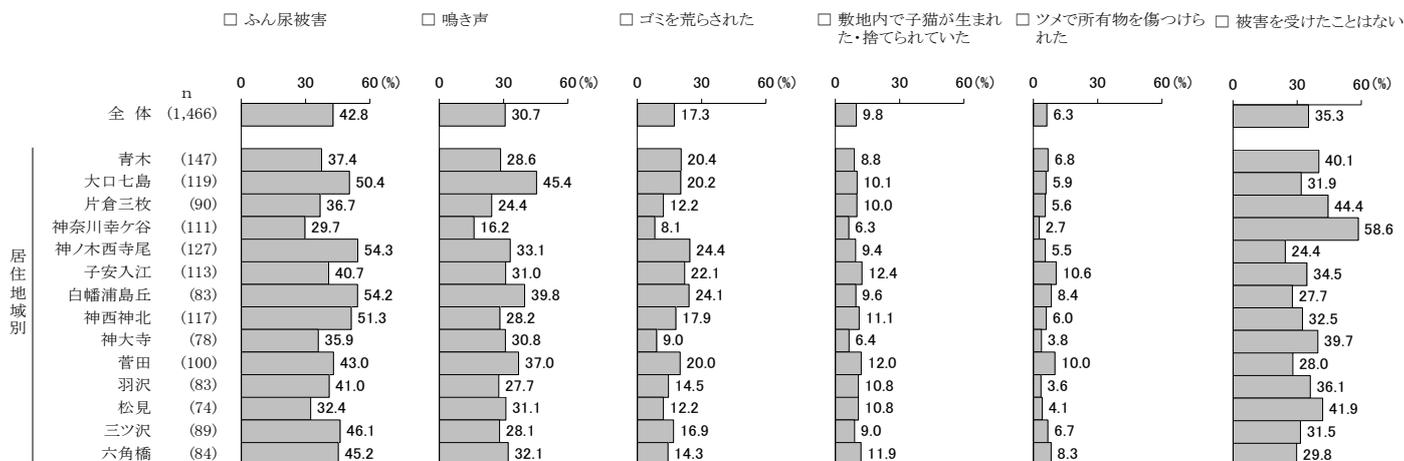
図 猫による被害の有無 [全体] (複数回答)



■ 猫による被害の有無 [居住地域別・居住形態別]

居住地域別でみると、「ふん尿被害」は『神ノ木西寺尾』、『白幡浦島丘』、『神西神北』、『大口七島』で5割台と高い。「鳴き声」は『大口七島』で45.4%と高くなっている。一方、「被害を受けたことはない」は『神奈川幸ヶ谷』で58.6%と他の地域と比較して突出して高い。

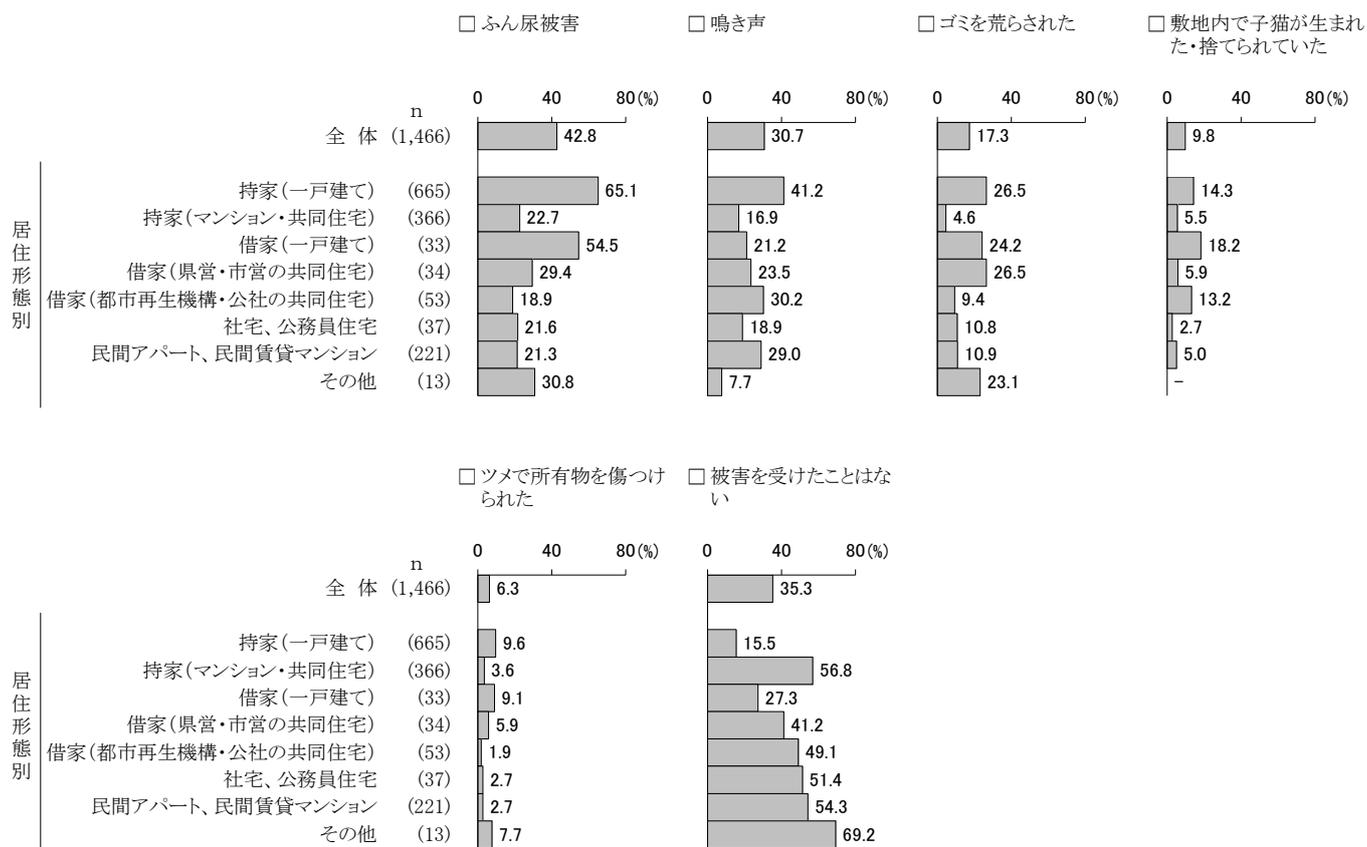
図 猫による被害の有無 [居住地域別] (複数回答)



第2章 調査結果の詳細

居住形態別でみると、猫による被害のうち「ふん尿被害」、「鳴き声」、「ツメで所有物を傷つけられた」は『持家（一戸建て）』の割合が最も高く、中でも「ふん尿被害」は65.1%で6割台半ばとなっている。「ふん尿被害」は『持家（一戸建て）』に次いで『借家（一戸建て）』が54.5%と高く、「鳴き声」は『借家（都市再生機構・公社の共同住宅）』30.2%、『民間アパート、民間賃貸マンション』29.0%となっている。一方、「被害を受けたことはない」は『持家（マンション・共同住宅）』で56.8%と最も高く、次いで『民間アパート、民間賃貸マンション』54.3%となっている。

図 猫による被害の有無〔居住形態別〕（複数回答）

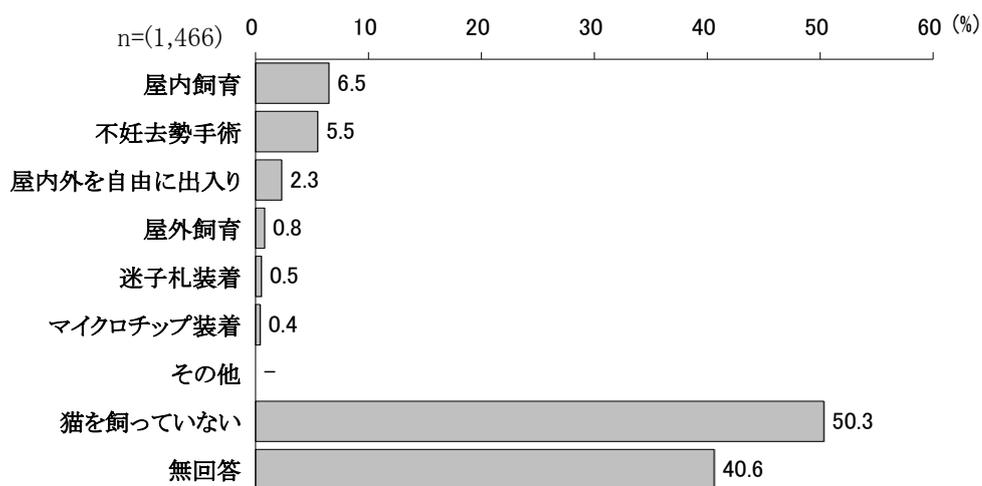


(2) 飼い猫の飼育状況

問29 飼い猫の飼育状況についておたずねします。猫を飼っている方は、どのように飼育していますか。(〇はいくつでも)

飼い猫の飼育状況は、「屋内飼育」6.5%、「不妊去勢手術」5.5%となっている。一方、「猫を飼っていない」が50.3%、約5割で最も高い。

図 飼い猫の飼育状況 [全体] (複数回答)

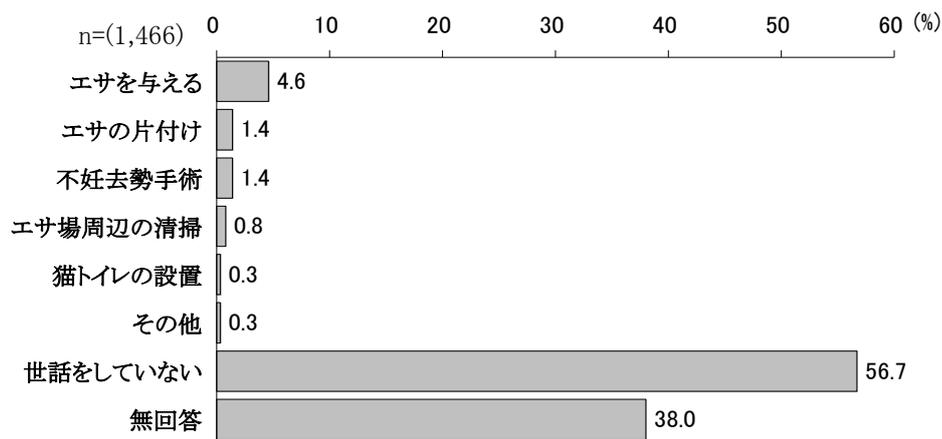


(3) 飼い主のいない猫（ノラ猫）の世話の状況

問30 飼い主のいない猫（ノラ猫）の世話についておたずねします。猫（ノラ猫）の世話をしている方は、どのように世話をしていますか。（〇はいくつでも）

猫（ノラ猫）の世話については、「エサを与える」4.6%、「エサの片付け」、「不妊去勢手術」が各々1.4%となっている。一方、「世話をしていない」が56.7%、5割台後半で最も高い。

図 飼い主のいない猫（ノラ猫）の世話の状況 [全体]（複数回答）

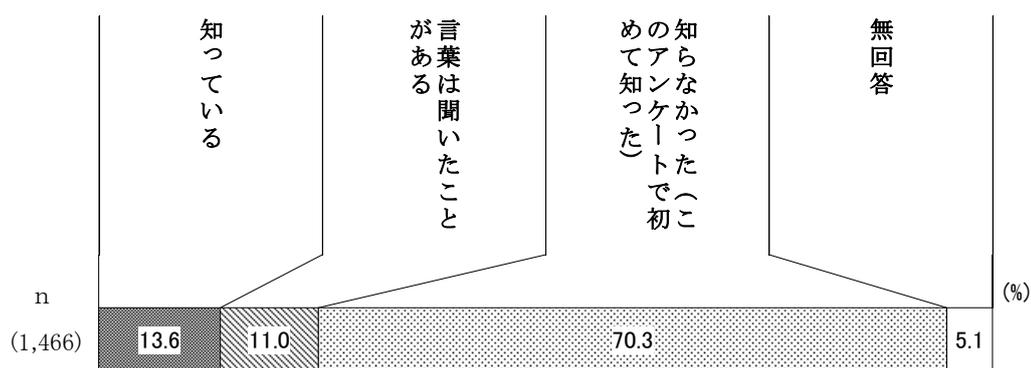


(4) 「地域猫」の認知度

問31 あなたは「地域猫」を知っていますか。(〇は1つ)

「地域猫」の認知度は、「知っている」13.6%、「言葉は聞いたことがある」11.0%となっている。一方、「知らなかった(このアンケートで初めて知った)」が70.3%、約7割と高く、「地域猫」の認知度は低い。

図 「地域猫」の認知度 [全体]

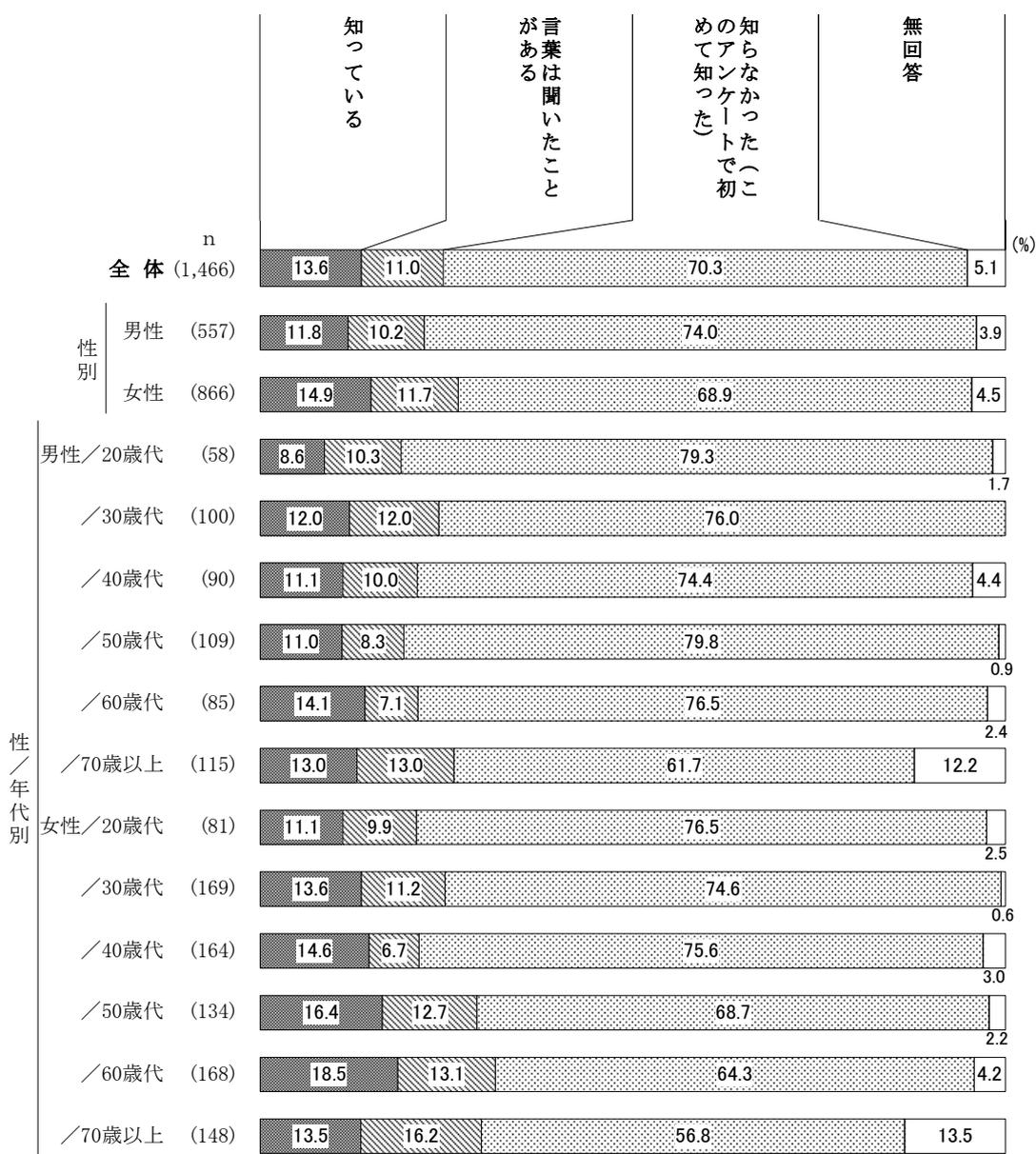


■ 「地域猫」の認知度 [性別・性/年代別・居住地域別]

性別でみると、「知っている」は女性14.9%、男性11.8%で3.1ポイント、「言葉は聞いたことがある」は女性11.7%、男性10.2%とそれぞれ女性が高くなっている。一方、「知らなかった（このアンケートで初めて知った）」は男性74.0%、女性68.9%で男性が5.1ポイント高い。

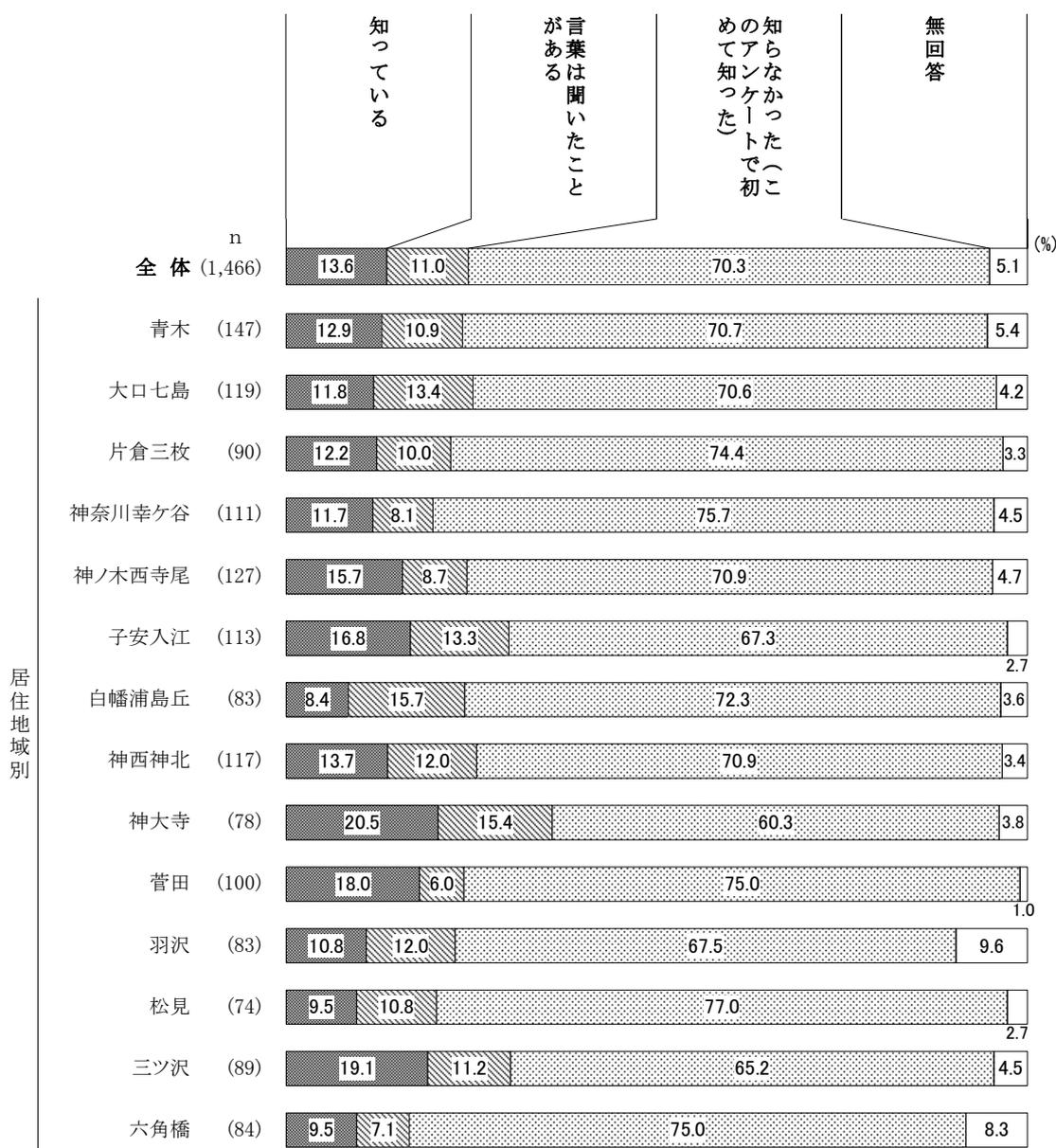
性/年代別でみると、「知っている」は男性の20歳代を除いて1割台、「言葉は聞いたことがある」は1割未満から1割台と低い割合になっている。一方、「知らなかった（このアンケートで初めて知った）」は、女性の70歳以上で5割台後半、50歳代、60歳代で6割台、男性の70歳以上で6割台前半と低い、それ以外の年代では7割を超えて高く、認知度は低い傾向になっている。

図 「地域猫」の認知度 [性別・性/年代別]



居住地域別では、「知っている」は『神大寺』が20.5%で最も高い。「知らなかった（このアンケートで初めて知った）」は『松見』の77.0%が最も高い。すべての地域で「知らなかった（このアンケートで初めて知った）」の割合が高い。

図 「地域猫」の認知度 [居住地域別]

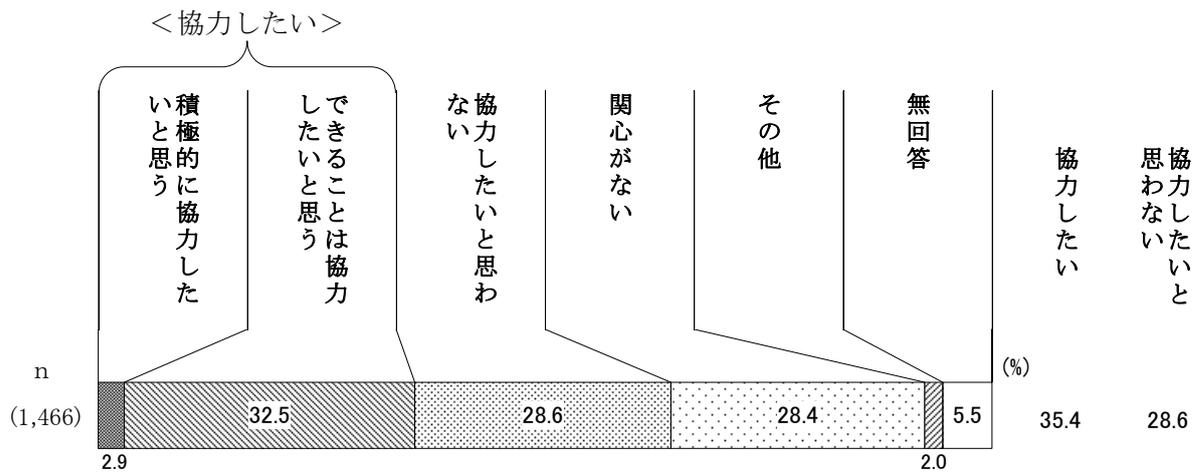


(5) 「地域猫」への取組に協力するか

問32 あなたは、お住まいの地域で「地域猫」への取組に協力したいと思いますか。
(○は1つ)

「地域猫」への取組についての協力意向は、「できることは協力したいと思う」が32.5%、「協力したいと思わない」が28.6%、「関心がない」は28.4%となっている。

図 「地域猫」への取組に協力するか [全体]

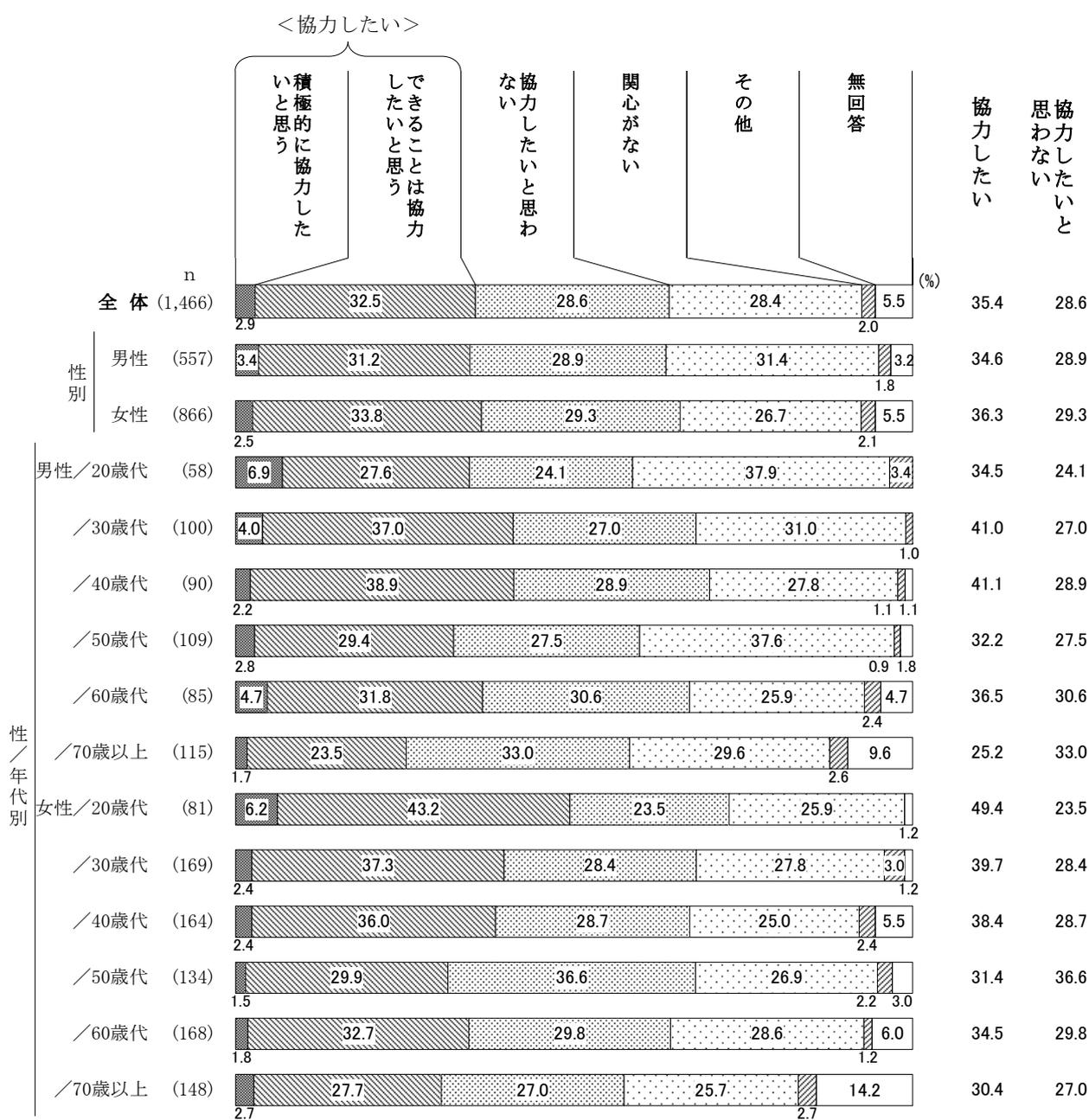


■ 「地域猫」への取組に協力するか〔性別・性／年代別・居住地域別〕

性別でみると、＜協力したい＞は女性36.3%、男性34.6%で女性が1.7ポイント高い。「協力したいと思わない」は女性29.3%、男性28.9%でほとんど差はない。「関心がない」は男性31.4%、女性26.7%で男性が4.7ポイント高い。

性／年代別でみると、＜協力したい＞は『女性／20歳代』が49.4%と最も高く、男性では『男性／40歳代』が41.1%で最も高い。「協力したいと思わない」は男性では60歳以上、女性の50歳代で3割台と高い。「関心がない」は男性の20歳代、50歳代で3割台後半と高く、女性ではすべての年代で2割台となっている。

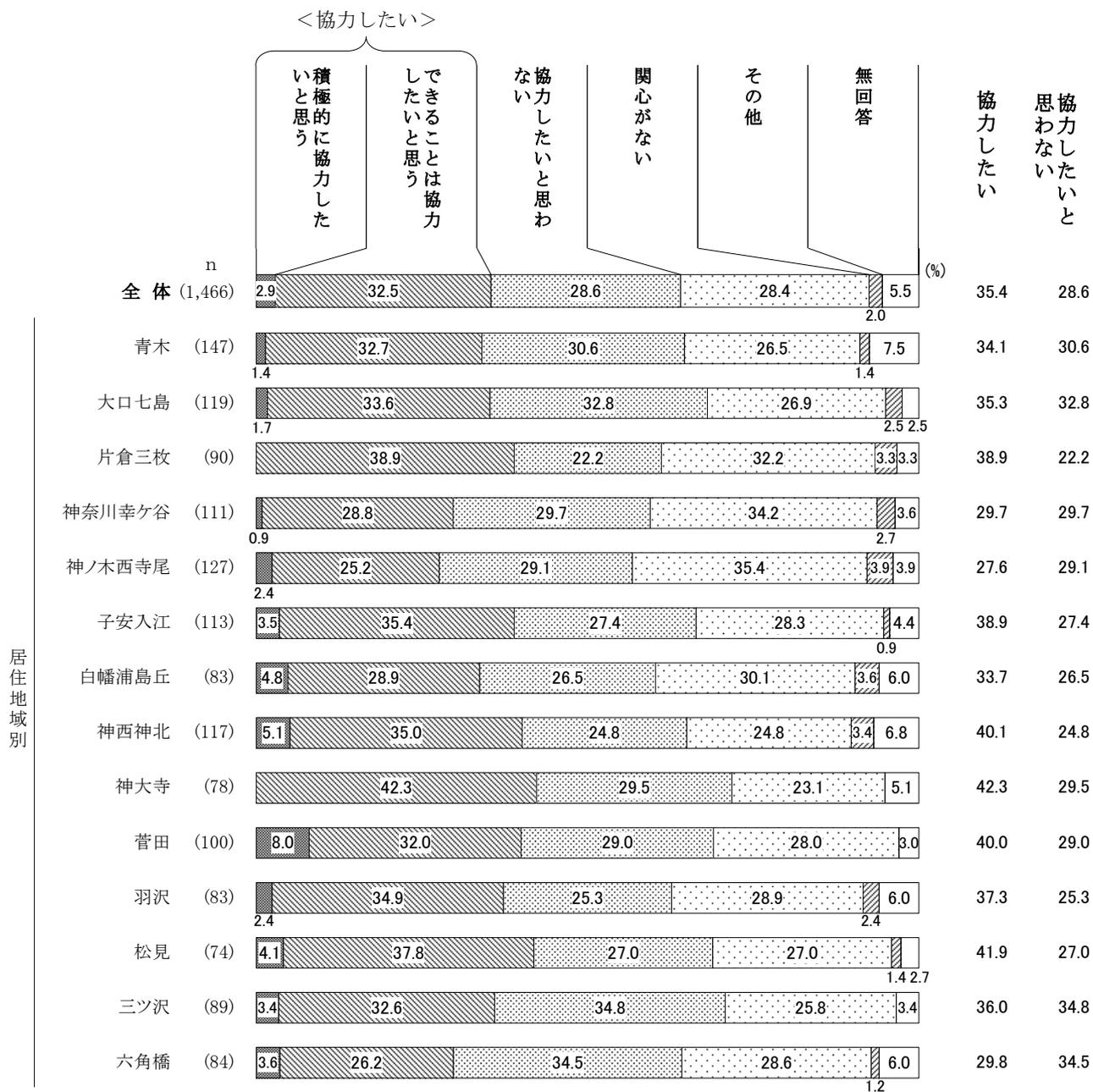
図 「地域猫」への取組に協力するか〔性別・性／年代別〕



第2章 調査結果の詳細

居住地域別では、＜協力したい＞は『神大寺』、『松見』、『神西神北』、『菅田』が4割台と高い。一方、「協力したいと思わない」は『三ツ沢』が34.8%で最も高い。

図 「地域猫」への取組に協力するか〔居住地域別〕



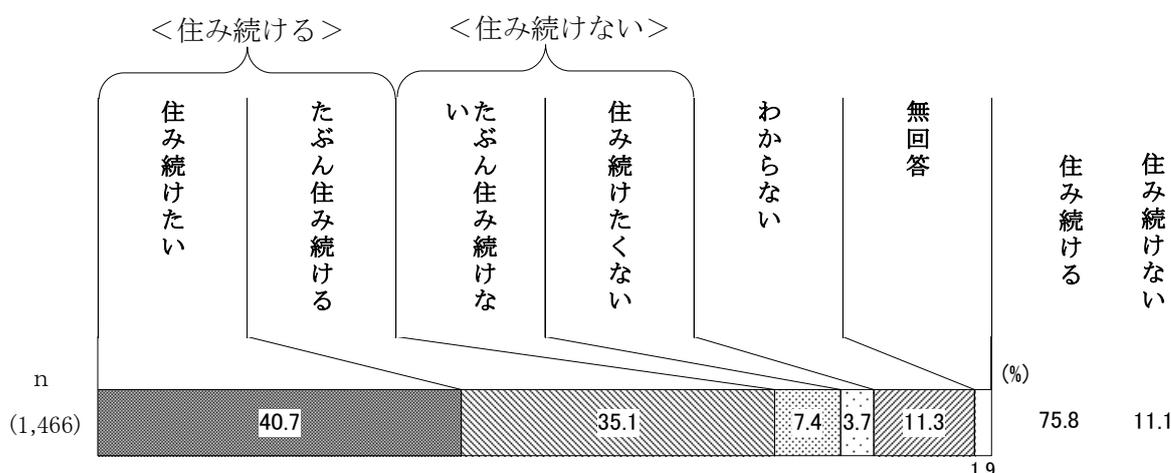
9. 定住意向について

(1) 在住地域の定住意向

問33 あなたは、現在お住まいの地域（あるいは周辺の地域）に住み続けたいですか。
（○は1つ）

在住地域の定住意向は、「住み続けたい」40.7%と「たぶん住み続ける」35.1%を合わせた<住み続ける>は75.8%、7割台半ばとなっており、「たぶん住み続けない」7.4%、「住み続けたくない」3.7%を合わせた<住み続けない>は11.1%、「わからない」は11.3%となっている。

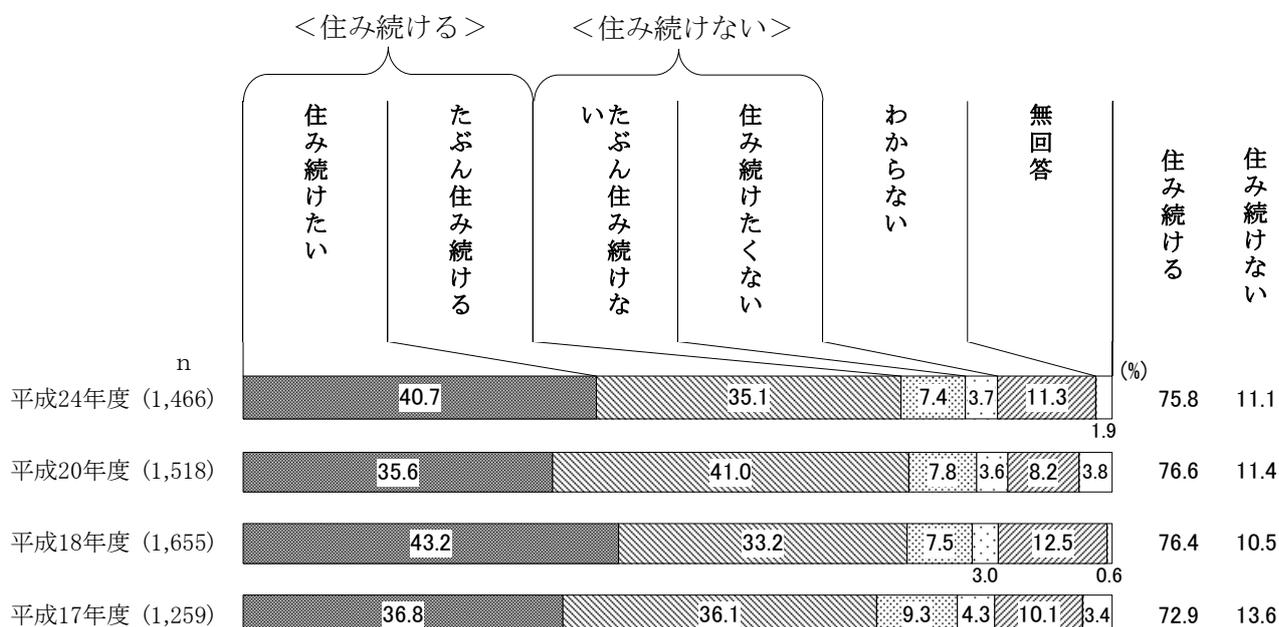
図 在住地域の定住意向 [全体]



■ 時系列比較

過去の調査と比較すると「住み続けたい」は平成20年度調査より5.1ポイント増加し、平成18年度調査より2.5ポイント減少している。「たぶん住み続ける」は平成20年度調査より5.9ポイント減少し、平成18年度調査より1.9ポイント増加している。<住み続けない>は平成20年度調査とほとんど変化していない。

図 在住地域の定住意向（平成20年度、18年度、17年度との比較）

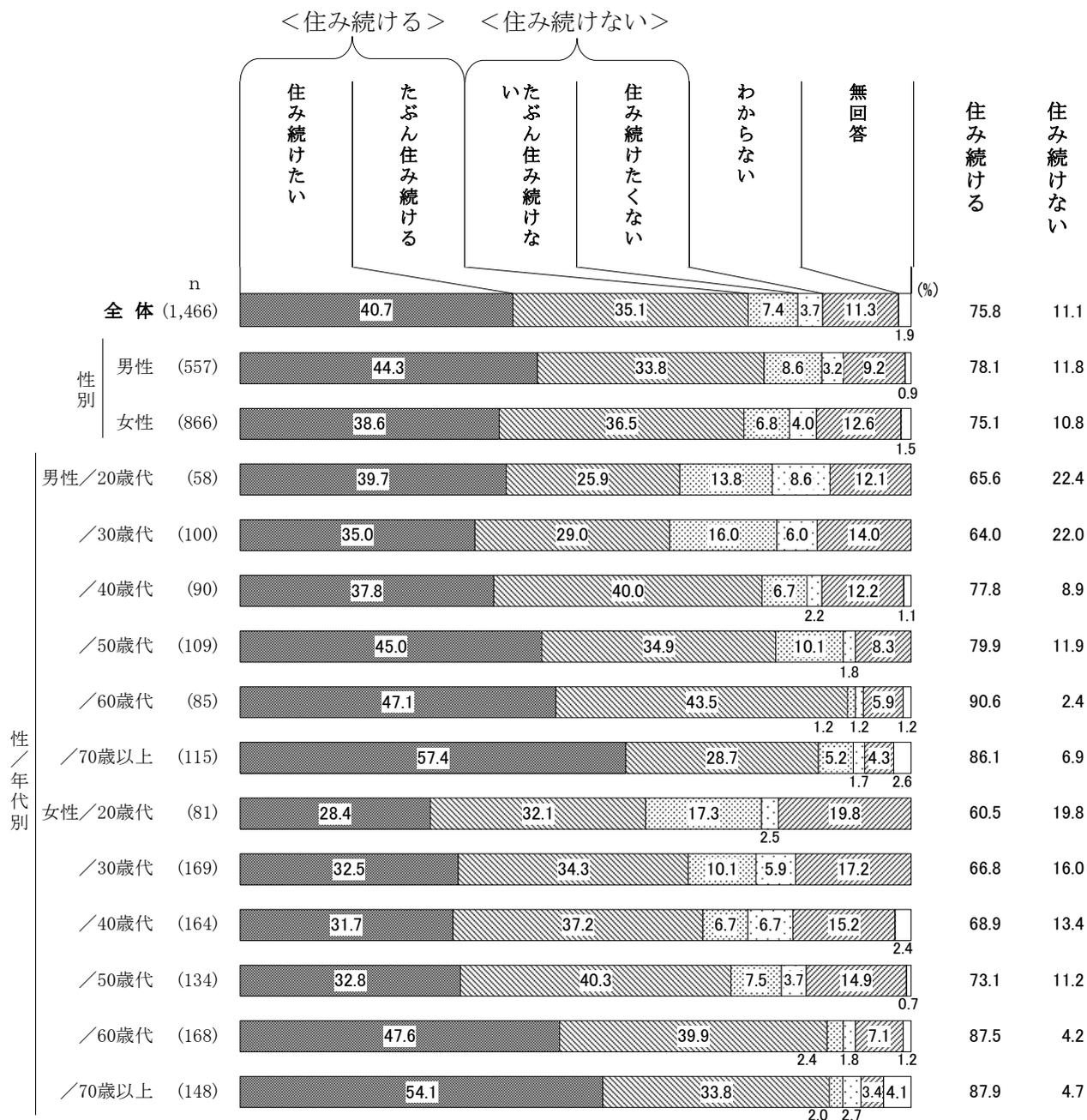


■ 在住地域の定住意向 [性別・性／年代別・居住地域別・居住年数別・自治会町内会加入の有無別]

性別でみると、＜住み続ける＞は男性78.1%、女性75.1%で男性が3.0ポイント高く、＜住み続けない＞は男性11.8%、女性10.8%でわずかに男性の割合が高くなっている。

性／年代別でみると、＜住み続ける＞は男女とも年代があがるに従い割合が高くなる傾向にあり、男性の60歳代で9割台と最も高く、男性の70歳以上、女性の60歳代以上で8割台となっている。＜住み続けない＞は男性の20歳代、30歳代で2割台と高い。

図 在住地域の定住意向 [性別・性／年代別]

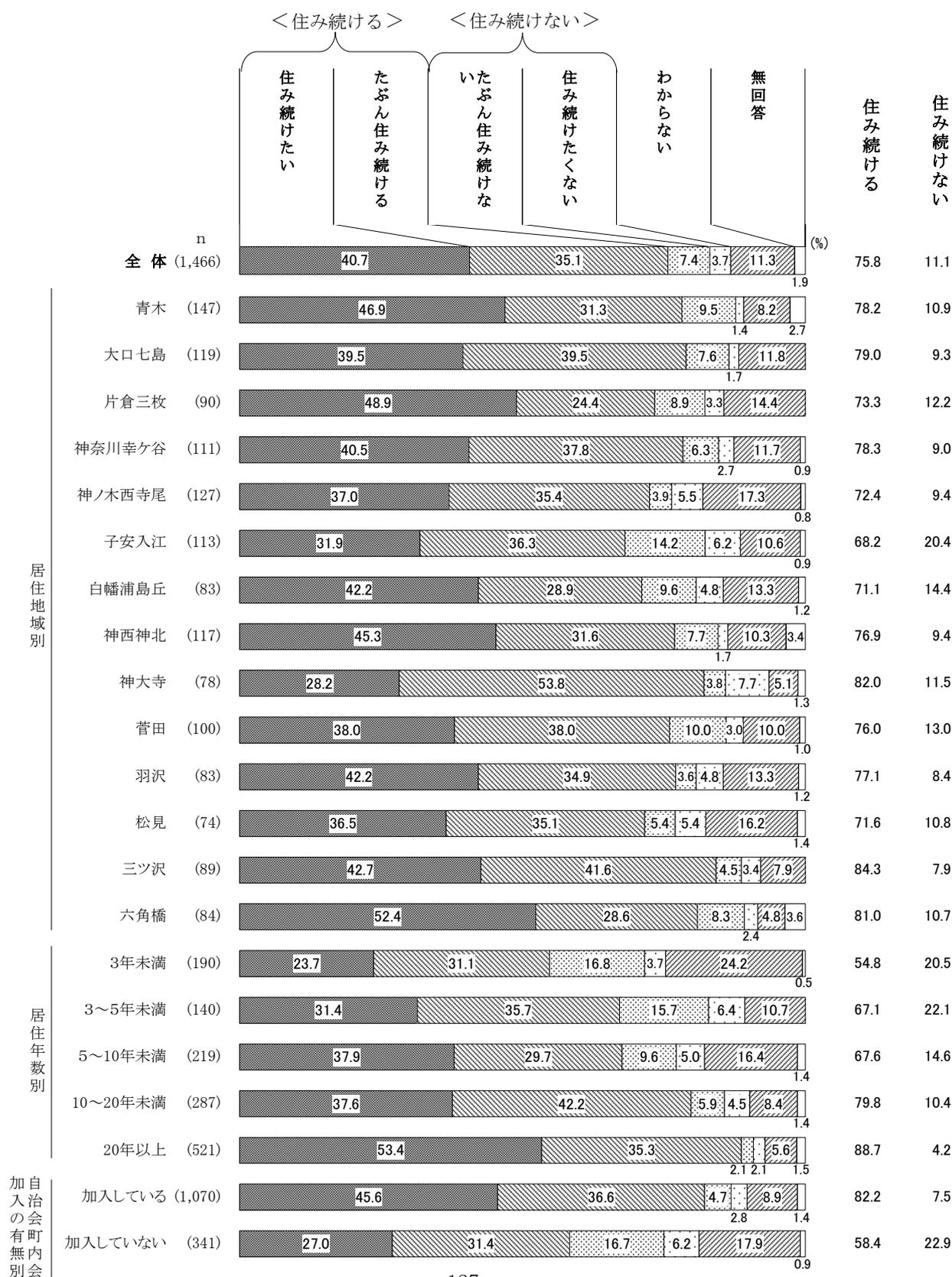


居住地域別では、＜住み続ける＞は『三ツ沢』が84.3%で最も高く、＜住み続けない＞は『子安入江』が20.4%で最も高い。

居住年数別では、＜住み続ける＞は『20年以上』が88.7%で最も高い。

自治会町内会への加入の有無別では、＜住み続ける＞は『加入している』が23.8ポイント高い。

図 在住地域の定住意向〔居住地域別・居住年数別・自治会町内会加入の有無別〕

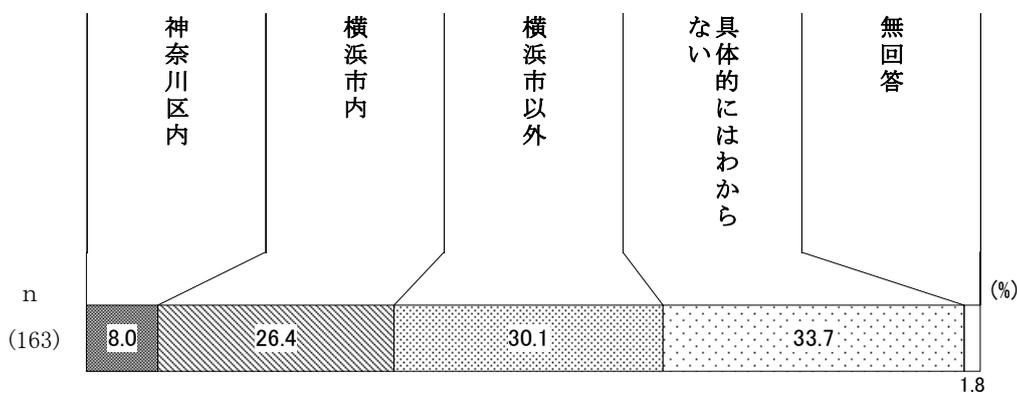


(2) 定住意向のない人が希望する移転先

問34 問33で「3 たぶん住み続けたい」「4 住み続けたくない」と答えた方におたずねします。移転先としては、神奈川県内、横浜市内、横浜市以外のいずれを希望されますか。
(〇は1つ)

「たぶん住み続けたくない」、「住み続けたくない」と回答した人が希望する移転先は、「横浜市以外」30.1%、「横浜市内」26.4%、「神奈川県内」8.0%となっている。一方、「具体的にはわからない」が33.7%である。

図 定住意向のない人が希望する移転先 [全体]

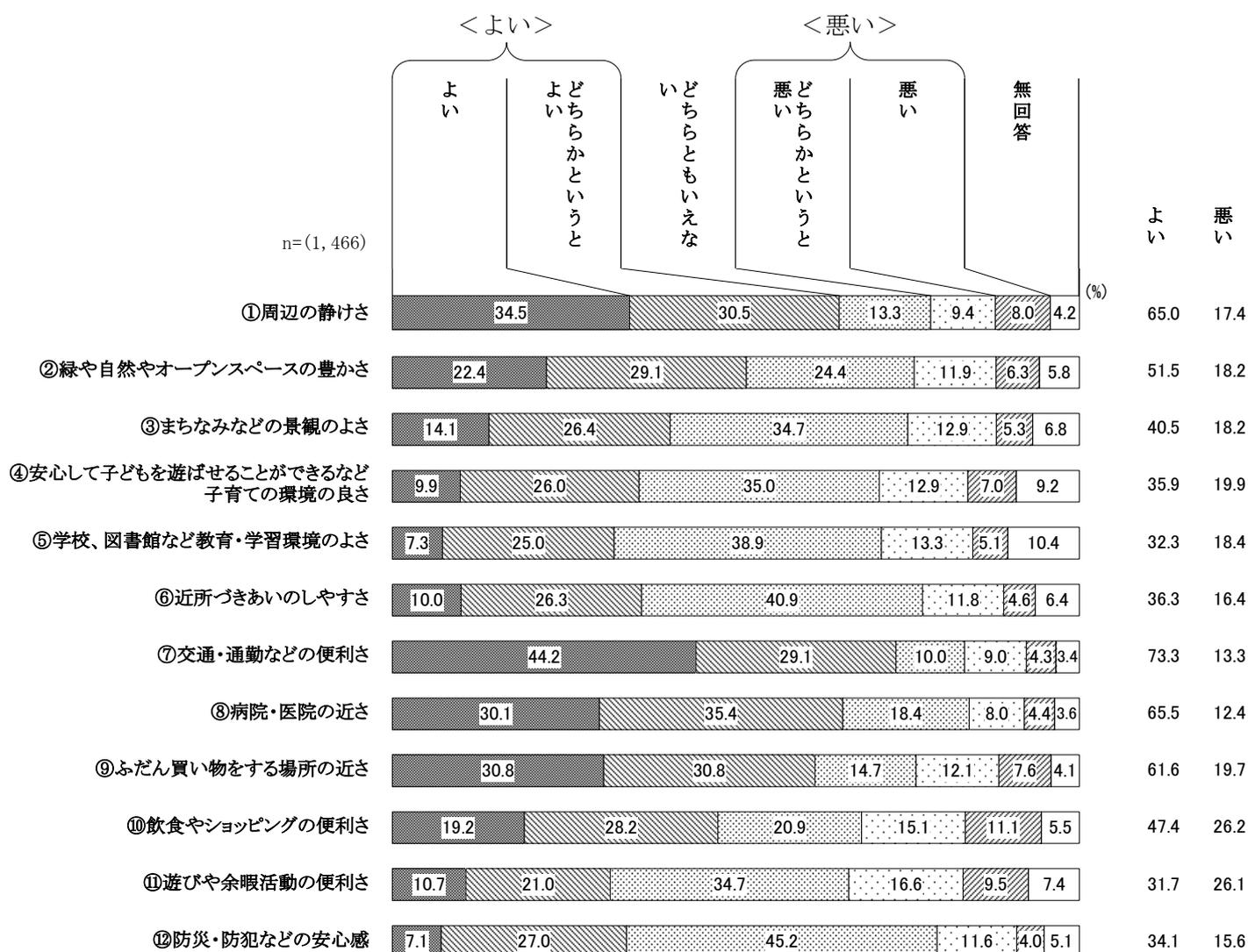


(3) 現在の住まいの環境について

問35 あなたは、現在のお住まいの環境に関する次の項目について、どのように感じていますか。それぞれの項目について「よい」(暮らしやすい)から「悪い」(暮らしにくい)までの該当する欄の番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

現在の住まいの環境について、「よい」と「どちらかというとよい」を合わせた<よい>は『交通・通勤などの便利さ』が73.3%で最も高く、次いで『病院・医院の近さ』65.5%、『周辺の静けさ』65.0%、『ふだん買い物をする場所の近さ』61.6%となっている。「悪い」と「どちらかというと悪い」を合わせた<悪い>は『飲食やショッピングの便利さ』が26.2%と最も高く、『遊びや余暇活動の便利さ』26.1%となっている。「どちらともいえない」は『防災・防犯などの安心感』45.2%が最も高く、次いで『近所づきあいのしやすさ』40.9%となっている。

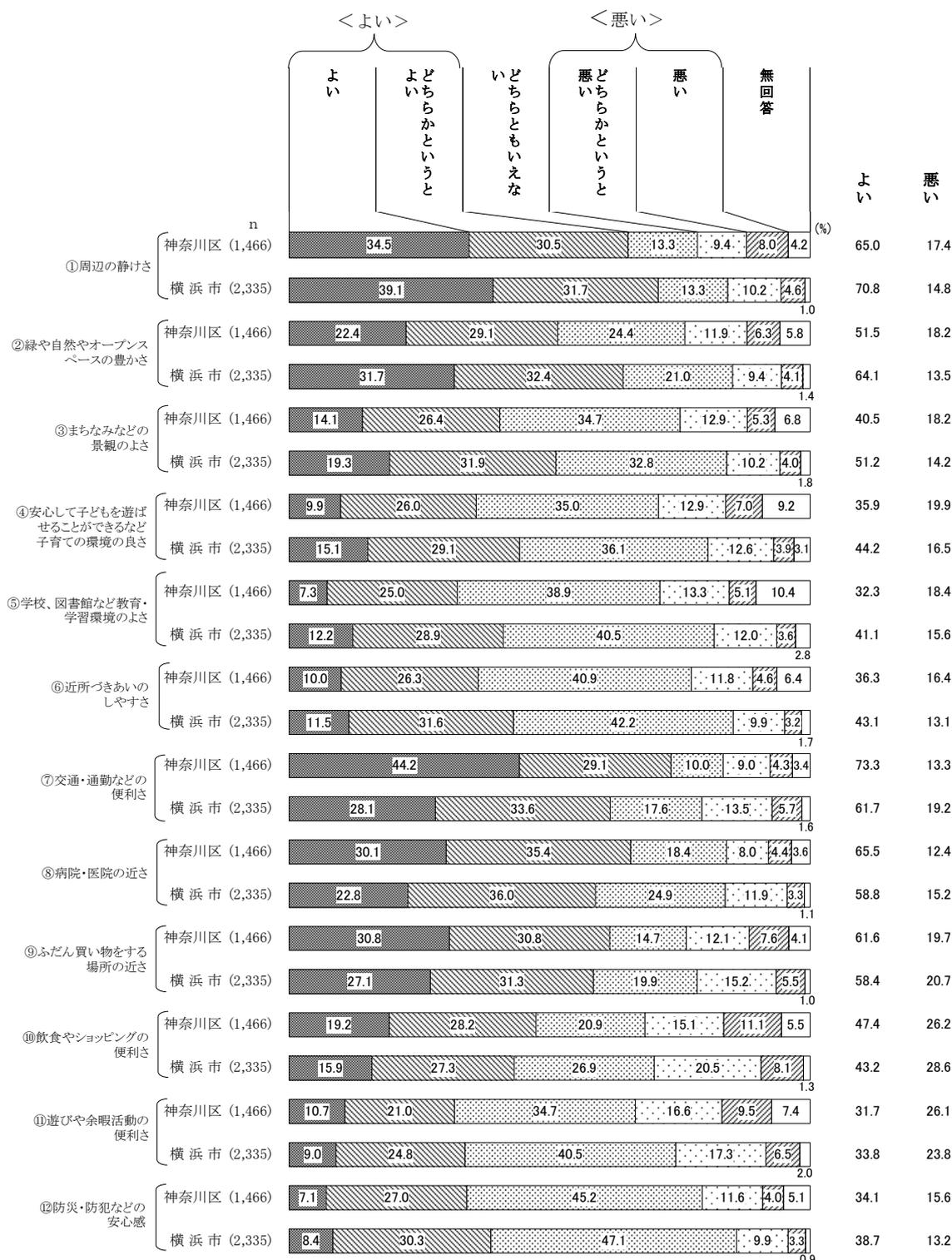
図 現在の住まいの環境について [全体]



■ 横浜市調査との比較

横浜市調査(平成22年度)と比較すると、<よい>は『交通・通勤などの便利さ』で11.6ポイント、『病院・医院の近さ』6.7ポイント、『飲食やショッピングの便利さ』4.2ポイント、それぞれ神奈川区で高い。また、『緑や自然やオープンスペースの豊かさ』で12.6ポイント、『まちなみなどの景観のよさ』10.7ポイント横浜市が高い。一方、<悪い>は『緑や自然やオープンスペースの豊かさ』で4.7ポイント、『まちなみなどの景観のよさ』4.0ポイント神奈川区が高く、『交通・通勤などの便利さ』で5.9ポイント、『病院・医院の近さ』2.8ポイント横浜市が高い。

図 現在の住まいの環境について（横浜市調査との比較）



■ 現在の住まいの環境について〔性別・性／年代別・居住地域別・定住意向別〕

性別でみると、「よい」と「どちらかというといよい」を合わせた<よい>で割合の高い『交通・通勤などの便利さ』は1.8ポイント、『病院・医院の近さ』3.9ポイント、『周辺の静けさ』1.2ポイント、『ふだん買い物をする場所の近さ』2.7ポイント、それぞれ女性の方が高くなっている。また、『飲食やショッピングの便利さ』を除くすべての項目で女性の割合が男性より高くなっている。「悪い」と「どちらかというとい悪い」を合わせた<悪い>は『飲食やショッピングの便利さ』1.7ポイント、『遊びや余暇活動の便利さ』1.4ポイントそれぞれ女性の方が高い。「どちらともいえない」は『防災・防犯などの安心感』の割合が高く、男性、女性でほとんど差はない。次いで割合の高い『近所づきあいのしやすさ』は男性が6.6ポイント高い。

性／年代別でみると、<よい>の割合が高い『交通・通勤などの便利さ』は、男性では30歳代から60歳代で7割を超えており、女性ではすべての年代で7割を超えている。男性では『男性／60歳代』78.9%が最も高く、女性では『女性／30歳代』77.0%が最も高い。『病院・医院の近さ』は、男性30歳代から50歳代、70歳以上で6割台、女性では20歳代から40歳代で6割台となっている。男性60歳代、女性50歳代以上で7割台と高く、男性では『男性／60歳代』71.8%が最も高く、女性では『女性／60歳代』75.0%が最も高い。『周辺の静けさ』は男性20歳代、女性40歳代で5割台、男性30歳代以上、女性20歳代、30歳代、50歳代で6割台となっており、女性60歳以上で7割台と高い。男性では『男性／30歳代』67.0%が最も高く、女性では『女性／60歳代』70.9%が最も高くなっている。<悪い>の割合が高い『飲食やショッピングの便利さ』は男性20歳代、女性20歳代、30歳代で3割台と高い。『遊びや余暇活動の便利さ』は男性20歳代が4割台と高く、男性50歳代、女性20歳代から30歳代で3割台前半となっている。

居住地域別では、『周辺の静けさ』で<よい>は『神大寺』が85.9%と最も高く、<悪い>は『子安入江』45.2%が最も高い。『緑や自然やオープンスペースの豊かさ』の<よい>は『片倉三枚』74.4%、『菅田』74.0%と続いている。<悪い>は『子安入江』の46.9%が最も高い。『まちなみなどの景観のよさ』の<よい>は『三ツ沢』52.8%が最も高く、<悪い>は『子安入江』39.0%となっている。『安心して子どもを遊ばせることができるなど子育ての環境の良さ』の<よい>は『片倉三枚』53.4%が高く、<悪い>は『子安入江』39.8%となっている。『学校、図書館など教育・学習環境のよさ』の<よい>は『白幡浦島丘』55.5%で、<悪い>は『羽沢』37.3%である。『近所づきあいのしやすさ』の<よい>は『白幡浦島丘』42.1%で、<悪い>は『神奈川幸ヶ谷』の26.1%となっている。『交通・通勤などの便利さ』の<よい>は『大口七島』90.8%、『神西神北』90.6%と9割を超えて高い。<悪い>は『羽沢』54.2%である。『病院・医院の近さ』の<よい>は『大口七島』83.2%、<悪い>は『羽沢』55.4%となっている。『ふだん買い物をする場所の近さ』の<よい>は『大口七島』84.1%、<悪い>は『羽沢』78.3%となっている。『飲食やショッピングの便利さ』の<よい>は『神西神北』74.3%、<悪い>は『羽沢』84.3%が最も高い。『遊びや余暇活動の便利さ』の<よい>は『神奈川幸ヶ谷』51.3%、<悪い>は『羽沢』69.9%となっている。『防災・防犯などの安心感』の<よい>は『片倉三枚』44.5%が最も高く、<悪い>は『神ノ木西寺尾』23.6%である。

『交通・通勤などの便利さ』、『病院・医院の近さ』、『ふだん買い物をする場所の近さ』は『大口七島』の<よい>の割合が高い。『緑や自然やオープンスペースの豊かさ』、『安心して子どもを遊ばせることができるなど子育ての環境の良さ』、『防災・防犯などの安心感』は『片倉三枚』の<よい>の割

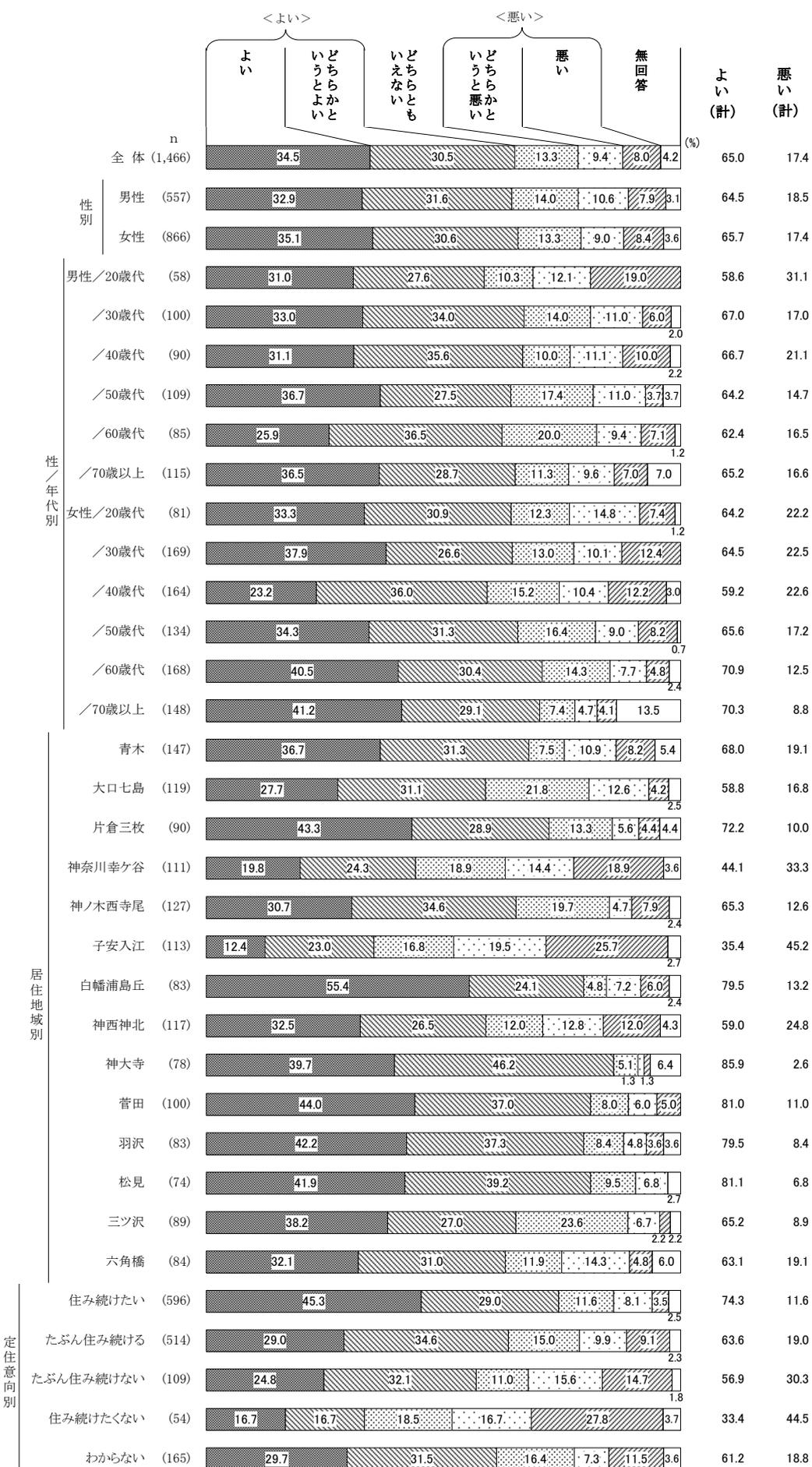
第2章 調査結果の詳細

合が高くなっている。『羽沢』は『飲食やショッピングの便利さ』、『ふだん買い物をする場所の近さ』、『遊びや余暇活動の便利さ』、『病院・医院の近さ』、『交通・通勤などの便利さ』、『学校、図書館など教育・学習環境のよさ』の<悪い>の割合が高い。

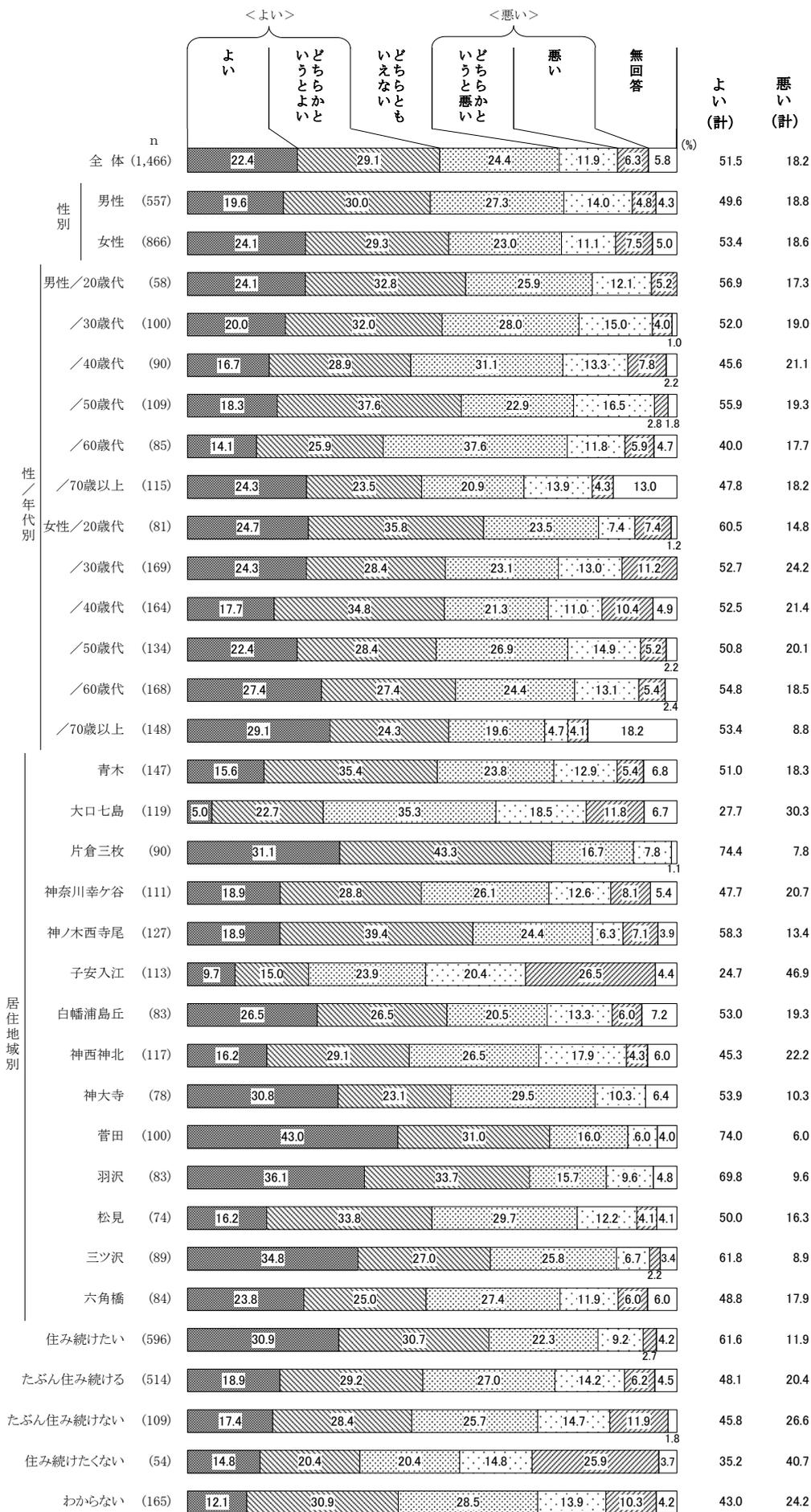
定住意向別では、すべての項目で『住みたい』の方が<よい>の割合が高く、『交通・通勤などの便利さ』80.2%、『周辺の静けさ』74.3%、『病院・医院の近さ』73.8%、『ふだん買い物をする場所の近さ』69.1%、『緑や自然やオープンスペースの豊かさ』61.6%が6割以上の高い割合となっている。『住みたくない』の<悪い>の割合は、『飲食やショッピングの便利さ』、『遊びや余暇活動の便利さ』がともに59.2%と約6割で高くなっている。

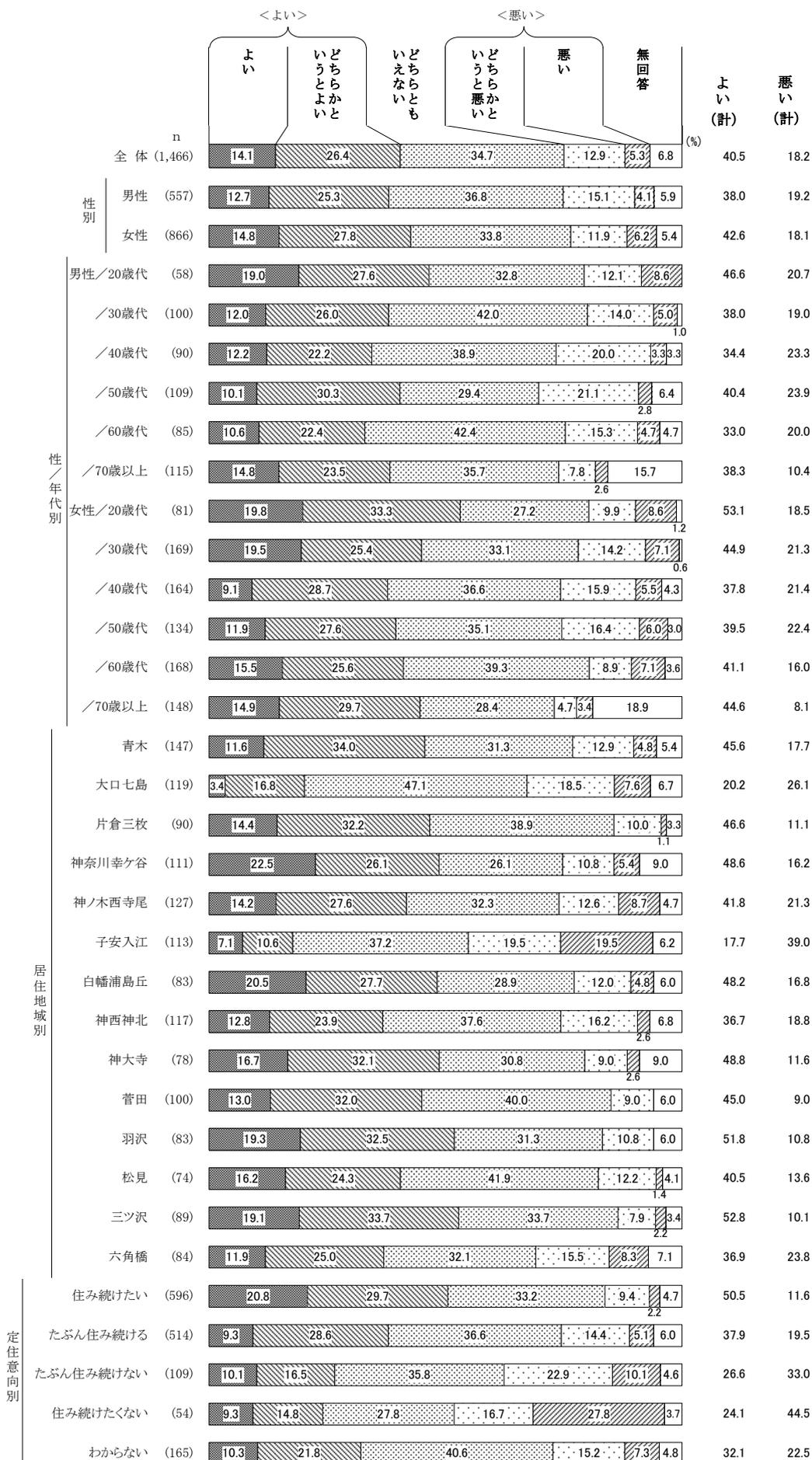
図 現在の住まいの環境について [性別・性/年代別・居住地域別・定住意向別]

周辺の静けさ

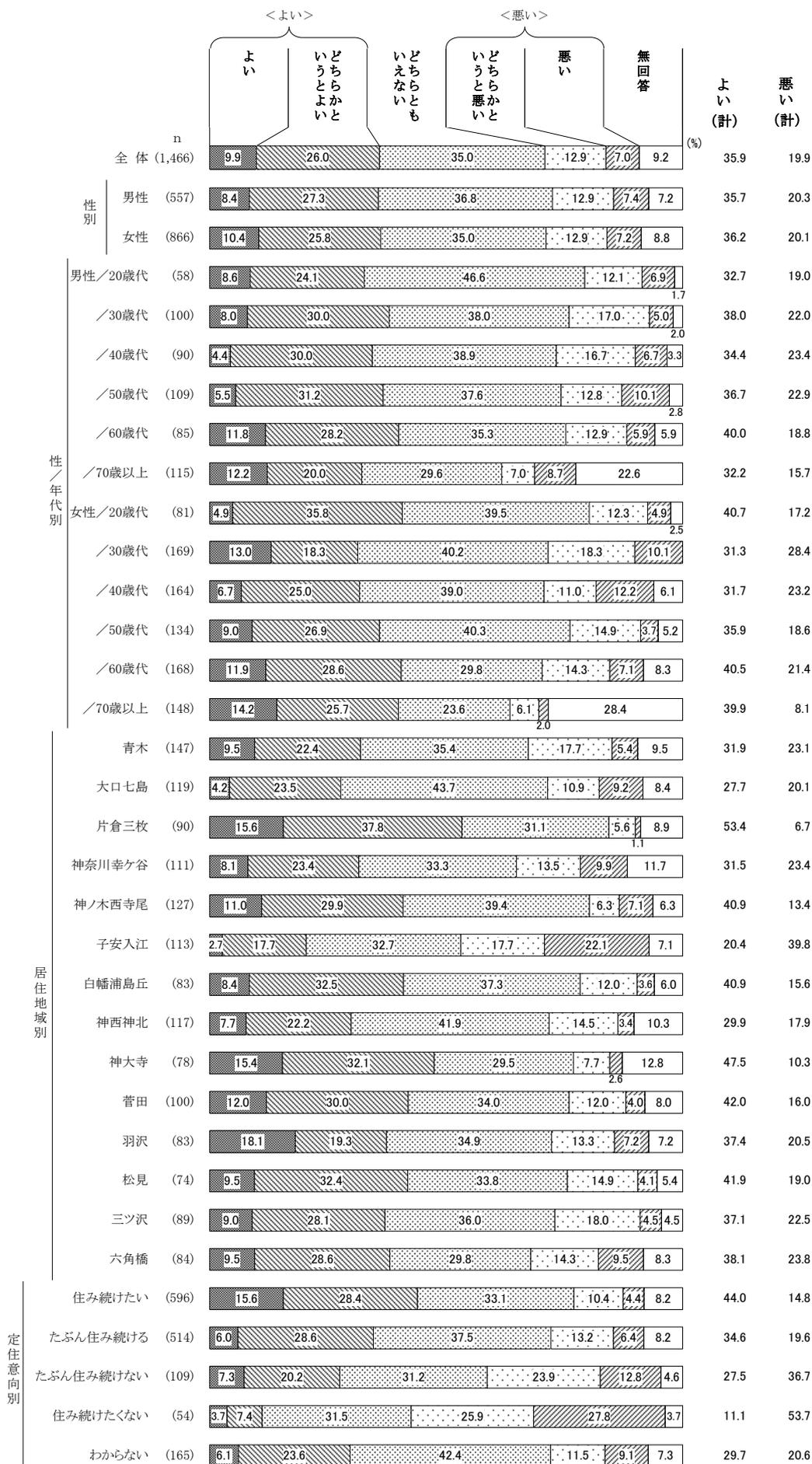


緑や自然やオープンスペースの豊かさ

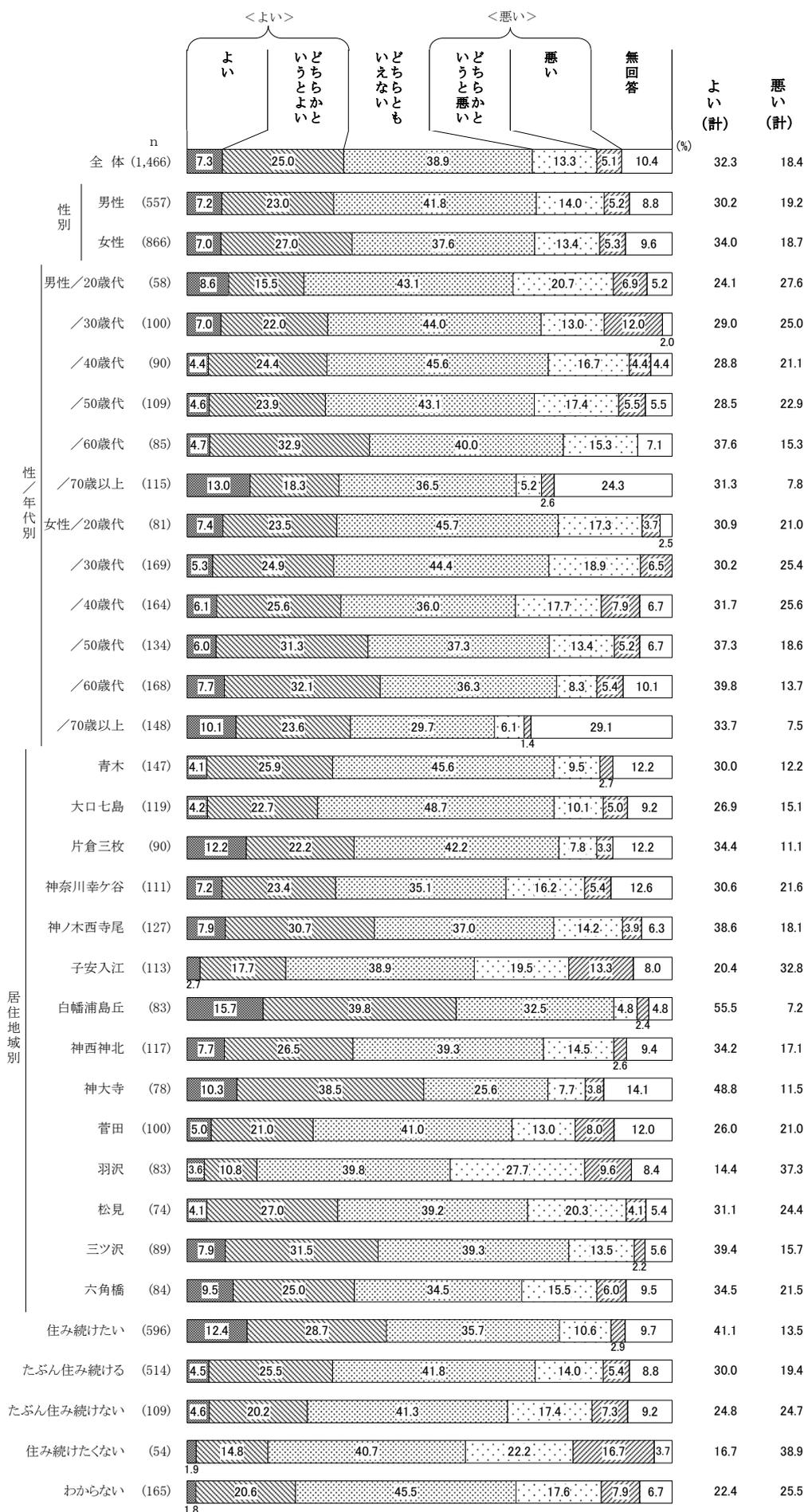


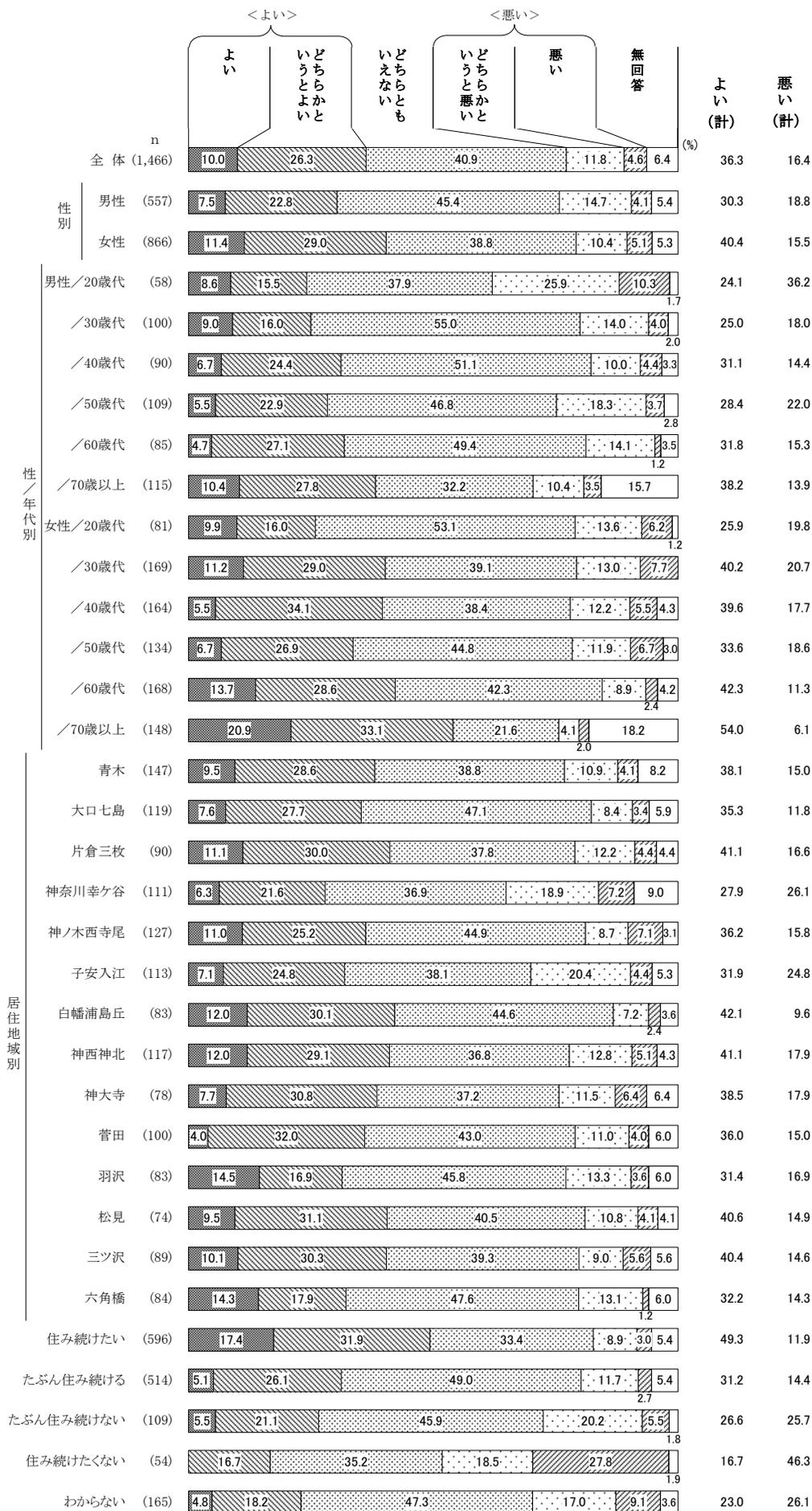


安心して子どもを遊ばせることができるなど子育ての環境の良さを

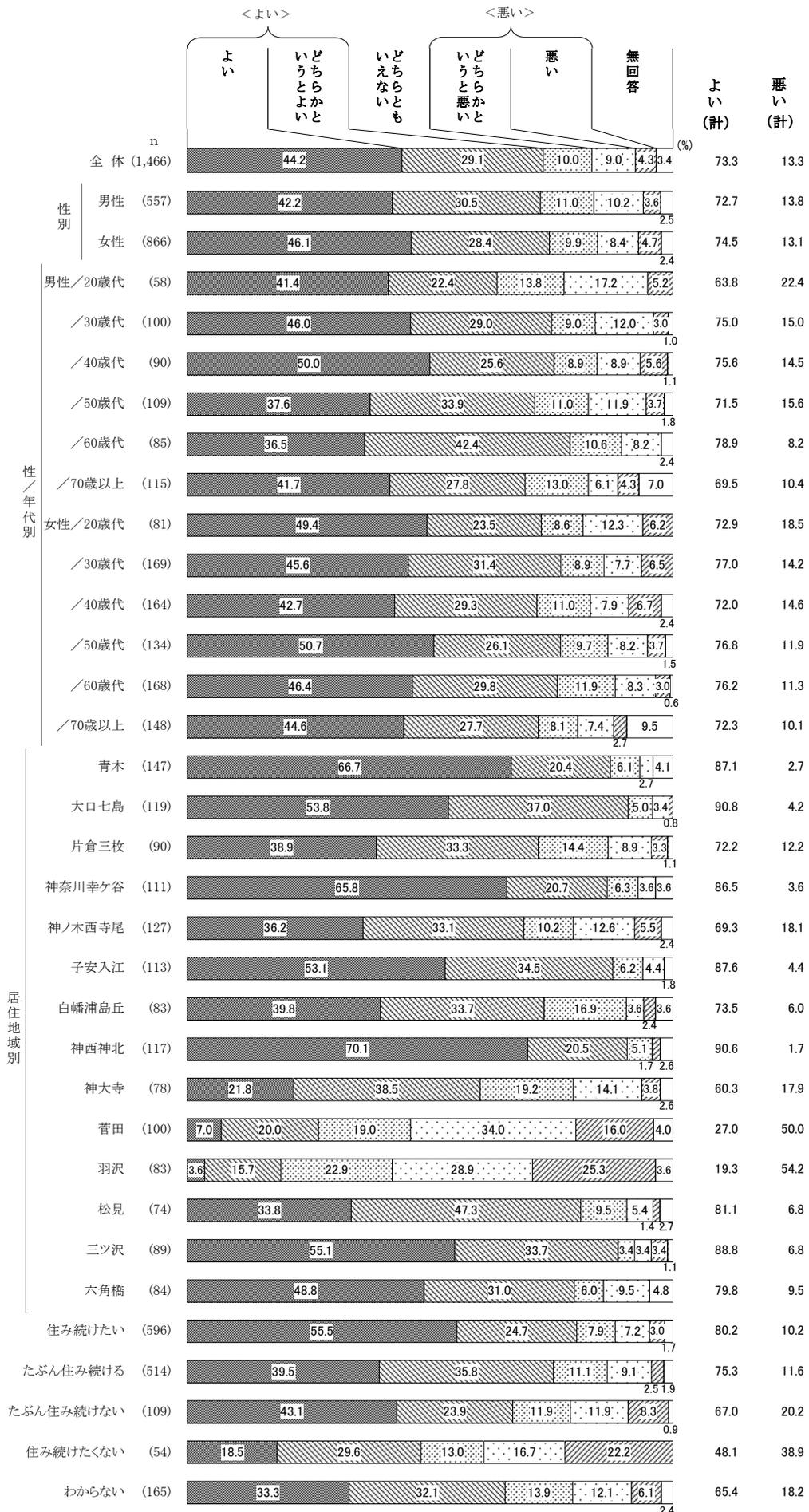


学校・図書館など教育・学習環境のよさ



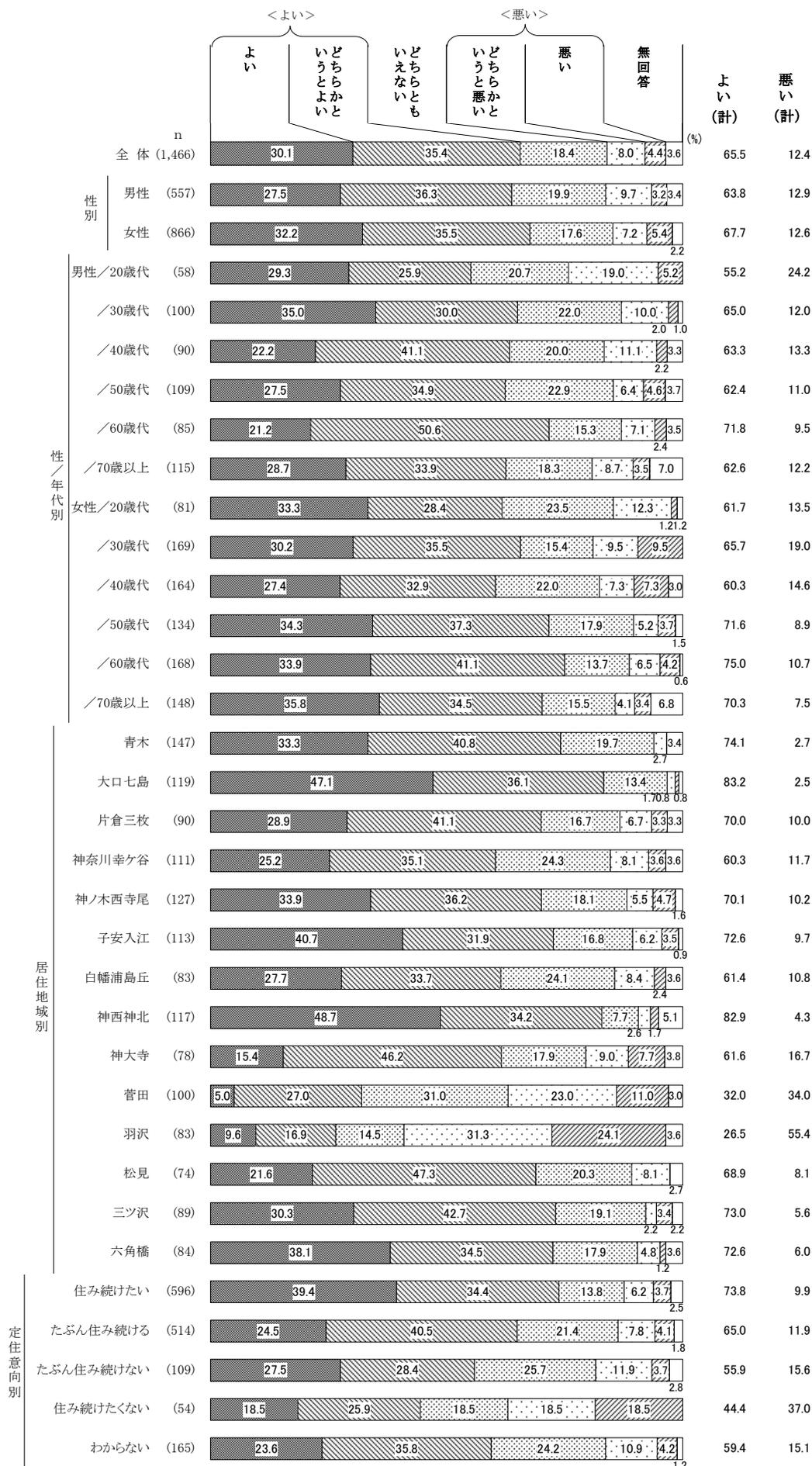


交通・通勤などの利便さ

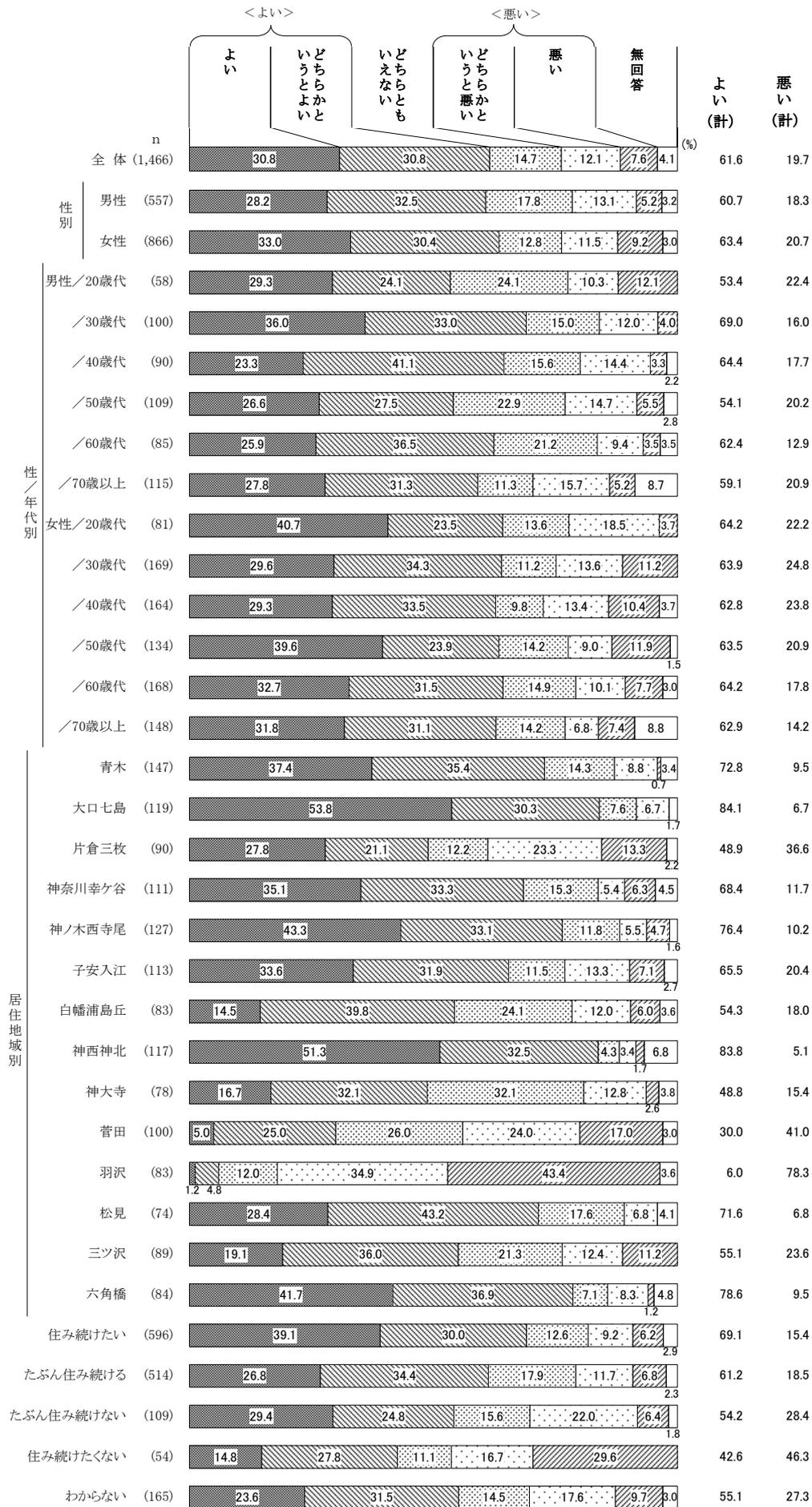


第2章 調査結果の詳細

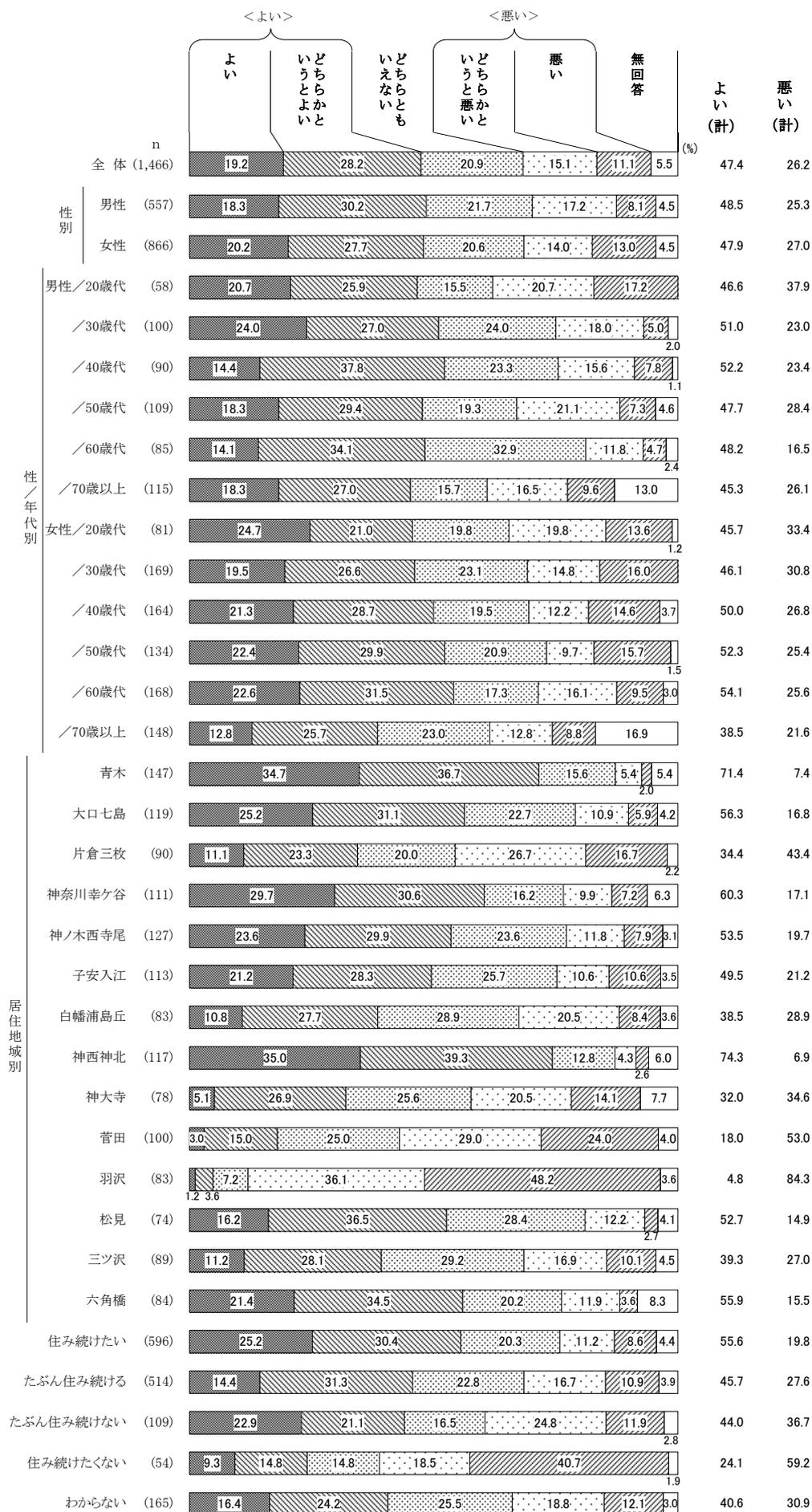
病院・医院の近さ



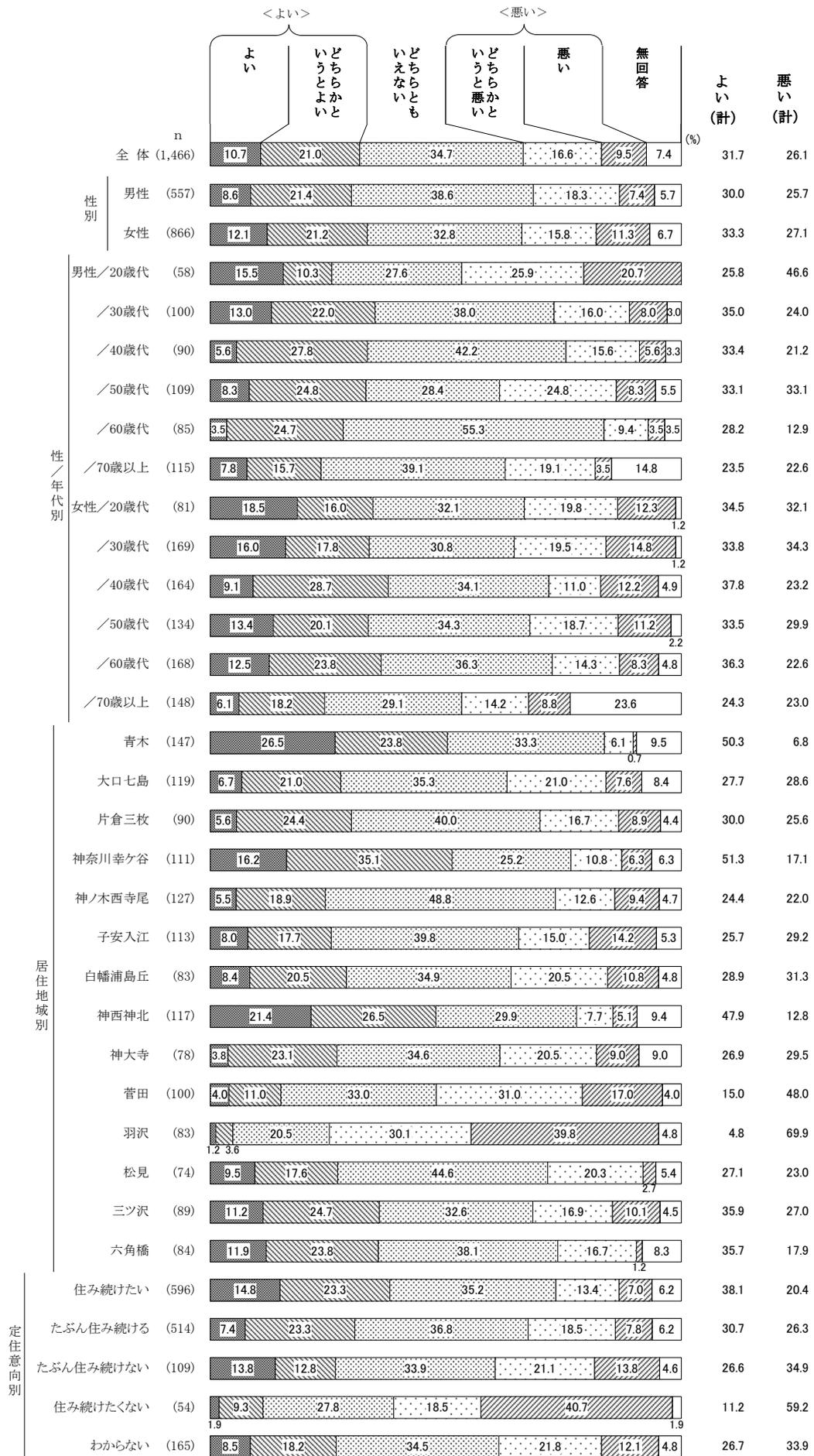
ふだん買い物をする場所の近さ



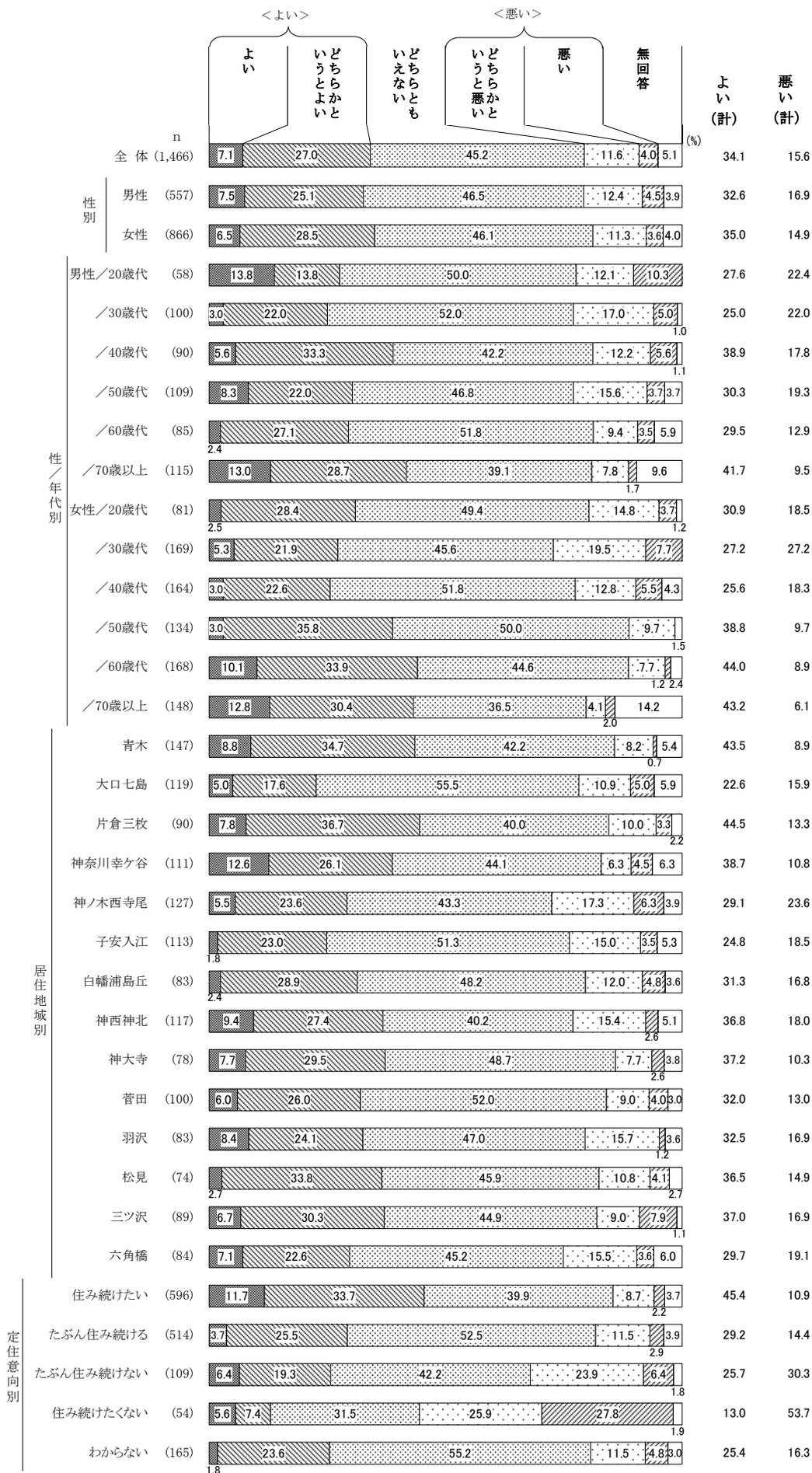
飲食やショッピングの便利さ



遊びや余暇活動の便利さ



防災・防犯などの安心感

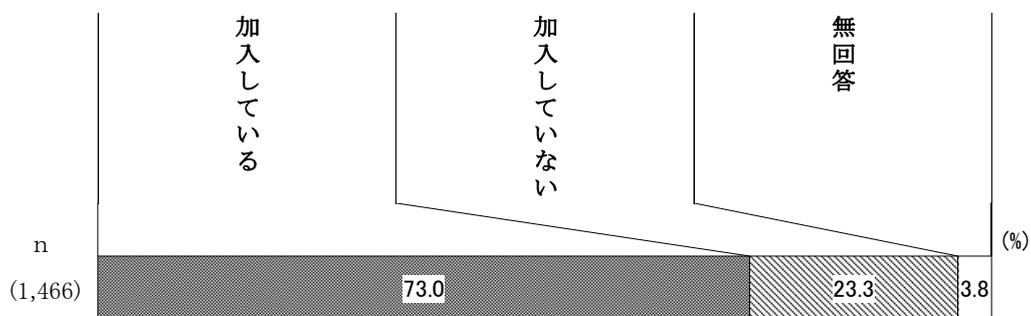


10. 自治会町内会への加入状況

(1) 自治会町内会への加入状況

「加入している」が73.0%で7割台前半、「加入していない」は23.3%となっている。

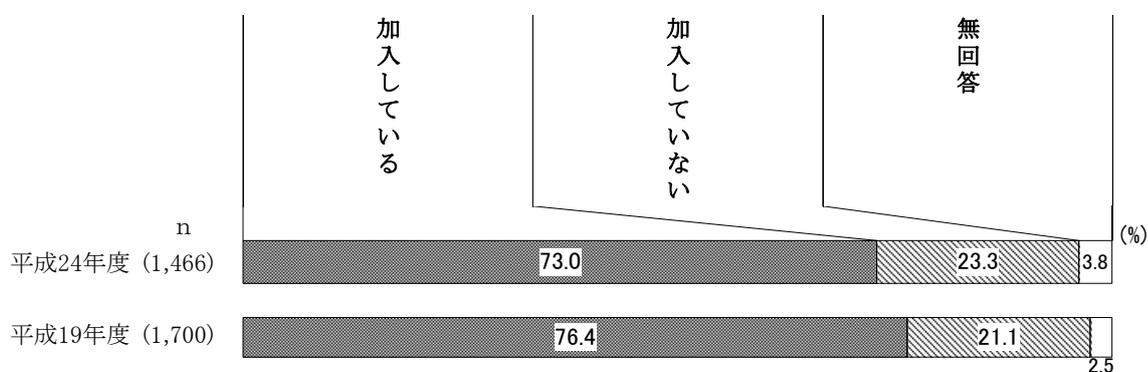
図 自治会町内会への加入状況 [全体]



■ 時系列比較

平成19年度調査と比較すると、「加入している」は3.4ポイント減少し、「加入していない」は2.2ポイント増加している。

図 自治会町内会への加入状況（平成19年度との比較）



※平成24年度調査と平成19年度調査の選択肢は完全に一致しないが、参考までに比較した。

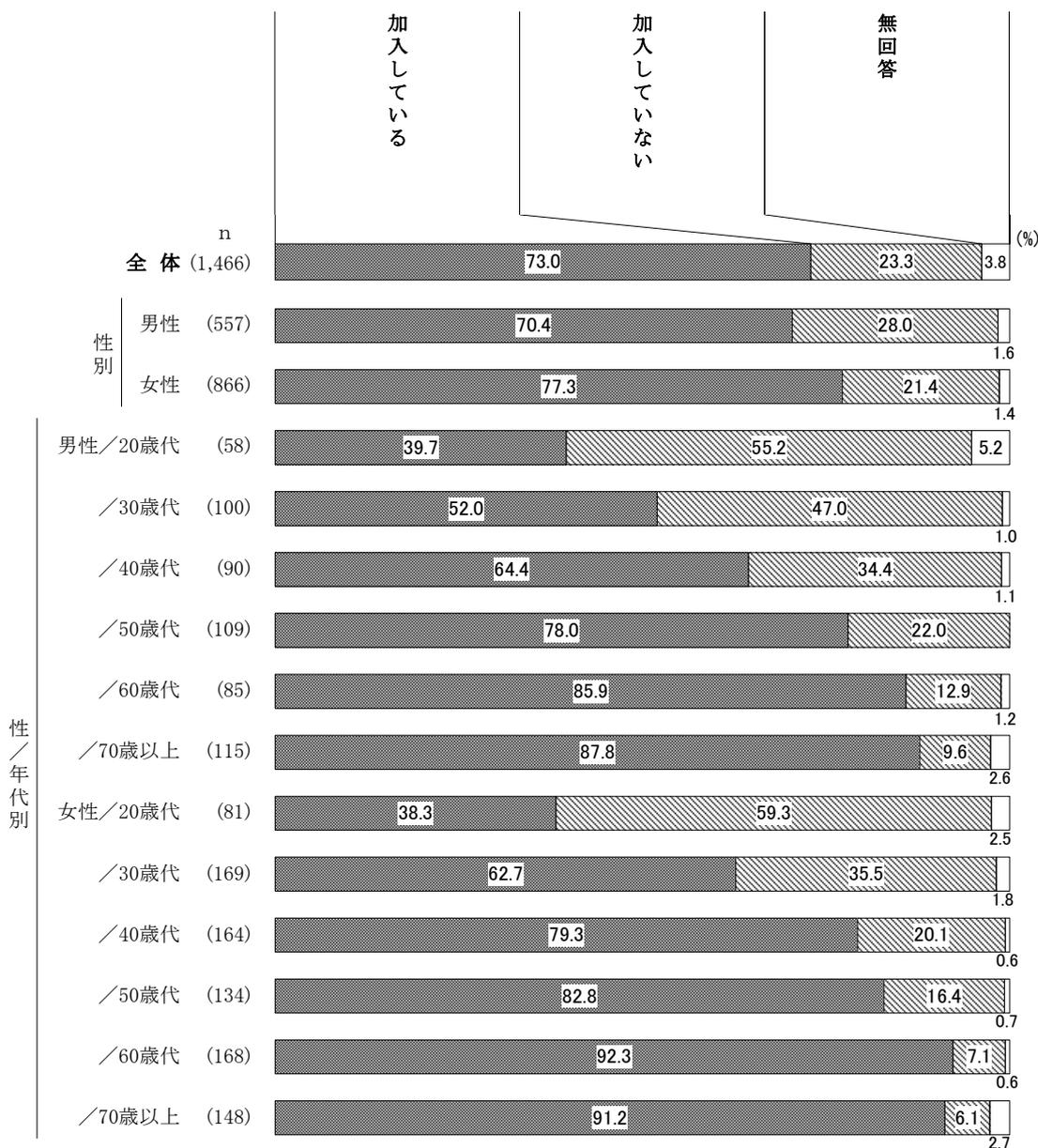
平成19年度の「加入している」(74.9%)、「加入しているが、やめたい」(1.5%)は平成24年度の「加入している」に、「加入していないが、入りたい」(5.2%)、「加入していないし、今後も加入するつもりはない」(15.9%)は平成24年度の「加入していない」としてそれぞれに合算した。

■ 自治会町内会への加入状況 [性別・性／年代別・居住地域別・居住年数別・居住形態別・世帯類型別]

性別でみると、「加入している」は女性77.3%、男性70.4%で女性が6.9ポイント高く、「加入していない」は男性28.0%、女性21.4%で男性が6.6ポイント高い。

性／年代別でみると、「加入している」は男性、女性とも年代があがるに従い割合が高くなり、男性60歳以上は8割台半ばで高く、女性60歳以上で9割台前半となっている。

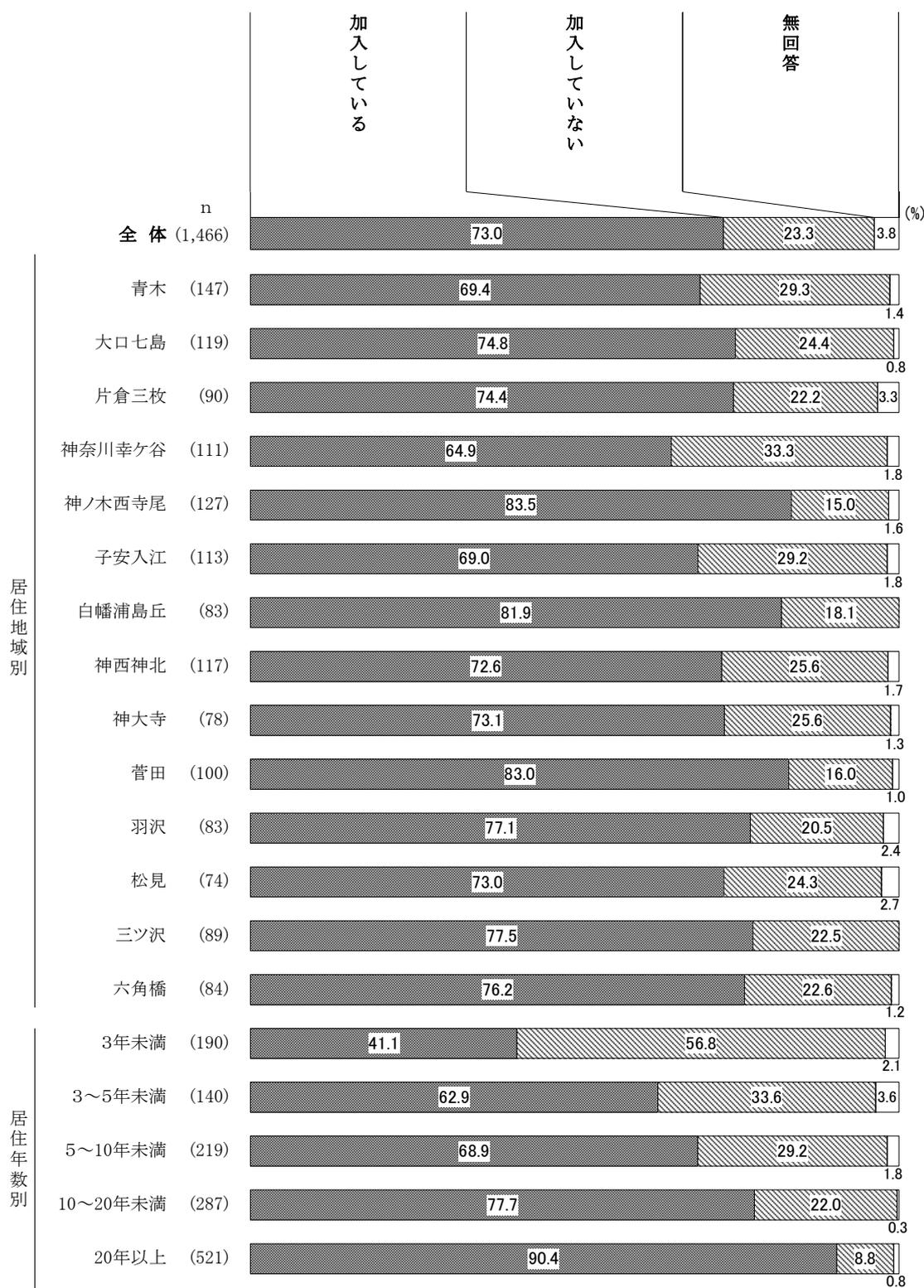
図 自治会町内会への加入状況 [性別・性／年代別]



居住地域別で見ると、『神ノ木西寺尾』が83.5%と最も高く、次いで『菅田』、『白幡浦島丘』が8割台と高く、すべての地域で6割以上の加入率となっている。

居住年数別では、居住年数が長いほど「加入している」割合が高く、『20年以上』は90.4%、約9割と高い。一方、『3年未満』は41.1%、4割台前半となっている。

図 自治会町内会への加入状況 [居住地域・居住年数別]

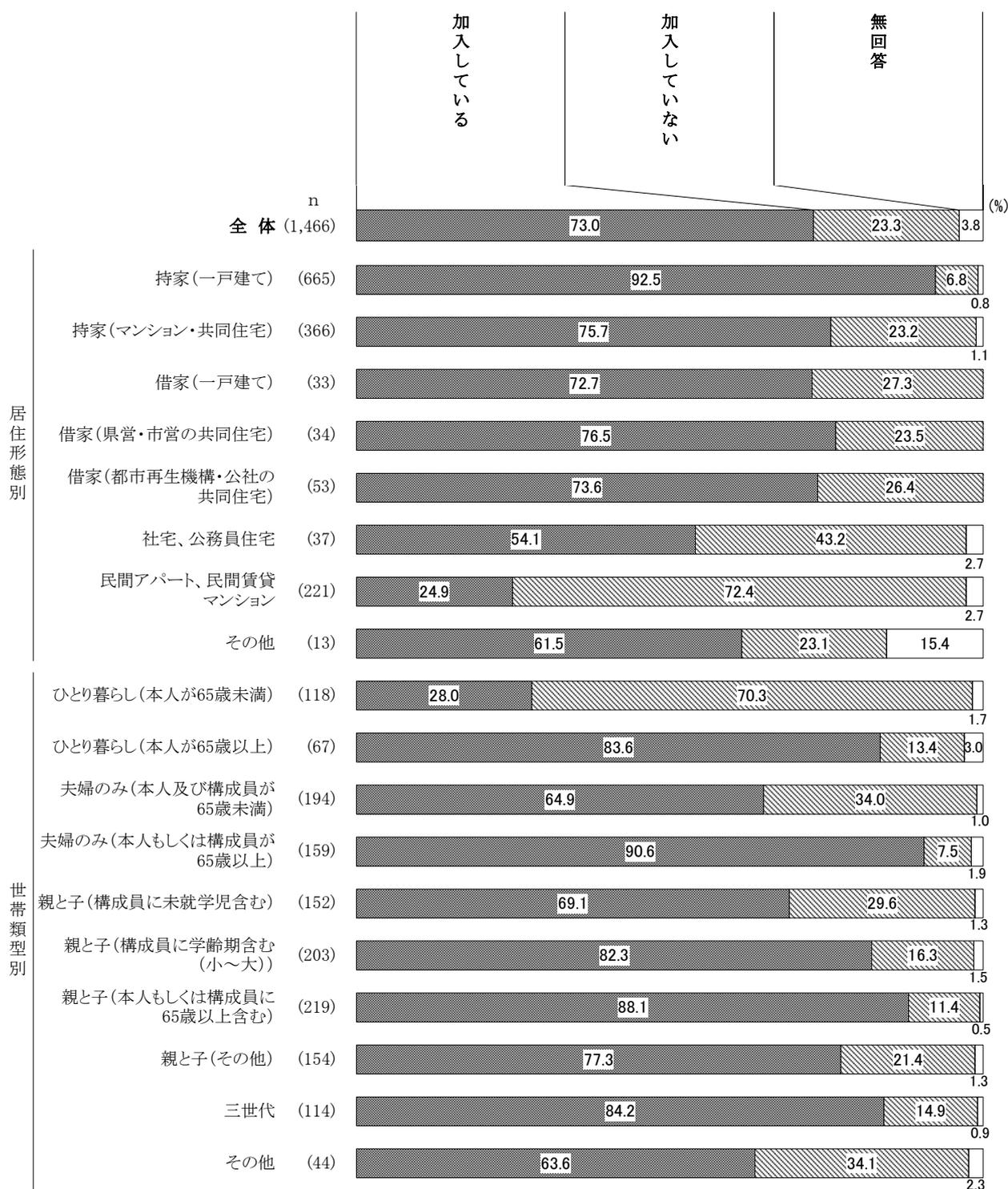


第2章 調査結果の詳細

居住形態別では、『持家（一戸建て）』92.5%で最も高く、『民間アパート、民間賃貸マンション』24.9%が最も低い。

世帯類型別では、『夫婦のみ（本人もしくは構成員が65歳以上）』の90.6%が最も高く、次いで『親と子（本人もしくは構成員に65歳以上含む）』88.1%となっている。一方、『ひとり暮らし（本人が65歳未満）』28.0%が最も低いが、『ひとり暮らし（本人が65歳以上）』は83.6%と高く、ひとり暮らしでも年齢により大きな差がある。

図 自治会町内会への加入状況 [居住形態別・世帯類型別]



第 3 章 調査票

平成24年度 横浜市神奈川区 区民意識調査

～アンケート調査ご協力のお願い～

初夏の候 ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃より区政の運営にご理解、ご協力をいただき、ありがとうございます。

神奈川区役所では、少子・高齢化の進展や、地震・風水害の頻発など、社会の変化から生まれた区民のみなさまの多様なニーズに対応したさまざまな取組を行っております。

このたび、今後の区政を進める際の基礎資料とするため、「神奈川区区民意識調査」を実施させていただきたいと思っております。

この調査は、住民基本台帳と外国人登録原票から、区内にお住まいの20歳以上の方々3,000人を無作為に選ばせていただいております。今年度は、あなたに調査へのご協力をお願いすることになりましたので、お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の主旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

このアンケート票に直接ご記入の上、同封の封筒にてご返信ください。

アンケートの回答につきましては、統計的に処理し、アンケート票そのものを公表することは一切ありませんので、個人にご迷惑をおかけすることはございません。(アンケート票や返信用封筒に、ご住所やお名前をご記入いただく必要はありません。)

なお、アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で100名の方にクオカード(500円分)を差し上げます。

ご希望の方は同封の応募カードにご住所・お名前をご記入の上、アンケート票と一緒にご返信ください。応募カードは回答の集計前に抜き取ってアンケート票とは別に取り扱い、抽選及びクオカードの発送以外の目的には一切使用いたしませんのでご安心ください。

【調査項目】

- | | |
|-------------------|--|
| (1) 防災について | (2) 「ヨコハマ ^ス 3 ^リ R ^ム 夢プラン」について |
| (3) 地域のコミュニティについて | (4) 青少年(中学生・高校生世代)について |
| (5) 広報・ホームページについて | (6) 商店街・「とっておき」について |
| (7) 猫の飼育管理などについて | (8) 定住意向について |
| (9) あなたご自身について | |

◎アンケート調査のご記入方法について◎

- (1) 各設問の回答は、該当する番号に○印を付けていただく形式になっています。
- (2) 番号に○印を付けていただく形式では、該当する番号1つに○をつけていただく場合と、複数の番号に○をつけていただく場合があります。質問文の指示に従ってご回答ください。「その他」に当てはまる場合には、その番号に○をつけて()内に具体的な内容をご記入ください。
- (3) ご記入いただきましたアンケート票は、同封の返信用封筒に入れ、**6月29日(金)**までにポストにご投函ください。(切手は不要です)
- (4) アンケート調査に関するご質問がございましたら、下記までお問い合わせください。

担当：横浜市神奈川区役所 区政推進課 企画調整係 鈴木・梶原
 電話：045-411-7027 FAX：045-314-8890
 Eメール：kg-kusei@city.yokohama.jp

問2 地震災害が起きたときにあなたが特に心配なことは何ですか。(〇は3つまで)

- 1 家屋の倒壊
- 2 水道や電気などのライフラインの停止
- 3 火災の発生
- 4 土地の液状化
- 5 津波災害
- 6 がけ崩れの発生
- 7 水・食料の確保
- 8 トイレの確保
- 9 災害情報の入手
- 10 避難場所までのルート安全性
- 11 家族の安否
- 12 けが・病気の治療
- 13 家族や近所に高齢者・障害者など避難に手助けが必要な人がいること
- 14 交通機関の運休・帰宅困難になること
- 15 いざというときに、隣近所に頼れる人がいないこと
- 16 その他（具体的に： _____)
- 17 特にない

問3 区役所が取り組む防災対策で、特に力を入れて実施すべきと考えられるのは何ですか。(〇は3つまで)

- 1 広報紙などによる防災意識の啓発
- 2 地域に何って行う防災出前講座
- 3 区民の防災知識を深める研修会や講演会の実施
- 4 地域で行う防災訓練への支援
- 5 地域のリーダー役や担い手の育成
- 6 地域へ緊急情報を伝達する屋外スピーカーの設置
- 7 高齢者や障害者などを災害時に地域で支える仕組みづくり
- 8 災害時における医療体制の整備
- 9 津波避難対策
- 10 帰宅困難者への対策
- 11 避難場所（広域避難場所・地域防災拠点）や避難方法の周知
- 12 地域防災拠点における食料・水などの十分な備蓄
- 13 その他（具体的に： _____)
- 14 特にない

問4 災害が発生した際、あなた自身やあなたの家族が必要とする地域の（近所の人などの）手助けは何ですか。（〇はいくつでも）

1	安否の確認	
2	家族や親族・知人への連絡	
3	倒壊家屋からの救出	
4	避難所までの誘導	
5	介助や応急手当	
6	医療機関までの搬送	
7	災害状況や避難情報などの伝達	
8	備蓄品などの供給	
9	その他（具体的に：	）
10	特に希望することはない	

問5 災害が発生した際、あなたが地域でできる手助けは何ですか。（〇はいくつでも）

1	安否の確認	
2	家族や親族・知人への連絡	
3	倒壊家屋からの救出	
4	避難所までの誘導	
5	介助や応急手当	
6	医療機関までの搬送	
7	避難場所での活動（物資搬入、炊き出し、情報伝達など）	
8	災害状況や避難情報などの伝達	
9	備蓄品などの供給	
10	その他（具体的に：	）
11	手助けできないことはない	

「ヨコハマ3R夢プラン」についておたずねします

問6 あなたは、横浜市が実施している、ごみを発生させないための取組「ヨコハマ^{スリム}3R夢プラン」を知っていますか。(〇は1つ)

- 1 知っている
- 2 言葉は聞いたことがある
- 3 知らなかった (このアンケートで初めて知った)

問7 「ヨコハマ^{スリム}3R夢プラン」では、3R (リデュース (発生抑制)・リユース (再使用)・リサイクル (再生利用) の頭文字) を推進しています。その中の取組 (不要なものは断わる、必要な分だけ購入する、ごみになるものを増やさないなど) についておたずねします。(ア) と (イ) について該当する欄の番号に〇をつけてください。(〇はそれぞれいくつでも)

(ア) 現在、実行していることは何ですか。

(イ) 今後、実行しようと思うことは何ですか。

		(ア)	(イ)
		現在、実行していること	今後、実行しようと思うこと
①	コンビニや飲食店などで、必要がなければ箸やおしぼりなどを断る	1	1
②	レジ袋を断る	2	2
③	包装を少なくしてもらう	3	3
④	マイボトル (水筒) を使用するなどして、容器入りの飲料をなるべく買わない	4	4
⑤	食料品などを必要以上に購入しない	5	5
⑥	飲食店で食べ残しが出ないように注文する	6	6
⑦	飲食店で食べきれなかったものは持って帰る (ドギーバッグの利用)	7	7
⑧	飲食店などに自分の箸などを携帯し、割り箸などを使わない	8	8
⑨	家庭で食べ残しを出さないように料理を作り過ぎない	9	9
⑩	家庭で生ごみが出ないように調理方法を工夫する	10	10
⑪	生ごみは、たい肥化するなどして利用する (土壌混合法など)	11	11
⑫	衣類や家具などは、修繕・修理して使う	12	12
⑬	衣類や家具などを再利用する	13	13
⑭	その他 (具体的に: _____)	14	14
⑮	特にない	15	15

問8 問7で (ア) または (イ) に「15 特にない」と答えた方におたずねします。その理由は何ですか。(〇は1つ)

- 1 面倒くさい
- 2 やり方が分からない
- 3 興味がない
- 4 その他 (具体的に: _____)

地域のコミュニティについておたずねします

問9 地域の活動についておたずねします。(ア)～(ウ)について該当する欄の番号に○をつけてください。

(ア) 参加している(したことがある)活動は何ですか。(○はいくつでも)

(イ) 今後参加してみたい活動は何ですか。(○はいくつでも)

(ウ) 特に重要だと思う活動は何ですか。(○は3つまで)

		(ア)	(イ)	(ウ)
		ある(参加したことがある)活動	今後参加してみたい活動	特に重要だと思う活動(3つまで)
①	自治会、町内会の役員活動	1	1	1
②	P T A活動	2	2	2
③	老人クラブの役員活動	3	3	3
④	お祭や盆踊りなどの地域の催しの企画や運営への参加	4	4	4
⑤	文化・芸術・スポーツ活動への参加	5	5	5
⑥	交通安全や防犯などの地域の安全活動	6	6	6
⑦	災害に備えた地域での防災訓練などへの参加	7	7	7
⑧	災害に備えた高齢者・障害者など避難に手助けが必要な人の把握、支えあいの仕組みづくり	8	8	8
⑨	高齢者、障害者支援などのボランティア活動	9	9	9
⑩	地域の子育て支援や青少年支援の活動	10	10	10
⑪	身近な道路や公園などの清掃・美化活動	11	11	11
⑫	外国人との交流や支援などの活動	12	12	12
⑬	資源回収やごみの分別、リサイクル・エコ活動	13	13	13
⑭	その他(具体的に：)	14	14	14
⑮	特にない	15	15	15

問10 問9の(ア)または(イ)で参加した活動や今後参加してみたい活動が1つでもあると答え
た方におたずねします。あなたが活動に参加した(したい)主な理由はどのようなことですか。
(〇は3つまで)

- | | | |
|---|--------------------------|---|
| 1 | 社会貢献をしたいと思ったから | |
| 2 | 友人や近所の人に勧められたから | |
| 3 | 充実感を味わいたかったから | |
| 4 | 時間に余裕があったから | |
| 5 | 家族が参加していたから | |
| 6 | 趣味や特技を活かしたかったから | |
| 7 | 仲間や友人をつくりたかったから | |
| 8 | 町内会などの持ち回り当番などやむを得なかったから | |
| 9 | その他(具体的に: |) |

問11 問9の(ア)で参加している(したことがある)活動が「15 特にない」と答えた方におた
ずねします。あなたは、どのような場合であれば、地域活動に参加できると思いますか。
(〇は2つまで)

- | | | |
|---|--------------------------------|---|
| 1 | 仕事や子育てなどが終わり、時間にゆとりができたから | |
| 2 | 一緒に活動する仲間ができれば | |
| 3 | 地域活動の内容や状況などの情報が入手できたら | |
| 4 | (ボランティア体験講座など)活動を体験できるきっかけがあれば | |
| 5 | 自分の能力・興味に合わせて活動を紹介してくれる制度があれば | |
| 6 | 交通費などの必要経費が支給されれば | |
| 7 | 町内会などの持ち回り当番などやむを得なければ | |
| 8 | その他(具体的に: |) |
| 9 | 特に条件はない(参加したくない) | |

問12 地域コミュニティ(地域社会)に関することで、あなたが困っていること、心配なことはど
のようなことですか。(〇はいくつでも)

- | | | |
|---|--------------------------------------|---|
| 1 | 地域の情報を得られない・入手する方法がわからない | |
| 2 | 地域の中で住民同士が交流する機会が少ない・ほとんどない | |
| 3 | 困ったときに頼ったり、相談したりできる人が近くにいない | |
| 4 | ごみ出しのマナーやペットのふんの始末など、地域のルールを守らない人が多い | |
| 5 | 地域防犯などの力が弱まり、治安が悪くなる(なっている) | |
| 6 | 地域防災などの力が弱まり、災害時の助け合いのしくみがない | |
| 7 | その他(具体的に: |) |
| 8 | 特に困っていること・心配なことはない | |

青少年（中学生・高校生世代）について感じていることをおたずねします

青少年（中学生・高校生世代）の居場所と異世代交流の機会

神奈川区では、中学生・高校生世代の青少年の健やかな成長を支援するため、放課後の居場所づくりや、異世代交流などの様々な体験を積み重ねることができる機会づくりを進めています。

青少年地域活動拠点

青少年が安心して気軽に集い、仲間や異世代と交流し、様々な体験を積み重ねることができる場として、神大寺地区センターに「青少年地域活動拠点」を設置しています。

拠点では、地域の大人（支援者）の見守り・サポートの下で、青少年がスポーツや音楽活動などを行っています。

神大寺地区センター



青少年の活動の様子



異世代交流の機会

青少年と地域の大人（支援者）などとの異世代間の交流を図りながら、青少年が様々な体験を積み重ね、青少年のもつ能力を引き出すことができる機会をつくっています。

「青少年パワー発揮事業 プレライブ」

青少年地域活動拠点で活動する青少年と支援者が中心となり、活動を披露する機会として、企画・準備・実施を通して青少年と大人たちが触れあいながら作り上げていく「プレライブ」を実施しました。



なお、本調査項目における「青少年」、「支援者」、「居場所」とは、以下の内容を示しています。

- ・ 青少年：中学生・高校生世代
- ・ 支援者：青少年指導員、スポーツ推進委員、子ども会支援者、民生委員・児童委員、PTAの担い手、自治会・町内会の担い手、地区センター・コミュニティハウスなどの区民利用施設の職員など、青少年に関わる大人
- ・ 居場所：中学生・高校生世代の青少年が、安心して気軽に集い、様々な体験を積み重ねることができる「場」

問13 あなたは、神奈川区が青少年にとって安心・安全で暮らしやすいまちだと思いますか。

(○は1つ)

- | | |
|----------|----------|
| 1 そう思う | 2 まあそう思う |
| 3 そう思わない | 4 関心がない |
| 5 わからない | |

問14 あなたは、神奈川区の青少年が健やかに育つためには「何をすべき」だと思いますか。

(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1 行政による居場所の創設 | 2 支援者による居場所の創設 |
| 3 親への研修・啓発 | 4 支援者の研修・啓発 |
| 5 教師の研修・啓発 | 6 支援者同士のネットワーク形成 |
| 7 行政による異世代交流の機会の創設 | 8 支援者による異世代交流の機会の創設 |
| 9 青少年の地域行事への参加促進 | 10 その他（具体的に：) |
| 11 わからない | |

問15 青少年の育成に関わる支援者について、あなたが活動内容を知っているものは何ですか。

(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------------|---------------|
| 1 青少年指導員 | 2 スポーツ推進委員 |
| 3 子ども会支援者 | 4 民生委員・児童委員 |
| 5 PTAの担い手 | 6 自治会・町内会の担い手 |
| 7 地区センター・コミュニティハウスなどの区民利用施設職員 | |
| 8 その他（具体的に：) | |
| 9 支援者を知らない | |

問16 あなたは、青少年の放課後の居場所についてどのように感じていますか。

① 放課後の居場所の今後のあり方について。(○は1つ)

- | | |
|-------------|------------|
| 1 増やすべき | 2 現状どおりでよい |
| 3 増やすべきではない | 4 関心がない |
| 5 わからない | |

② ①で「1 増やすべき」と答えた方におたずねします。

その理由はどのようなことですか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1 居場所が少ない | 2 仲間ができる |
| 3 ストレスの発散する場となる | 4 コミュニケーション能力が身に付く |
| 5 異世代交流により社会性が身に付く | 6 活躍の場とすることで自己肯定につながる |
| 7 非行防止になる | 8 犯罪被害を防ぐことができる |
| 9 いじめの対策となる | 10 自殺の防止となる |
| 11 その他（具体的に：) | |

③ ①で「3 増やすべきではない」と答えた方におたずねします。

その理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

1 青少年の自主性に任せるべき	2 行政が居場所を作っても行かない
3 重要だと思わない	4 十分居場所がある
5 その他(具体的に:)

④ 放課後の居場所とするのにふさわしいと考える場所はどこですか。(〇はいくつでも)

1 学校	2 地区センターなど区民利用施設	
3 空き店舗など既存施設	4 その他(具体的に:)
5 わからない		

⑤ 神大寺地区センターの青少年地域活動拠点について。(〇は1つ)

1 知っている	2 知らなかった(このアンケートで初めて知った)
---------	--------------------------

問17 あなたは、異世代交流の機会についてどのように感じていますか。

① 異世代交流の機会の今後のあり方について。(〇は1つ)

1 増やすべき	2 現状どおりでよい
3 増やすべきではない	4 関心がない
5 わからない	

② ①で「1 増やすべき」と答えた方におたずねします。

その理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

1 異世代交流の機会が少ない	2 仲間ができる
3 ストレスの発散する場となる	4 コミュニケーション能力が身に付く
5 異世代交流により社会性が身に付く	6 活躍の場とすることで自己肯定につながる
7 非行防止になる	8 犯罪被害を防ぐことができる
9 いじめの対策となる	10 自殺の防止となる
11 その他(具体的に:)

③ ①で「3 増やすべきではない」と答えた方におたずねします。

その理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

1 青少年の自主性に任せるべき	2 行政が交流の機会を作っても行かない
3 重要だと思わない	4 十分異世代交流の機会がある
5 その他(具体的に:)

④ 異世代交流の機会への参加意向。(〇は1つ)

1 参加したい	2 参加したくない	3 関心がない
---------	-----------	---------

広報・ホームページについておたずねします

問18 あなたは、日頃どのようなものから、各種手続、イベント、施設などの区政の情報を得ていますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1 広報よこはま神奈川区版 | 2 区ホームページ |
| 3 回覧板 | 4 ポスターや掲示板 |
| 5 区で発行しているパンフレットやチラシなど | 6 新聞 |
| 7 地域情報誌 | 8 テレビ・ラジオ |
| 9 ツイッター | 10 その他(具体的に:) |

問19 あなたは、「広報よこはま神奈川区版」を読んでいますか。(〇は1つ)

- | | |
|---------|----------|
| 1 必ず読む | 2 ときどき読む |
| 3 たまに読む | 4 読んでいない |

問20 問19で「1 必ず読む」「2 ときどき読む」「3 たまに読む」と答えた方におたずねします。「広報よこはま神奈川区版」で、あなたが主に読むのはどこですか。(〇はいくつでも)

- | |
|--|
| 1 特集(区役所の事業や関連した取組の紹介) |
| 2 トピックス・連載(タイムリーなイベントなどの情報、防犯などの地域の身近な情報、防災) |
| 3 各種イベント・スポーツのお知らせ |
| 4 福祉と健康に関する講演会やお知らせ |
| 5 子育てに関するお知らせ |
| 6 施設からのお知らせ(地区センター・地域ケアプラザなどの催しの案内) |
| 7 その他(具体的に:) |

問21 問19で「4 読んでいない」と答えた方におたずねします。読んでいない理由は何ですか。(〇は1つ)

- | |
|----------------------------------|
| 1 ホームページや他の方法で区の情報を得ているので読む必要がない |
| 2 区役所や地域の情報に関心はあるが、ほしい情報が載っていない |
| 3 区役所や地域の情報に関心がない |
| 4 広報よこはま神奈川区版の存在を知らなかった |
| 5 その他(具体的に:) |

問22 神奈川区ホームページをどのくらい利用していますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------|-------------|
| 1 ほぼ毎日 | 2 週に2～4回程度 |
| 3 週に1回程度 | 4 月に1～2回程度 |
| 5 年に数回程度 | 6 ほとんど利用しない |
| 7 まったく利用しない | |

商店街・「わが町 かながわ とっておき」についておたずねします

問23 あなたは個人商店や商店街をどの程度利用していますか。(〇は1つ)

- | | |
|----------------|------------------------|
| 1 ほぼ毎日利用している | 2 週に4～5日利用している |
| 3 週に2～3日利用している | 4 週に1日程度利用している |
| 5 月に1日程度利用している | 6 個人商店や商店街はほとんど利用していない |

問24 あなたが商店街に対して希望することは、どのようなことですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| 1 営業時間の延長 | 2 営業日の拡大(土日の営業) |
| 3 空き店舗の活用 | 4 店舗の種類の実 |
| 5 豊富な品揃え(品数、種類、サイズなど) | 6 商品の品質の向上 |
| 7 値段の安さ | 8 セール・催し物の実施 |
| 9 セール・催し物の情報(宣伝、チラシなど)の充実 | 10 落ち着いて買い物ができる雰囲気づくり |
| 11 ポイントカードなどの導入 | 12 駐車場・駐輪場の確保 |
| 13 商品の配送サービスの実施 | 14 接客の丁寧さ |
| 15 その他(具体的に:) | |
| 16 特にな | |

問25 区役所では、区内の魅力あるスポットを情報発信する取組として、「わが町 かながわ とっておき」活用事業(右ページ参照)を行っています。

この取組について知っていますか。(〇は1つ)

- | |
|--------------------------|
| 1 知っている |
| 2 言葉は聞いたことがある |
| 3 知らなかった(このアンケートで初めて知った) |

問26 問25で「1 知っている」「2 言葉は聞いたことがある」と答えた方におたずねします。「わが町 かながわ とっておき」のうち、知っているものは何ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1 とっておきの魅力ポイント | 2 とっておきの名店・名品 |
| 3 とっておきの文化・行事 | 4 散歩ガイド～おたすけかめの助案内～ |
| 5 写真コンテスト・写真教室などのイベント | |

問27 区の魅力を発信・アピールするために、どのような取組が望ましいと思いますか。(〇はいくつでも)

- | |
|----------------------------------|
| 1 魅力ポイントを撮影する写真コンテスト・写真教室などのイベント |
| 2 魅力ポイントをガイドと巡るまち歩きイベント |
| 3 魅力ポイントや区内の名産品の工場などを訪ねる見学会 |
| 4 魅力ポイントを巡りながら参加できるサポータースタンプラリー |
| 5 その他(具体的に:) |
| 6 特にな |

「わが町 かながわ とっておき」活用事業

神奈川区では、区内の魅力資源（名所、旧跡、名店、名産）を「わが町 かながわ とっておき」として80件を認定しています。【「わが町 かながわ とっておき」散歩ガイド～おたすけかめの助案内】を発行し、各ポイントを8つの散歩道に分け休憩スペースやトイレの提供、道案内や割引サービスなどを行うお店や施設（サポーター）と併せて紹介しています。また、散歩道のルートにそってまち歩きを行う「わが町 かながわ 小旅行」など、さまざまな取組を行っています。

まちの魅力アップの取組

区内の魅力スポットに案内サインを整備し、まち歩きを楽しんでいただけるようにしています。また、区内の名物名品の発掘や、町の情報収集・発信について区民のみならずと協働して取り組むことで、区内の地域資源に関する情報共有と、さらなる魅力アップを図っています。



「わが町 かながわ とっておき」散歩ガイド' 12 ~おたすけかめの助 案内

区内各所に設置してある案内サイン



定住意向についておたずねします

問33 あなたは、現在お住まいの地域（あるいは周辺の地域）に住み続けたいですか。（○は1つ）

1 住み続けたい	2 たぶん住み続ける
3 たぶん住み続けない	4 住み続けたくない
5 わからない	

問34 問33で「3 たぶん住み続けない」「4 住み続けたくない」と答えた方におたずねします。
 移転先としては、神奈川県内、横浜市内、横浜市以外のいずれを希望されますか。（○は1つ）

1 神奈川県内	2 横浜市内
3 横浜市以外	4 具体的にはわからない

問35 あなたは、現在のお住まいの環境に関する次の項目について、どのように感じていますか。
 それぞれの項目について「よい」（暮らしやすい）から「悪い」（暮らしにくい）までの該当する欄の番号に○をつけてください。（○はそれぞれ1つずつ）

	よい	どちらかとい うとよい	どちらとも いえない	どちらかとい うと悪い	悪い
① 周辺の静けさ	1	2	3	4	5
② 緑や自然やオープンスペースの豊かさ	1	2	3	4	5
③ まちなみなどの景観のよさ	1	2	3	4	5
④ 安心して子どもを遊ばせることができるなど子育ての環境の良さ	1	2	3	4	5
⑤ 学校、図書館など教育・学習環境のよさ	1	2	3	4	5
⑥ 近所づきあいのしやすさ	1	2	3	4	5
⑦ 交通・通勤などの便利さ	1	2	3	4	5
⑧ 病院・医院の近さ	1	2	3	4	5
⑨ ふだん買い物をする場所の近さ	1	2	3	4	5
⑩ 飲食やショッピングの便利さ	1	2	3	4	5
⑪ 遊びや余暇活動の便利さ	1	2	3	4	5
⑫ 防災・防犯などの安心感	1	2	3	4	5

最後にあなた自身についておたずねします

F 1 性別をお答えください。(〇は1つ)

1 男性	2 女性
------	------

F 2 年齢をお答えください。(〇は1つ)

1 20～24歳	2 25～29歳	3 30～34歳
4 35～39歳	5 40～44歳	6 45～49歳
7 50～54歳	8 55～59歳	9 60～64歳
10 65～69歳	11 70～74歳	12 75歳以上

F 3 現在お住まいの町をお答えください。(〇は1つ)

ア行	1 青木町	2 旭ヶ丘	3 出田町	4 泉町
	5 入江一～二丁目	6 浦島丘	7 浦島町	8 恵比須町
	9 大口通	10 大口仲町	11 大野町	
カ行	12 片倉一～五丁目	13 神奈川一～二丁目	14 神奈川本町	15 上反町1～2丁目
	16 神之木台	17 神之木町	18 亀住町	19 神大寺一～四丁目
	20 桐畑	21 金港町	22 栗田谷	23 幸ヶ谷
	24 子安台一～二丁目	25 子安通1丁目	26 子安通2～3丁目	
サ行	27 斎藤分町	28 栄町	29 沢渡	30 三枚町
	31 白幡上町	32 白幡仲町	33 白幡東町	34 白幡西町
	35 白幡南町	36 白幡向町	37 白幡町	38 新浦島町1～2丁目
	39 新子安一～二丁目	40 新町	41 菅田町	42 鈴繁町
タ行	43 台町	44 高島台	45 宝町	46 立町
	47 反町1～2丁目	48 反町3～4丁目	49 千若町1～3丁目	50 鶴屋町1～3丁目
	51 富家町	52 鳥越		
ナ行	53 中丸	54 七島町	55 西大口	56 西神奈川一～三丁目
	57 西寺尾一～四丁目	58 二本榎		
ハ行	59 白楽	60 羽沢町	61 羽沢南一～四丁目	62 橋本町1～3丁目
	63 東神奈川一～二丁目		64 平川町	65 広台太田町
	66 二ツ谷町	67 星野町		
マ行	68 松ヶ丘	69 松見町1～4丁目	70 松本町1～6丁目	71 瑞穂町
	72 三ツ沢上町	73 三ツ沢中町	74 三ツ沢下町	75 三ツ沢東町
	76 三ツ沢西町	77 三ツ沢南町	78 守屋町1～4丁目	
ヤ行	79 山内町			
ラ行	80 六角橋一～六丁目			

F 4 現在のお住まいでの居住年数をお答えください。(〇は1つ)

1 3年未満	2 3～5年未満	3 5～10年未満	4 10～20年未満	5 20年以上
--------	----------	-----------	------------	---------

平成24年度

神奈川区区民意識調査 報告書

平成24年10月

横浜市神奈川区役所 区政推進課

〒221-0824 横浜市神奈川区広台太田町3-8

TEL 045-411-7027 (直通)

FAX 045-314-8890